

令和7年度
人生を豊かにするための学びに関する調査
報告書

令和8年3月

目次

第1章 調査概要	3
1. 調査の目的	… 4
2. 調査検討委員会	… 4
3. 調査事項	… 5
4. 調査方法・調査対象	… 8
5. 調査期間	… 8
6. サンプル割付方法	… 8
7. 報告書内で使用する用語及び定義	… 10
第2章 調査結果	13
【調査結果まとめ】	… 14
1. 属性情報	… 16
2. 広義の学びに対する意識	… 22
3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識	… 52
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識	… 57
5. 役割や居場所に対する意識	… 92
第3章 学びに関する課題とセグメント別特徴	103
1. 第2章の結果からみえた学びに関する課題とポイント	… 105
2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴	… 109
分析結果総評（委員による分析結果）	… 143
参考資料 WEBアンケート調査票	… 155
別冊 文献調査報告書	

第1章 調査概要

第1章 調査概要

1. 調査の目的

人生100年時代においては、長い人生を見据え、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）にとらわれずに、「教育、仕事、老後」という単線型の人生設計ではなく、人生ステージに応じた様々な働き方、学び方及び生き方を選べるよう、主体的なライフキャリア形成が重要となっている。

急速なテクノロジーの進展・利活用の広がりの中で、デジタルを始めとするビジネススキルの習得は、人生における多様な選択を可能にし、所得向上・経済的自立にもつながることが期待されるが、企業における教育訓練の受講割合は、女性よりも男性の方が高く、非正規雇用労働者よりも正規雇用労働者の方が高くなっている。また、出産・育児等によりキャリアのブランクがある女性が再就職に踏み出せない背景として、自身の過去の就業経験やスキル等に不安を感じていることが考えられる。

加えて、女性も男性も、仕事以外に個人としての多様な活動に参加し役割を持つことが、生涯にわたり豊かな人生をもたらすと考えられるが、変化の激しい現代社会においては、それらの活動においても、継続的な学び直しが重要であり、様々な学びの積み重ねは、人々の多様な幸せ（well-being）の向上にもつながると考えられる。

こうした問題意識の下、男女、年代別等に、人生を豊かにする学びに対する関心や意識の傾向を明らかにするとともに、学びを促進、継続するために求められる支援等を把握することで、男女共同参画の視点を踏まえた生涯学習や能力開発の推進に向けた検討材料とする。

2. 調査検討委員会

本調査を効果的に遂行するため、有識者からなる調査検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し、調査対象の割当方法や調査事項、調査票の設計、集計結果の分析方法、報告書（案）等に関して検討を行った。

① 構成（主査以外は五十音順・敬称略）

氏名	所属・役職
【主査】山田 久	法政大学経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
井上 恵理菜	株式会社日本総合研究所 調査部 副主任研究員
大嶋 寧子	リクルートワークス研究所 研究センター研究1グループ長 主任研究員

② 開催実績

回	日時	主な議題
第1回	令和7年11月5日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画について 文献調査結果（速報）について 意識調査の実施について
第2回	令和8年1月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 文献調査結果について 意識調査結果について
第3回	令和8年2月18日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 報告書（案）について

3. 調査事項

調査項目及び設問文の一覧は以下のとおりである。

設問番号	調査項目	設問文
属性情報の把握：本人・世帯情報		
Q1	性別	あなたの性別を教えてください。(1つ選択)
Q2	年齢	あなたの年齢を教えてください。(1つ選択)
Q3	居住地	現在のお住まいはどこですか。(1つ選択)
Q4	生まれ育った地域	あなたが、中学校を卒業するまでに、最も長く住んでいたのはどこですか。(1つ選択)
Q5	配偶者の有無	配偶者の有無について教えてください。(1つ選択)
Q6	同居している子供の有無	同居している子供はいますか。(当てはまるものを全て選択)
Q7	最終学歴	あなたの最終学歴を教えてください。(1つ選択)
Q8①	普段の1日の時間配分	①あなたの普段の1日の時間配分について、1～4のおおよその時間を教えてください。(5は自動計算) 1 収入を伴う仕事の時間 2 通勤・通学時間 3 家事・育児・介護の時間 4 睡眠、食事、身の回りの用事の時間 5 その他(自由時間など) ②また、1日のうち趣味・自己啓発・勉強・自分のために使うおおよその時間を教えてください。(それぞれ整数を入力)
Q8②	趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間	
Q9	家事関連時間の配偶者との分担割合	あなたは、日頃、配偶者と「家事・育児・介護」をどのくらい分担していますか。全体を100%(パーセント)としてお答えください。(整数を入力)
Q10①	個人年収	今年(2025年)の①個人年収(あなたご自身)と、②世帯全体の年収を教えてください。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)
Q10②	世帯年収	
Q11	過去5年間の出来事	あなたには、過去5年間で次のような出来事等がありましたか。(当てはまるものを全て選択)
Q12	仕事以外で参加している取組や活動	あなたは、仕事以外に、定期的に参加している取組や活動はありますか。(当てはまるものを全て選択)
Q13	就業状態・雇用形態	現在のあなたの就業状態・雇用形態を教えてください。(1つ選択)
Q14	勤務先の企業規模	現在のあなたの勤務先の企業規模を教えてください。(1つ選択)
Q15	職種	現在のあなたの勤務先での職種を教えてください。(1つ選択)
Q16①	通算の就業年数	あなたの①これまでの就業年数を教えてください。また、現在仕事をしている場合は、②現在勤めている会社等での勤務年数を教えてください。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)
Q16②	現在の会社等での勤続年数	
Q17	多様な働き方の利用状況	あなたが現在利用している働き方を教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q18	転職経験	あなたは、転職したことはありますか。(1つ選択)
Q19	転職活動で重視したこと	転職する際、どのようなことを重視しましたか。転職経験が複数ある場合は、直近の転職活動で重視したことを教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q20	配偶者の就業状態・雇用形態	配偶者の現在の就業状態・雇用形態を教えてください。(1つ選択)

設問番号	調査項目	設問文
広義の学びに対する意識		
Q21	学び直しへの意欲	あなたは、人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」・「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちを持っていますか。 0点～10点でお答えください。(1つ選択)
Q22	学びへの意欲	あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択) i 仕事や職業キャリアに関すること、ii 家庭や日常生活に関すること、iii 文化・教養に関すること、iv 地域活動や社会貢献活動に関すること、v 健康に関すること、vi その他
Q23	学びの経験	あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日(1回)以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択) i 仕事や職業キャリアに関すること、ii 家庭や日常生活に関すること、iii 文化・教養に関すること、iv 地域活動や社会貢献活動に関すること、v 健康に関すること、vi その他
Q24	仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態	過去5年以内に学んだ【Q23のii～viで学びの経験があると回答した項目】について伺います。どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。(当てはまるものを全て選択)
Q25	仕事や職業キャリア以外の学びの効果	過去5年以内に学んだ【Q23のii～viで学びの経験があると回答した項目】について伺います。あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q26	仕事や職業キャリア以外で学びへの意欲はあるが、1年以内に学びの経験がない理由	過去1年以内に学んでいない【Q22のii～viで学びへの意欲があると回答したが、Q23で過去1年以内に学んでいない項目】について伺います。あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q27	今後学ぶために必要なこと	今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。(当てはまるものを全て選択)
Q28	学ぶことへの意識	下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)
Q29	自身の学びに対する配偶者の姿勢	あなたご自身が学ぶことに対して、あなたの配偶者はどのような姿勢ですか。あなたが感じている配偶者の姿勢に近いものを教えてください。(1つ選択)
デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識		
Q30	デジタルツールに関する知識やスキルの習得に対する意向(目的別)	あなたは、デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思いますか。身につけたい理由として最も近いものを教えてください。(1つ選択)
Q31	身につけているデジタルツールに関する知識やスキル	あなたは、次のようなデジタルツールについて、基礎あるいはそれ以上の知識やスキルを持っていますか。(当てはまるものを全て選択)
Q32	今後身につけたいデジタルツールに関する知識やスキル	あなたが、今後身につけたい(維持や更新を含む)デジタルツールに関するスキルや知識はどのようなことですか。(当てはまるものを全て選択)
Q33	デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由	デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由をお答えください。(当てはまるものを全て選択)

設問番号	調査項目	設問文
仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識		
Q34	無業者の今後の就業意欲	あなたは今後、働きたいと思いますか。(1つ選択)
Q35	仕事やキャリアへの意識	下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)
Q36①	仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態	過去5年以内に学んだ【仕事や職業キャリア(転職・セカンドキャリア等を含む)に関すること]について伺います。あなたは、仕事や職業キャリア(転職・セカンドキャリア等を含む)に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。 ①会社等の指示を受けての学びと、②自発的な学びのそれぞれについて教えてください。(それぞれ、当てはまるものを全て選択)
Q36②		
Q37	仕事や職業キャリアに関する学びの内容	あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ/学んでいる能力やスキルはどのようなことですか。(当てはまるものを全て選択)
Q38	仕事や職業キャリアに関する学びにかけた時間	仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの時間をかけて学びましたか。学んだ月の1か月あたりの平均時間をお答えください。(1つ選択)
Q39	仕事や職業キャリアに関する学びにかけた費用	仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの費用をかけましたか。学んだ月の1か月あたりの平均金額をお答えください。(1つ選択)
Q40	仕事や職業キャリアに関する学びのコミュニティ・環境	仕事や職業キャリアに関する学びについて、あなたのコミュニティ・学びの環境で当てはまるものを教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q41	仕事や職業キャリアに関する学びの目的	あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ/学んでいる主な理由を教えてください。(当てはまるものを全て選択)
Q42	仕事や職業キャリアに関する学びの主観的な効果(現在)	あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、現在の仕事やキャリア、転職、再就職などにいかせていると思いますか。(1つ選択)
Q43	仕事や職業キャリアに関する学びの効果への期待	あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、将来的に、仕事や昇給・昇進・昇格、転職、独立等のキャリアアップにつながると思いますか。(1つ選択)
Q44	仕事や職業キャリアに関する学びの障壁	あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。(当てはまるものを全て選択)
Q45	就業先で行われている学びに関する取組や支援	あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。(当てはまるものを全て選択)
Q46	仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと	あなたは、仕事や職業キャリアのための学び(職場で提供される研修等の機会を除く)を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものを全て選択)
Q47	仕事やキャリアへの満足度	あなたは、現在の仕事や働き方、職業キャリアについて、満足していますか。(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)
Q48	仕事や職業キャリアに関して学びたい能力やスキル	あなたが、仕事や職業キャリアに関して今後学びたい能力やスキルはどのようなことですか。(当てはまるものを全て選択)
役割や居場所に対する意識		
Q49	現在の自分の役割や居場所に対する意識	現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。(1つ選択)
Q50	将来の自分の役割や居場所に対する意識	5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。(1つ選択)

4. 調査方法・調査対象

調査方法	インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	人生を豊かにする学びに関する調査
調査対象	国内在住のインターネットパネル登録モニター (20歳以上69歳以下)

5. 調査期間

令和7 (2025) 年12月2日 (火) ~12月15日 (月)

6. サンプル割付方法

(1) 回収数 : 20,000人

(2) サンプルの割付及び回収状況

令和2年国勢調査 就業状態等基本集計における性×年代×就業状態・雇用形態別人口の分布①に基づき割付を行い、②のとおり回収した。おおむね割付どりの回収数となった。

①【回収割付】 (国勢調査による分類)

※割合の計算に当たり、労働力状態不詳、従業上の地位不詳及び通学 (学生) は除外。

- 正規雇用 : 正規の職員・従業員、役員
- 非正規雇用 : 労働者派遣事業所の派遣社員、パート・アルバイト・その他
- その他有業 : 雇人のある業主、雇人のない業主、家族従事者、家庭内職者
- 無業※学生除く : 完全失業者、家事、その他

		正規雇用	非正規雇用	その他有業	無業 ※学生除く	合計
男性	20代	906	266	40	125	1,337
	30代	1,403	141	107	129	1,780
	40代	1,877	135	202	170	2,384
	50代	1,672	134	214	195	2,215
	60代	802	415	292	637	2,146
女性	20代	766	363	23	199	1,351
	30代	764	510	74	435	1,783
	40代	886	891	122	509	2,408
	50代	734	860	138	567	2,299
	60代	283	661	189	1,164	2,297
合計		10,093	4,376	1,401	4,130	20,000

②【本調査回収数】 (本調査の調査項目による分類)

- 正規雇用 : 正規の会社員・職員・従業員、会社経営者・役員
- 非正規雇用 : 非正規の会社員・職員・従業員 (パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等)
- その他有業 : 自営業・自由業、自家営業の手伝い (家族従事者)、家庭内の賃仕事 (内職)、その他 (働いている)
- 無業 : 学生 (社会人経験あり)、主婦・主夫 (働いていない)、その他 (働いていない)

		正規雇用	非正規雇用	その他有業	無業	合計
男性	20代	920	251	41	125	1,337
	30代	1,403	141	107	129	1,780
	40代	1,877	135	202	170	2,384
	50代	1,672	134	214	195	2,215
	60代	802	415	292	637	2,146
女性	20代	766	363	23	199	1,351
	30代	764	510	74	435	1,783
	40代	886	891	122	509	2,408
	50代	734	860	138	567	2,299
	60代	283	661	189	1,164	2,297
合計		10,107	4,361	1,402	4,130	20,000

また、モニター調査の特性から、最終学歴の構成比が実態と乖離することが懸念されたため、「大卒」の構成比が大きくなりすぎないように回収を行った。なお、回収可能数の制約から、性別×学歴の4区分での割付とした。

令和2年国勢調査 就業状態等基本集計における性×最終卒業学校の種類別人口の分布③に基づき、④のとおり回収した。

③【回収割付（非大卒／大卒の構成比）】（国勢調査による分類）

※割合の算出に当たり、最終卒業学校不詳は除外。

- 非大卒 : 小学校、中学校、高校・旧中、短大・高専
- 大卒 : 大学、大学院

	非大卒	大卒
男性	60.8	39.2
女性	77.1	22.9

④-1【本調査回収数】（本調査の調査項目による分類）

- 非大卒 : 小学校・中学校、高等学校、専門学校（中学校卒業後）、専門学校（高校卒業後）、高等専門学校（5年制）、短期大学
- 大卒 : 大学（学士）、大学院（修士）、大学院（博士）
- その他 : その他

	非大卒	大卒	その他
男性	5,918	3,821	123
女性	7,729	2,294	115

④-2【本調査構成比（非大卒／大卒の構成比）】※割合の算出に当たり、その他は除外

	非大卒	大卒	その他
男性	60.8	39.2	-
女性	77.1	22.9	-

7. 報告書内で使用する用語及び定義

(1) 本調査で使用する用語・定義について

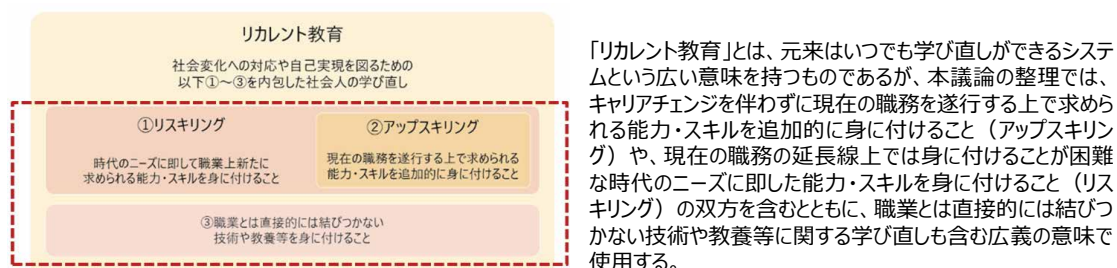
本調査で使用する用語		本調査で用いた定義
就業状態・雇用形態	正規雇用	就業状態・雇用形態を尋ねる設問(Q13)において、「会社経営者・役員」「正規の会社員・職員・従業員」を選択した人
	非正規雇用	同設問において、「非正規の会社員・職員・従業員（パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等）」を選択した人
	その他有業	同設問において、「自営業・自由業」「自家営業の手伝い（家族従業者）、家庭内の賃仕事（内職）」「その他（働いている）」を選択した人
	無業	同設問において、「学生（社会人経験あり）」「主婦・主夫（働いていない）」「その他（働いていない）」を選択した人
居住地	三大都市圏	居住地を尋ねる設問（Q3）において、「東京都」「神奈川県」「埼玉県」「千葉県」「愛知県」「岐阜県」「三重県」「大阪府」「兵庫県」「京都府」「奈良県」を選択した人
	三大都市圏以外	同設問において、上記以外を選択した人
最終学歴	非大卒	最終学歴を尋ねる設問（Q7）において、「小学校・中学校」「高等学校」「専門学校（中学校卒業後）」「専門学校（高校卒業後）」「高等専門学校（5年制）」「短期大学」を選択した人
	大卒	同設問において、「大学（学士）」「大学院（修士）」「大学院（博士）」を選択した人
学びへの意欲	意欲あり	学びへの意欲を尋ねる設問（Q22）において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した人
	意欲なし	同設問において、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を選択した人
	分からない	同設問において、「分からない」を選択した人
学びの経験(2区分)	過去5年以内に学んだ	学びの経験を尋ねる設問（Q23）において、「過去1年以内に学んだ」「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」を選択した人
	過去5年間で学んでいない	同設問において、「過去5年間で学んでいない」を選択した人
同好者状況	同好者との集まりあり	仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態を尋ねる質問（Q24）において、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択した人
	同好者との集まりなし	同設問において、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択していない人

【集計結果について】

- 結果数値（%）は、小数第2位を四捨五入（報告書内では小数第1位まで表章）しているため、合計の数値と内訳の計とが一致しない場合がある。
- クロス集計（割合）に関してはカイ2乗検定等による検定、数値による回答の平均値に関してはt検定を行っている。

(2) 本調査で対象とした学びの整理

- 本調査では、「学び」を“人生を豊かにする学び”と広く捉えて調査を実施した。
- ここで言う「学び」は、職業上の知識・技術を獲得するだけでなく、自分自身をよりよく変化させる（変化させた）取組・活動とし、「職業とは直接的には結びつかない技術や教養等を身につけること」には、自己啓発を含み、趣味・習い事や人との交流なども学びの一手段と整理した。



出典：文科省資料（第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理を踏まえたイメージ図）

- 具体的には、次の6つの事項について、「過去1年以内に学んだ」「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」「過去5年間で学んでいない」を選択肢として、学びの状況を把握した。

Q.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。

本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること
- 家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること
- 文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること
- 地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること
- 健康に関すること
- その他

- また、我が国においては、20-69歳の8割超が就労していること、人生100年時代において有償・無償の区別なく働く期間が長くなっている現状を踏まえ、「i.仕事や職業キャリアに関すること」の学びの状況についても集計・分析を行った。

第2章 調査結果

本報告書の分析では、「特に理由はない」「分からない」「該当するものはない」など、いずれにも当てはまらない場合に選択する選択肢及び「その他」は分析対象外とし、必要に応じて割合のみを補足的に確認した。

調査結果まとめ

(1) 広義の学びに対する意識

男女ともに「学びたいという意欲は少なからずみられる一方、実際の学習経験（行動）は限定的」という傾向が確認された。

- **能力向上につながる学び直しへの意欲は若い年代ほど高い**：人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」・「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちは、男女ともに若い年代ほど高い。(P22・Q21)
- **学びへの意欲は上の年代ほど高い**：学びを6つの項目【仕事や職業キャリア／家庭や日常生活／文化・教養／地域活動や社会貢献活動／健康／その他】に分類し、各項目について「学びたいと思うか」を5段階で尋ねた。その結果、いずれか1項目以上で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者（＝広義の学びへの意欲がある層）の割合は、男女とも6～7割程度で、上の年代ほど高い。特に女性60代で割合が高い。(P24・Q22)
- **学びの関心領域は「健康」が中心**：学びたい項目は男女ともに「健康」が最上位（5割程度）。学びの経験でも男女ともに同項目が相対的に高い。(P23・Q22、P25・Q23)
- **意欲と行動の乖離**：学びへの意欲は男女ともに約7割と相当程度みられる一方、過去1年以内に学びの経験がある者は男女とも3割程度にとどまり、全体として「意欲はあるが学んでいない」割合が高い。特に40代から60代女性で意欲との差が大きい。(P24・Q22、P26・Q23)
- **学びの場所・形態は独学中心**：学びの場所・形態では、男女ともに独学の割合が最も高く、特に「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」による学習が高い。男性20代で「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」の割合が約14%とやや高めになっていることが特徴的で、女性を含む他の性・年代と比べて高く、女性20代と比較すると2倍以上。(P27、28・Q24)
- **学びの効果**：男女ともに、約9割が何かしらの学びの効果を感じている。女性は「日々の暮らしに役に立った」「興味・関心の幅が広がった」「心身の健康につながった」、男性は「興味・関心の幅が広がった」「教養が深まった」「日々の暮らしに役に立った」が上位。(P29・Q25)
- **学びの阻害要因は費用・時間・選択困難**：学んでいない理由は「費用」「時間」「何を学ぶべきか分からない」が中心。上位理由は女性は「費用」、男性は「仕事多忙による時間不足」。(P31・Q26)
- **今後の学びに必要なことは「情報」と「活用」の場**：男女ともに「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」と「学んだことをいかせる場所」が上位。(P34・Q27)
- **学ぶことへの意識**：男女ともに「費用をかけたくない」意識が強い。加えて、女性は年齢を問わない能力向上、男性は社会変化に対応するために学び続ける意識が強い。(P37・Q28)
- **学びに関する配偶者の姿勢**：男女ともに「支援・理解あり」と「否定的・無関心・分からない」の割合は概ね均衡している。(P38・Q29)

(2) デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

デジタルツールの習得意向が一定程度みられる一方で、習得意向のない層も大きいという傾向が男女ともに確認された。※ 本調査は、インターネット・モニターを対象とした調査であるため、インターネットリテラシーの高い層に偏るなどのバイアスが生じている可能性がある。

- **習得意向は「生活の利便」と「仕事・キャリア」の両面**：身につけたい理由は「快適で便利な生活を送るため」が上位である一方、仕事に関する理由（「現在の仕事を続けるため」「キャリアアップ」「転職」等）も一定割合みられる。また、「特に身につけたいとは思わない」も男女とも4割前後と高い。(P52・Q30)
- **保有スキルは「生活者としての利用」が中心**：現在のスキルは「スマホでの電子決済・オンラインショッピング」「SNS閲覧」など、日常生活で使う領域が男女ともに上位を占める。(P53・Q31)
- **今後の習得意向もトップは生活スキル、次点は仕事関連だが男女で志向に差**：身につけたいスキルの最多は「電子決済・オンラインショッピング」。続いて女性が「オフィス系ソフト・実践的PCスキル」、男性が「生成AIを活用した業務効率化」で、志向に差がみられる。(P54・Q32)
- **非習得意向の理由は「理由なし／必要性なし」が中心**：身につけたいと思わない理由は「特に理由はない」「必要性を感じない」が主要で、特に男性で「特に理由はない」が高い。(P55・Q33)

調査結果まとめ

(3) 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

仕事・職業キャリアに関する学びは、就業状態や性別によって目的・学習内容に違いがみられ、費用・時間・情報不足等が学びの障壁になっている傾向が確認された。

- **無業者の就業意欲**：働く意欲がある層では、女性は「パート・アルバイト」希望が相対的に高く、男性は「正社員」希望が相対的に高い。性・年代により希望形態に差がみられる。(P57・Q34)
- **仕事観**：男女とも「ワーク・ライフ・バランス重視」が最も高いが、女性の方が高い。(P58・Q35)
- **学びの形態**：仕事・キャリアに関する自発的な学びは男女ともに「独学」が中心で、書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索、動画配信サイト等が高い。会社等の指示による学びでは、男女ともに社内教育やOJT等も活用される。(P59、61・Q36)
- **学びの内容（男女差）**：学びの内容には男女差がみられ、女性は「対人スキル、コミュニケーション」「語学」「教養・ビジネスマナー」等が相対的に高く、男性は「IT関連、デジタルツール」「経済、社会、政治、歴史」等が相対的に高い。(P64・Q37)
- **学習投入（時間・費用）**：1か月あたりの学習時間・費用には幅がある。学習時間は「4時間未満」が最多で、女性の方が「4時間未満」の割合が高い。また、次に多く挙げられたのは、「16時間以上」で、男女とも2割を超えている。費用は「0円」が最多で、女性の方が「0円」の割合が高い。(P67・Q38、P68・Q39)
- **学習環境（コミュニティ）**：男女ともに正規雇用者は「積極的な社外の人との付き合い」「自主的な勉強会」「職場の学びの風土」等が相対的に高い。女性非正規雇用者・その他有業者・無業者は「学び合う仲間・友人」が相対的に高い。なお、男女とも全体で見ると、「該当するものはない」との回答が4～5割に上っている。(P69、71・Q40)
- **学びの目的（就業状態・雇用形態別）**：男女ともに有業者は「現在の仕事に必要な知識・技能の習得」が高い。また、男女ともに無業者は、今後の仕事への準備や再就職に向けた準備を目的とする傾向がある。(P74・Q41)
- **学びの効果（仕事・キャリア）**：過去5年間の学びについて、「現在の仕事やキャリア、転職、再就職などにいかせていると思うか」を4段階で尋ねたところ、「いかせている」「どちらかといえばいかせている」の計（＝学びの主観的な効果を感じている層）の割合は男女とも6割以上で、男性の方が高い。また、「将来的に、仕事や昇給・昇進・昇格、転職、独立等のキャリアアップにつながると思うか」についても4段階で尋ねたところ、「つながると思う」「どちらかといえばつながると思う」の計（＝学びの効果を期待している層）は、男女とも約7割。(P75・Q42、P76・Q43)
- **学びの障壁と今後学ぶために必要なこと**：障壁として男女ともに「金銭的余裕がない」「時間がない」「収入アップにつながらない」「何を学んでいいかわからない」等が挙げられる。今後学ぶために必要なこととしては男女ともに「経済的支援」「学びが収入アップやキャリアアップにつながること」「学びに関する情報」「学びの機会」等が上位に挙げられる。(P77・Q44、P83・Q46)
- **就業先の支援**：男女とも非正規雇用よりも正規雇用の方が様々な取組・支援がある。(P82・Q45)
- **仕事や働き方、職業キャリアの満足度**：仕事や働き方、職業キャリアの満足度は、男女ともにいずれの項目も2～4割程度に留まる。(P86・Q47)
- **今後学びたいスキル（男女差）**：今後学びたい領域は男女差がみられ、女性は「語学」「心理学、カウンセリング」等、男性は「IT関連、デジタル」「経済、社会、政治、歴史」等が相対的に高い。(P87・Q48)

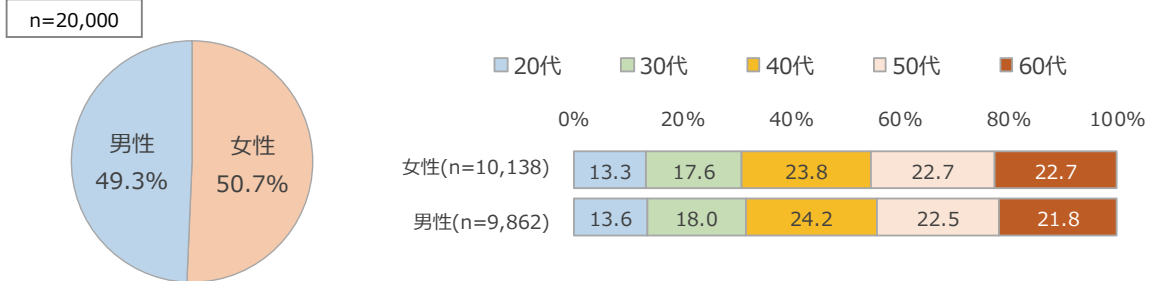
(4) 役割や居場所に対する意識

- 役割・居場所があると感じている割合は、男性が女性より低く、特に中高年で男女差が大きい。男女ともに学びの経験がある層は、学びの経験がない層に比べて、役割・居場所があると感じている割合が高い。男女ともに学びの経験がある層のなかでも、1年以内に学んだ層は、5年以内に学んだ層より高い。(P92～94・Q49、P95～97・Q50)

1. 属性情報

• 本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

(1) 性別・年代 (Q1・Q2)



(2) 居住地 (Q3)

(人)

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
女性	532	77	85	205	72	68	105	182	120	123	611	478
男性	507	64	80	176	73	88	122	192	131	117	663	501
	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
女性	1,318	783	173	78	87	54	47	138	157	258	717	145
男性	1,326	831	192	68	75	50	54	133	154	229	637	140
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
女性	98	226	850	513	113	68	44	38	147	237	96	51
男性	101	198	767	464	120	67	32	51	135	200	107	53
	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
女性	72	108	37	388	40	77	99	63	43	63	54	
男性	67	90	47	313	42	68	86	64	47	78	62	

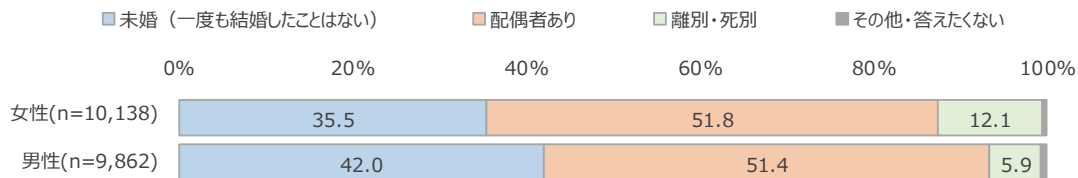
(3) 生まれ育った地域 (Q4)

(人)

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
女性	600	108	104	211	95	104	134	193	134	143	506	421
男性	549	99	118	198	113	107	164	197	147	122	526	415
	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
女性	1,054	642	222	83	98	75	47	153	175	276	674	170
男性	1,115	632	233	79	80	51	58	133	181	256	593	150
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
女性	89	224	818	494	107	90	55	53	173	240	119	64
男性	95	212	770	476	117	79	41	56	155	234	136	59
	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外
女性	78	138	45	358	58	116	117	70	51	82	55	22
男性	80	119	56	310	59	100	92	75	62	99	55	9

1. 属性情報

(4) 配偶者の有無 (Q5)

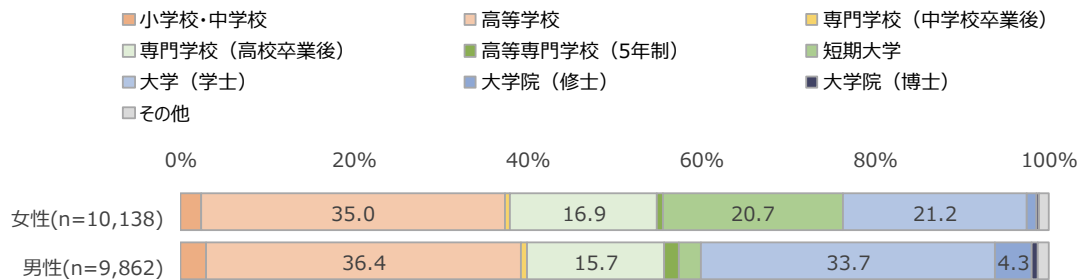


(5) 同居している子供の有無 (複数回答・Q6) 女性 (n=10,138) 男性(n=9,862)

(%)

	3歳未満の子供がいる	小学校入学前 (3歳~6歳) の子供がいる	小学校低学年(1年生~3年生)の子供がいる	小学校高学年(4年生~6年生)の子供がいる	中学生~18歳の子供がいる	19歳以上の子供がいる	子供はいない
女性	4.2	5.2	4.6	4.9	8.4	19.7	62.2
男性	4.7	5.9	5.7	5.9	9.6	16.8	62.5

(6) 最終学歴 (Q7)



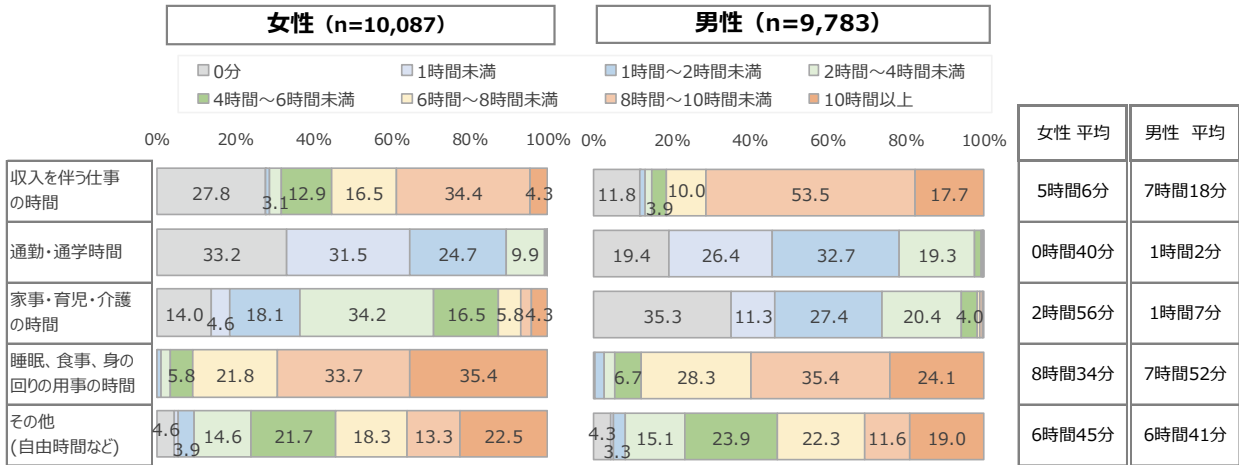
(%)

	非大卒						大卒			その他
	小学校・中学校	高等学校	専門学校 (中学校卒業後)	専門学校 (高校卒業後)	高等専門学校 (5年制)	短期大学	大学 (学士)	大学院 (修士)	大学院 (博士)	
女性	2.3	35.0	0.7	16.9	0.6	20.7	21.2	1.2	0.2	1.1
男性	2.9	36.4	0.7	15.7	1.7	2.7	33.7	4.3	0.7	1.2

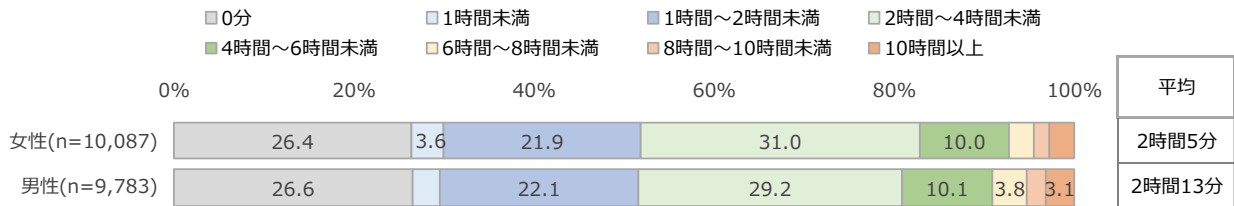
※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

1. 属性情報

(7) 普段の1日の時間配分 (Q8①)

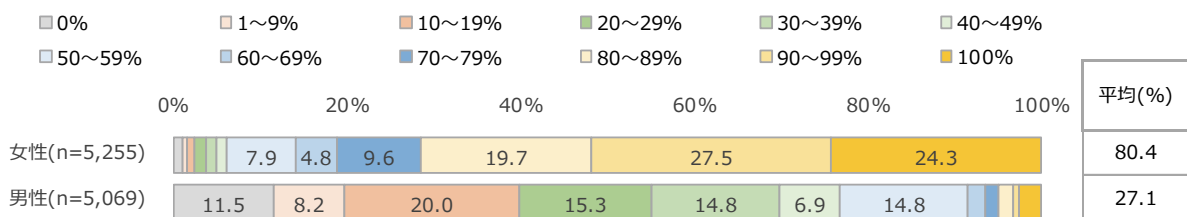


(8) 趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間 (Q8②)



※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

(9) 家事関連時間の配偶者との分担割合 (Q9・有配偶者)



(10) 個人年収 (Q10①)

女性 (n=10,138) 男性(n=9,862)

	1円~50万円未満	50万円~99万円台	100万円~149万円台	150万円~199万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円台	700万円台	800万円台	900万円台	1,000万円~1,499万円台	1,500万円以上	0円 (収入はない)	分からない・答えたくない
女性	11.9	10.5	9.5	6.7	12.0	11.0	6.6	3.2	1.5	0.7	0.5	0.3	0.4	0.2	7.4	17.6
男性	4.3	2.1	3.0	4.0	7.9	13.6	14.4	11.7	7.8	5.4	3.5	2.6	3.4	0.9	1.8	13.7

※3%未満は、数値表示を省略しています。

1. 属性情報

(11) 世帯年収 (Q10②)

女性 (n=10,138) 男性(n=9,862)

(%)

	1円～50万円未満	50万円～99万円	100万円～149万円	150万円～199万円	200万円	300万円	400万円	500万円	600万円	700万円	800万円	900万円	1,000万円～1,499万円	1,500万円以上	0円 (収入はない)	分からない・答えたくない
女性	1.7	1.6	2.1	3.3	7.0	10.5	9.1	8.5	6.0	5.3	4.1	4.2	6.4	2.3	0.6	27.2
男性	1.8	1.1	2.0	2.7	5.2	9.4	10.9	10.0	8.4	7.0	6.1	6.1	8.8	2.7	0.6	17.2

(12) 過去5年間の出来事 (複数回答・Q11)

女性 (n=10,138) 男性(n=9,862)

(%)

	結婚	子供の誕生 (出産)・育児	産前産後休業、育児休業の取得	親や親族等の介護	育児や介護の一段落	離婚・配偶者との死別	社会人になって以降の留学・大学等への入学 ※1	勤務先での部署又は職場の異動 ※2	転職	再就職 ※3	事業継承・起業・フリーランスへの転向	退職 (その後、現在まで働いていない)	該当するものはない
女性	5.4	6.2	3.1	9.4	3.2	1.9	0.8	4.3	12.2	4.3	0.7	4.0	62.9
男性	4.9	6.2	2.3	7.3	2.4	1.3	1.4	8.8	10.7	3.7	1.2	3.8	63.3

※1:社会人になって以降の留学・大学等への入学 (学生時代を除く)

※2:勤務先での部署又は職場の異動 (海外転勤・出向を含む)

※3:再就職 (一定期間、仕事を離れた期間を経て就職)

(13) 仕事以外で参加している取組や活動 (複数回答・Q12)

女性 (n=10,138) 男性(n=9,862)

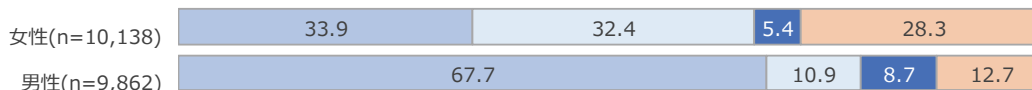
(%)

	スポーツ・運動	教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動 (スポーツ・運動を除く)	自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など地域での活動	上記以外のボランティア活動 (プロボノ含む)	その他	特いない
女性	14.4	7.8	5.3	2.3	2.6	74.6
男性	26.0	9.6	8.9	2.8	3.2	62.5

(14) 就業状態・雇用形態 (Q13)

■ 正規雇用 □ 非正規雇用 ■ その他有業 □ 無業

0% 20% 40% 60% 80% 100%



(%)

	正規雇用		非正規雇用	その他有業			無業			
	会社経営者・役員	正規の会社員・職員・従業員	非正規の会社員・職員・従業員※4	自営業・自由業	自家営業の手伝い ※5	その他 (働いている)	学生 (社会人経験なし) ※6	学生 (社会人経験あり)	主婦・主夫 (働いていない)	その他 (働いていない)
女性	0.7	33.1	32.4	3.5	0.7	1.1	-	0.1	19.9	8.4
男性	3.1	64.6	10.9	7.4	0.5	0.8	-	0.1	1.3	11.3

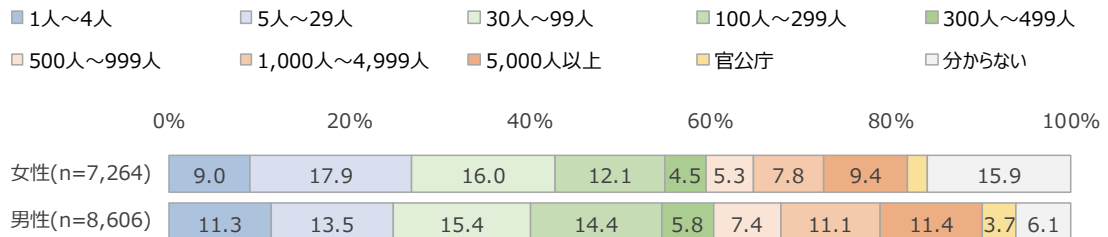
※4:非正規の会社員・職員・従業員 (パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等)

※5:自家営業の手伝い (家族従業者)、家庭内の賃仕事 (内職)

※6:「学生 (社会人経験なし)」を選択したサンプルは調査対象外とし除外しています。

1. 属性情報

(15) 勤務先の企業規模 (Q14・有業者)



(16) 職種 (Q15・有業者)

女性 (n=7,264) 男性(n=8,606)

	事務職	販売職	サービス職	保安職	製造・加工	輸送・機械・運転	建設・探掘	運搬・清掃・包装等	専門的・技術的職業※1	専門的・技術的職業※2	農林漁業	管理的職業※3	管理的職業※4	管理的職業(その他)	その他
女性	35.8	8.6	16.9	0.3	7.5	0.4	0.6	2.3	2.5	12.3	0.5	0.4	0.4	0.7	10.9
男性	16.4	6.7	12.2	1.8	15.1	2.9	4.9	3.7	7.9	9.7	1.1	2.2	3.0	2.9	9.5

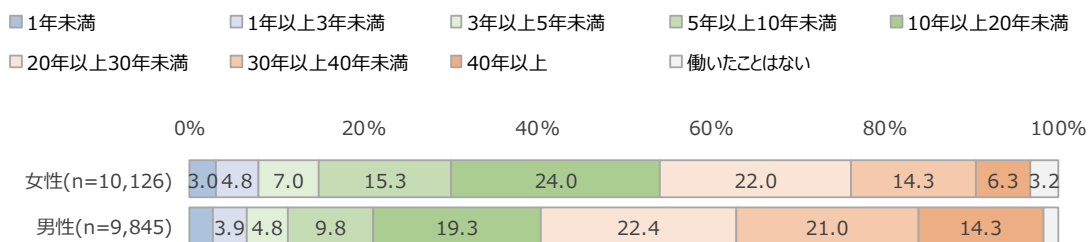
※1：専門的・技術的職業（IT・システム関連など）

※2：専門的・技術的職業（研究者、技術者、医師・看護師・栄養士、教員など）

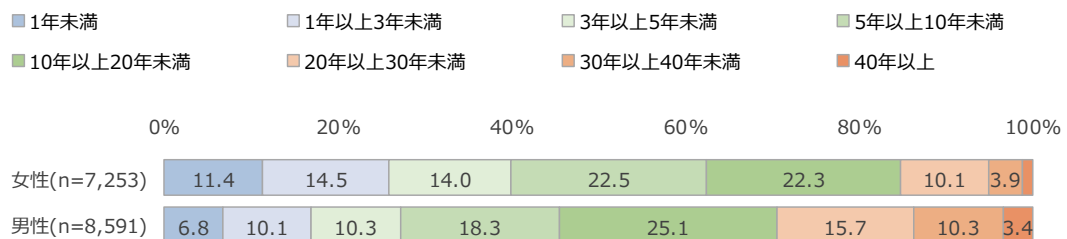
※3：管理的職業（会社役員、議員など）

※4：管理的職業（部店長・所長など部署の責任者）

(17) 通算の就業年数 (Q16①)



(18) 現在の会社等での勤続年数 (Q16②・有業者)



※Q16①及びQ16②の集計に当たっては、「就業年数」又は「勤続年数」のいずれかが回答者の年代からみて成立しないサンプル（29人）について、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

※3%未満は、数値表示を省略しています。

1. 属性情報

(19) 多様な働き方の利用状況 (複数回答・Q17)

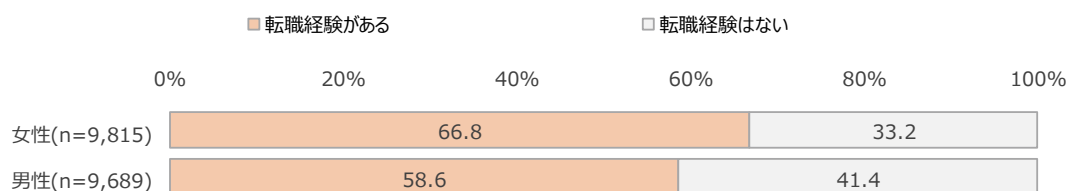
女性 (n=7,264) 男性(n=8,606)

(%)

	リモートワーク・テレワーク	フレックスタイム制	裁量労働制	時短勤務	多様な正社員 ※1	副業・兼業	その他の多様な働き方	該当するものはない
女性	10.6	8.0	6.2	11.1	5.2	5.2	0.0	62.0
男性	15.0	14.5	10.6	3.6	6.2	4.9	0.2	59.8

※1:多様な正社員 (週休3日制、職務内容・勤務地・勤務時間等を限定した働き方)

(20) 転職経験 (Q18・就業経験のある人)



(21) 転職活動で重視したこと (複数回答・Q19・転職経験のある人)

女性 (n=6,559) 男性(n=5,676)

(%)

	仕事内容	給与や待遇面	職場の雰囲気・人間関係	自分の能力やスキルをいかせること	福利厚生	家族の事情 ※2	自分が成長できること	新しいことに挑戦できること	会社の将来性	能力開発など人材育成制度の充実度	キャリア開発支援制度の充実度	その他	特になし
女性	63.8	56.9	36.9	21.6	23.2	20.0	9.5	9.3	7.3	1.6	1.5	5.9	7.5
男性	58.5	53.2	24.3	26.0	17.9	8.4	14.0	13.1	14.3	3.4	3.4	5.1	9.4

※2:家族の事情 (パートナーの転勤、子供の教育、介護など)

(22) 配偶者の就業状態・雇用形態 (Q20・有配偶者)

女性 (n=5,255) 男性(n=5,069)

(%)

	正規雇用		非正規雇用	その他有業			無業				把握していない
	会社経営者・役員	正規の会社員・職員・従業員	非正規の会社員・職員・従業員 ※3	自営業・自由業	自家営業の手伝い ※4	その他 (働いている)	学生 (社会人経験なし)	学生 (社会人経験あり)	主婦・主夫 (働いていない)	その他 (働いていない)	
女性	3.7	52.5	17.1	6.7	0.6	0.7	0.0	0.0	7.4	8.6	2.6
男性	2.8	44.9	24.6	3.9	0.6	0.7	0.0	-	16.9	3.3	2.4

※3:非正規の会社員・職員・従業員 (パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等)

※4:自家営業の手伝い (家族従業者)、家庭内の貴仕事 (内職)

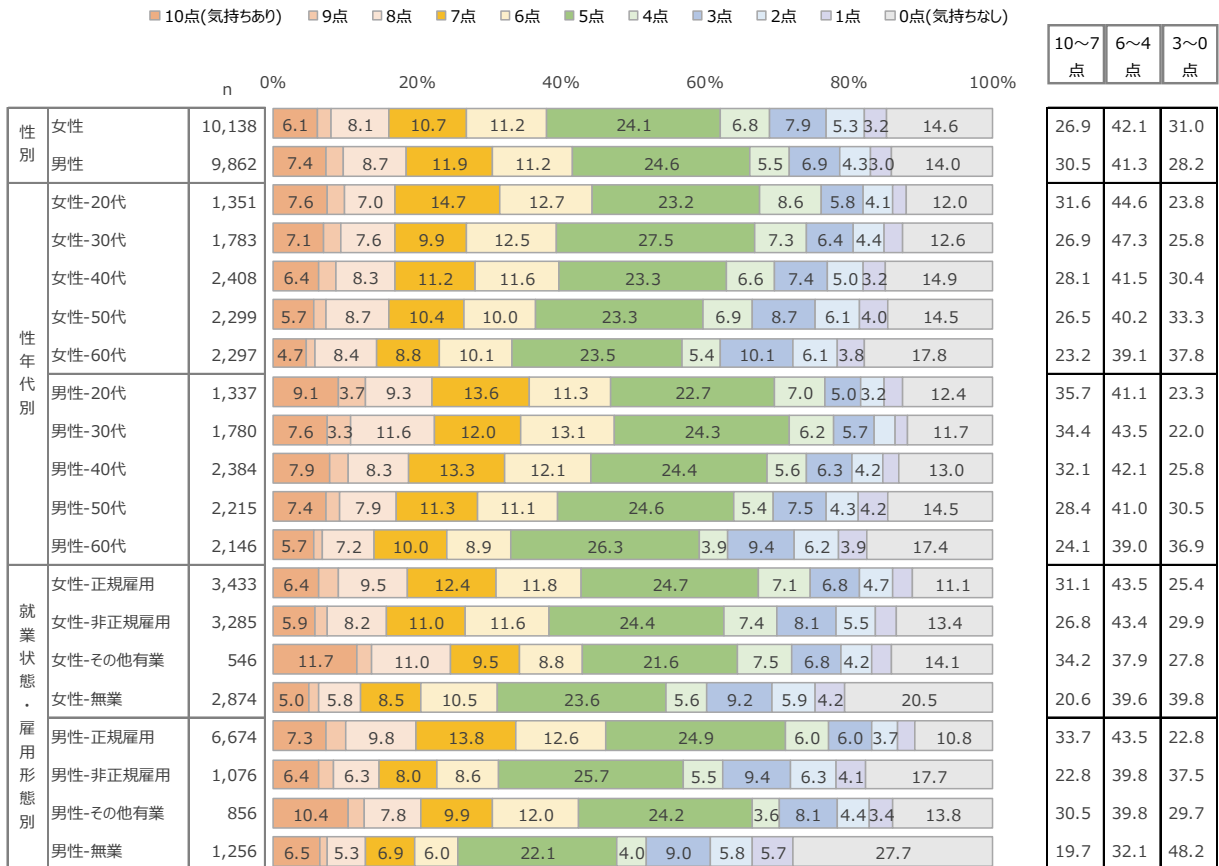
2. 広義の学びに対する意識

(1) 学び直しへの意欲 (単数回答・Q21)

【対象】全員

Q21.あなたは、人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」・「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちを持っていますか。0点～10点でお答えください。

- 性別にみると、男女ともに「5点」が最も高く、女性は24.1%、男性は24.6%。「10～7点」は、女性が26.9%、男性が30.5%で、男性の方が3.6%ポイント高い。
- 性年代別に「10～7点」をみると、女性は20代が31.6%と最も高く、60代が23.2%と最も低い。男性は20代・30代・40代が3割を超え、60代で24.1%と最も低い。いずれも年代が低い層で学び直しへの意欲が高い。男女差をみると、男性は女性より「10～7点」の割合が高く、30代で7.5%ポイントと差が大きい。
- 就業状態・雇用形態別に「10～7点」をみると、男女ともに正規雇用、その他有業で3割を超えている。男女差をみると、非正規雇用で差が大きく、女性が26.8%、男性が22.8%と、女性の方が4.0%ポイント高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

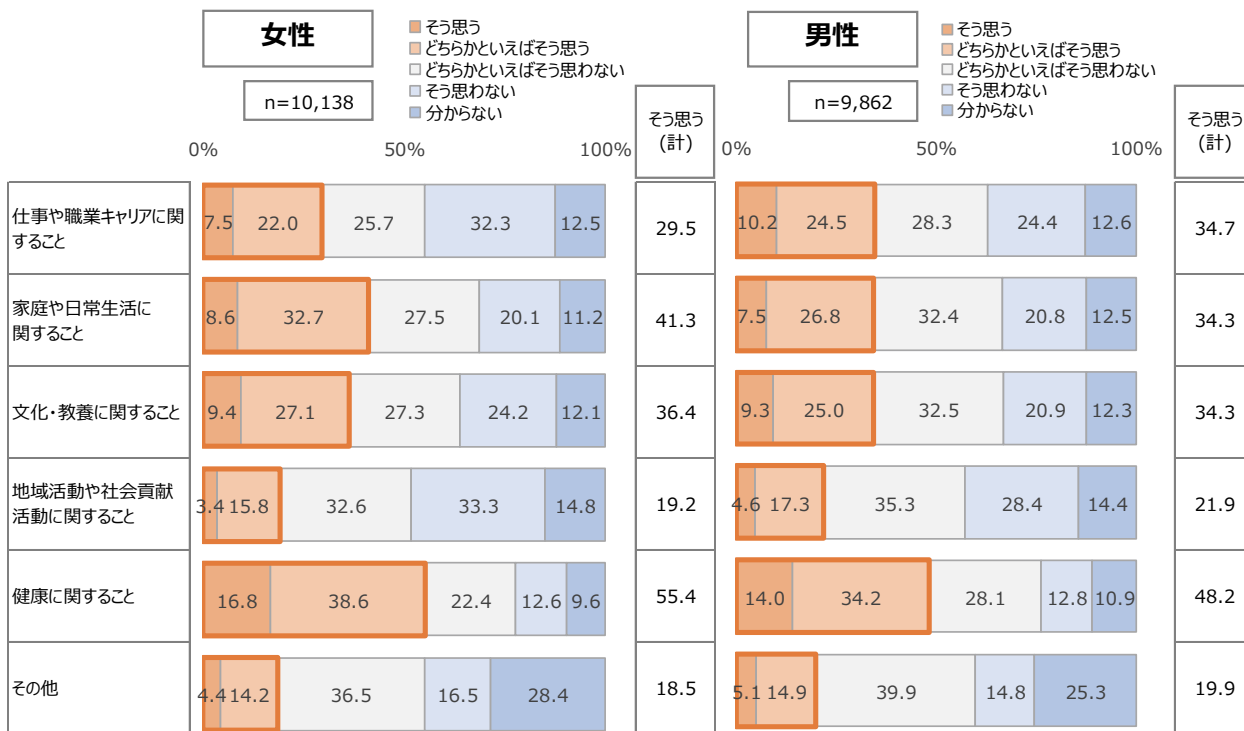
2. 広義の学びに対する意識

(2) 学びへの意欲 (マトリクス項目・単数回答・Q22)

【対象】全員

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、男女ともに「健康に関すること」が最も高く、女性55.4%、男性48.2%。次いで、女性は「家庭や日常生活に関すること」、男性は「仕事や職業キャリアに関すること」が高い。
- 男女差が大きい項目は「健康に関すること」「家庭や日常生活に関すること」で、女性は男性よりも7%ポイント以上高い。



学びへの意欲あり：
69.1%

上記6項目のうち、1つ以上の項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択

※ 上記グラフのオレンジのボックスのいずれかに該当する場合、意欲ありと判定

学びへの意欲あり：
65.2%

上記6項目のうち、1つ以上の項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択

※ 上記グラフのオレンジのボックスのいずれかに該当する場合、意欲ありと判定

※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

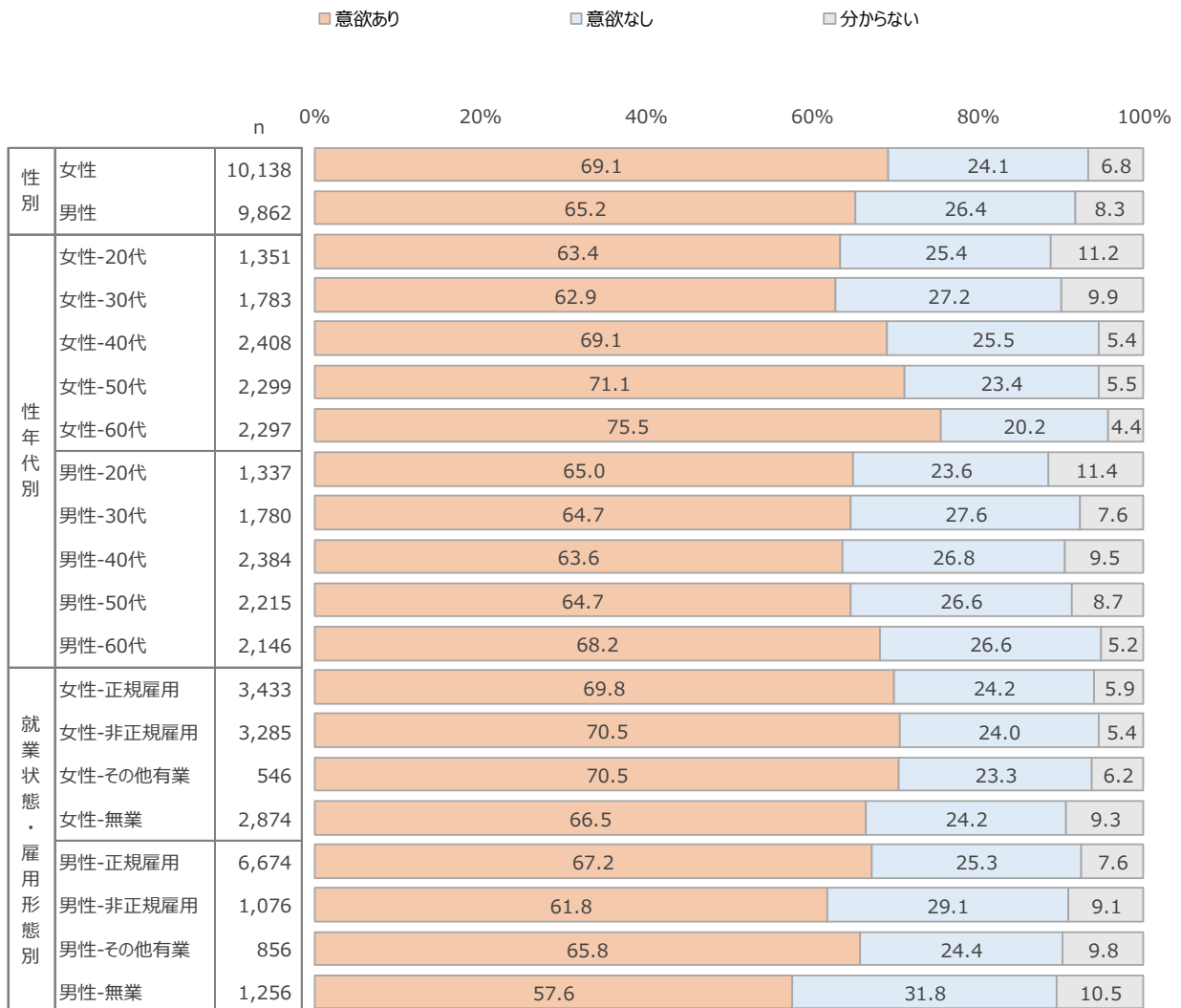
2. 広義の学びに対する意識

(2) 学びへの意欲 (マトリックス項目・単数回答・Q22)

【対象】全員

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 性別に「意欲あり」についてみると、女性は69.1%、男性は65.2%と7割近くが学びへの意欲がある。
- 性年代別にみると、男女ともに60代が最も高く、女性は75.5%、男性は68.2%。相対的に意欲が低いのは女性30代で62.9%、男性40代で63.6%。年代が上がるにつれ男女差が大きくなり、60代では7.3%ポイントの差がある。
- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は非正規雇用、その他有業がそれぞれ70.5%と高く、男性は正規雇用が67.2%と最も高い。男女差をみると、無業と非正規雇用で差が大きく、それぞれ8.9%ポイント、8.7%ポイントの差がある。



※選択肢について Q22の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工
 意欲あり：1つ以上の項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択
 意欲なし：全ての項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択がなく、1つ以上の項目で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を選択
 分からない：全ての項目で「分からない」を選択

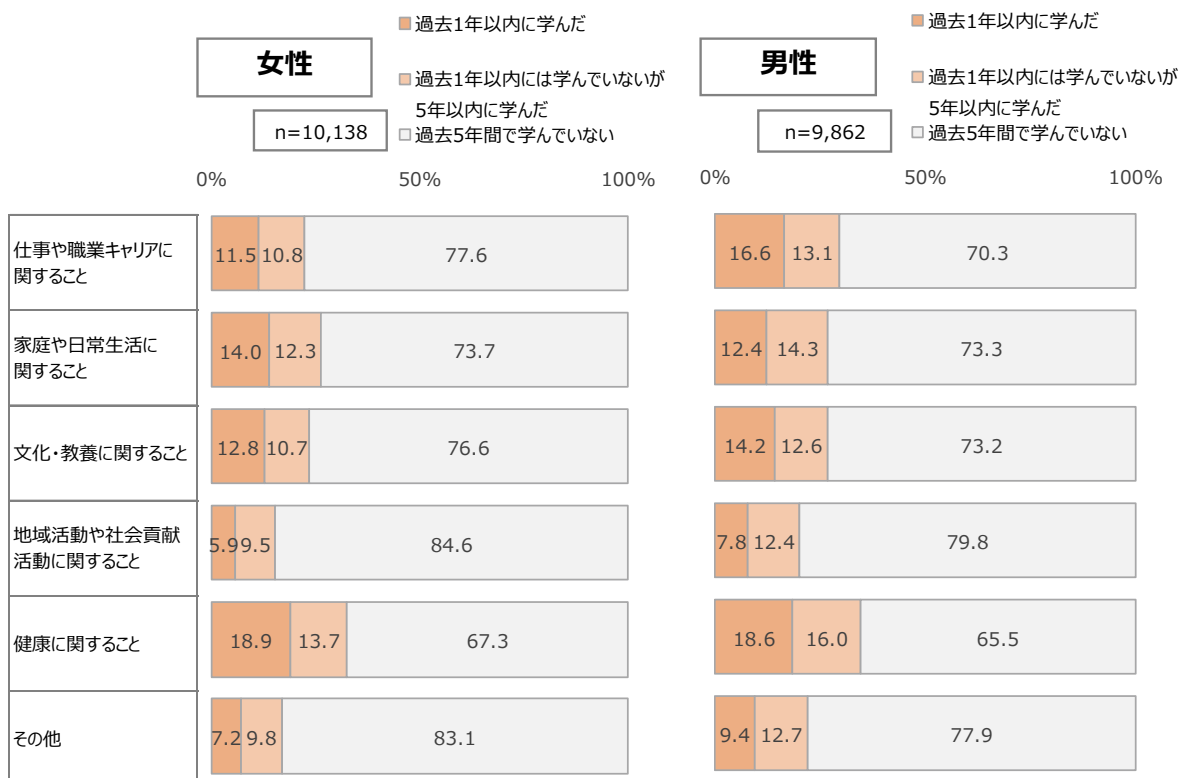
2. 広義の学びに対する意識

(3) 学びの経験（マトリックス項目・単数回答・Q23）

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 性別に「過去1年以内に学んだ」割合が最も高い項目をみると、女性は「健康に関すること」（18.9%）が最も高く、次いで「家庭や日常生活に関すること」（14.0%）。男性は、「健康に関すること」（18.6%）が最も高く、次いで「仕事や職業キャリアに関すること」（16.6%）。
- 男女差が最も大きい項目は「仕事や職業キャリアに関すること」であり、女性11.5%に対し男性16.6%と、男性が5.1%ポイント高い。
- なお、いずれの項目においても「過去5年間で学んでいない」が6～8割を占めている。



2. 広義の学びに対する意識

(3) 学びの経験 (マトリックス項目・単数回答・Q23)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- ・「過去1年以内に学んだ」割合を性別にみると、女性は31.5%、男性は33.6%。
- ・性年代別にみると、男女ともに20代が最も高く、女性は38.4%、男性は44.5%。相対的に1年以内の学びの経験が低いのは女性50代及び男性50代で、27.7%。男女差が最も大きい年代は20代で6.1%ポイントの差がある。
- ・就業状態・雇用形態別では、男女に大きな差はみられない。

■ 過去1年以内に学んだ □ 過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ ▨ 過去5年間で学んでいない

		n	0%	20%	40%	60%	80%	100%
性別	女性	10,138	31.5	12.8	55.7			
	男性	9,862	33.6	13.1	53.2			
性年代別	女性-20代	1,351	38.4	14.6	47.0			
	女性-30代	1,783	32.2	12.9	54.9			
	女性-40代	2,408	29.0	12.7	58.3			
	女性-50代	2,299	27.7	12.7	59.6			
	女性-60代	2,297	33.2	12.0	54.8			
	男性-20代	1,337	44.5	14.7	40.8			
	男性-30代	1,780	38.3	12.4	49.3			
	男性-40代	2,384	33.0	11.6	55.4			
	男性-50代	2,215	27.7	12.3	60.0			
	男性-60代	2,146	29.8	15.4	54.8			
就業状態・雇用形態別	女性-正規雇用	3,433	34.3	14.0	51.7			
	女性-非正規雇用	3,285	29.7	13.8	56.5			
	女性-その他有業	546	41.0	11.9	47.1			
	女性-無業	2,874	28.3	10.4	61.3			
	男性-正規雇用	6,674	34.9	13.4	51.7			
	男性-非正規雇用	1,076	29.7	13.9	56.3			
	男性-その他有業	856	37.6	12.0	50.4			
	男性-無業	1,256	27.2	12.0	60.7			

※選択肢について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工
 過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択
 過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」の選択がなく、1つ以上の項目で「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択
 過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

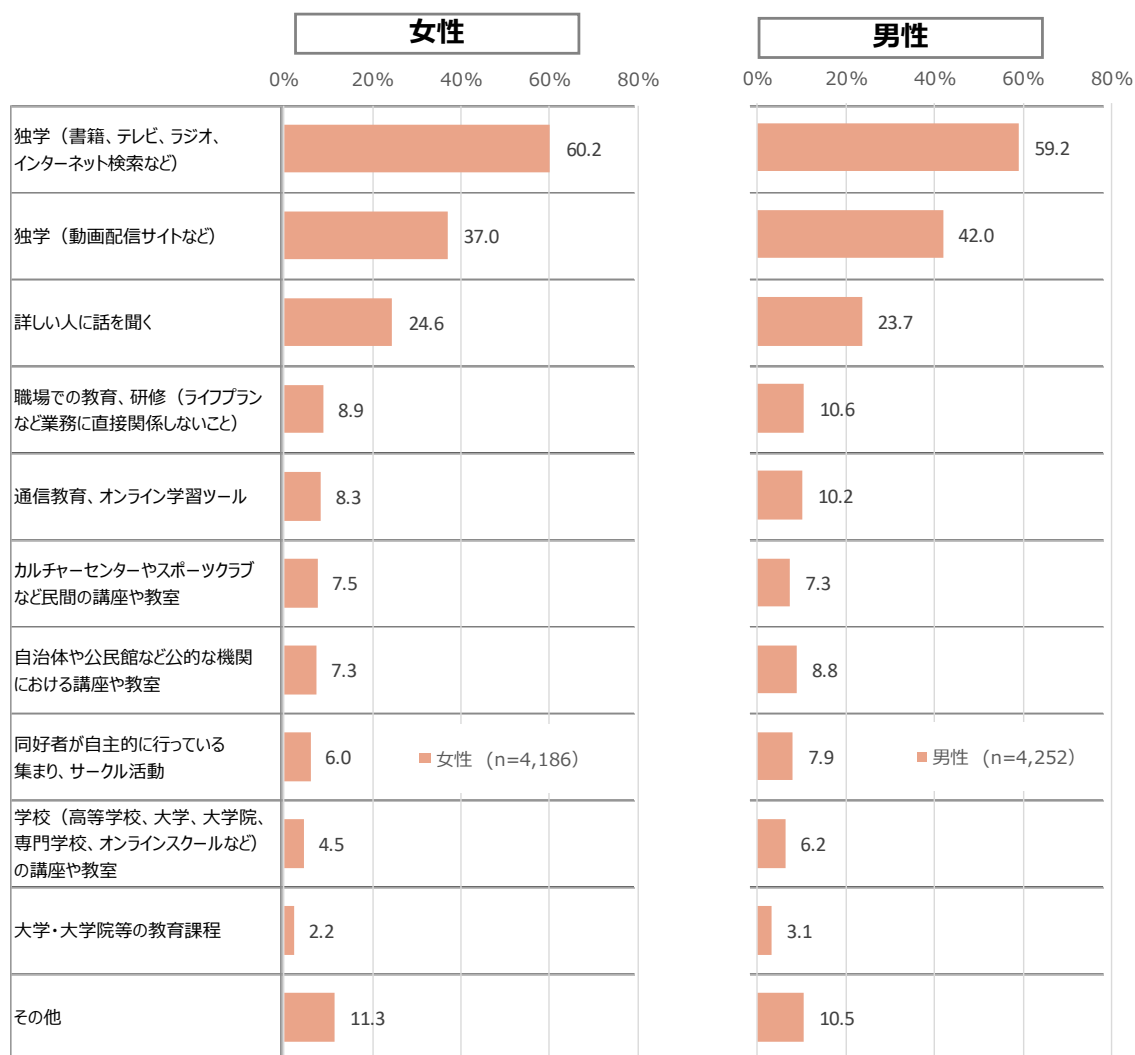
2. 広義の学びに対する意識

(4) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

- 性別にみると、男女ともに「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高く、女性60.2%、男性59.2%、次いで男女ともに「独学（動画配信サイトなど）」が高く、女性37.0%、男性42.0%。
- 男女差が最も大きい項目は「独学（動画配信サイトなど）」で、男性の方が5.0%ポイント高い。



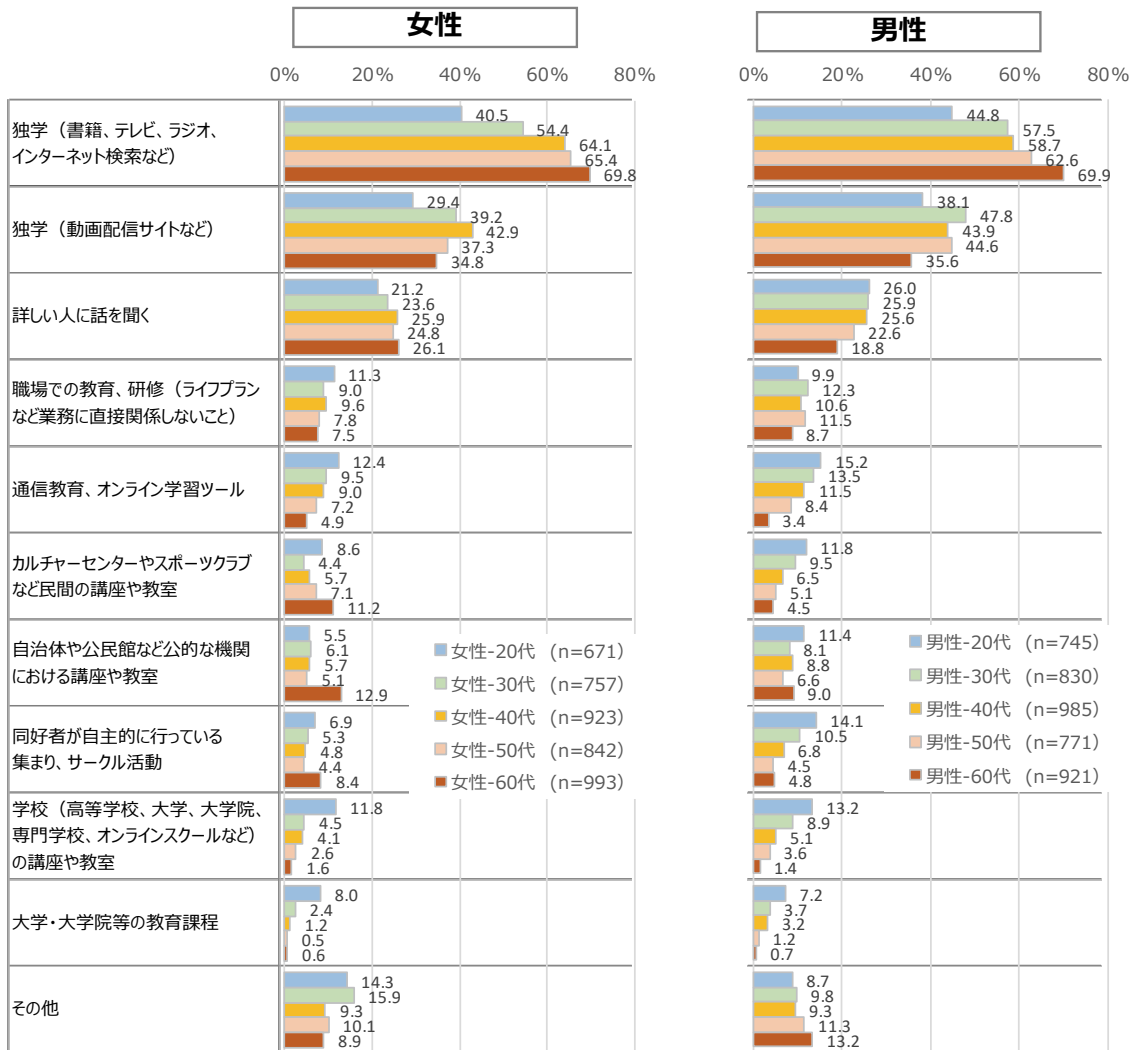
2. 広義の学びに対する意識

(4) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

- 性年代別にみると、男女ともに、いずれの年代においても「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高い。「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」は年代差が大きく、上の年代ほど割合が高く、女性20代の40.5%に対し、女性60代は69.8%、男性20代の44.8%に対し、男性60代は69.9%と、男女ともに25%ポイント以上の差がみられる。
- 男性20代の「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」は14.1%と女性20代の2倍以上で、また、男性の他の年代と比べて高い。
- 男女差が最も大きい「独学（動画配信サイトなど）」をみると、若い世代で差が大きく、20代では8.7%ポイント、30代では8.6%ポイント男性の方が高い。



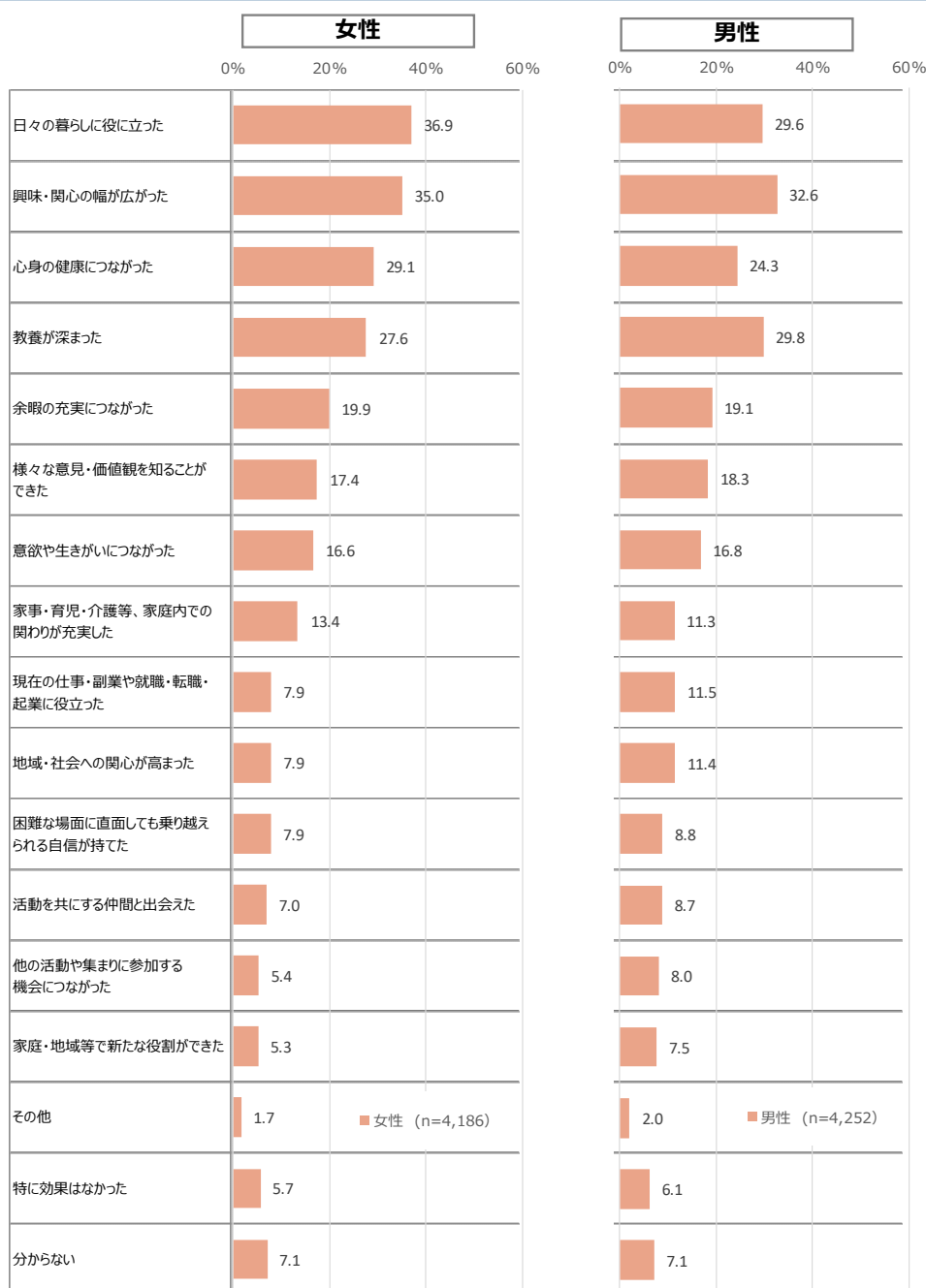
2. 広義の学びに対する意識

(5) 仕事や職業キャリア以外の学びの効果（複数回答・Q25）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q25.あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください。

- 男女ともに、約9割が何かしらの学びの効果を感じている。
- 性別にみると、女性は「日々の暮らしに役に立った」が36.9%と最も高く、次いで「興味・関心の幅が広がった」「心身の健康につながった」。男性は「興味・関心の幅が広がった」が32.6%と最も高く、次いで「教養が深まった」「日々の暮らしに役に立った」。
- 男女差が最も大きい項目は「日々の暮らしに役に立った」で、女性の方が7.3%ポイント高い。



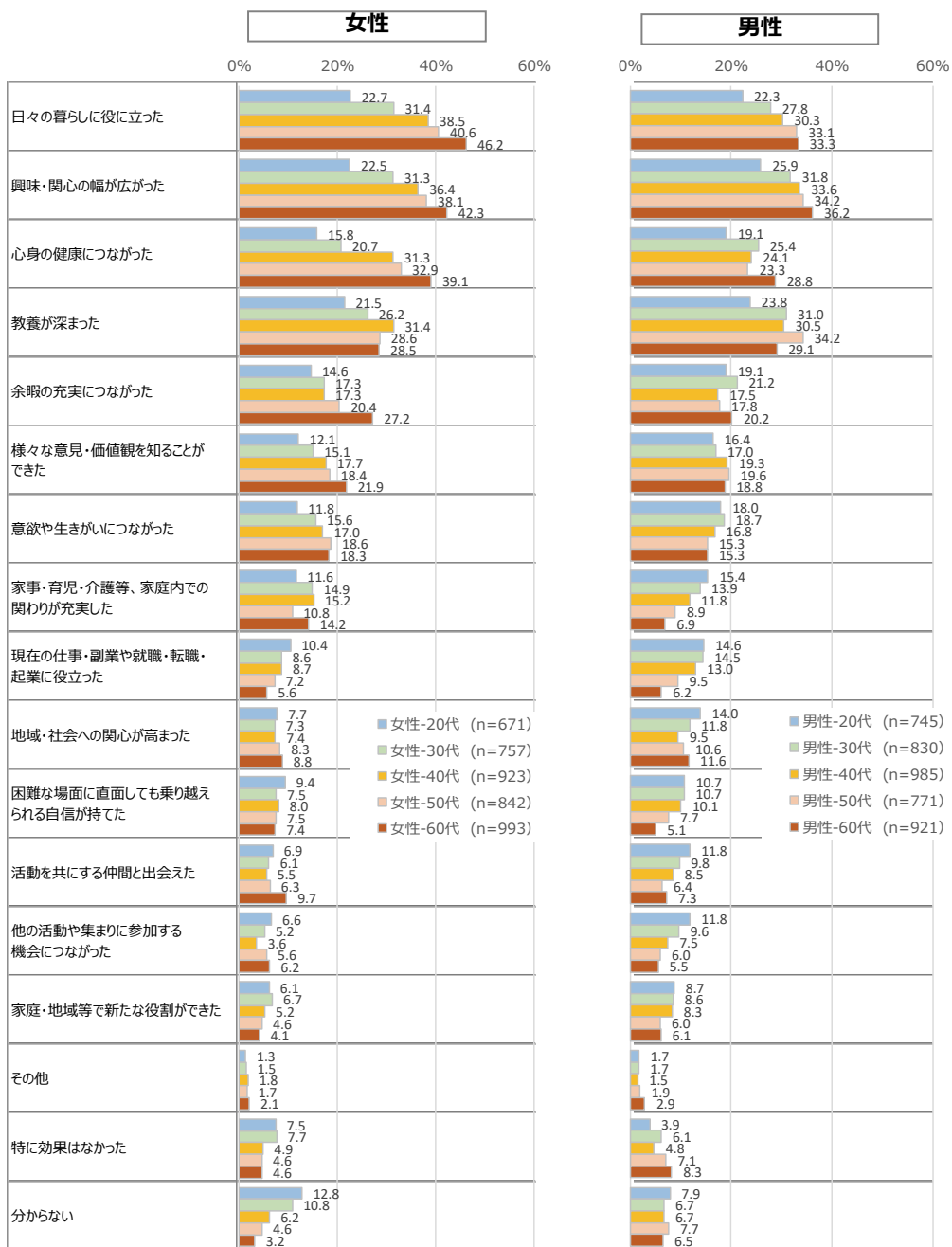
2. 広義の学びに対する意識

(5) 仕事や職業キャリア以外の学びの効果（複数回答・Q25）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q25.あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください。

- ・ 性年代別に見ると、女性はいずれの年代においても「日々の暮らしに役に立った」及び「興味・関心の幅が広がった」が上位。特に「日々の暮らしに役に立った」は60代で最も高く46.2%。
- ・ 男性は「興味・関心の幅が広がった」及び「教養が深まった」が上位項目となっており、「興味・関心の幅が広がった」は60代で最も高く36.2%。
- ・ 男女差が最も大きい「日々の暮らしに役に立った」をみると、60代で最も差が大きく、女性の方が12.9%ポイント高い。

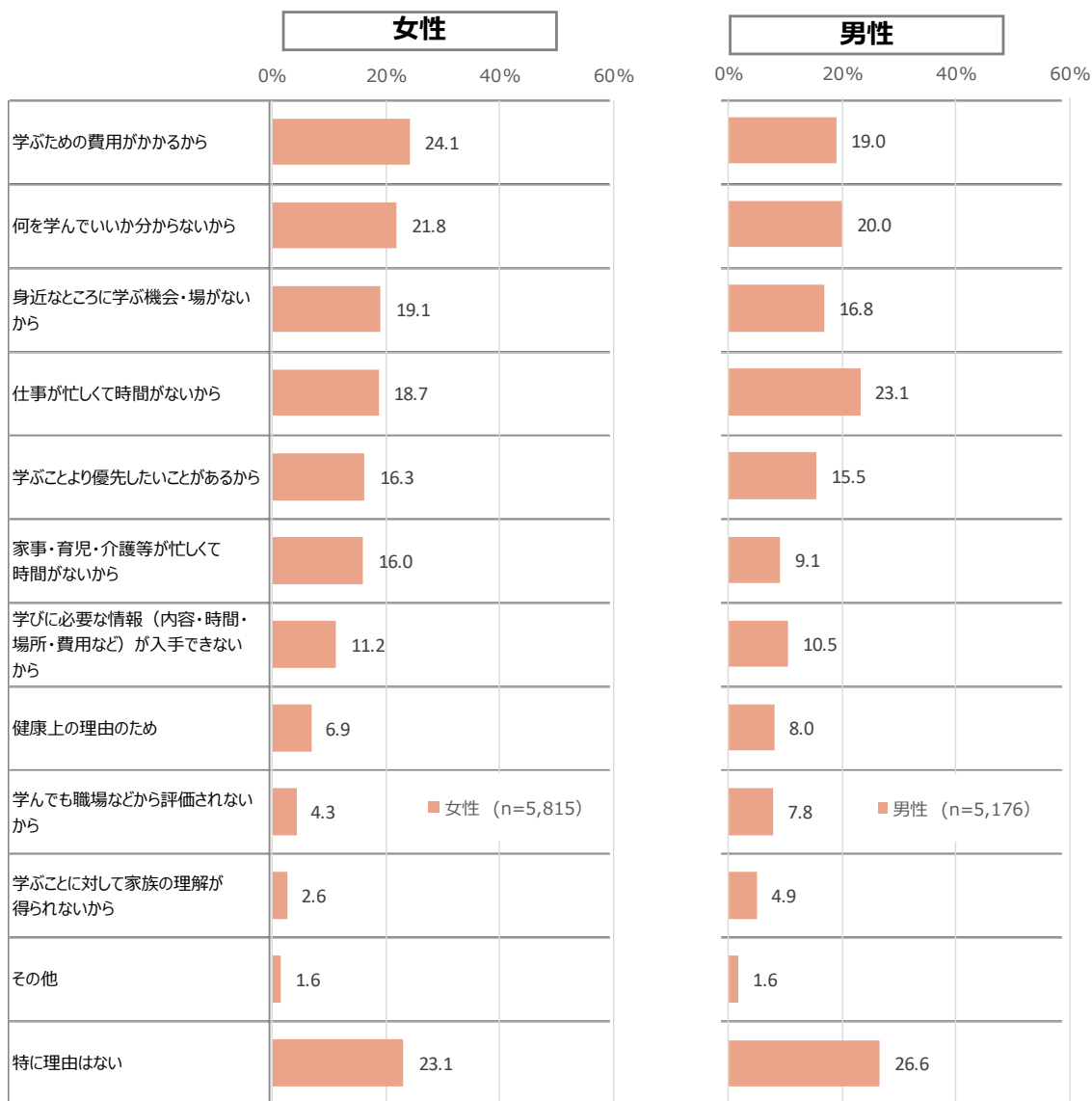


2. 広義の学びに対する意識

(6) 仕事や職業キャリア以外で学びへの意欲はあるが1年以内に学びの経験がない理由 (複数回答・Q26)

【対象】Q22及びQ23の ii ~ viのうち、学びへの意欲はあるが過去1年以内に学んでいない項目が1項目以上ある人
Q26.あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。

- 性別にみると、女性は「学ぶための費用がかかるから」が24.1%と最も高く、次いで「何を学んでいいかわからないから」、男性は「仕事が忙しくて時間がないから」が23.1%と最も高く、次いで「何を学んでいいかわからないから」。
- 男女差が最も大きい項目は「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」で、女性の方が6.9%ポイント高い。

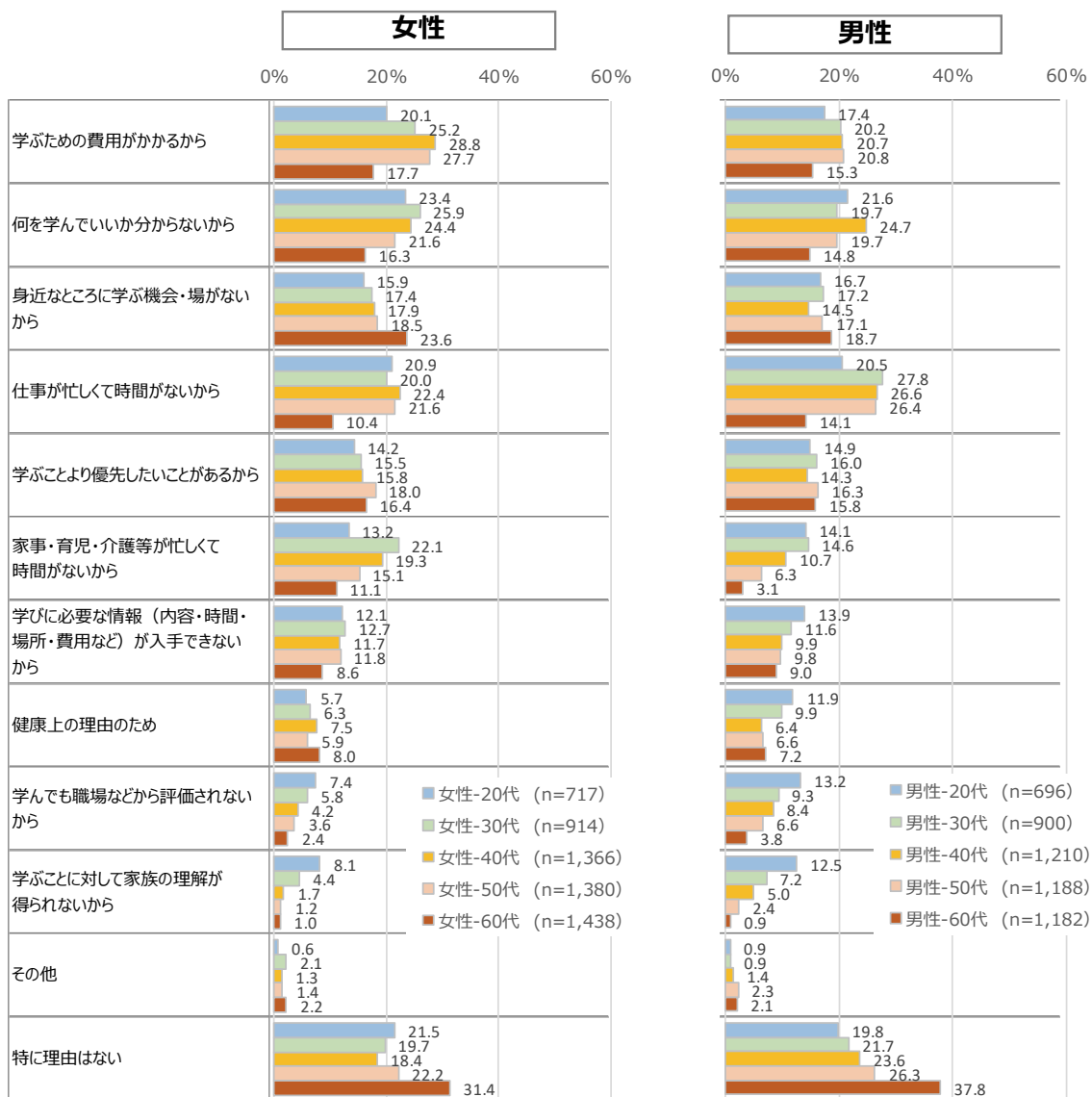


2. 広義の学びに対する意識

(6) 仕事や職業キャリア以外で学びへの意欲はあるが1年以内に学びの経験がない理由 (複数回答・Q26)

【対象】Q22及びQ23の ii ~ viのうち、学びへの意欲はあるが過去1年以内に学んでいない項目が1項目以上ある人
Q26.あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。

- 性年代別に見ると、女性は40代、50代で「学ぶための費用がかかるから」、20代、30代で「何を学んでいいかわからないから」、60代で「身近なところに学ぶ機会・場がないから」が最も高い。
- 一方、男性は30代から50代で「仕事が忙しくて時間がないから」、20代で「何を学んでいいかわからないから」、60代は女性と同じく「身近なところに学ぶ機会・場がないから」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」をみると、50代では8.8%ポイント、40代では8.6%ポイント、60代では8.0%ポイント、30代では7.5%ポイント、20代では7.4%ポイント、女性の方が高い。

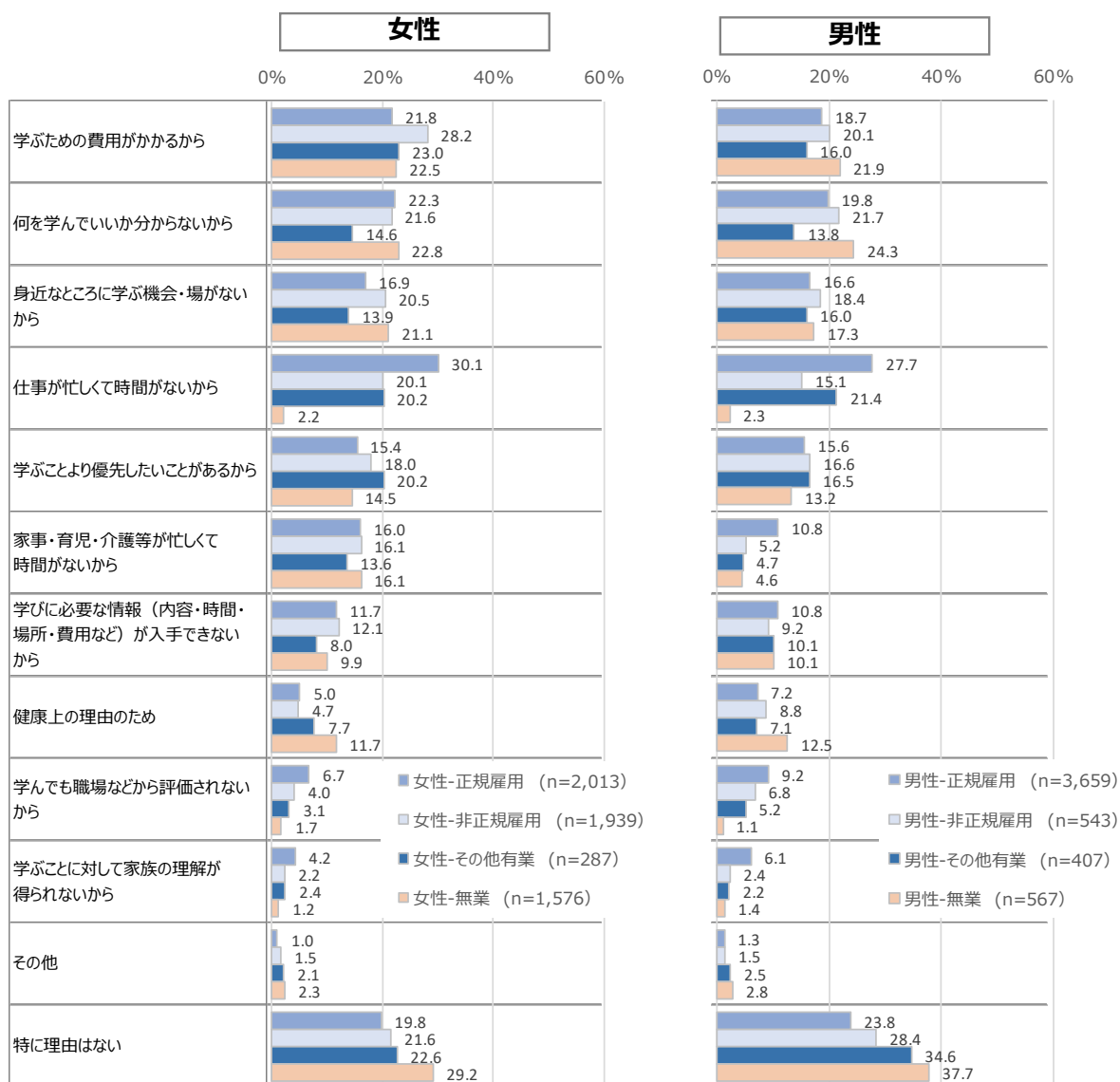


2. 広義の学びに対する意識

(6) 仕事や職業キャリア以外で学びへの意欲はあるが1年以内に学びの経験がない理由 (複数回答・Q26)

【対象】Q22及びQ23の ii～viのうち、学びへの意欲はあるが過去1年以内に学んでいない項目が1項目以上ある人
Q26.あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。

- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は全ての就業状態・雇用形態で「学ぶための費用がかかるから」が2割以上、男性も非正規雇用と無業で2割以上。
- 男女ともに正規雇用では「仕事が忙しくて時間がないから」が最も高く、3割前後。
- 男女差が最も大きい「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」をみると、無業で最も差が大きく、女性の方が11.5%ポイント高い。



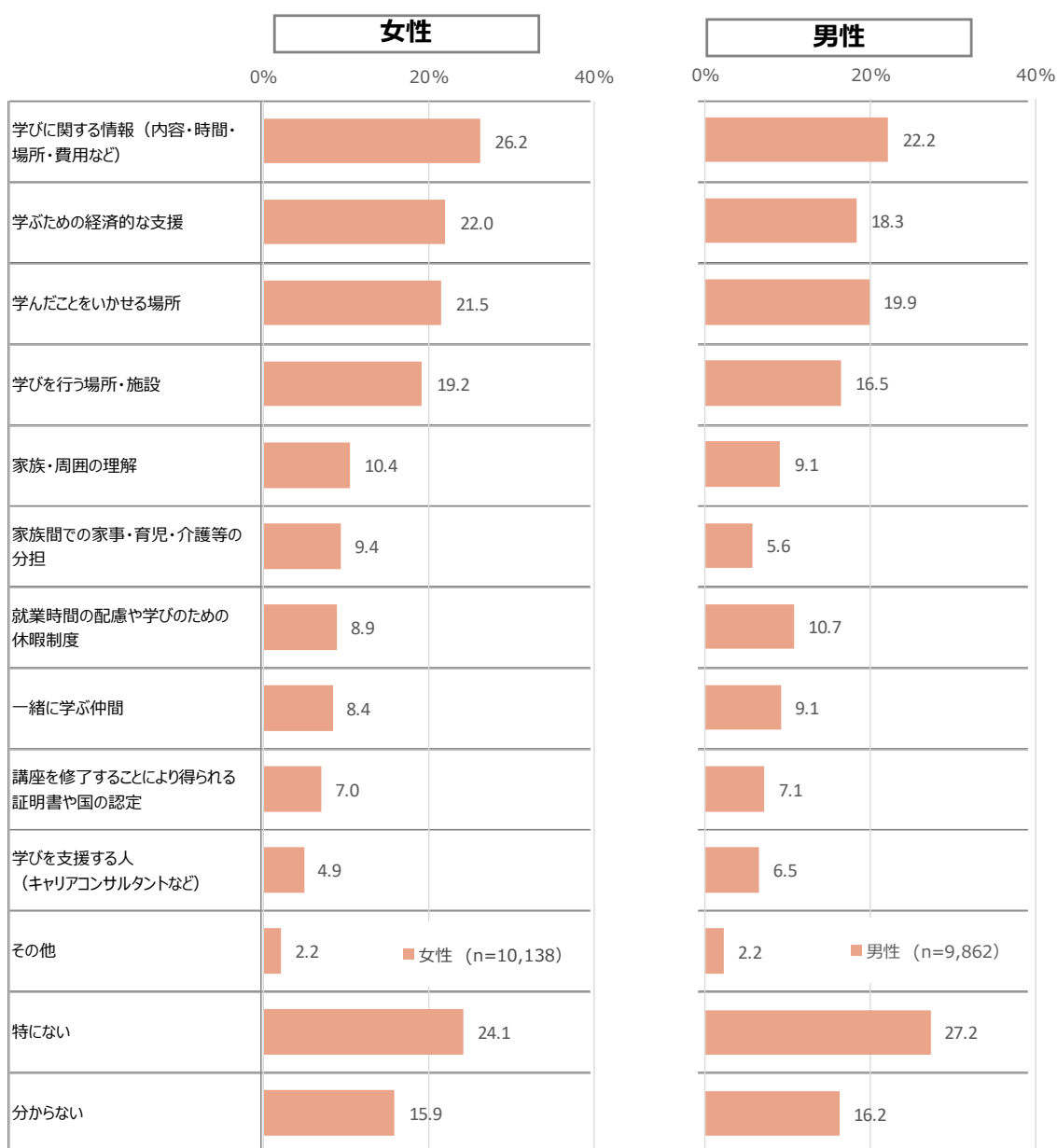
2. 広義の学びに対する意識

(7) 今後学ぶために必要なこと（複数回答・Q27）

【対象】全員

Q27. 今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。

- 性別にみると、女性は「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」が26.2%と最も高く、次いで「学ぶための経済的な支援」、男性も「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」が22.2%と最も高く、次いで「学んだことをいかせる場所」。
- 男女差が最も大きい項目は「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」で、女性の方が4.0%ポイント高い。



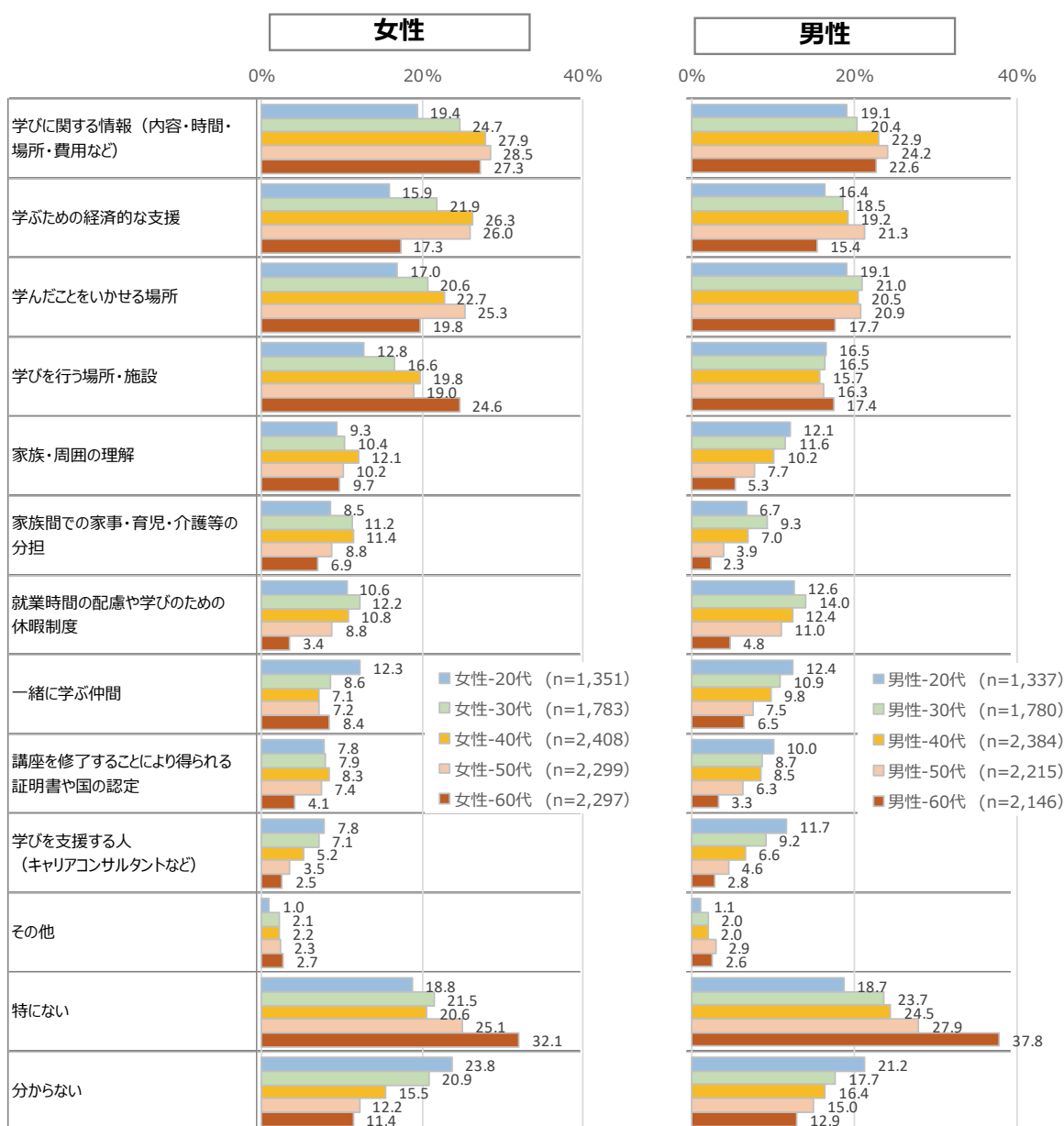
2. 広義の学びに対する意識

(7) 今後学ぶために必要なこと（複数回答・Q27）

【対象】全員

Q27. 今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。

- 性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」が最も高く、いずれも50代が最も高い。
- 男女差が最も大きい「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」をみると、40代で最も差が大きく、女性の方が5.0%ポイント高い。



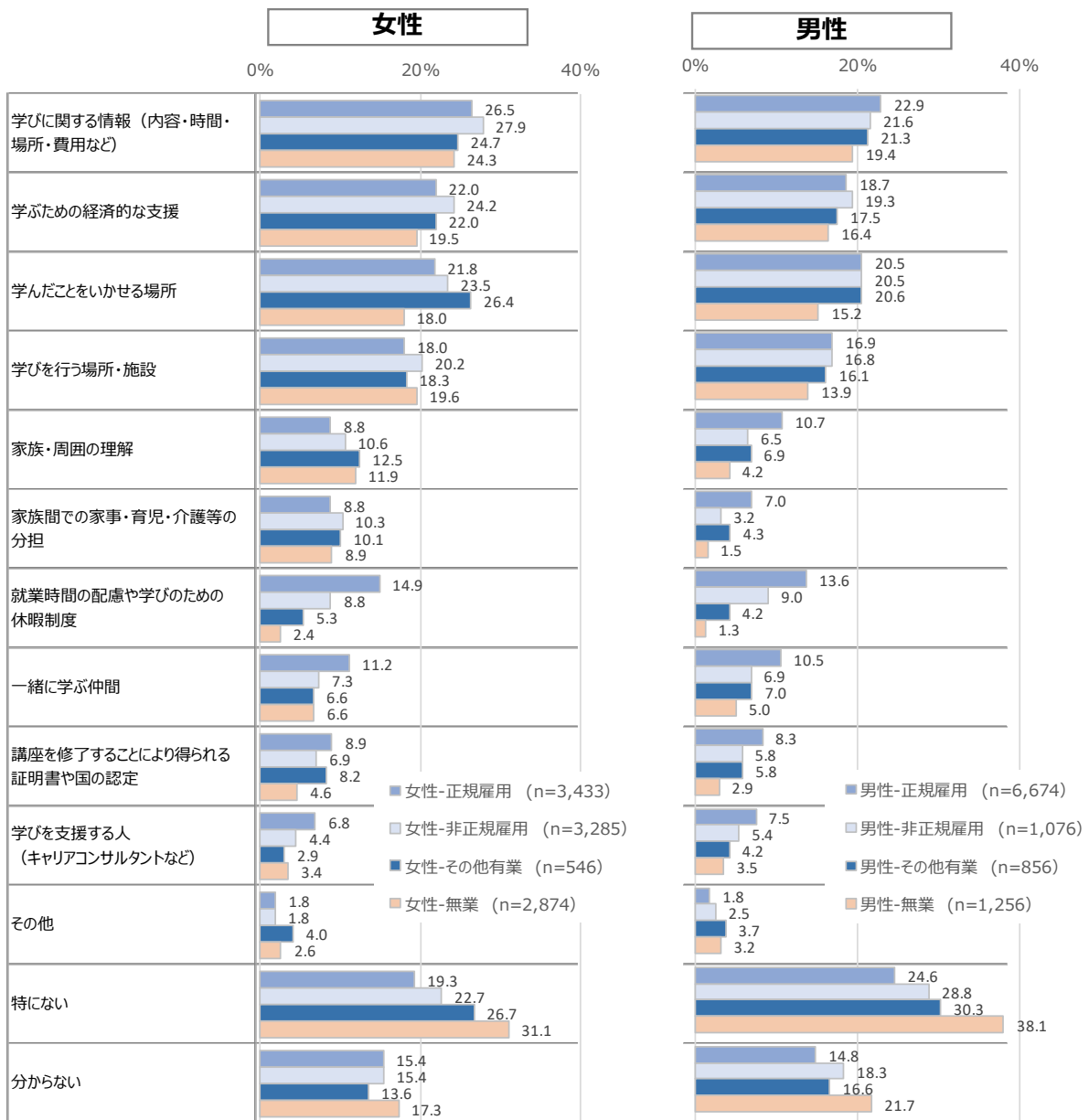
2. 広義の学びに対する意識

(7) 今後学ぶために必要なこと（複数回答・Q27）

【対象】全員

Q27. 今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、女性はその他有業以外は「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」が最も高く、非正規雇用で27.9%、正規雇用で26.5%、無業で24.3%である。その他有業は「学んだことをいかせる場所」が26.4%で最も高い。
- 一方、男性は全ての就業状態・雇用形態で「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」が最も高く、正規雇用で22.9%、非正規雇用で21.6%を占める。
- 男女差が最も大きい「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）」は、非正規雇用では女性27.9%、男性21.6%と、女性の方が6.3ポイント高い。



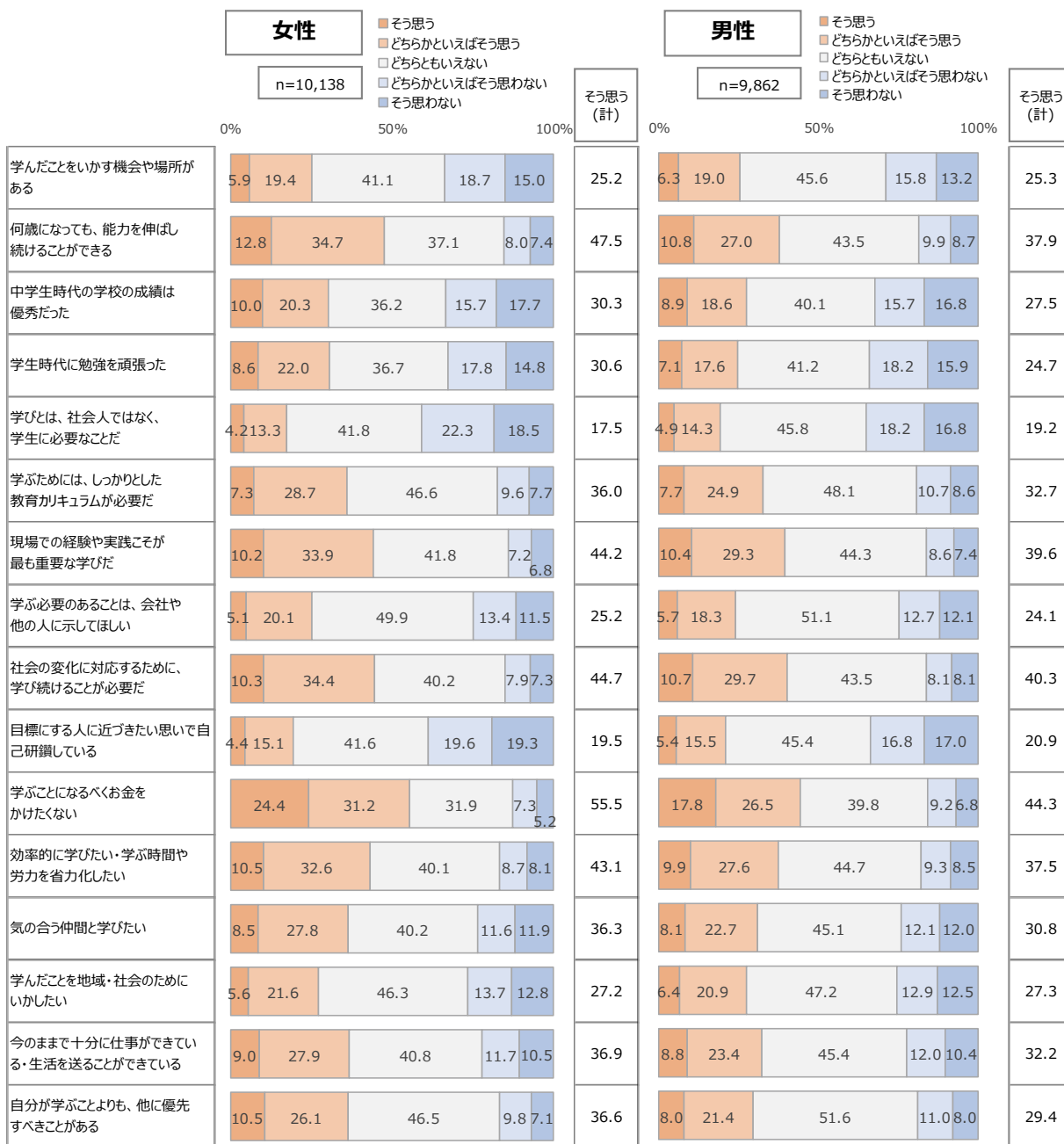
2. 広義の学びに対する意識

(8) 学ぶことへの意識 (マトリックス項目・単数回答・Q28)

【対象】全員

Q28. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、女性は「学ぶことになるべくお金をかけたくない」が55.5%、次いで「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」が47.5%、男性は「学ぶことになるべくお金をかけたくない」が44.3%、次いで「社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ」が40.3%と高い。
- 男女差が最も大きい項目は「学ぶことになるべくお金をかけたくない」で、女性の方が11.2%ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

2. 広義の学びに対する意識

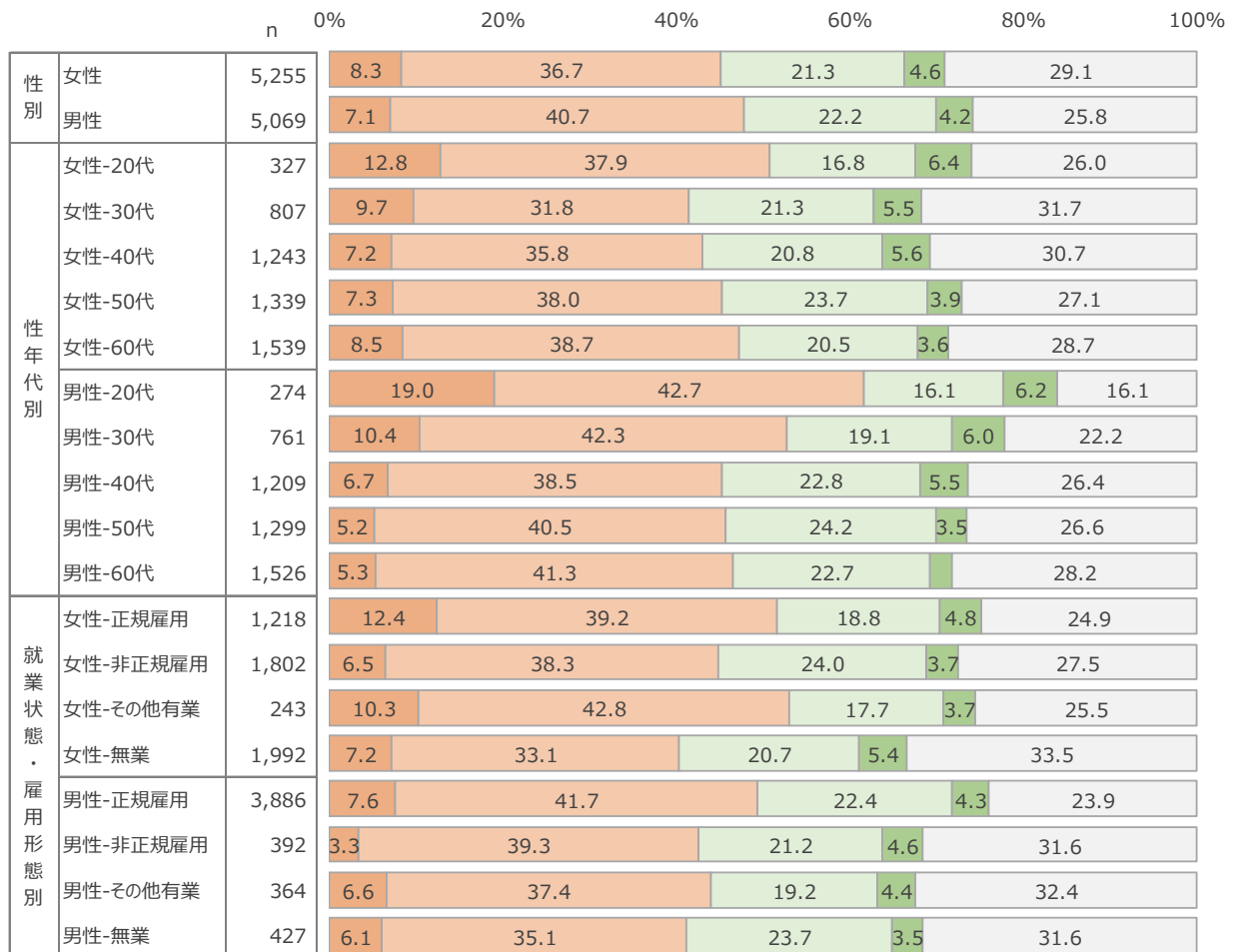
(9) 自身の学びに対する配偶者の姿勢（単数回答・Q29）

【対象】有配偶者

Q29.あなたご自身が学ぶことに対して、あなたの配偶者はどのような姿勢ですか。あなたが感じている配偶者の姿勢に近いものを教えてください。

- 性別にみると、男女ともに「学ぶことに対して理解がある」が最も高く、女性36.7%、男性40.7%。
- 性年代別にみると、男女ともに「学ぶことを積極的に支援してくれる」は20代で最も高く、男性の方が6.2%ポイント高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は正規雇用で「学ぶことを積極的に支援してくれる」が12.4%、その他有業で10.3%と高い。一方、男性は全ての就業状態・雇用形態で「学ぶことを積極的に支援してくれる」は10%未満で、特に非正規雇用は3.3%と最も低い。

■ 学ぶことを積極的に支援してくれる ■ 学ぶことに対して理解がある ■ 学ぶことに対して無関心である
■ 学ぶことに否定的な姿勢である □ 分からない



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(1) 自身の学びに対する配偶者の姿勢（単数回答・Q29）

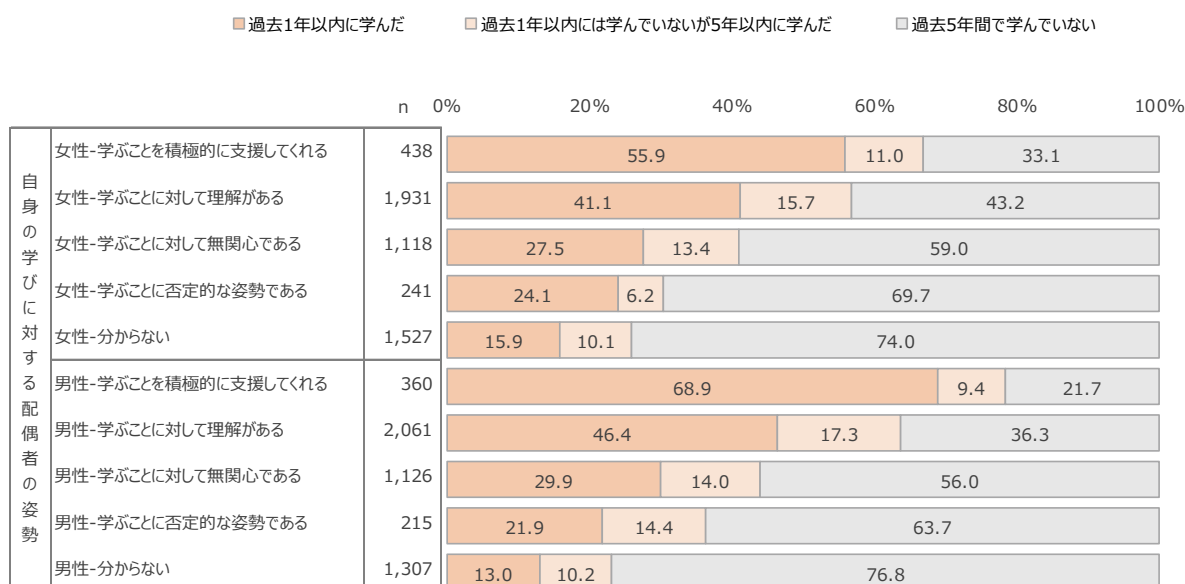
×学びの経験（マトリックス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

【対象】有配偶者

Q29.あなたご自身が学ぶことに対して、あなたの配偶者はどのような姿勢ですか。あなたが感じている配偶者の姿勢に近いものを教えてください。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 自身の学びに対する配偶者の姿勢別に「過去1年以内に学んだ」をみると、男女とも学ぶことを積極的に支援してくれる層が最も高く、女性55.9%、男性68.9%。
- 男女差が最も大きい層は学ぶことを積極的に支援してくれる層で、男性の方が13.0%ポイント高い。



※分析軸について Q29「自身の学びに対する配偶者の姿勢」の回答に基づき記載

※選択肢について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択

過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」の選択がなく、1つ以上の項目で「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択

過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(2) 仕事以外の学びへの意欲（マトリクス項目・単数回答・Q22 ii～vi）

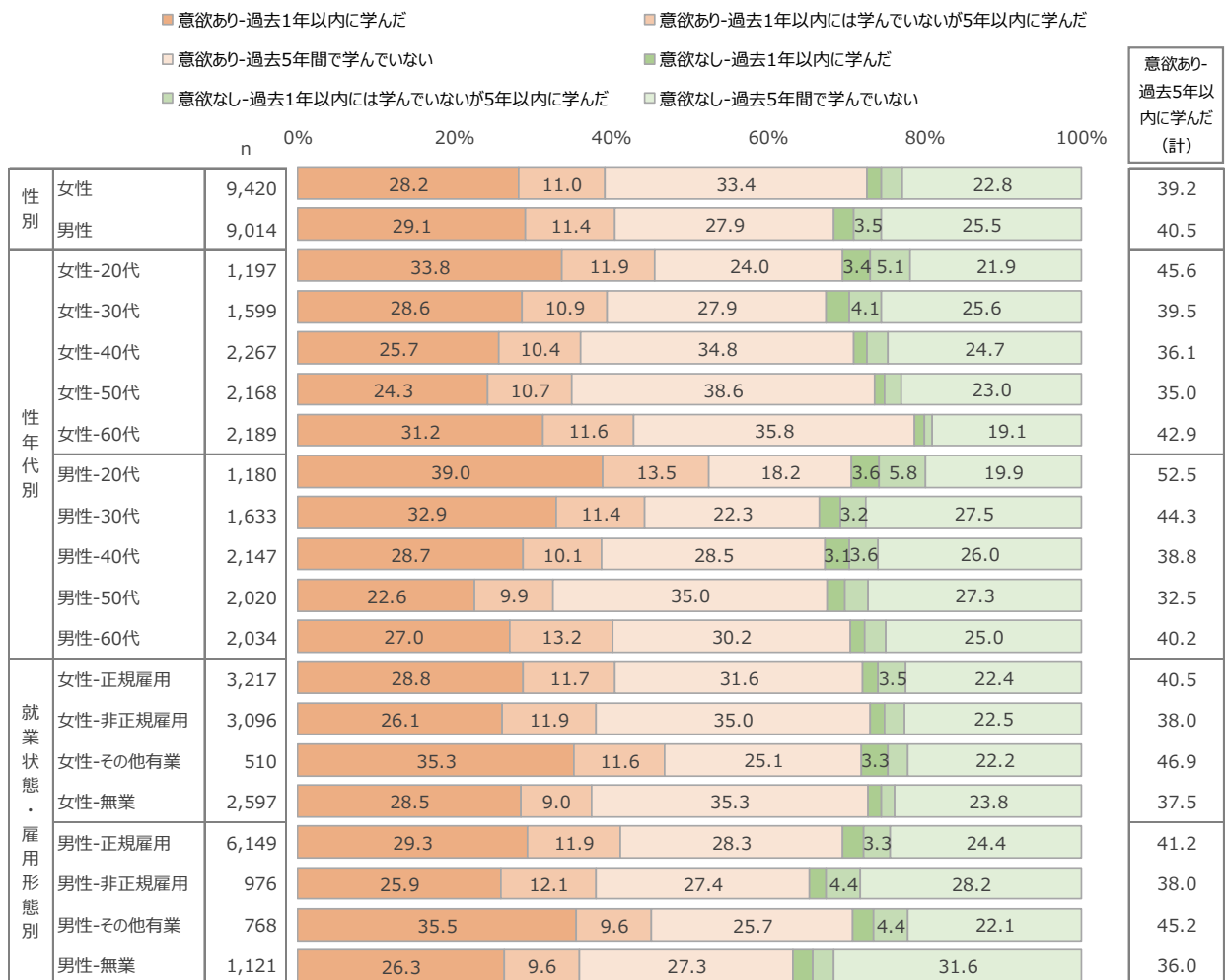
×仕事以外の学びの経験（マトリクス項目・単数回答・Q23 ii～vi）

【対象】全員

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 広義の学びについて、意欲があり過去5年以内に学んだ割合を性別にみると、女性は39.2%、男性は40.5%。
- 「意欲あり-過去5年間で学んでいない」で、男女差が最も大きく、女性の方が5.5ポイント高い。
- 意欲があり過去5年以内に学んだ割合を、性年代別にみると、男女とも20代が最も高く、女性45.6%、男性52.5%、女性は次いで60代で42.9%、男性は次いで30代で44.3%。
- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともにその他有業が最も高く、女性46.9%、男性45.2%。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※「意欲あり-過去5年以内に学んだ (計)」=「意欲あり-過去1年以内に学んだ」+「意欲あり-過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」で算出

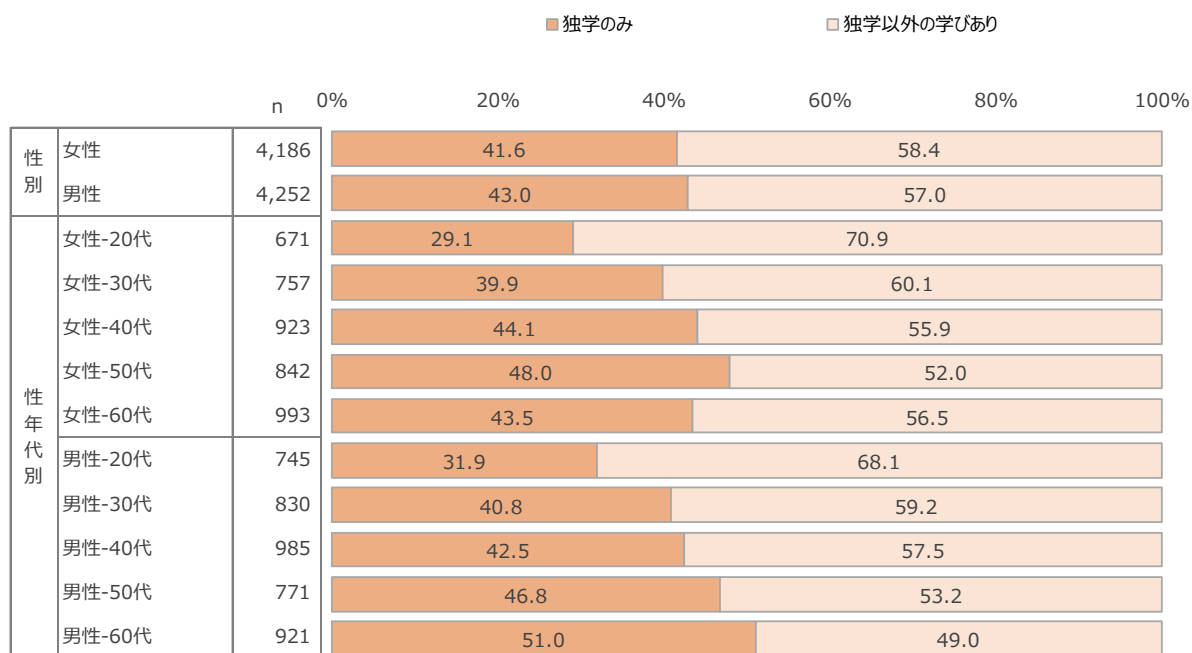
2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(3) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

- 過去5年以内に広義の学びをした人について、仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態を性別にみると、「独学のみ」の女性は41.6%、男性は43.0%。
- 性年代別にみると、「独学のみ」は、女性は50代が48.0%と最も高く、男性は60代が51.0%で最も高い。
- 男女差が最も大きい年代は60代で、男性の方が7.5%ポイント高い。



※分析軸について、Q24「仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態」の回答により、以下のように選択肢を加工
 独学のみ：選択肢1-2「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」「独学（動画配信サイトなど）」のみを選択した
 （選択肢3-11は選択していない）
 独学以外の学びあり：選択肢3-11「詳しい人に話を聞く」～「その他」のいずれかを選択した

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(4) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

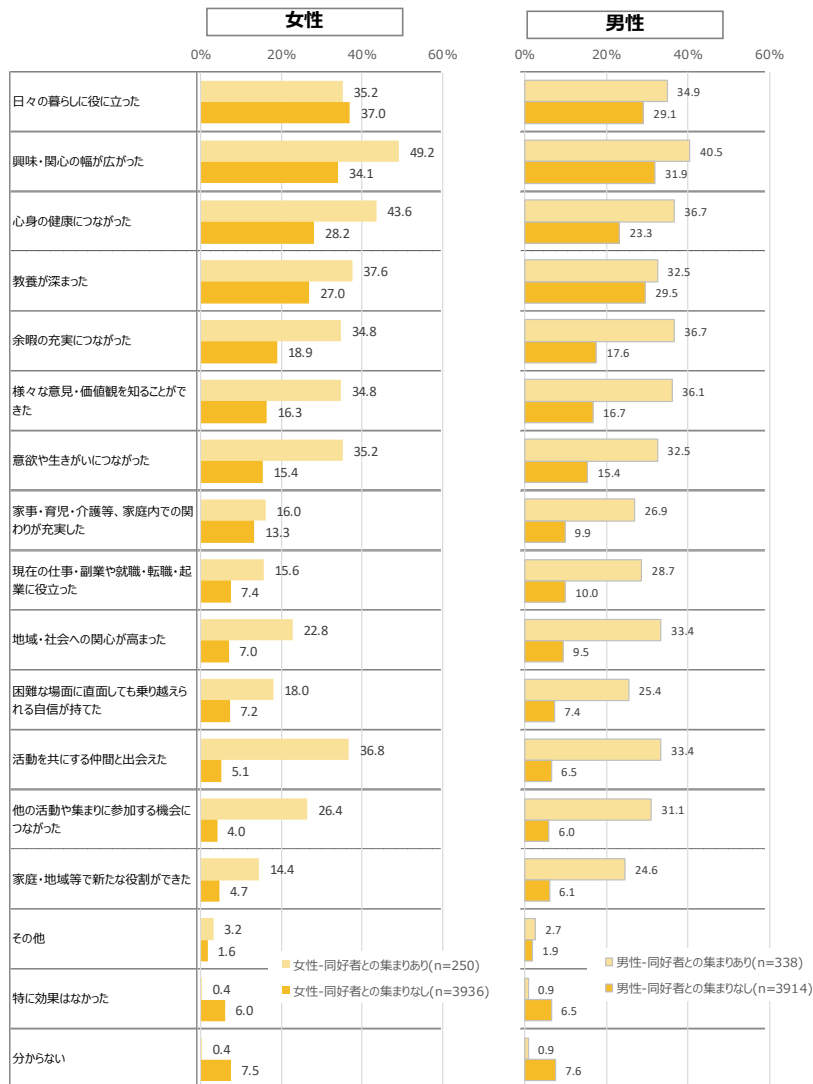
×仕事や職業キャリア以外の学びの効果（複数回答・Q25）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

Q25.あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください。

- 過去5年以内に広義の学びをした人について、仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態別に学びの効果をみると、女性は「日々の暮らしに役に立った」以外の全項目、男性は全ての項目で、同好者との集まりがある人の方が、ない人に比べ学びの効果を感じている割合が高い。
- 女性では「活動を共にする仲間と出会えた」、「他の活動や集まりに参加する機会につながった」、「意欲や生きがいにつながった」で特に差が大きい。
- 男性では「活動を共にする仲間と出会えた」、「他の活動や集まりに参加する機会につながった」、「地域・社会への関心が高まった」で特に差が大きい。



※分析軸について

Q24「仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態」の回答により、以下のように分析軸を加工

同好者との集まりあり：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択した

同好者との集まりなし：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択していない

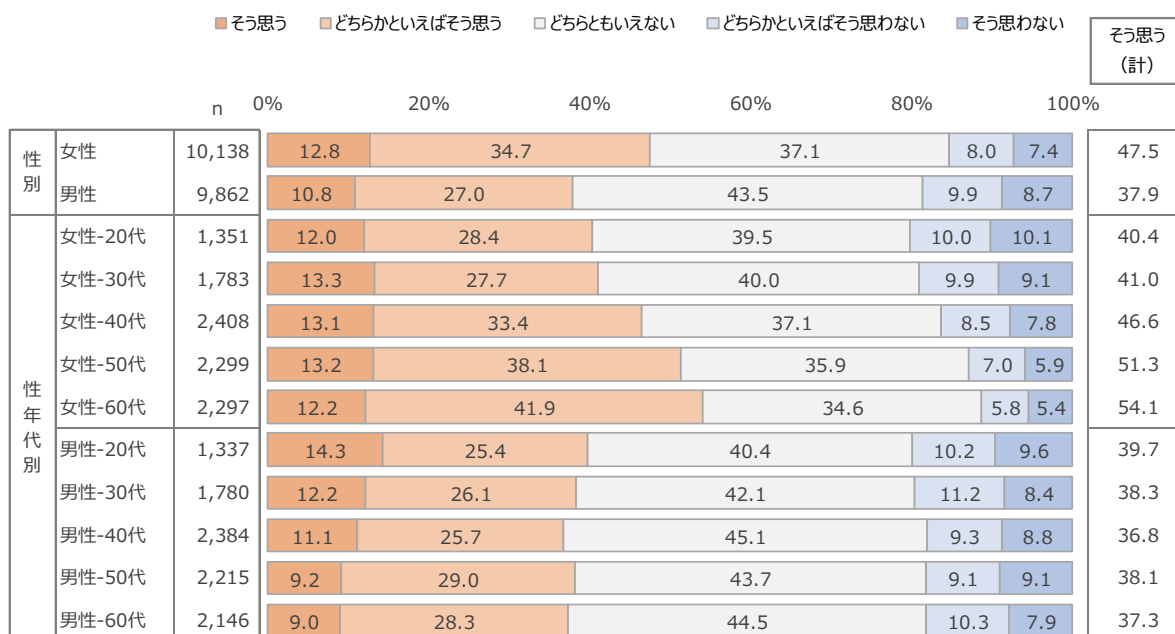
2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(5) 学ぶことへの意識 何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる（単数回答・Q28）

【対象】全員

Q28. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、女性は47.5%、男性は37.9%と、女性の方が9.6%ポイント高い。
- 性年代別に「そう思う（計）」をみると、女性は上の年代ほど高く、60代で54.1%、男性は年代による差はあまりないが、20代が39.7%で最も高い。
- 男女差が最も大きい年代は60代で、女性の方が16.8%ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

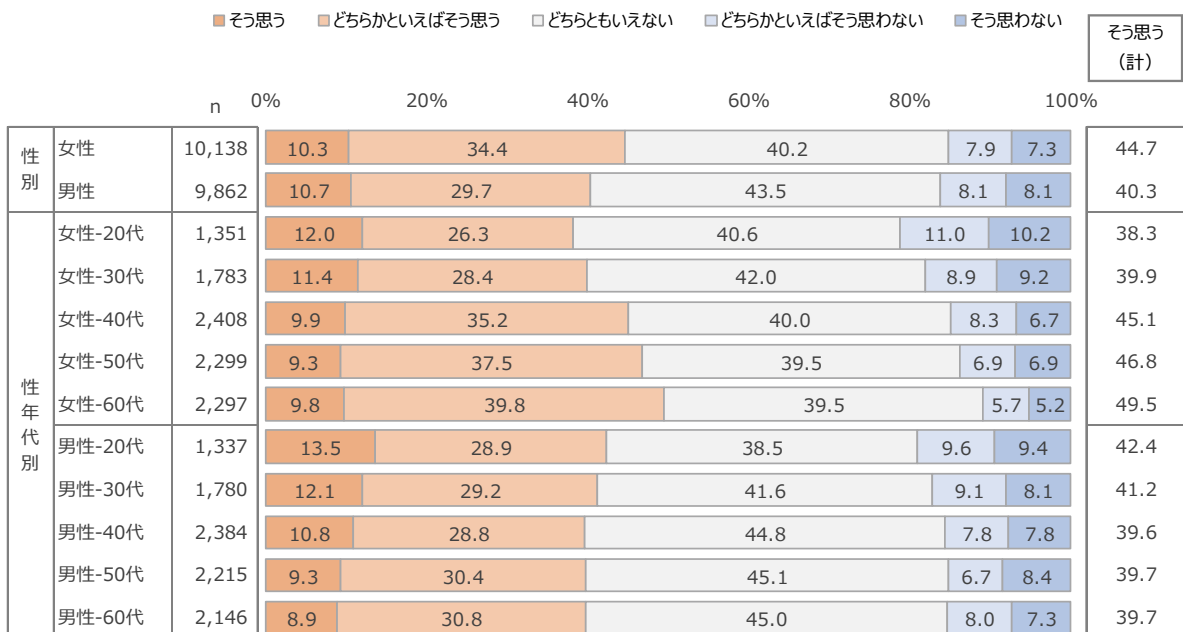
2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(6) 学ぶことへの意識 社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ (単数回答・Q28)

【対象】全員

Q28. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、女性は44.7%、男性は40.3%と、女性の方が4.4%ポイント高い。
- 性年代別にみると、女性は上の年代ほど高く、60代が49.5%、男性は年代による差はあまりないが、20代が42.4%で最も高い。
- 男女差が最も大きい年代は60代で、女性の方が9.8%ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(7) 自身の学びに対する配偶者の姿勢（単数回答・Q29）

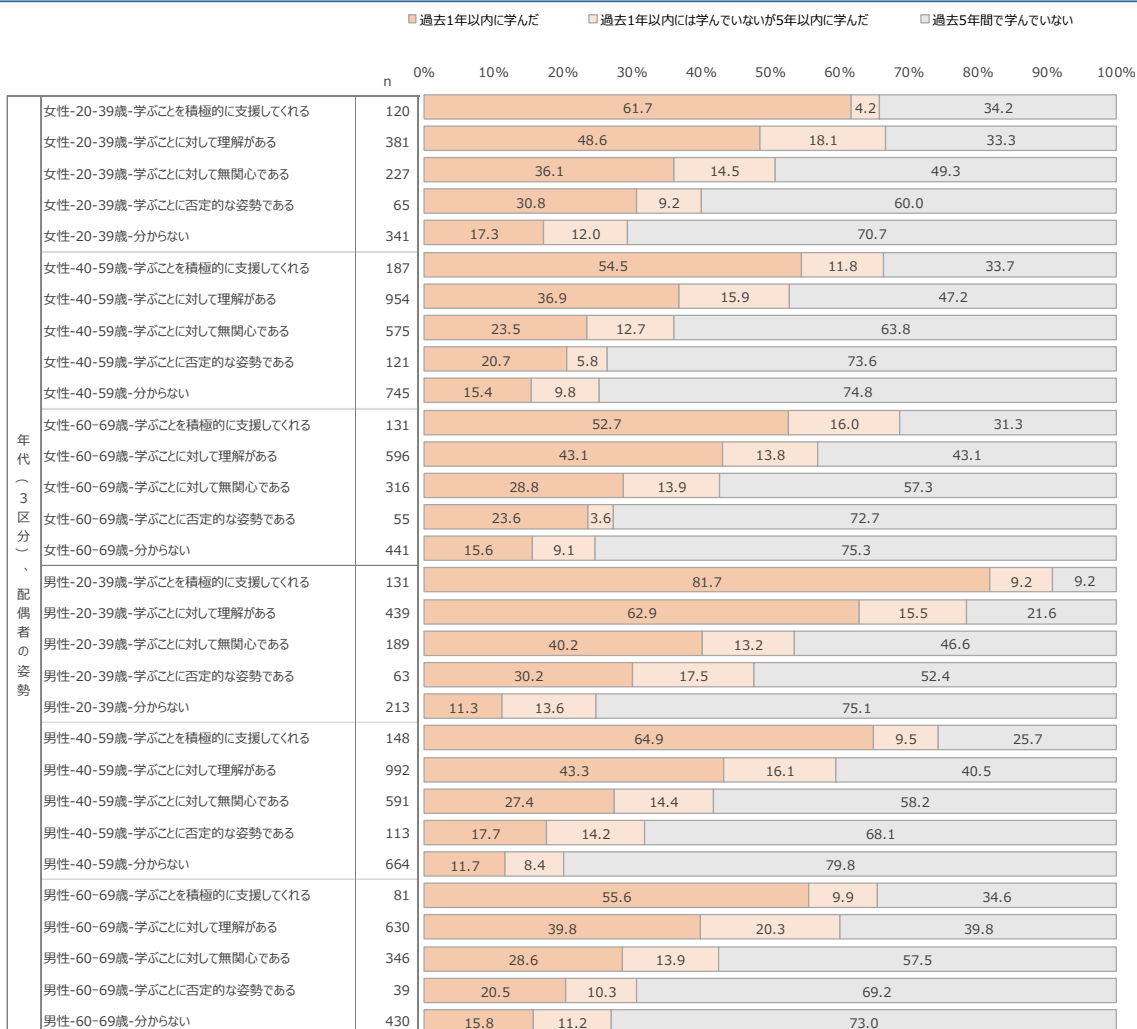
×学びの経験（マトリックス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

【対象】有配偶者

Q29.あなたご自身が学ぶことに対して、あなたの配偶者はどのような姿勢ですか。あなたが感じている配偶者の姿勢に近いものを教えてください。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分×自身の学びに対する配偶者の姿勢別に「過去1年以内に学んだ」割合をみると、男女とも20-39歳は配偶者の姿勢との関係が深い。
- 特に、男性20-39歳は、配偶者が学ぶことを積極的に支援してくれる層で、「過去1年以内に学んだ」割合が81.7%、分からない層では11.3%と、70.4%ポイントの差がある。



※分析軸について Q29「自身の学びに対する配偶者の姿勢」の回答に基づき記載

※選択肢について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

過去1年以内に学んだ

: 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択

過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ

: 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」の選択がなく、1つ以上の項目で「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択

過去5年間で学んでいない

: 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(8) 多様な働き方の利用状況（複数回答・Q17）

×学びの経験（マトリックス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

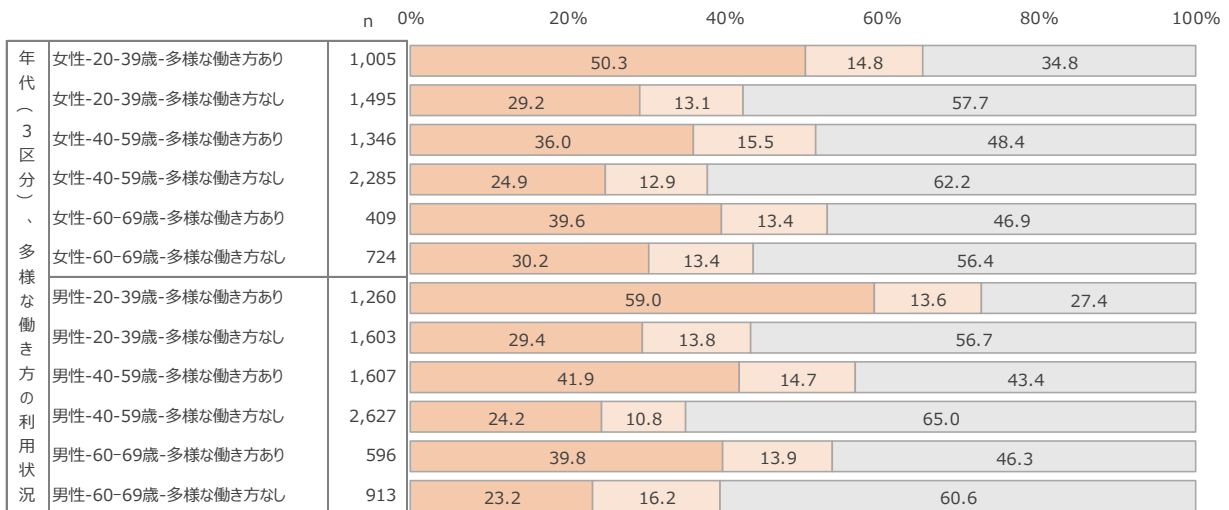
【対象】全員

Q17.あなたが現在利用している働き方を教えてください。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分×多様な働き方の利用状況別に「過去1年以内に学んだ」割合をみると、男女とも20-39歳は多様な働き方の利用の有無による差が大きい。
- 特に、男性20-39歳は多様な働き方あり層は、「過去1年以内に学んだ」割合が59.0%、多様な働き方なし層は29.4%と、29.6%ポイントの差がある。

■ 過去1年以内に学んだ □ 過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ ▨ 過去5年間で学んでいない



※分析軸について

Q17「多様な働き方の利用状況」の回答により、以下のように分析軸を加工

多様な働き方あり：選択肢1～7 「リモートワーク・テレワーク」～「その他の多様な働き方」いずれかを選択した

多様な働き方なし：選択肢8 「該当するものはない」を選択した

※選択肢について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択

過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」の選択がなく、1つ以上の項目で「過去1年以内に学んで

いないが5年以内に学んだ」を選択

過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(9) 勤務先の企業規模（単数回答・Q14）×仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する学びへの意欲（単数回答・Q22 i）

【対象】有業者（勤務先が官公庁を除く）

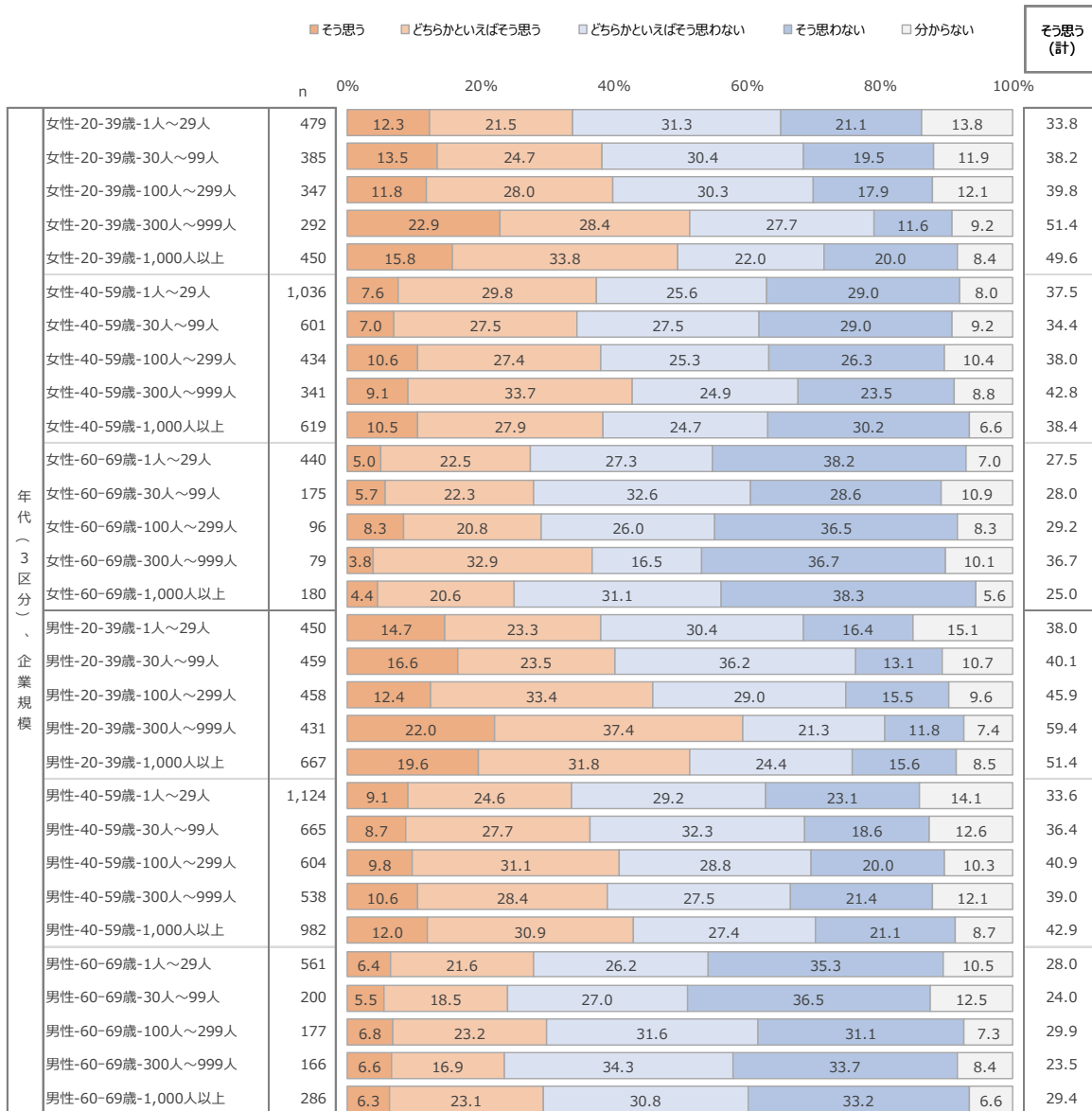
Q14.現在のあなたの勤務先の企業規模を教えてください。

※本社、支店、工場なども含めた従業員総数をお答えください（グループ会社や子会社は含みません）。なお、パートなどを含みます。

※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」とお答えください。

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分、勤務先の企業規模別に仕事や職業キャリアに関する学びへの意欲をみると、「そう思う（計）」は、男女ともに20-39歳の企業規模300人～999人で高く、女性は51.4%、男性は59.4%。
- 「そう思う（計）」について男女差が最も大きい属性は、60-69歳の企業規模300人～999人で、女性36.7%、男性23.5%と、女性の方が13.2%ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(10) 勤務先の企業規模（単数回答・Q14）×仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する学びの経験（単数回答・Q23 i）

【対象】有業者（勤務先が官公庁を除く）

Q14.現在のあなたの勤務先の企業規模を教えてください。

※本社、支店、工場なども含めた従業員総数をお答えください（グループ会社や子会社は含みません）。なお、パートなどを含みます。
※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」とお答えください。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分、勤務先の企業規模別に「過去1年以内に学んだ」をみると、男女ともに20-39歳の企業規模300人～999人で高く、女性は29.5%、男性は38.3%。
- 「過去1年以内に学んだ」について男女差が最も大きい属性は60-69歳の企業規模300人～999人で、女性21.5%、男性10.2%と、女性の方が11.3%ポイント高い。

■ 過去1年以内に学んだ □ 過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ □ 過去5年間で学んでいない

n 0% 20% 40% 60% 80% 100%

年代（3区分）、企業規模	n	%		
		過去1年以内に学んだ	過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ	過去5年間で学んでいない
女性-20-39歳-1人～29人	479	14.8	18.0	67.2
女性-20-39歳-30人～99人	385	17.9	17.7	64.4
女性-20-39歳-100人～299人	347	21.0	17.6	61.4
女性-20-39歳-300人～999人	292	29.5	20.2	50.3
女性-20-39歳-1,000人以上	450	23.6	16.4	60.0
女性-40-59歳-1人～29人	1,036	12.8	10.8	76.4
女性-40-59歳-30人～99人	601	12.3	12.0	75.7
女性-40-59歳-100人～299人	434	13.8	11.3	74.9
女性-40-59歳-300人～999人	341	15.5	13.5	71.0
女性-40-59歳-1,000人以上	619	14.7	12.1	73.2
女性-60-69歳-1人～29人	440	14.3	9.5	76.1
女性-60-69歳-30人～99人	175	14.9	14.9	70.3
女性-60-69歳-100人～299人	96	13.5	10.4	76.0
女性-60-69歳-300人～999人	79	21.5	7.6	70.9
女性-60-69歳-1,000人以上	180	13.3	9.4	77.2
男性-20-39歳-1人～29人	450	21.3	16.4	62.2
男性-20-39歳-30人～99人	459	21.8	22.9	55.3
男性-20-39歳-100人～299人	458	25.8	17.5	56.8
男性-20-39歳-300人～999人	431	38.3	17.9	43.9
男性-20-39歳-1,000人以上	667	30.1	17.8	52.0
男性-40-59歳-1人～29人	1,124	12.2	10.6	77.2
男性-40-59歳-30人～99人	665	13.8	13.5	72.6
男性-40-59歳-100人～299人	604	16.7	13.2	70.0
男性-40-59歳-300人～999人	538	17.1	16.2	66.7
男性-40-59歳-1,000人以上	982	21.3	12.6	66.1
男性-60-69歳-1人～29人	561	12.7	11.6	75.8
男性-60-69歳-30人～99人	200	8.0	11.5	80.5
男性-60-69歳-100人～299人	177	13.0	9.6	77.4
男性-60-69歳-300人～999人	166	10.2	18.1	71.7
男性-60-69歳-1,000人以上	286	13.3	10.1	76.6

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(11) 最終学歴（単数回答・Q7）

× 学びへの意欲（マトリックス項目・単数回答・Q22 i～vi計）

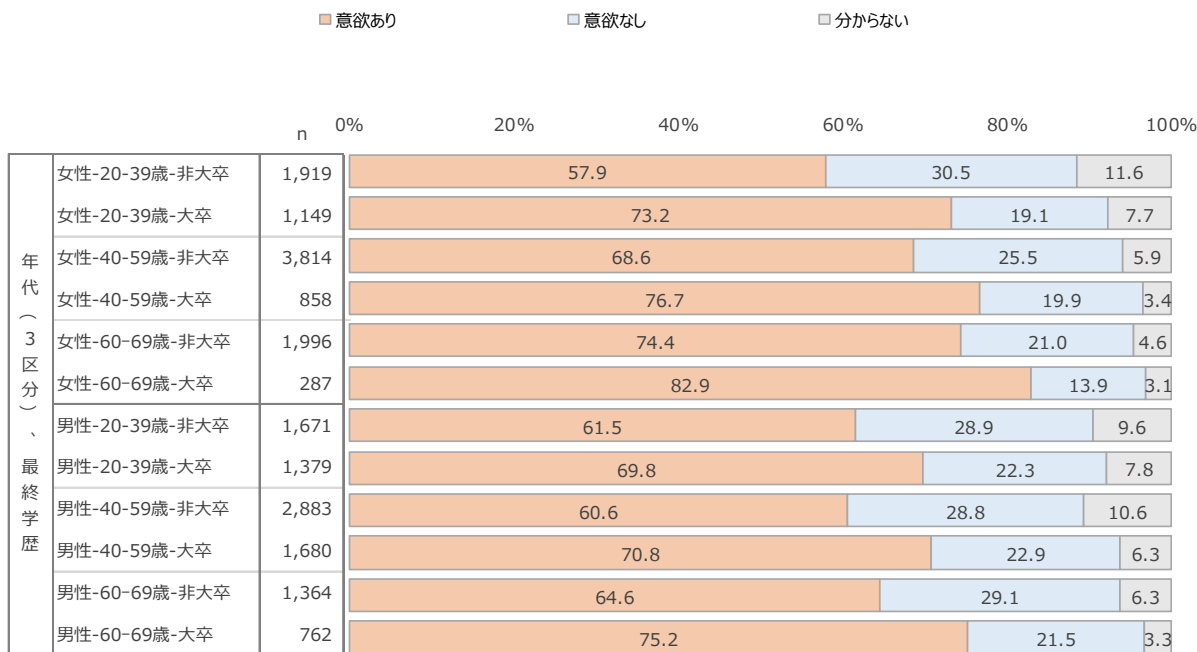
【対象】全員

Q7.あなたの最終学歴を教えてください。

※学位が授与される大学校の場合は、取得した学位に該当する選択肢をお答えください（学士であれば「大学（学士）」）。

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分、最終学歴別に学びへの「意欲あり」をみると、男女ともに最終学歴による差が大きい。特に、女性20-39歳は、大卒では73.2%、非大卒では57.9%と、大卒の方が15.3%ポイント高い。
- 60-69歳の非大卒で男女差が最も大きく、女性で74.4%、男性で64.6%と、女性の方が9.8%ポイント高い。



※分析軸について Q7「最終学歴」の回答に基づき記載

※選択肢について Q22の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

意欲あり：1つ以上の項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択

意欲なし：全ての項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択がなく、1つ以上の項目で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を選択

分からない：全ての項目で「分からない」を選択

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(12) 最終学歴（単数回答・Q7）

×学びの経験（マトリックス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

【対象】全員

Q7.あなたの最終学歴を教えてください。

※学位が授与される大学校の場合は、取得した学位に該当する選択肢をお答えください（学士であれば「大学（学士）」）。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 年代3区分、最終学歴別に「過去1年以内に学んだ」をみると、男女ともに最終学歴による差が大きい。特に、女性20-39歳は、大卒は44.7%、非大卒層では29.2%と、大卒の方が15.5%ポイント高い。
- 60-69歳の大卒で男女差が最も大きく、女性で45.6%、男性で36.1%と、女性の方が9.5%ポイント高い。

■過去1年以内に学んだ □過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ □過去5年間で学んでいない

		n	0%	20%	40%	60%	80%	100%
年代 (3 区 分) 、 最 終 学 歴	女性-20-39歳-非大卒	1,919		29.2	14.4		56.4	
	女性-20-39歳-大卒	1,149		44.7		12.1	43.2	
	女性-40-59歳-非大卒	3,814		25.6	13.2		61.2	
	女性-40-59歳-大卒	858		40.0		10.8	49.2	
	女性-60-69歳-非大卒	1,996		31.4		11.7	56.9	
	女性-60-69歳-大卒	287		45.6		14.3	40.1	
	男性-20-39歳-非大卒	1,671		37.0		14.0	49.0	
	男性-20-39歳-大卒	1,379		46.0		12.5	41.5	
	男性-40-59歳-非大卒	2,883		26.8		12.0	61.2	
	男性-40-59歳-大卒	1,680		37.0		11.5	51.4	
	男性-60-69歳-非大卒	1,364		26.2		16.6	57.3	
	男性-60-69歳-大卒	762		36.1		13.1	50.8	

※分析軸について Q7「最終学歴」の回答に基づき記載

※選択肢について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択

過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」の選択がなく、1つ以上の項目で「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択

過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

2. 広義の学びに対する意識【追加分析】

(13) 最終学歴（単数回答・Q7）×仕事や職業キャリア以外で学びへの意欲はあるが1年以内に学びの経験がない理由（複数回答・Q26）

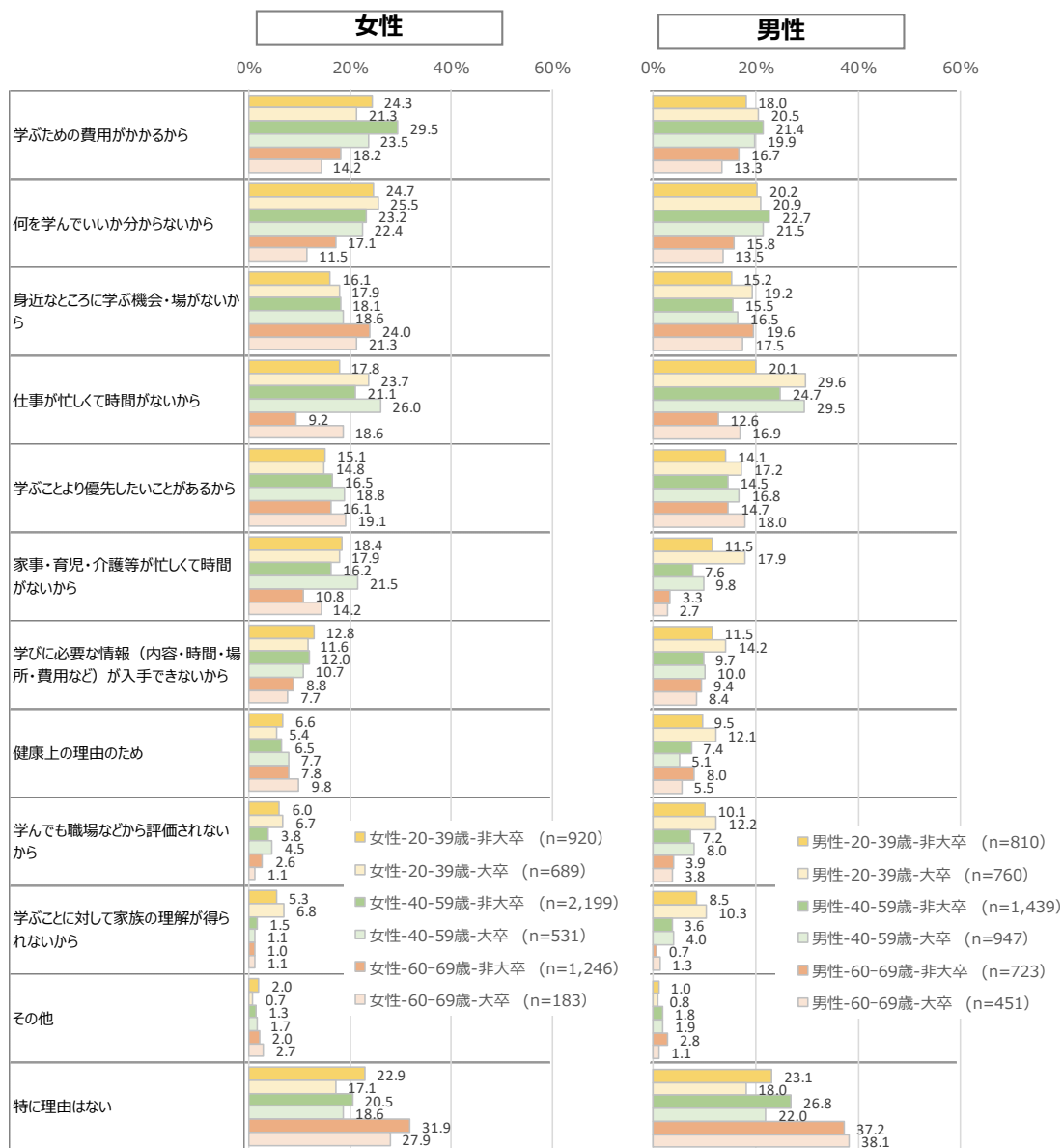
【対象】Q22及びQ23の ii～viのうち、学びへの意欲はあるが過去1年以内に学んでいない項目が1項目以上ある人

Q7.あなたの最終学歴を教えてください。

※学位が授与される大学校の場合は、取得した学位に該当する選択肢をお答えください（学士であれば「大学（学士）」）。

Q26.あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。

- 年代3区分、最終学歴別に学びへの意欲はあるが学びの経験がない理由をみると、男性20-39歳の「仕事が忙しくて時間がないから」で最終学歴による差が最も大きく、大卒で29.6%、非大卒で20.1%と大卒の方が9.5%ポイント高い。
- 40-59歳大卒と60-69歳大卒の「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」で男女差が大きく、40-59歳大卒では、女性21.5%、男性9.8%と、女性の方が11.7%ポイント高く、60-69歳大卒では、女性14.2%、男性2.7%と、女性の方が11.5%ポイント高い。



※分析軸について Q7「最終学歴」の回答に基づき記載

3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

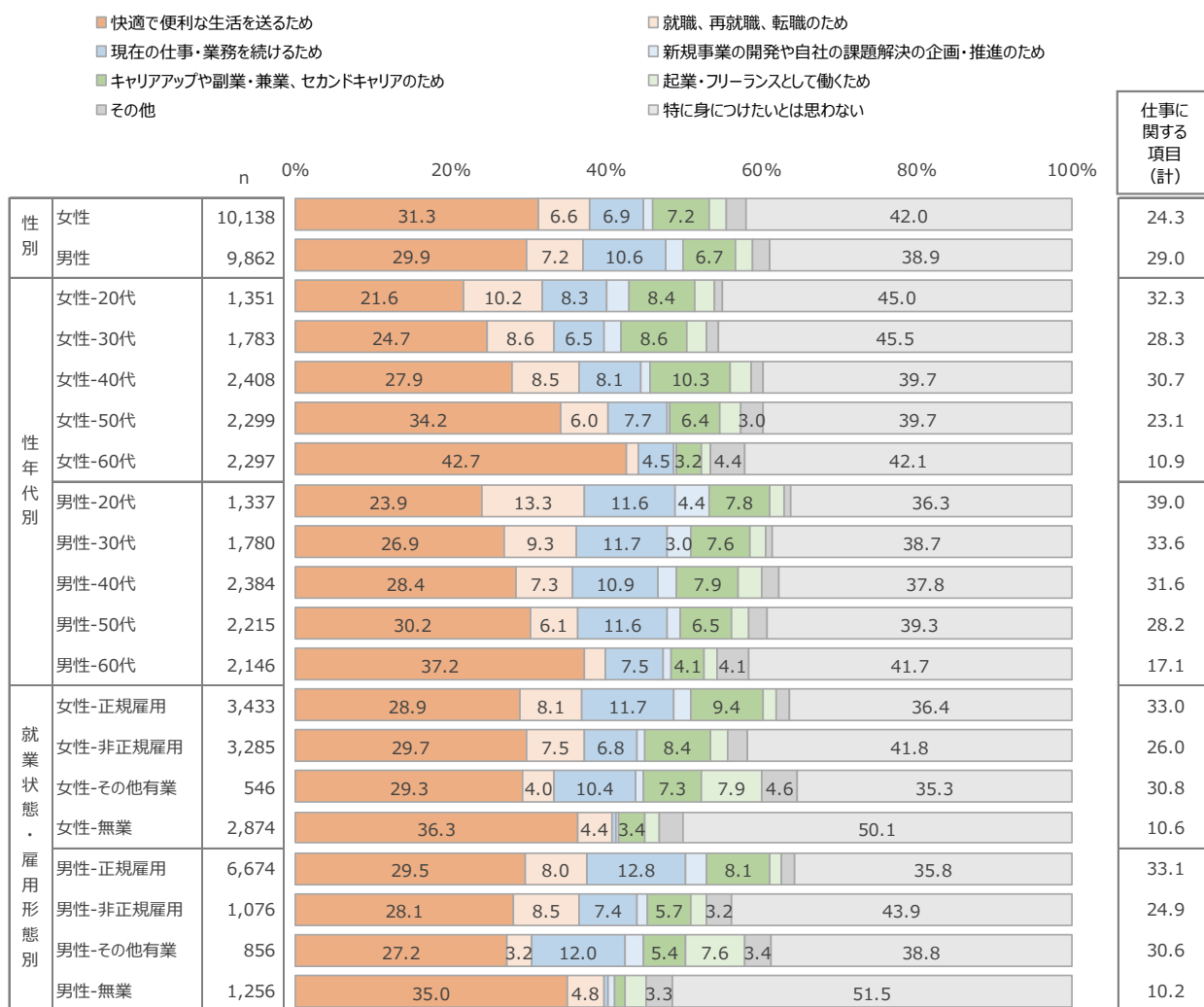
(1) デジタルツールに関する知識やスキルの習得に対する意向（目的別）（単数回答・Q30）

【対象】全員

Q30.あなたは、デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思いますか。身につけたい理由として最も近いものを教えてください。

※実際に仕事や私生活で活用・発揮する機会があるかどうかにかかわらず、知識として身につけたいものをお答えください。
 ※既に身につけているデジタルツールに関するスキルでも、今後もそのスキルを維持・更新したい場合は身につけたいスキルとしてお答えください。

- 性別にみると、男女ともに「快適で便利な生活を送るため」が最も高く、女性が31.3%、男性が29.9%。「仕事に関する項目（計）」でみると、女性の方が4.7%ポイント低い。
- 性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「快適で便利な生活を送るため」が最も高く、特に女性は60代で42.7%と最も高い。男性も60代が最も高く、37.2%。
- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに正規雇用で「仕事に関する項目（計）」が高く、女性が33.0%、男性が33.1%と、あまり男女差はみられない。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※「仕事に関する項目（計）」＝「就職、再就職、転職のため」＋「現在の仕事・業務を続けるため」＋「新規事業の開発や自社の課題解決の企画・推進のため」＋「キャリアアップや副業・兼業、セカンドキャリアのため」＋「起業・フリーランスとして働くため」で算出

3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

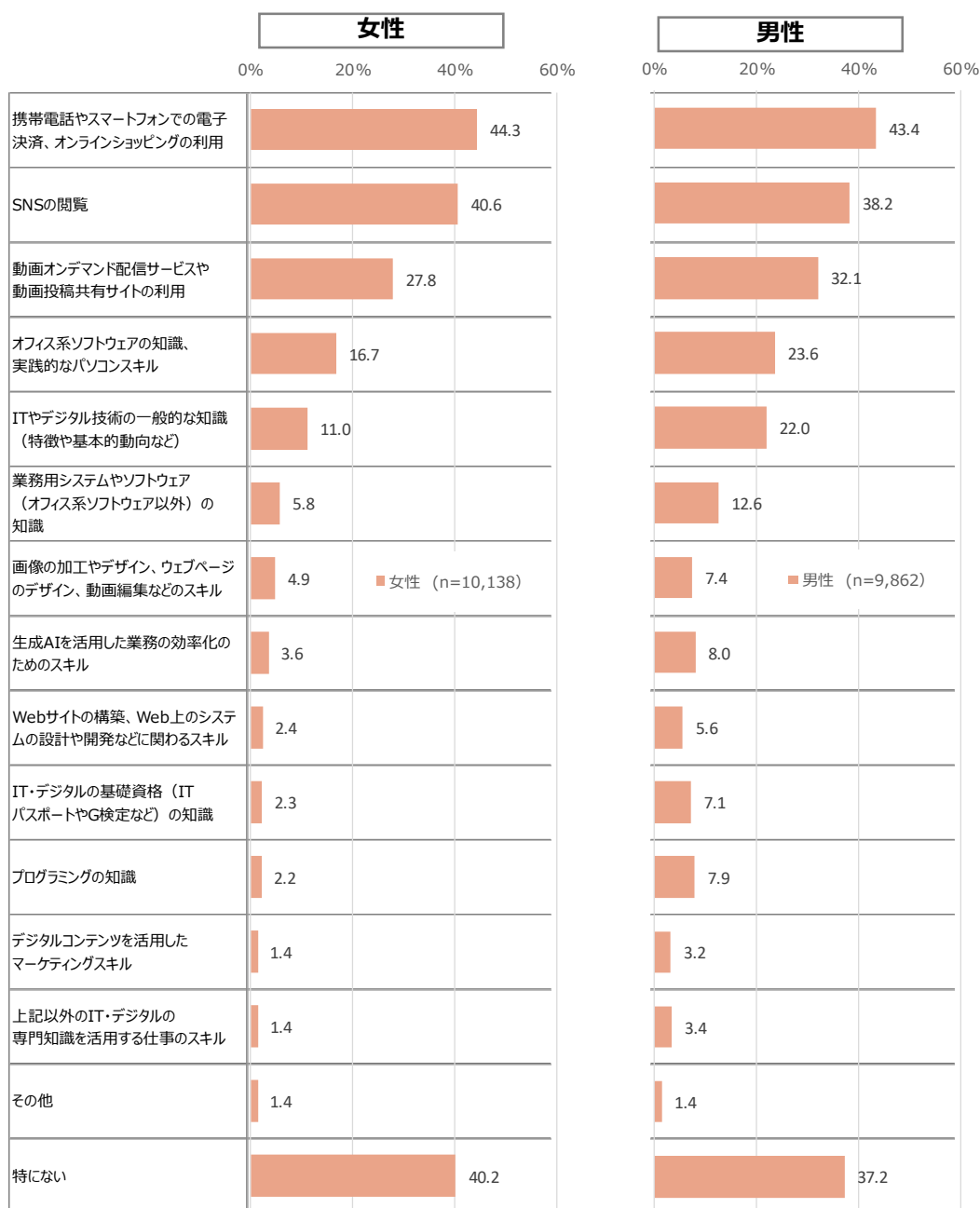
(2) 身につけているデジタルツールに関する知識やスキル（複数回答・Q31）

【対象】全員

Q31.あなたは、次のようなデジタルツールについて、基礎あるいはそれ以上の知識やスキルを持っていますか。

※実際に活用・発揮したことがないデジタルツールに関するスキルでも、知識がある場合は持っているとしてお答えください。

- 性別にみると、男女ともに「携帯電話やスマートフォンでの電子決済、オンラインショッピングの利用」が最も高く、女性44.3%、男性43.4%。
- 男女差が最も大きい項目は「ITやデジタル技術の一般的な知識（特徴や基本的動向など）」で、女性11.0%、男性22.0%と、男性の方が11.0%ポイント高い。



3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

(3) 今後身につけたいデジタルツールに関する知識やスキル（複数回答・Q32）

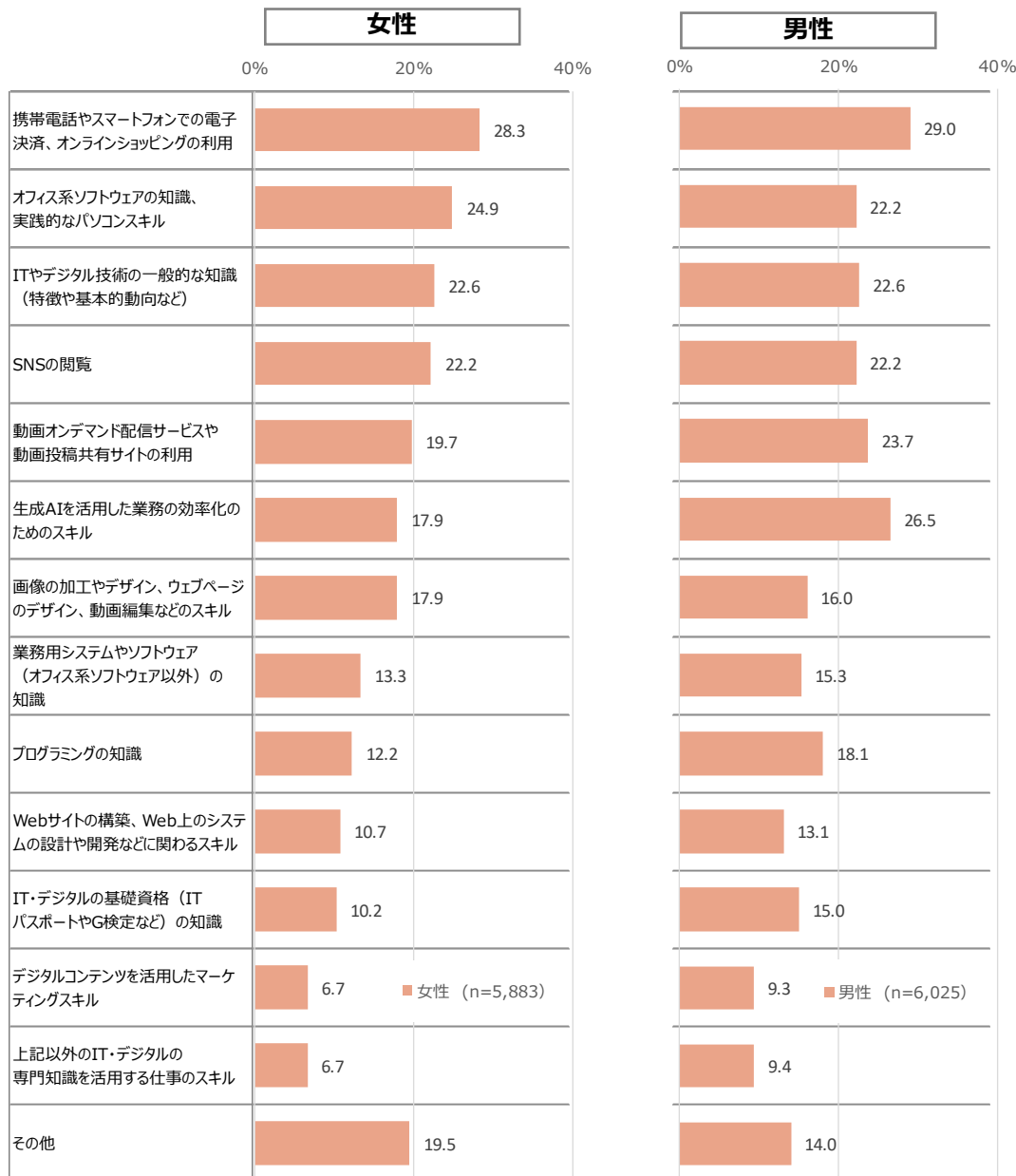
【対象】デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたい人

Q32.あなたが、今後身につけたい(維持や更新を含む)デジタルツールに関するスキルや知識はどのようなことですか。

※実際に仕事や私生活で活用・発揮する機会があるかどうかにかかわらず、知識として身につけたいものをお答えください。

※既に身につけているデジタルツールに関するスキルでも、今後もそのスキルを維持・更新したい場合は身につけたいスキルとしてお答えください。

- 性別にみると、女性は「携帯電話やスマートフォンでの電子決済、オンラインショッピングの利用」が28.3%と最も高く、次いで「オフィス系ソフトウェアの知識、実践的なパソコンスキル」が24.9%。
- 男性は、「携帯電話やスマートフォンでの電子決済、オンラインショッピングの利用」が29.0%と最も高く、次いで「生成AIを活用した業務の効率化のためのスキル」が26.5%。
- 男女差が最も大きい項目は「生成AIを活用した業務の効率化のためのスキル」で、女性17.9%、男性26.5%と男性の方が8.6%ポイント高い。



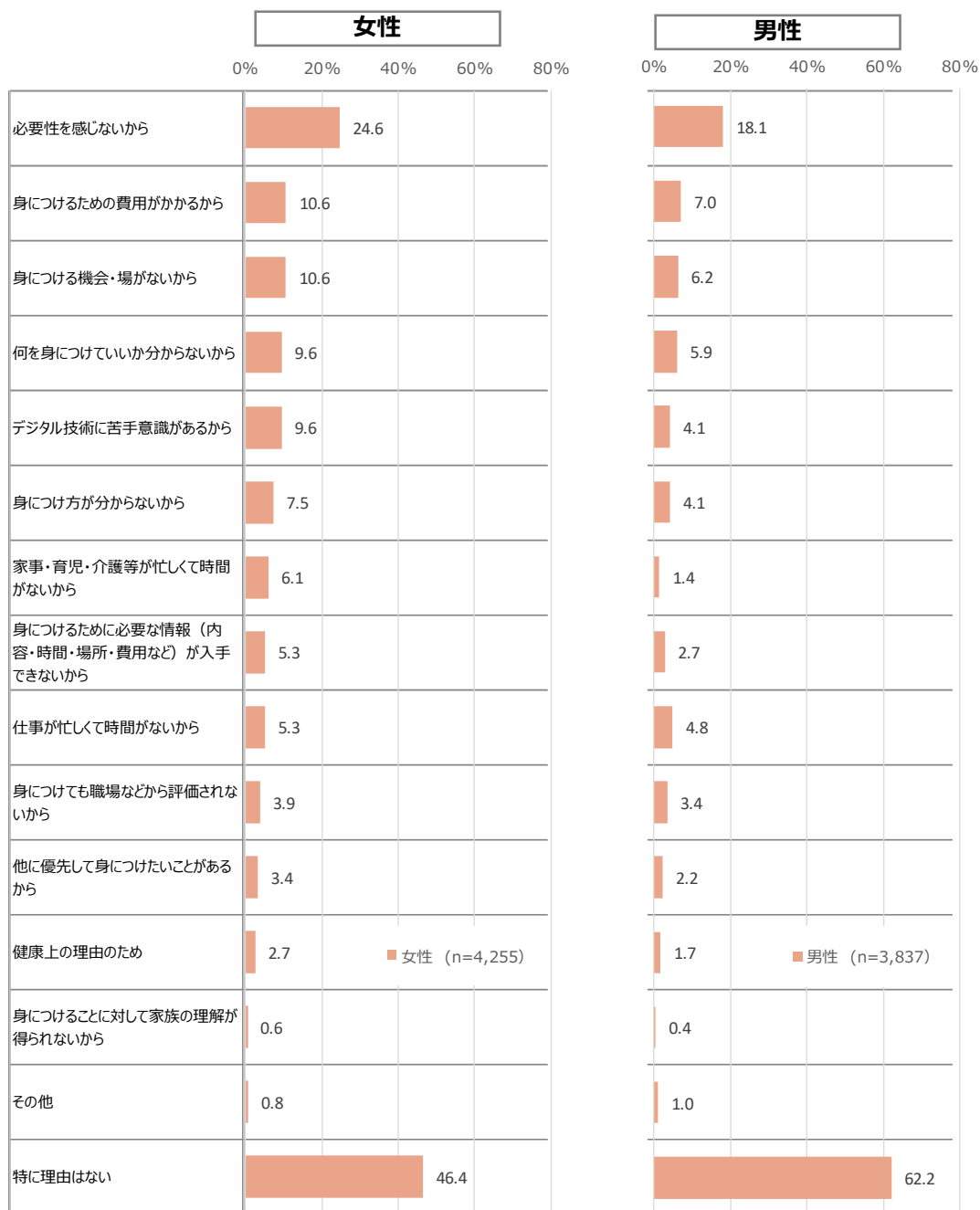
3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

(4) デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由（複数回答・Q33）

【対象】デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない人

Q33. デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由をお答えください。

- 性別にみると、女性は、「必要性を感じないから」が24.6%と最も高く、次いで「身につけるための費用がかかるから」及び「身につける機会・場がないから」が10.6%。
- 男性は、「必要性を感じないから」が18.1%と最も高く、次いで「身につけるための費用がかかるから」が7.0%。
- 男女差が最も大きい項目は「必要性を感じないから」で、女性24.6%、男性18.1%と、女性の方が6.5%ポイント高い。



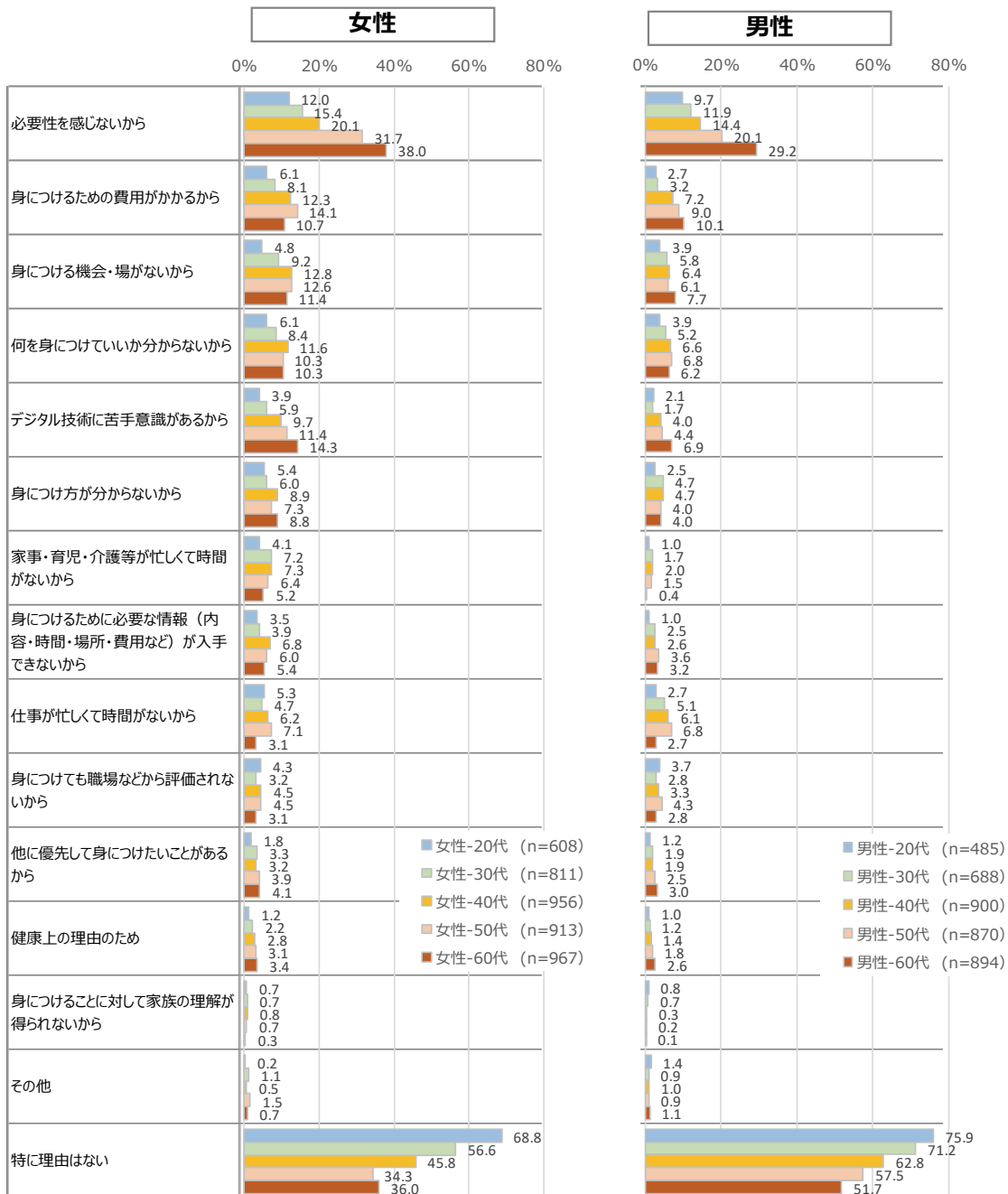
3. デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

(4) デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由（複数回答・Q33）

【対象】デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない人

Q33. デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由をお答えください。

- 性年代別にみると、男女とも全年代で「必要性を感じないから」が最も高く、年代が上がるにつれ割合は高くなる傾向がみられる。
- 男女差が最も大きい「必要性を感じないから」をみると、50代で最も差が大きく、女性の方が11.6%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

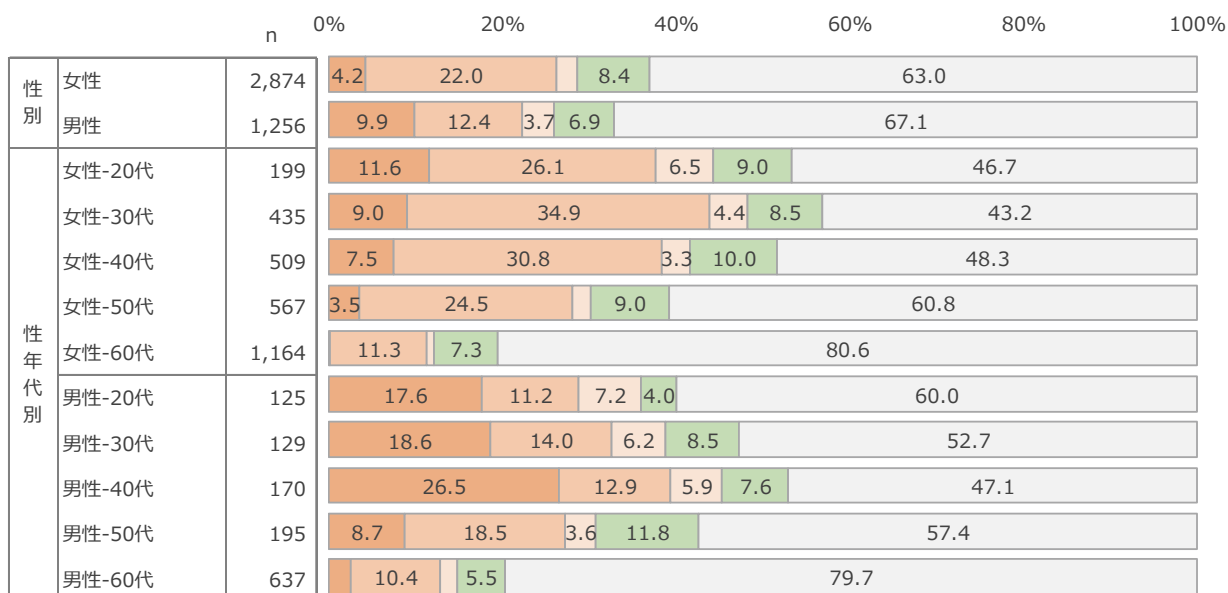
(1) 無業者の今後の就業意欲（単数回答・Q34）

【対象】無業者

Q34.あなたは今後、働きたいと思いますか。

- 性別にみると、男女ともに「働きたいとは思わない」が最も高く、女性は63.0%、男性は67.1%で、男性の方がやや高い。
- 性年代別にみると、女性は年代が低いほど「正社員として働きたい」が高い。男性は40代までは年代が高いほど「正社員として働きたい」が高く、50代以上では大きく低下する。「パート・アルバイト等で働きたい」は全年代で女性が男性を大きく上回り、特に30代は女性34.9%、男性14.0%と、女性の方が20.9%ポイント高い。

■ 正社員として働きたい ■ パート・アルバイト等で働きたい ■ 自分で事業を始めたい ■ その他の形で働きたい □ 働きたいとは思わない



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

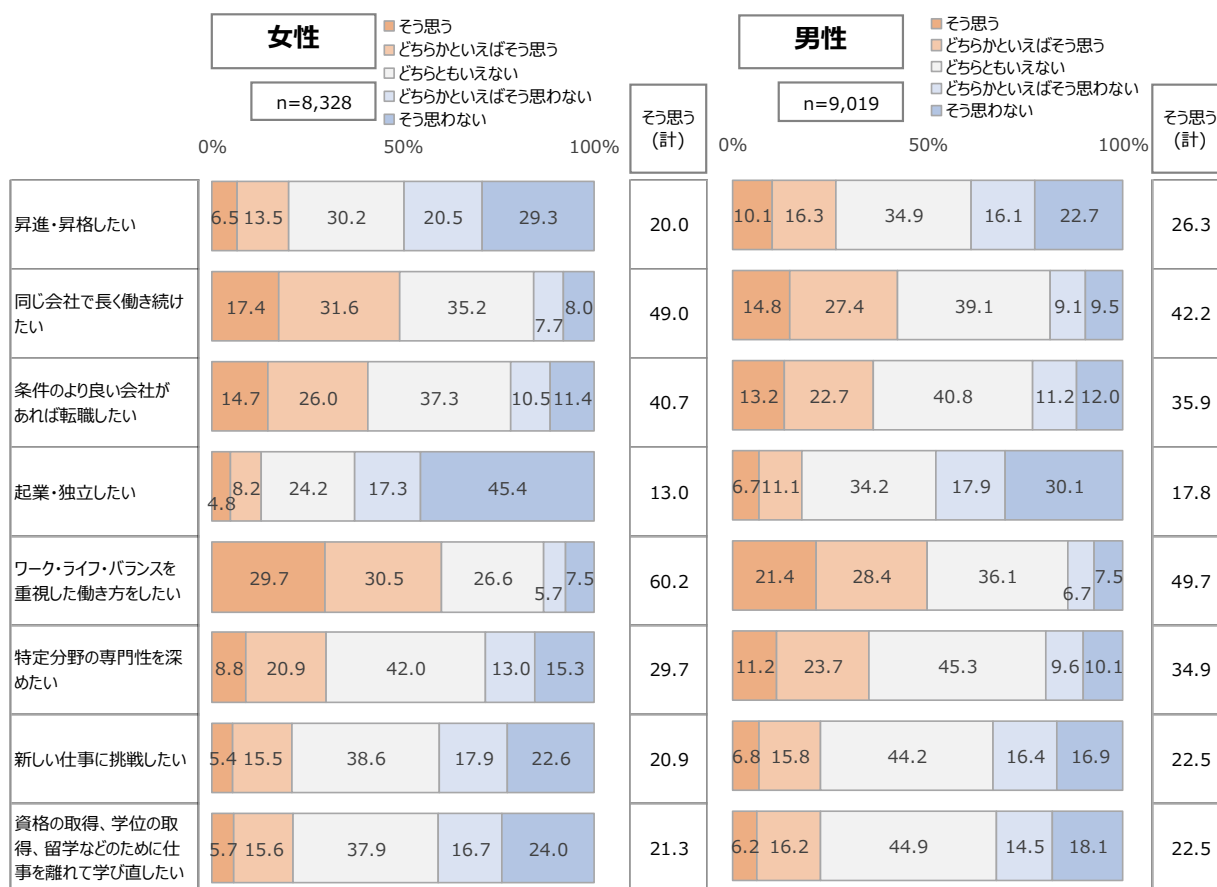
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(2) 仕事や職業キャリアへの意識 (マトリクス項目・単数回答・Q35)

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q35. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、男女ともに「ワーク・ライフ・バランスを重視した働き方をしたい」が最も高く、女性60.2%、男性49.7%。次いで「同じ会社で長く働きたい」が女性49.0%、男性42.2%。
- 男女差が最も大きい項目は「ワーク・ライフ・バランスを重視した働き方をしたい」で、女性は「そう思う（計）」が男性より10.5ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」で算出

4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

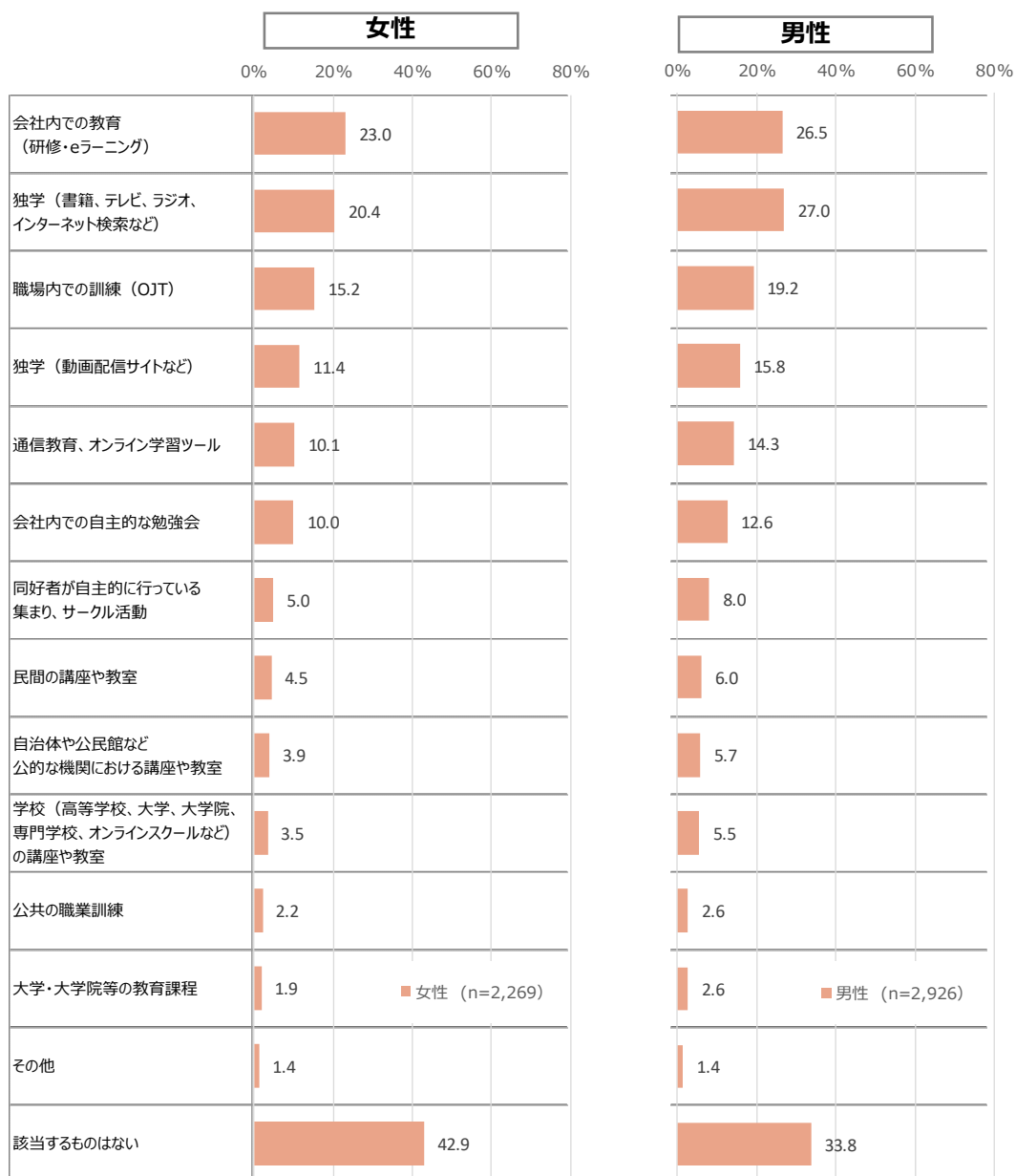
(3) 仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態（複数回答・Q36）

① 会社等の指示を受けての学び

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q36. 過去5年以内に学んだ仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関することについて伺います。あなたは、仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- 性別にみると、女性は「会社内での教育（研修・eラーニング）」が23.0%と最も高く、次いで「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が20.4%。男性は、「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が27.0%と最も高く、次いで「会社内での教育（研修・eラーニング）」が26.5%。
- 男女差が最も大きい項目は「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」で、男性の方が6.6%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

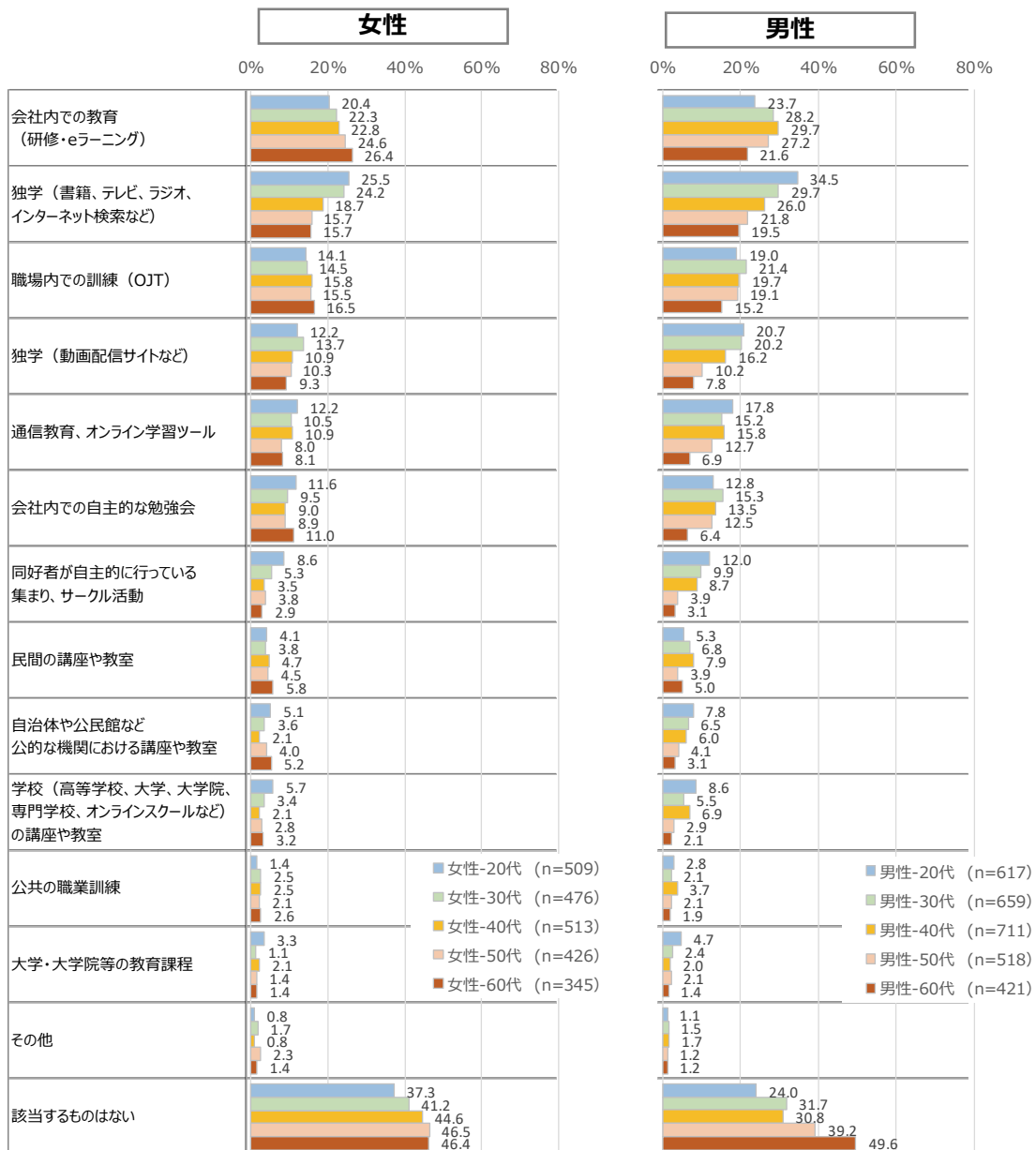
(3) 仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態（複数回答・Q36）

① 会社等の指示を受けての学び

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q36.過去5年以内に学んだ仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関することについて伺います。あなたは、仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- 性年代別にみると、男女ともに20代及び30代は「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高く、40代から60代は「会社内での教育（研修・eラーニング）」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」をみると、20代で最も差が大きく、男性の方が9.0%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

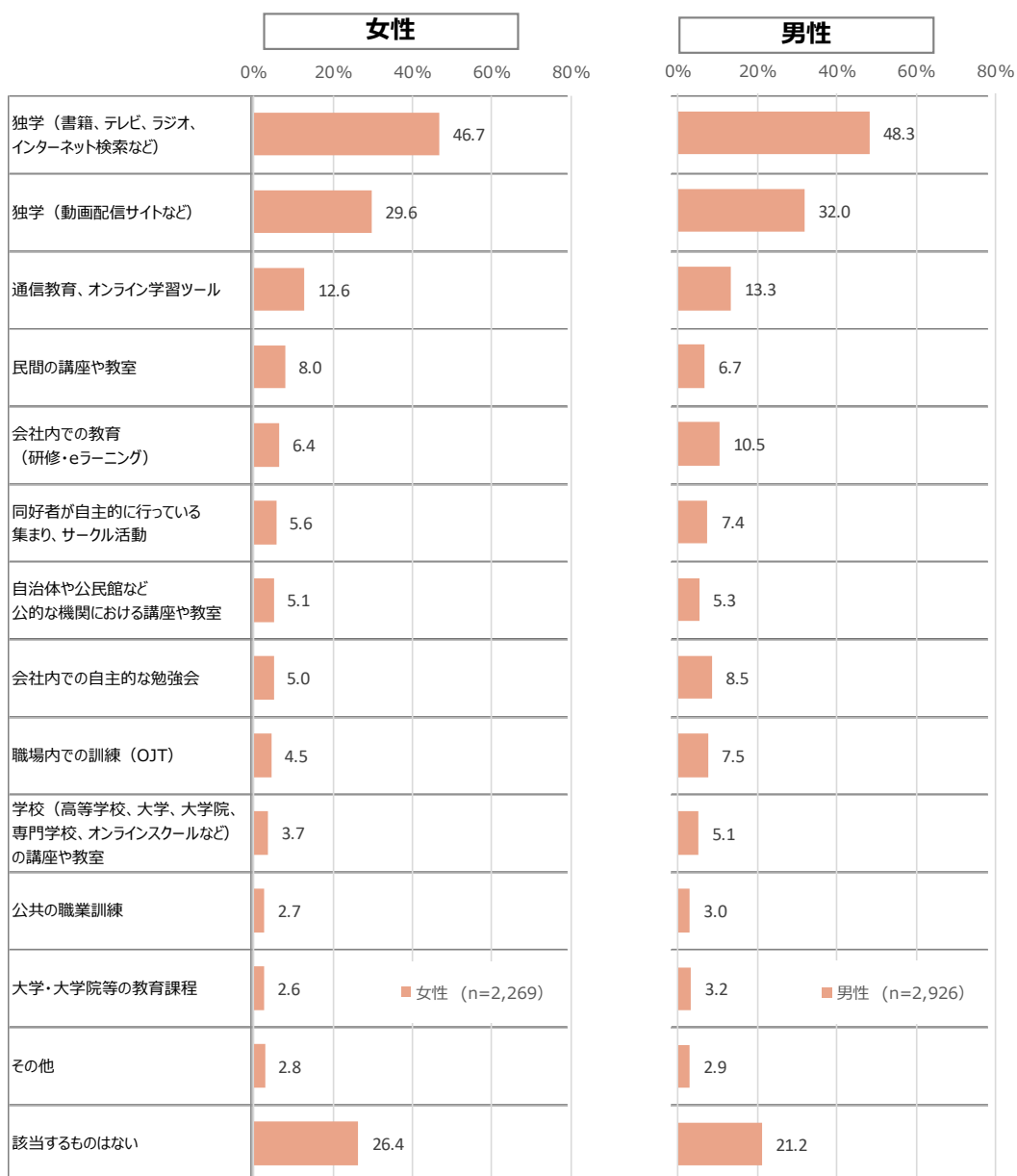
(3) 仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態（複数回答・Q36）

② 自発的な学び

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q36.過去5年以内に学んだ仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関することについて伺います。
あなたは、仕事や職業キャリア（転職、セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- 性別にみると、男女ともに「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高く、女性46.7%、男性48.3%。次いで「独学（動画配信サイトなど）」が女性29.6%、男性32.0%。
- 男女差が最も大きい項目は「会社内での教育（研修・eラーニング）」で、女性6.4%、男性10.5%と、男性の方が4.1%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

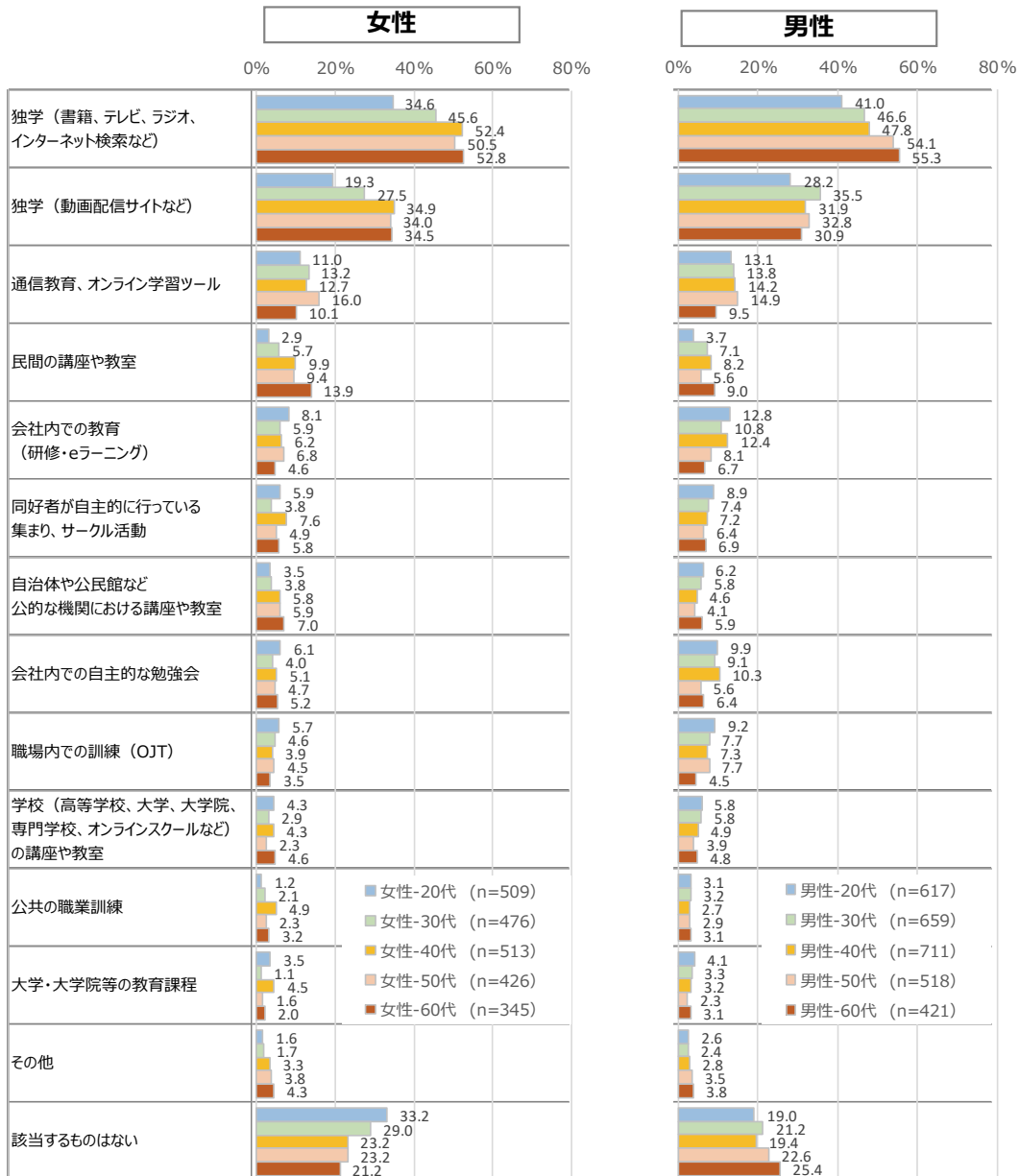
(3) 仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態（複数回答・Q36）

② 自発的な学び

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q36.過去5年以内に学んだ仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関することについて伺います。
あなたは、仕事や職業キャリア（転職、セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- ・ 性年代別にみると、男女ともに全年代で「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高く、60代が最も高い。
- ・ 男女差が最も大きい「会社内での教育（研修・eラーニング）」をみると、40代で最も差が大きく、男性の方が6.2%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

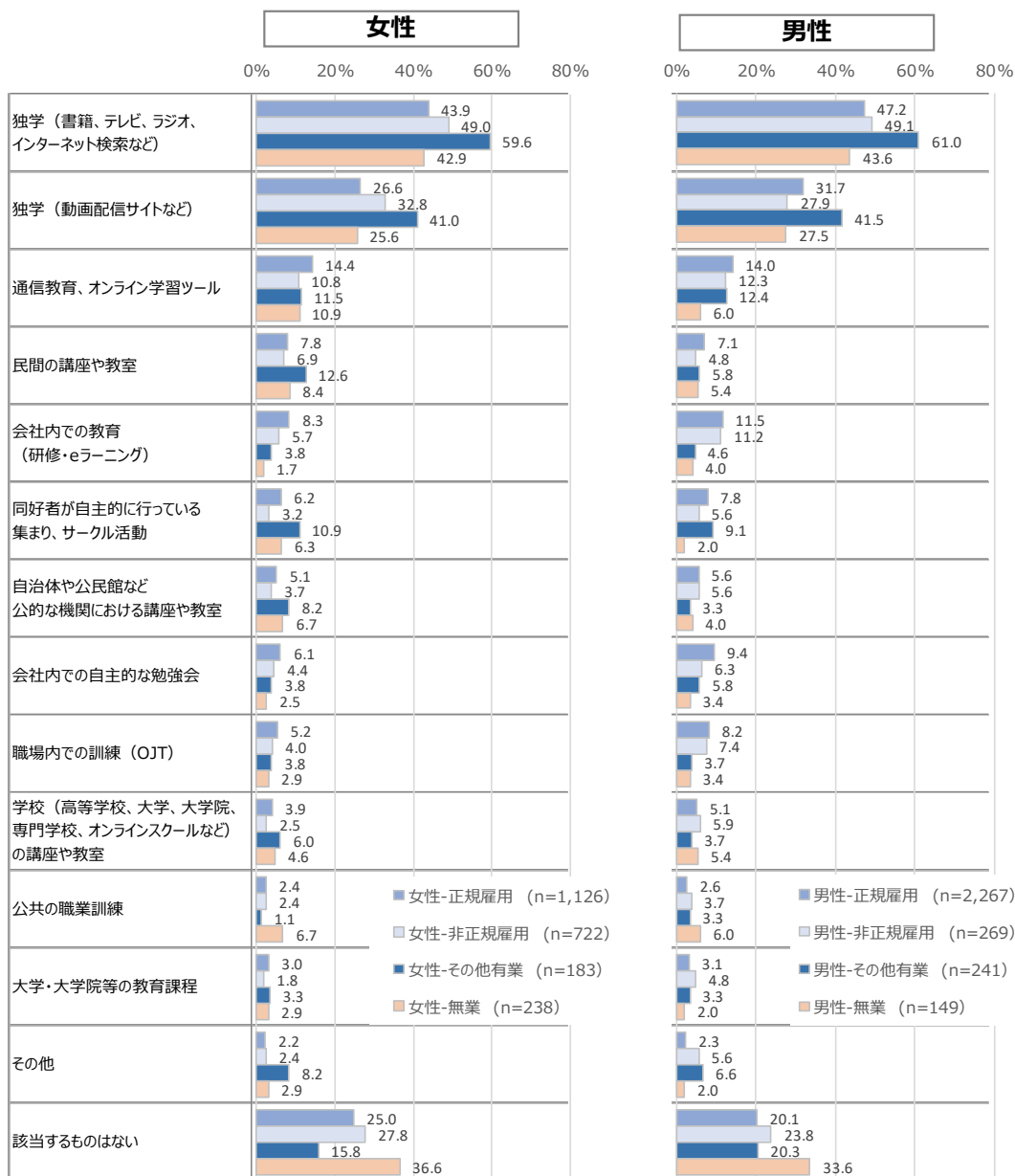
(3) 仕事や職業キャリアに関する学びの場所・形態（複数回答・Q36）

② 自発的な学び

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q36.過去5年以内に学んだ仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関することについて伺います。あなたは、仕事や職業キャリア（転職、セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに全ての就業状態・雇用形態で「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」が最も高く、その他有業で6割前後と特に高い。
- 男女差が最も大きい「会社内での教育（研修・eラーニング）」をみると、非正規雇用で最も差が大きく、男性の方が5.5%ポイント高い。



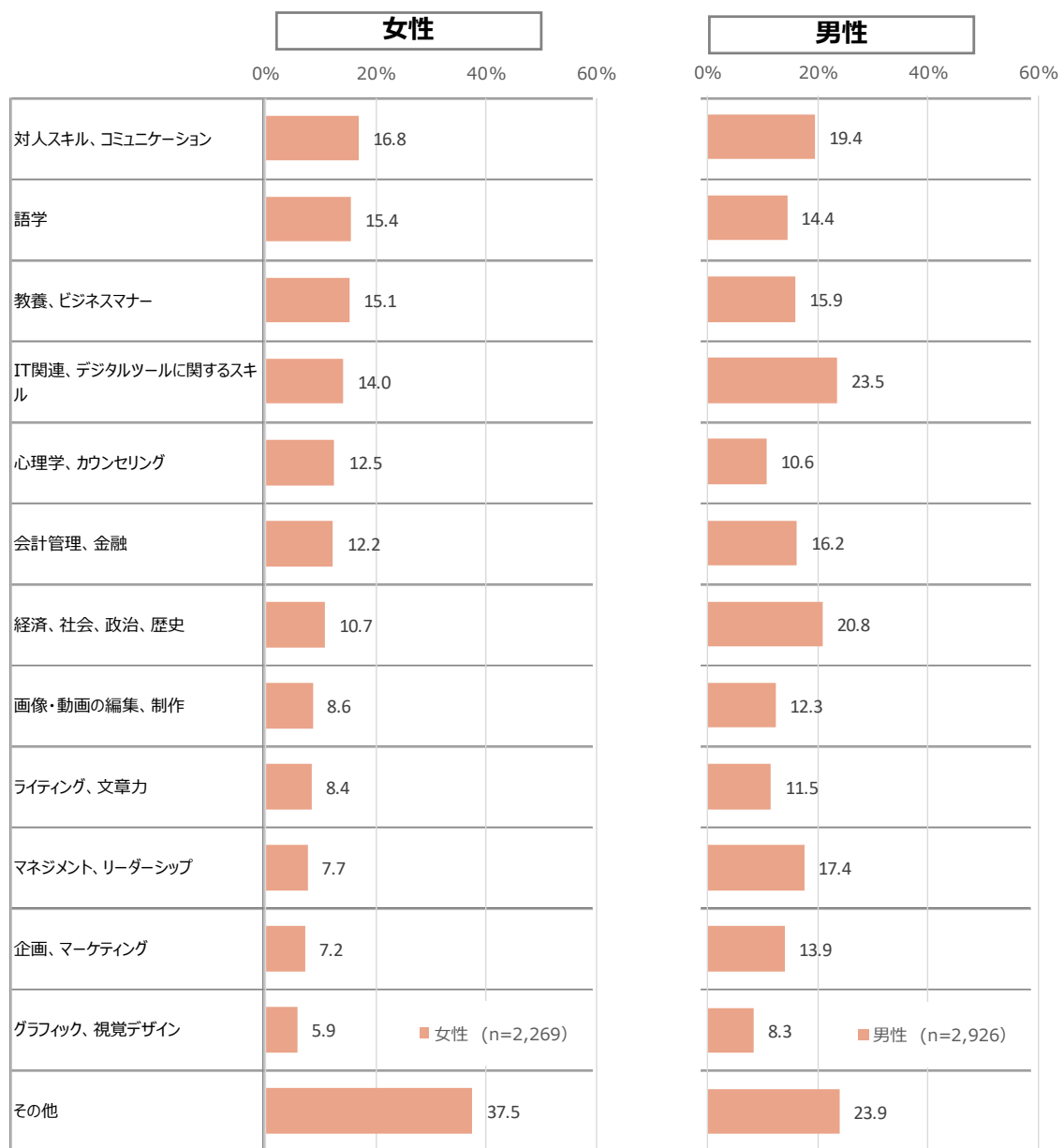
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(4) 仕事や職業キャリアに関する学びの内容（複数回答・Q37）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q37.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる能力やスキルはどのようなことですか。

- 性別にみると、女性は「対人スキル、コミュニケーション」が16.8%と最も高く、次いで「語学」が15.4%。男性は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」が23.5%と最も高く、「経済、社会、政治、歴史」が20.8%。
- 男女差が最も大きい項目は「経済、社会、政治、歴史」であり、女性10.7%、男性20.8%と男性の方が10.1%ポイント高い。次いで、「マネジメント、リーダーシップ」が9.7%ポイント、「IT関連、デジタルツールに関するスキル」が9.5%ポイント、それぞれ男性の方が高い。



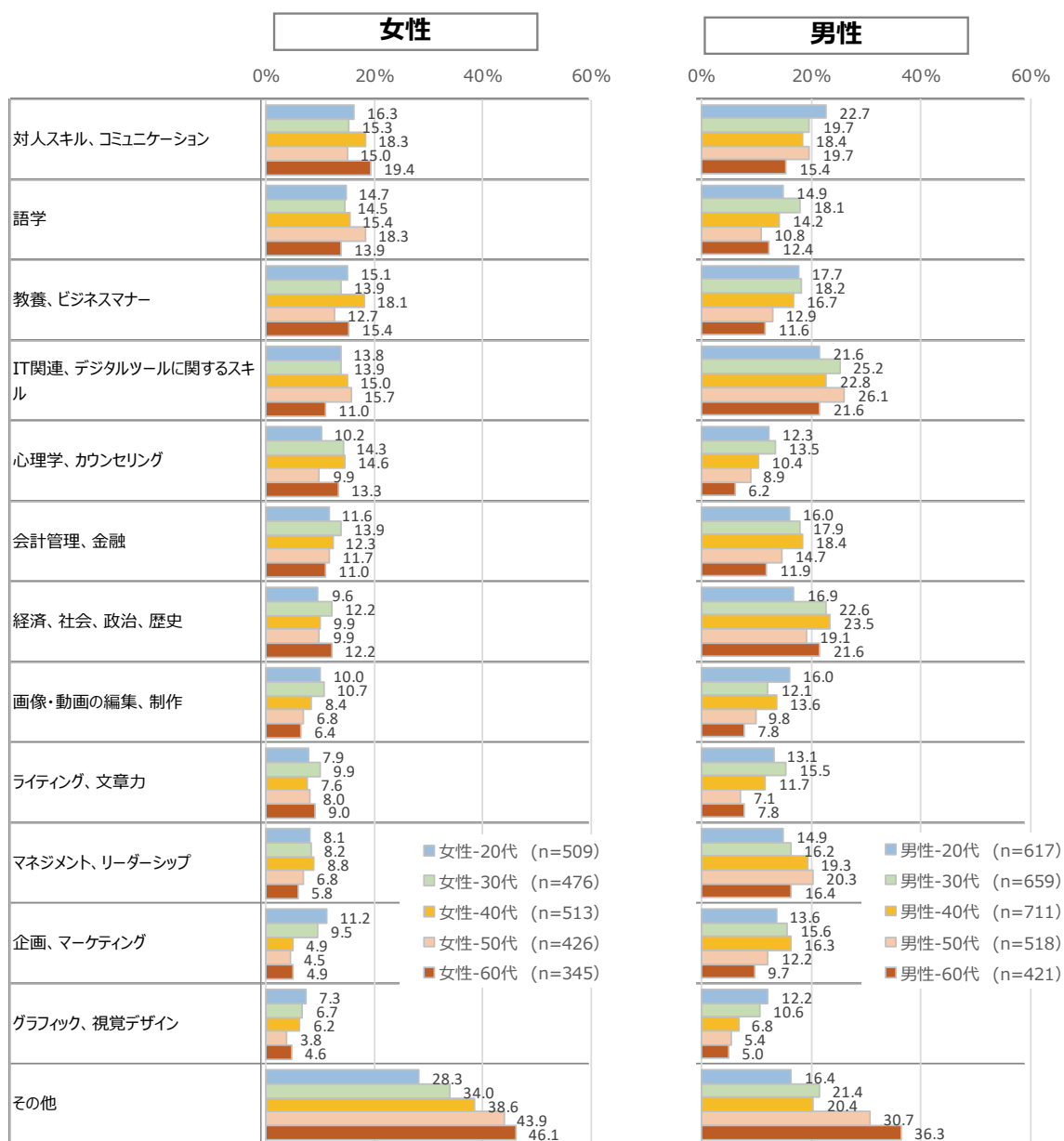
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(4) 仕事や職業キャリアに関する学びの内容（複数回答・Q37）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q37.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる能力やスキルはどのようなことですか。

- 性年代別に見ると、女性は50代以外で「対人スキル、コミュニケーション」が最も高く、50代は「語学」が最も高い。
- 男性は、20代は「対人スキル、コミュニケーション」、30代及び50代は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」、40代は「経済、社会、政治、歴史」、60代は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」及び「経済、社会、政治、歴史」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「経済、社会、政治、歴史」をみると、40代で最も差が大きく、男性の方が13.6%ポイント高い。



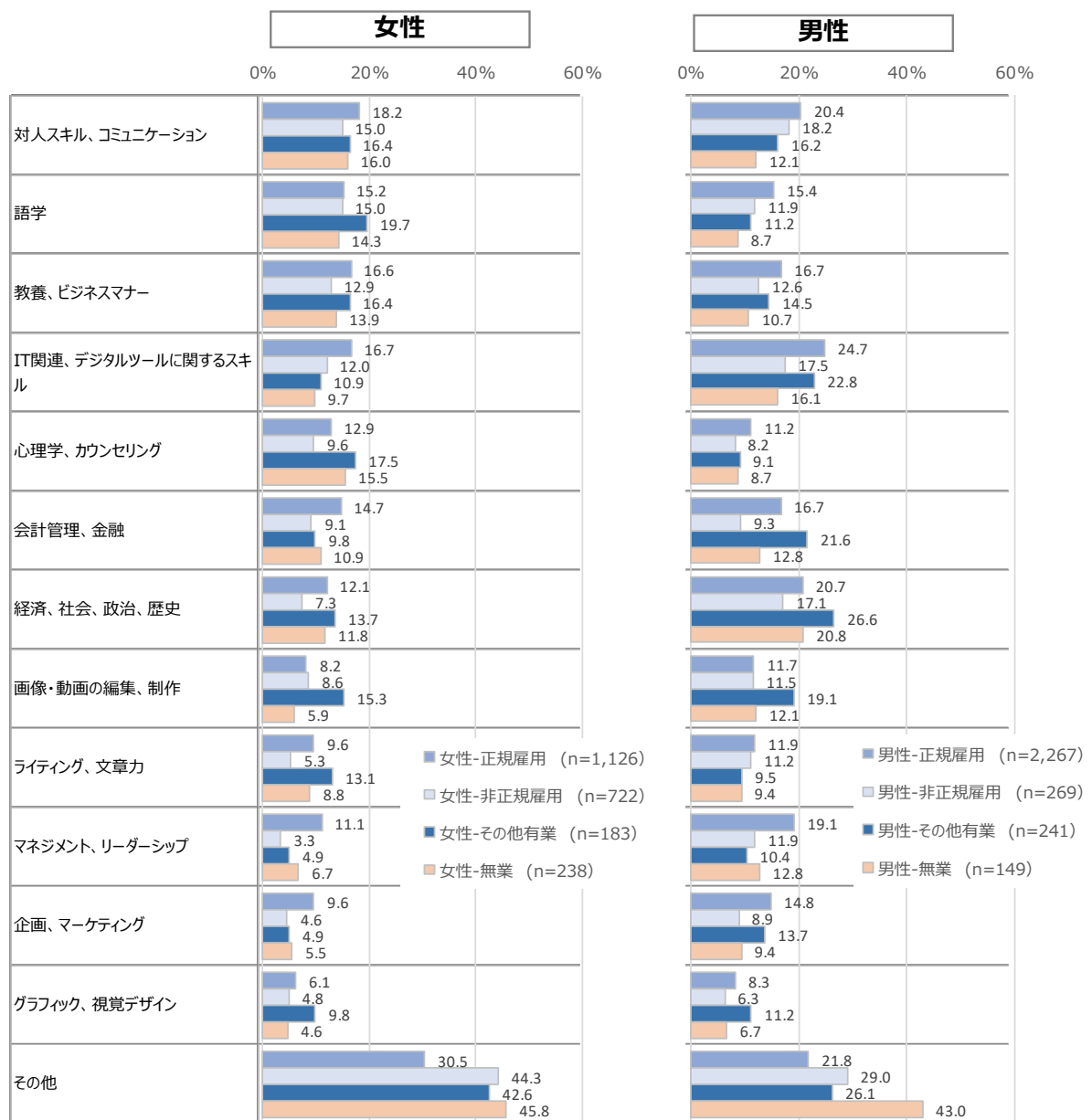
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(4) 仕事や職業キャリアに関する学びの内容（複数回答・Q37）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q37.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる能力やスキルはどのようなことですか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は正規雇用と無業では「対人スキル、コミュニケーション」が最も高く、その他有業は「語学」が最も高い。非正規雇用では、「対人スキル、コミュニケーション」と「語学」が最も高い。
- 男性は正規雇用は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」、非正規雇用は「対人スキル、コミュニケーション」、その他有業と無業では「経済、社会、政治、歴史」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「経済、社会、政治、歴史」をみると、その他有業で最も差が大きく、男性の方が12.9%ポイント高い。



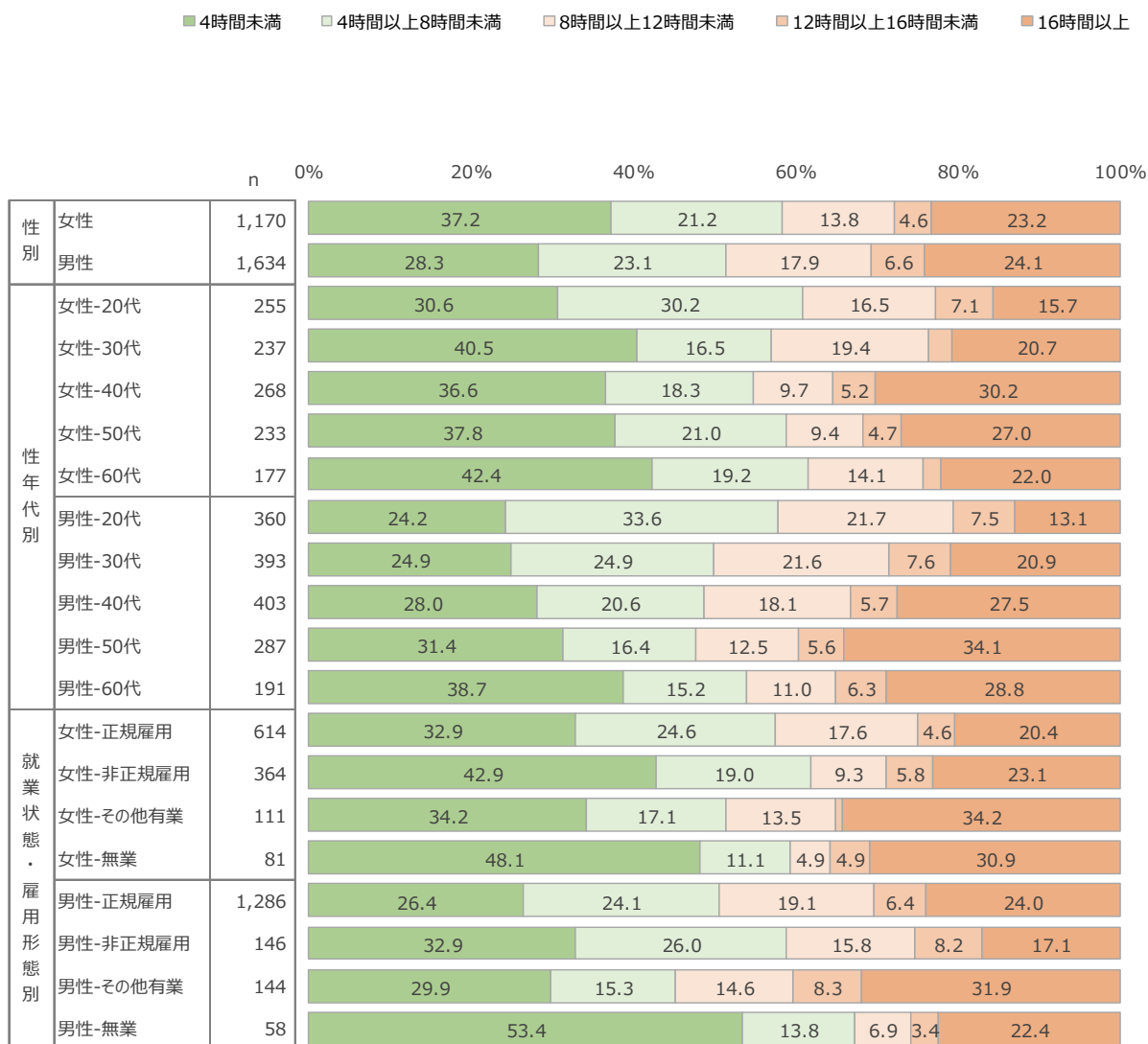
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(5) 仕事や職業キャリアに関する学びにかけた時間（単数回答・Q38）

【対象】過去1年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q38. 仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの時間をかけて学びましたか。学んだ月の1か月あたりの平均時間をお答えください。

- 性別にみると、男女ともに「4時間未満」が最も高く、女性は37.2%、男性は28.3%。
- 性年代別にみると、女性は全ての年代で「4時間未満」が最も高いが、60代で42.4%と最も高い。男性は年代が上がるほど「4時間未満」の割合が高い。他方で、「16時間以上」をみると、女性は40代で30.2%と高く、男性は50代で34.1%と高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、「16時間以上」は男女ともにその他有業で高く、「4時間未満」は無業及び非正規雇用で高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

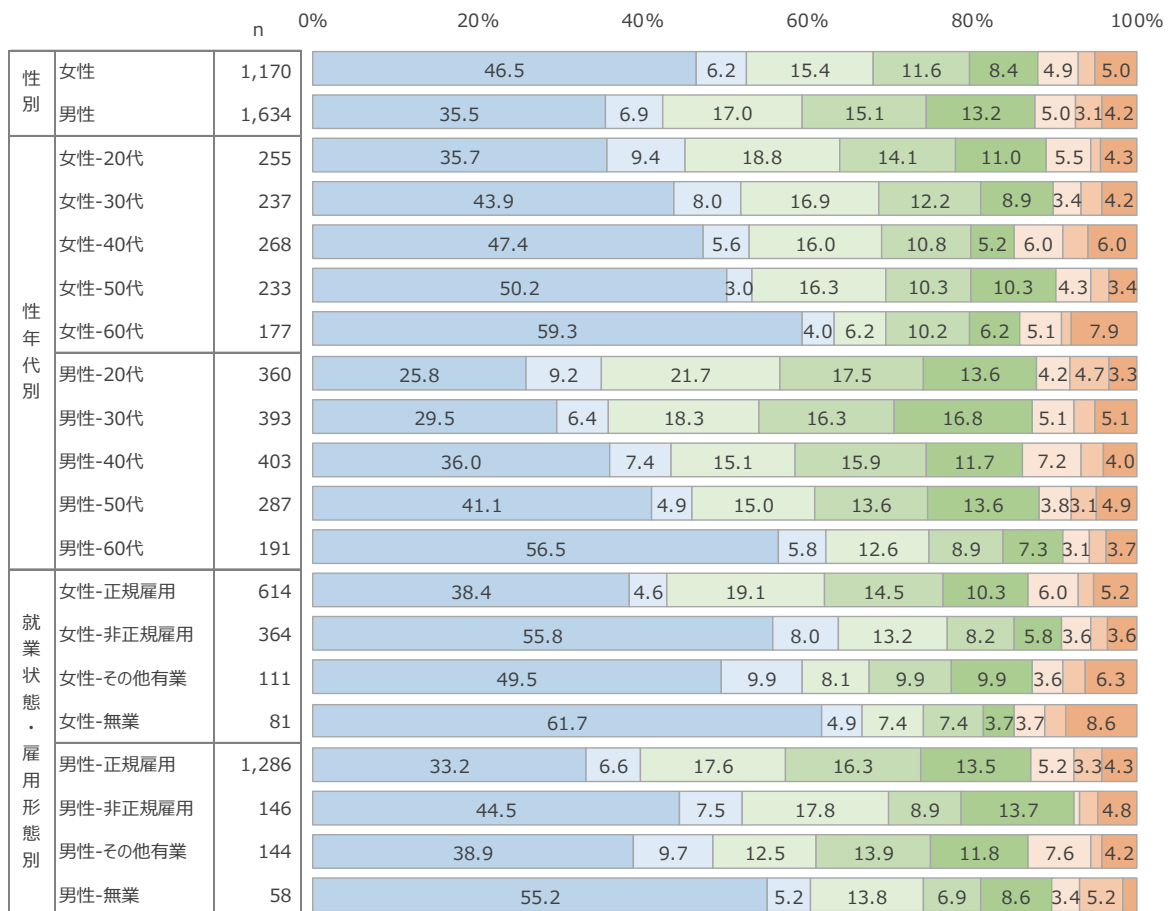
(6) 仕事や職業キャリアに関する学びにかけた費用（単数回答・Q39）

【対象】過去1年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q39. 仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの費用をかけましたか。学んだ月の1か月あたりの平均金額をお答えください。

- 性別にみると、男女ともに「0円（費用をかけていない）」が最も高く、女性は46.5%、男性は35.5%。
- 性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど「0円（費用をかけていない）」の割合が高いが、いずれの年代でも女性の方が割合が高く、30代女性では14.4%ポイント、40代女性では11.4%ポイント男性よりも高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、無業の男女、非正規雇用の女性で「0円（費用をかけていない）」の割合が5割超。

■ 0円（費用をかけていない） ■ 1,000円未満 ■ 1,000円以上5,000円未満 ■ 5,000円以上1万円未満
■ 1万円以上3万円未満 ■ 3万円以上5万円未満 ■ 5万円以上10万円未満 ■ 10万円以上



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

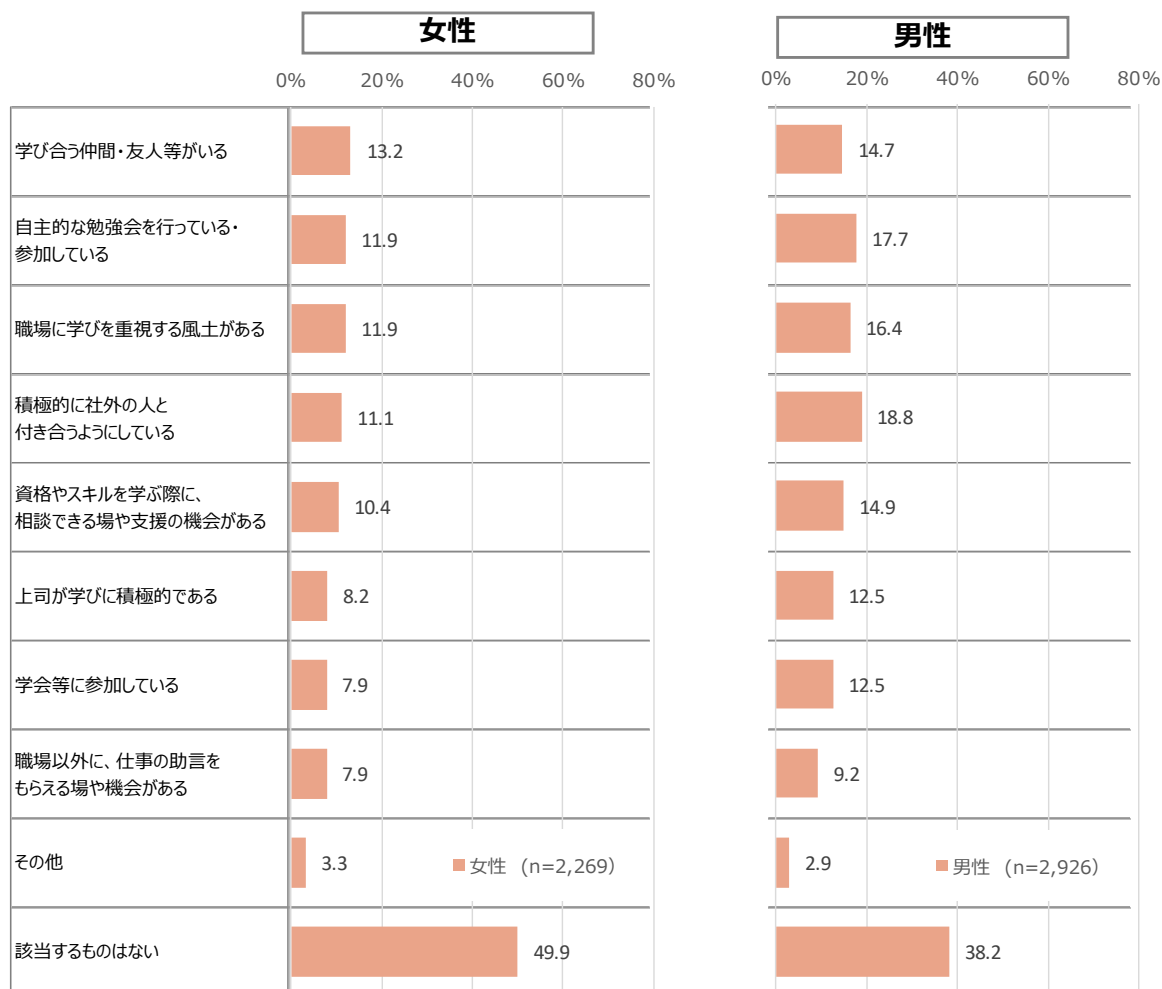
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(7) 仕事や職業キャリアに関する学びのコミュニティ・環境（複数回答・Q40）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q40.仕事や職業キャリアに関する学びについて、あなたのコミュニティ・学びの環境で当てはまるものを教えてください。

- 女性の5割、男性の6割は何らかの学びのコミュニティ・環境に属していることがうかがえる。
- 性別にみると、女性は「学び合う仲間・友人等がいる」が13.2%と最も高く、次いで「自主的な勉強会を行っている・参加している」及び「職場に学びを重視する風土がある」がともに11.9%。男性は「積極的に社外の人と付き合いようとしている」が18.8%と最も高く、「自主的な勉強会を行っている・参加している」が17.7%。
- 男女差が最も大きい項目は「積極的に社外の人と付き合いようとしている」で、女性11.1%、男性18.8%と、男性の方が7.7%ポイント高い。



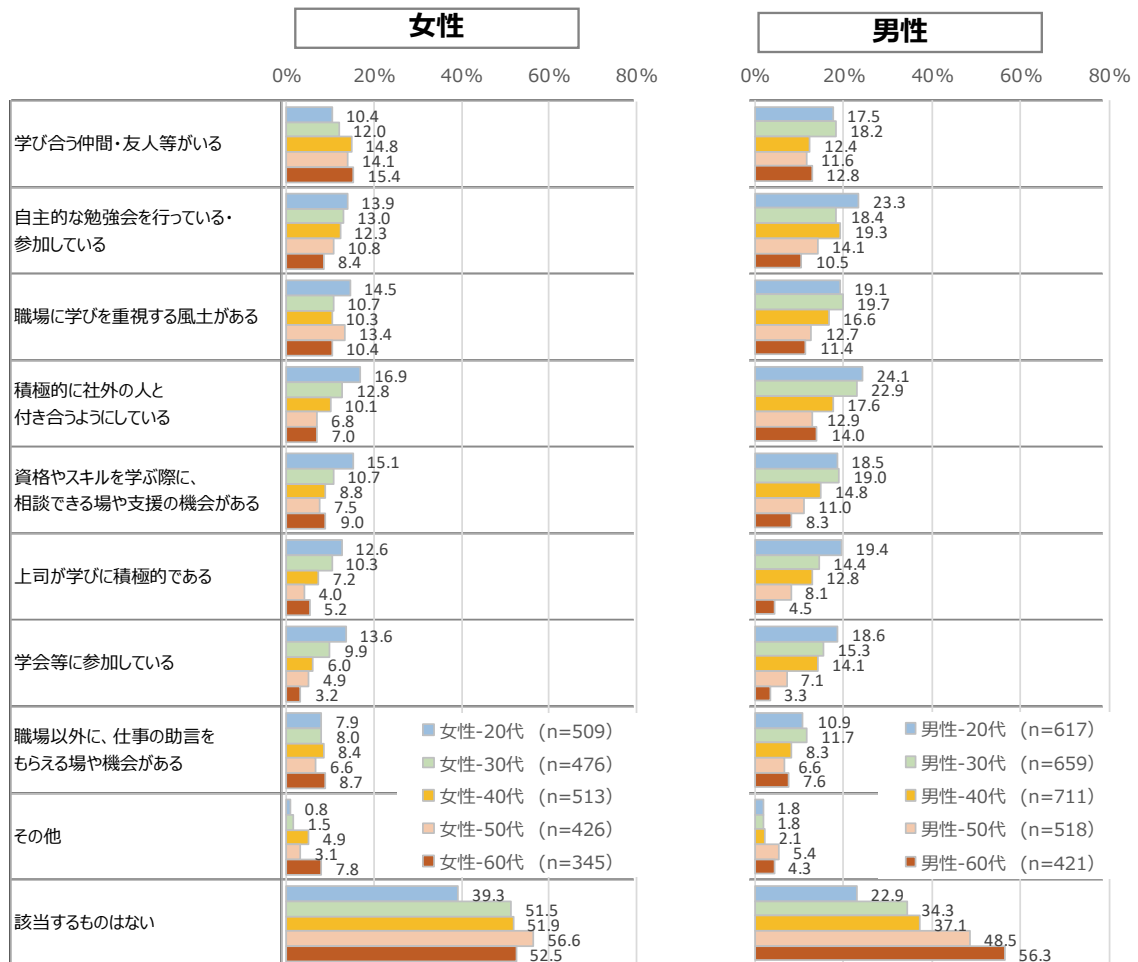
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(7) 仕事や職業キャリアに関する学びのコミュニティ・環境 (複数回答・Q40)

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q40.仕事や職業キャリアに関する学びについて、あなたのコミュニティ・学びの環境で当てはまるものを教えてください。

- 性年代別にみると、女性は、20代では6割が何らかの学びのコミュニティ・環境に属しているが、30代以上では5割以下。男性は20代では8割だが、年代が上がるにつれて低下し60代では4割。
- 女性は20代で「積極的に社外の人と付き合うようにしている」、30代で「自主的な勉強会を行っている・参加している」、40代から60代で「学び合う仲間・友人等がいる」が最も高い。男性は、20代及び30代で「積極的に社外の人と付き合うようにしている」、40代及び50代で「自主的な勉強会を行っている・参加している」、60代で「積極的に社外の人と付き合うようにしている」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「積極的に社外の人と付き合うようにしている」をみると、30代で最も差が大きく、男性の方が10.1%ポイント高い。



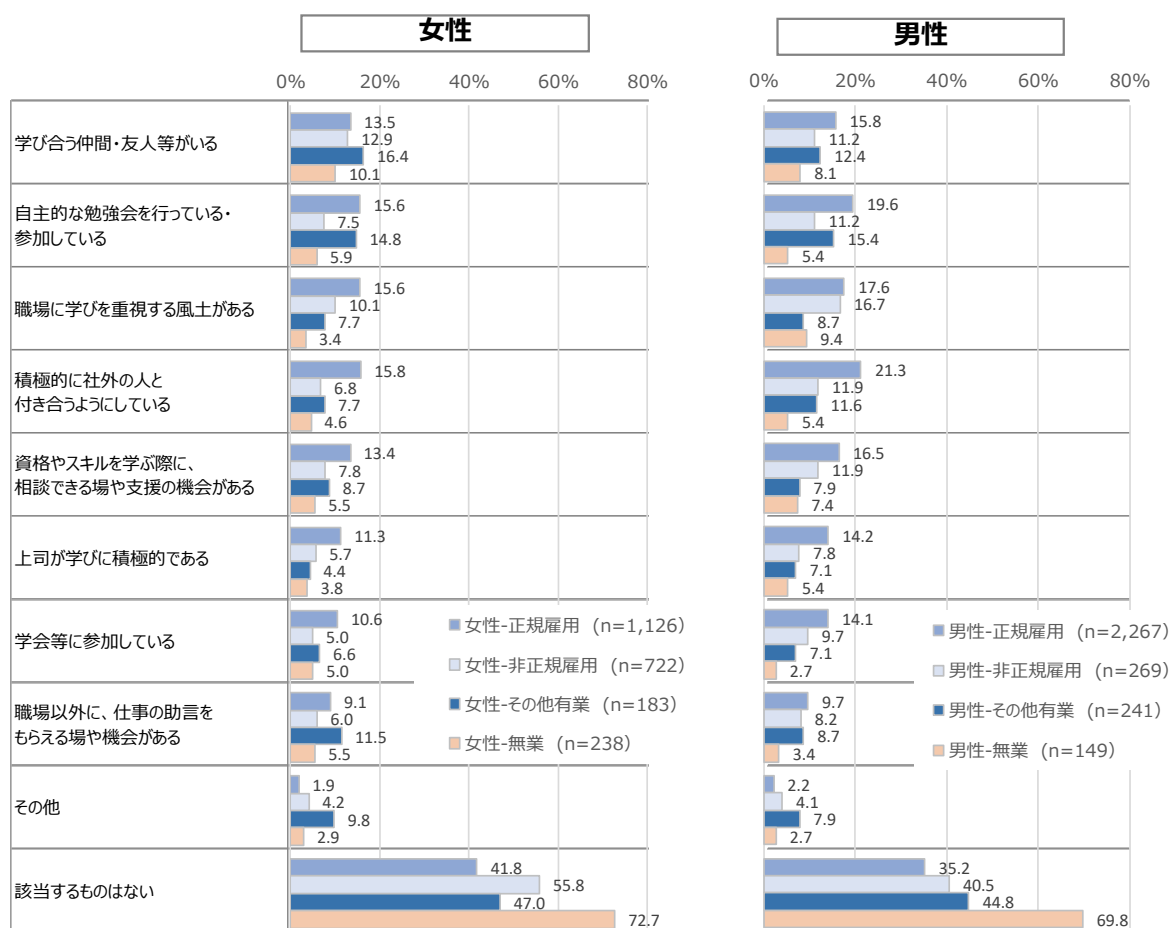
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(7) 仕事や職業キャリアに関する学びのコミュニティ・環境 (複数回答・Q40)

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q40. 仕事や職業キャリアに関する学びについて、あなたのコミュニティ・学びの環境で当てはまるものを教えてください。

- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに正規雇用では「積極的に社外の人と付き合うようにしている」が最も高く女性15.8%、男性21.3%。他の就業状態・雇用形態とも差が大きい。
- 女性は、非正規雇用、その他有業、無業で「学び合う仲間・友人等がいる」が最も高く、その他有業では16.4%。
- 男性は、非正規雇用と無業で「職場に学びを重視する風土がある」が最も高く、その他有業で「自主的な勉強会を行っている・参加している」が最も高い。



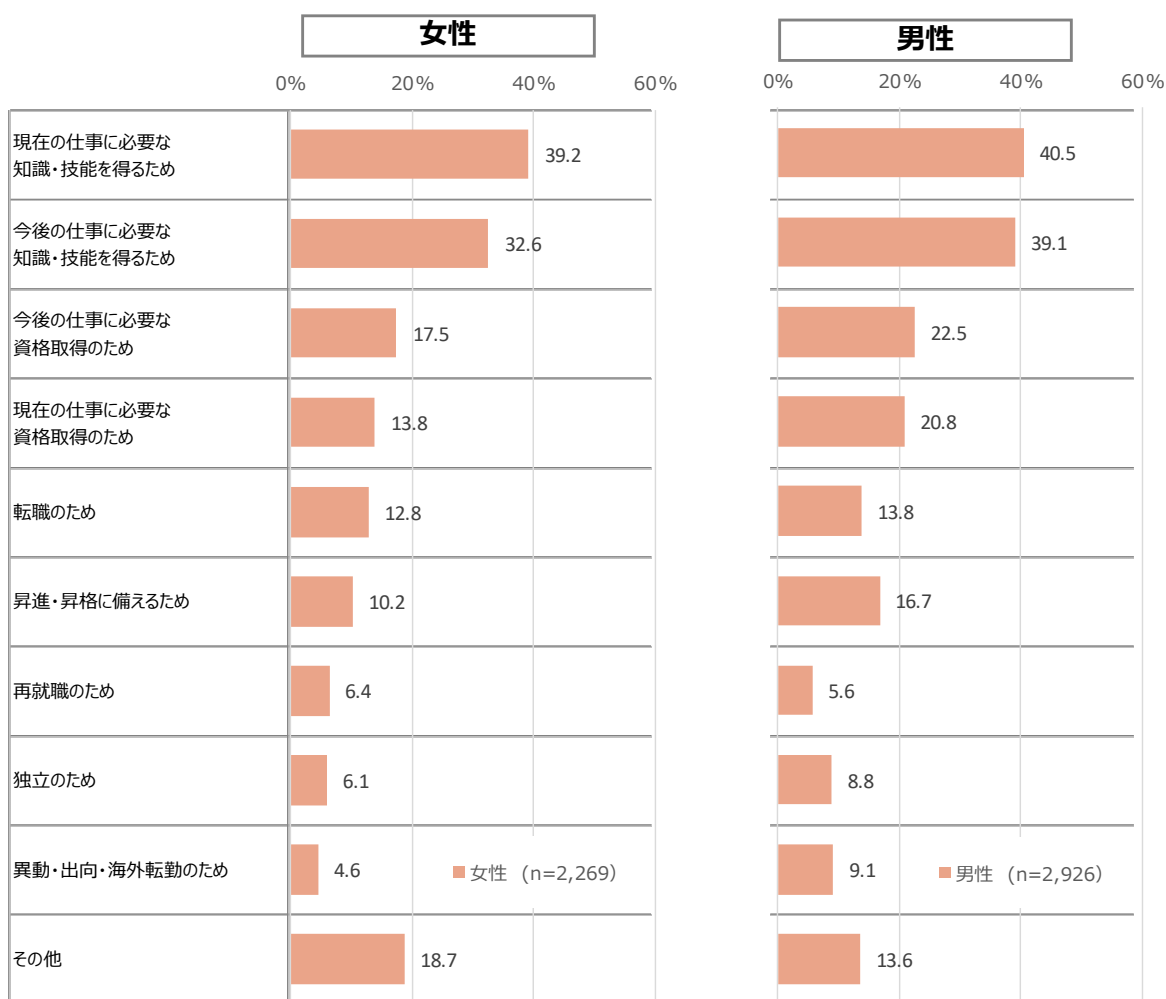
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(8) 仕事や職業キャリアに関する学びの目的（複数回答・Q41）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q41.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる主な理由を教えてください。

- 性別にみると、男女ともに「現在の仕事に必要な知識・技能を得るため」の割合が最も高く、女性39.2%、男性40.5%。次いで「今後の仕事に必要な知識・技能を得るため」が女性32.6%、男性39.1%。
- 男女差が最も大きい項目は「現在の仕事に必要な資格取得のため」で、女性13.8%、男性20.8%と7.0%ポイントの差がみられた。



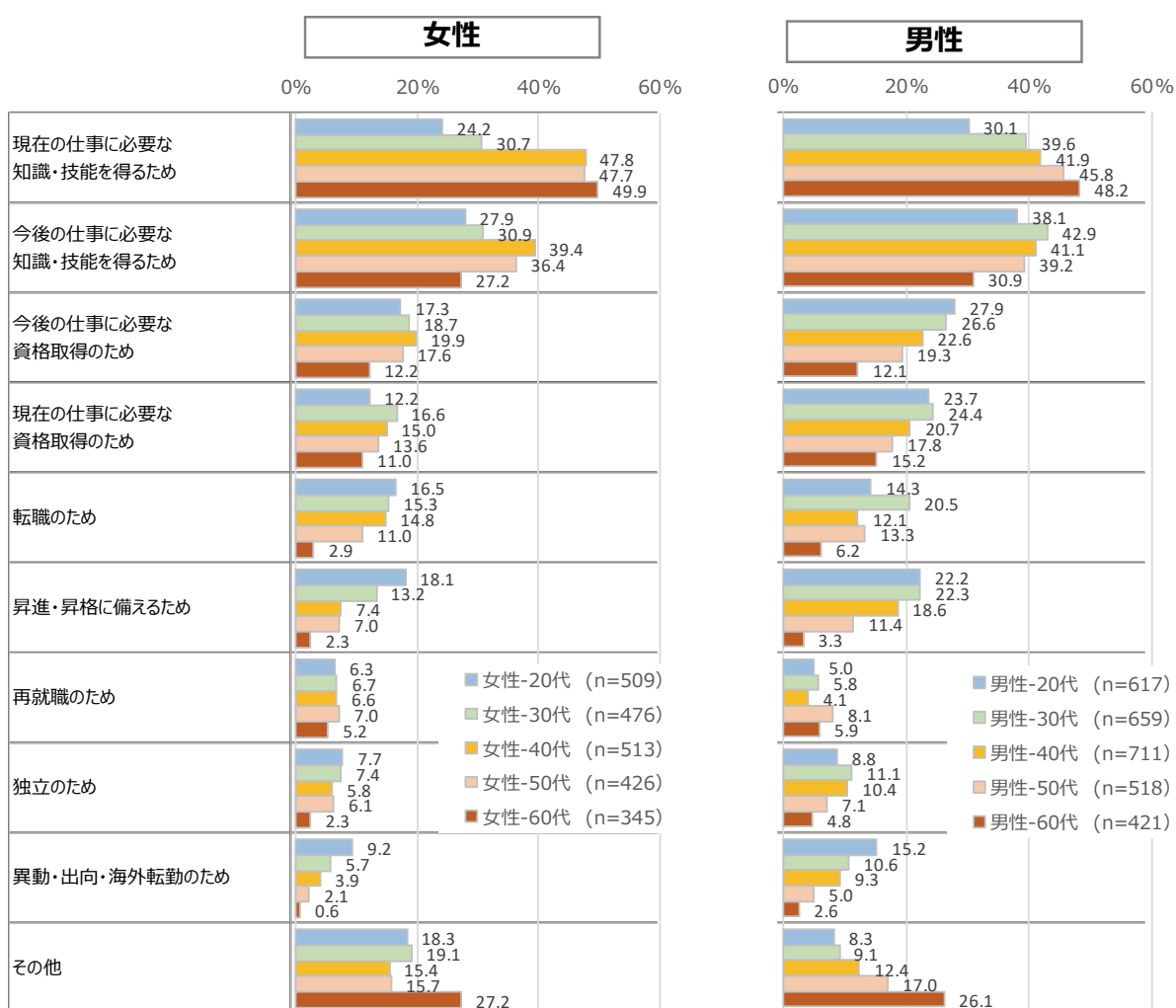
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(8) 仕事や職業キャリアに関する学びの目的（複数回答・Q41）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q41.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる主な理由を教えてください。

- ・ 性年代別にみると、男女ともに20代及び30代では「今後の仕事に必要な知識・技能を得るため」、40代から60代では「現在の仕事に必要な知識・技能を得るため」が最も高い。
- ・ 男女差が最も大きい「現在の仕事に必要な資格取得のため」をみると、20代で最も差が大きく、男性の方が11.5%ポイント高い。



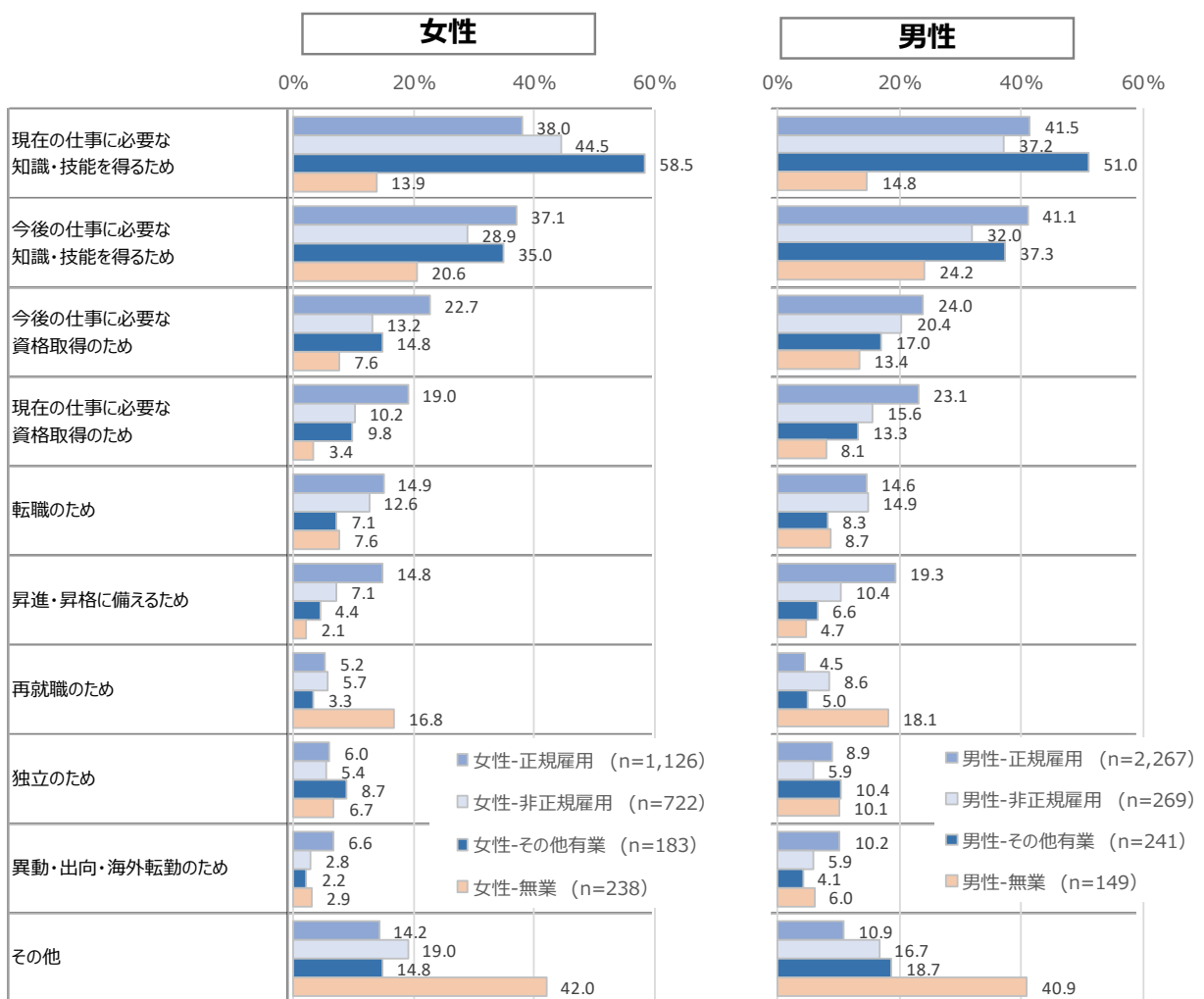
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(8) 仕事や職業キャリアに関する学びの目的（複数回答・Q41）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q41.あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる主な理由を教えてください。

- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに正規雇用、非正規雇用、その他有業では「現在の仕事に必要な知識・技能を得るため」が最も高く、無業では「今後の仕事に必要な知識・技能を得るため」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「現在の仕事に必要な資格取得のため」をみると、非正規雇用で最も差が大きく、男性の方が5.4%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

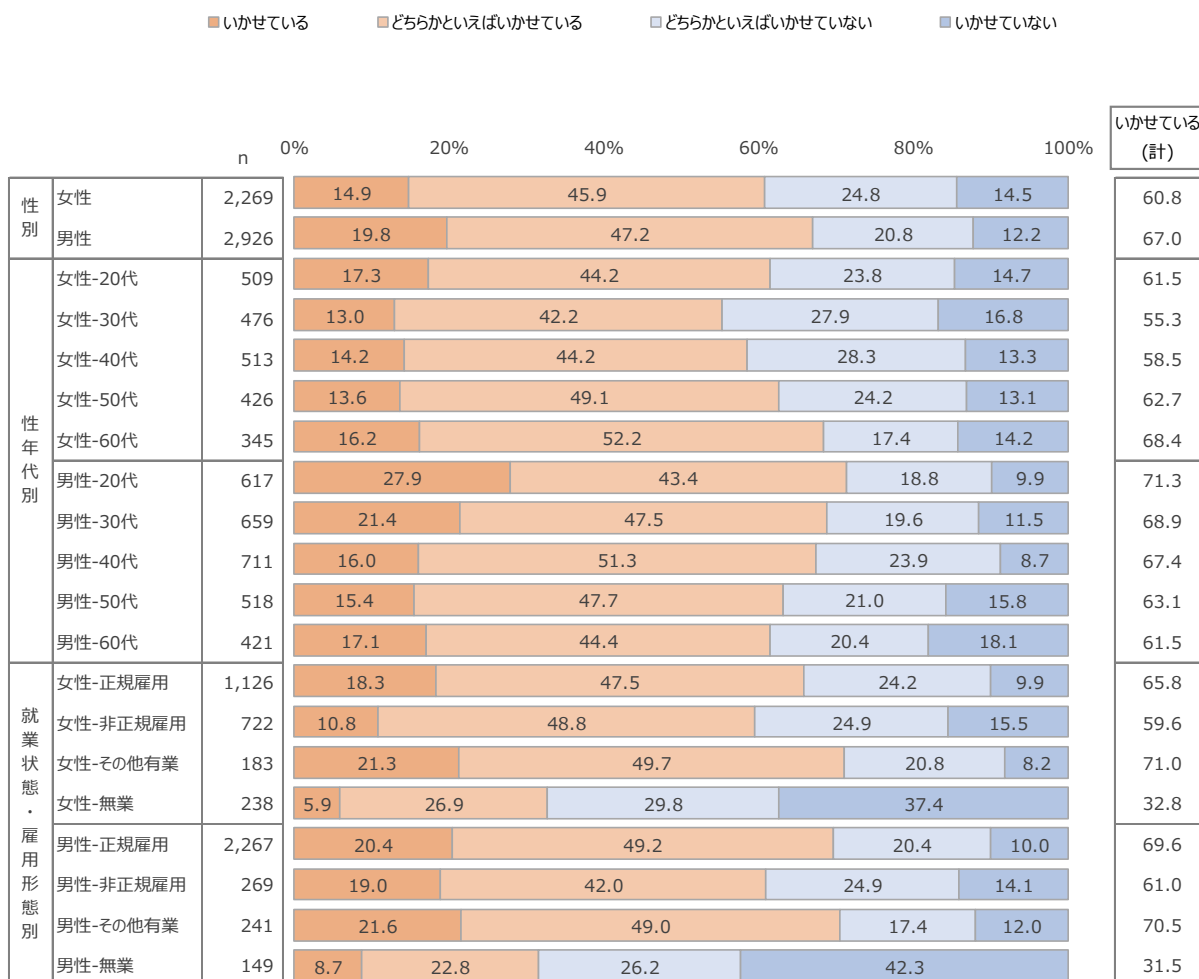
(9) 仕事や職業キャリアに関する学びの主観的な効果（現在）（単数回答・Q42）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q42.あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、現在の仕事やキャリア、転職、再就職などにいかせていると思いますか。

※現在仕事についていない方は、就職活動にいかせているかでお答えください。

- 性別にみると、「いかせている（計）」の割合は、女性60.8%、男性67.0%と、男性の方が6.2%ポイント高い。
- 性年代別にみると、女性は30代以上では、上の年代ほど「いかせている（計）」の割合が高く、30代で55.3%、60代で68.4%。一方、男性は若い年代ほど「いかせている（計）」の割合が高く、20代で71.3%、60代では61.5%。男女差をみると、30代で最も差が大きく、女性55.3%、男性68.9%と男性の方が13.6%ポイント高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともにその他有業で「いかせている（計）」が最も高く、女性71.0%、男性70.5%と、いずれも7割を超える。



※「いかせている（計）」：「いかせている」+「どちらかといえばいかせている」で算出

4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

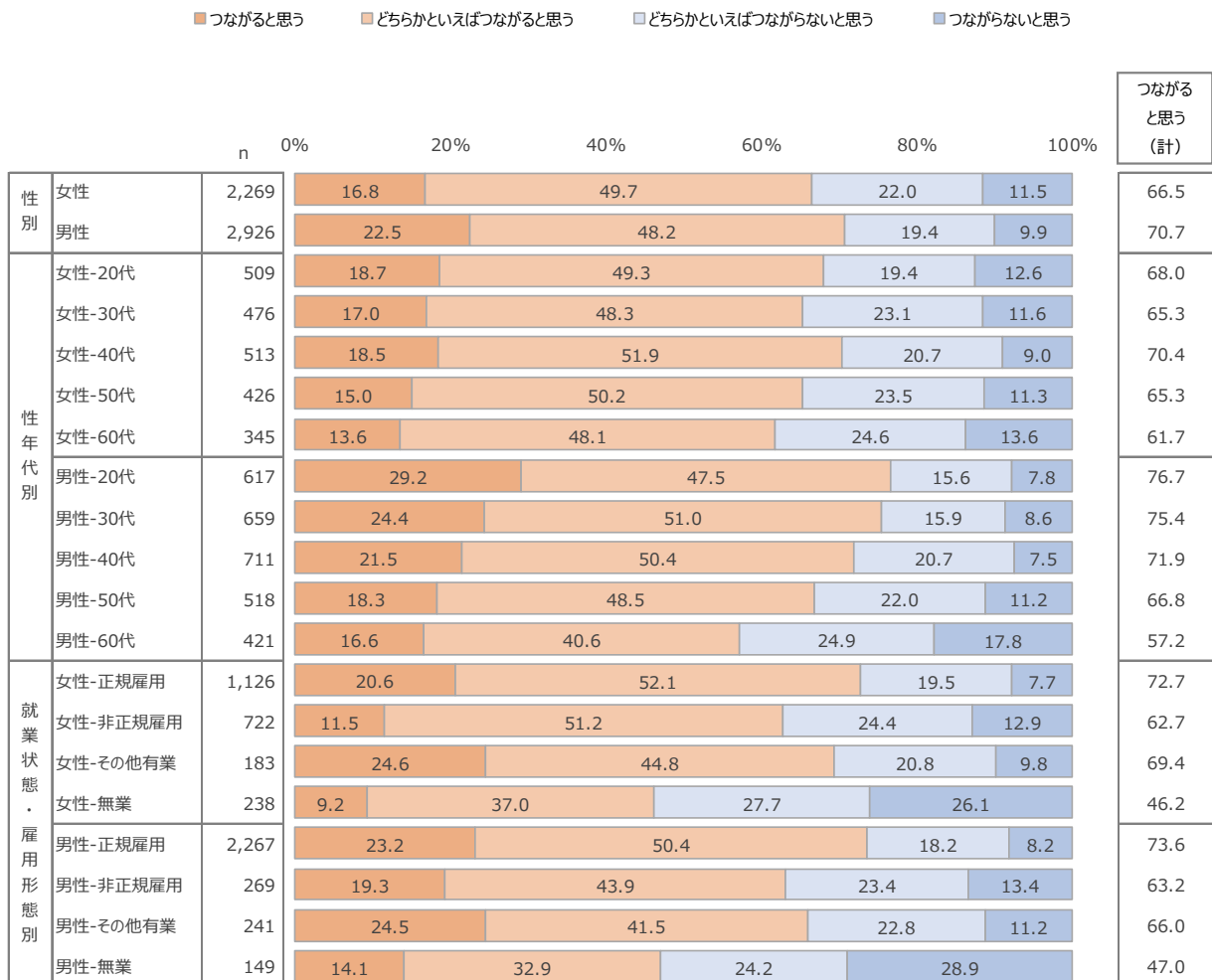
(10) 仕事や職業キャリアに関する学びの効果への期待（単数回答・Q43）

【対象】過去5年以内に仕事や職業キャリアに関することを学んだ人

Q43.あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、将来的に、仕事や昇給・昇進・昇格、転職、独立等のキャリアアップにつながると思えますか。

※現在仕事についていない方は、就職につながるかでお答えください。

- 性別にみると、「つながると思う（計）」の割合は、女性66.5%、男性70.7%と、男性の方がやや高い。
- 性年代別にみると、男性では若い年代ほど「つながると思う（計）」の割合が高いが、女性では男性に比べ年代差が小さい。男女差をみると、30代で最も差が大きく、女性65.3%、男性75.4%と男性の方が10.1ポイント高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに正規雇用で「つながると思う（計）」が最も高く、女性72.7%、男性73.6%と、いずれも7割を超える。



※「つながると思う（計）」：「つながると思う」+「どちらかといえばつながると思う」で算出

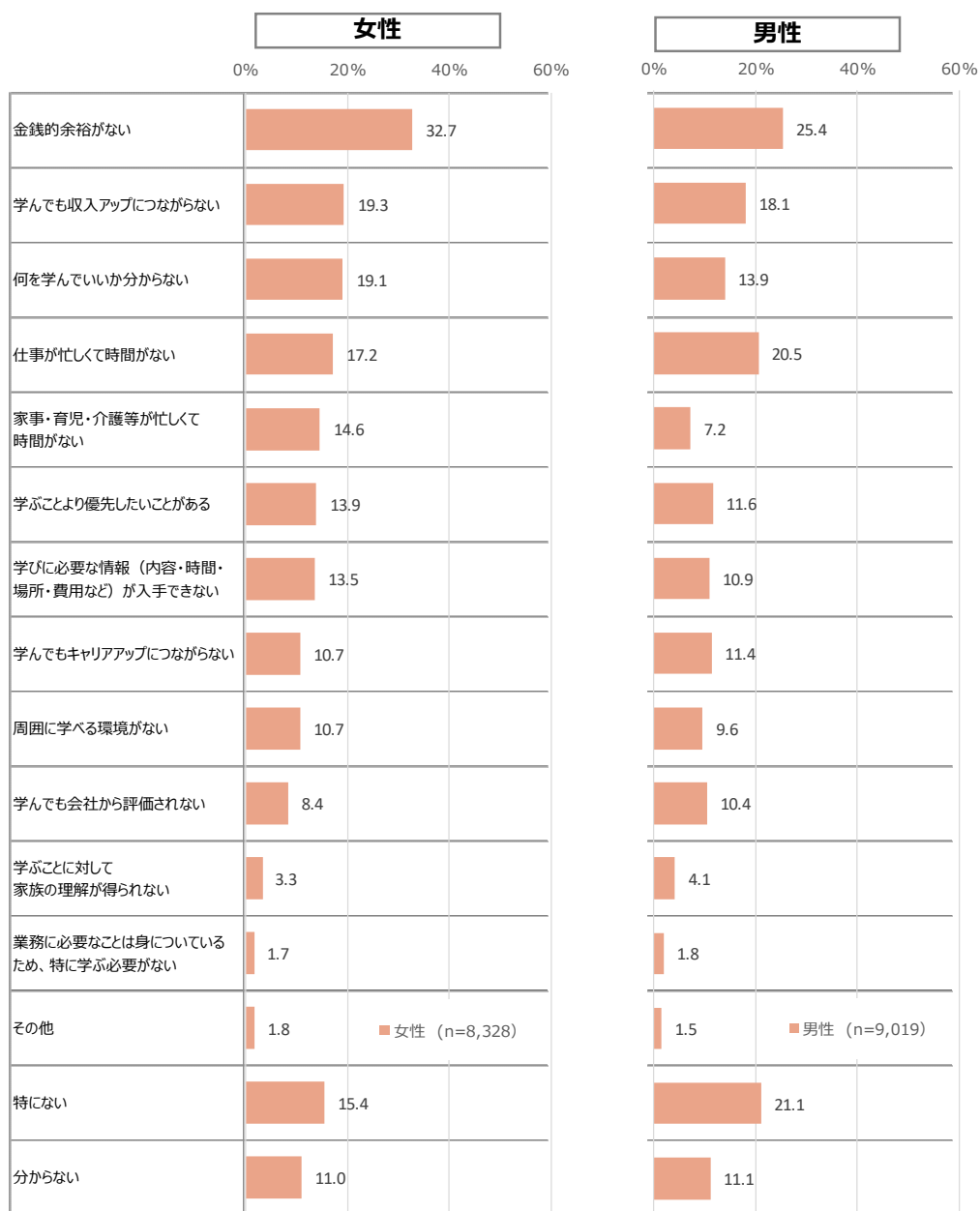
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(11) 仕事や職業キャリアに関する学びの障壁（複数回答・Q44）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q44.あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

- 性別にみると、女性は「金銭的余裕がない」が32.7%で最も高く、次いで「学んでも収入アップにつながらない」が19.3%。
- 男性で最も高いのは「金銭的余裕がない」が25.4%、次いで「仕事が忙しく時間がない」が20.5%。
- 男女差が最も大きい項目は「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」で、女性14.6%、男性7.2%と、女性の方が7.4%ポイント高い。また、「金銭的余裕がない」も女性の方が7.3%ポイント高い。



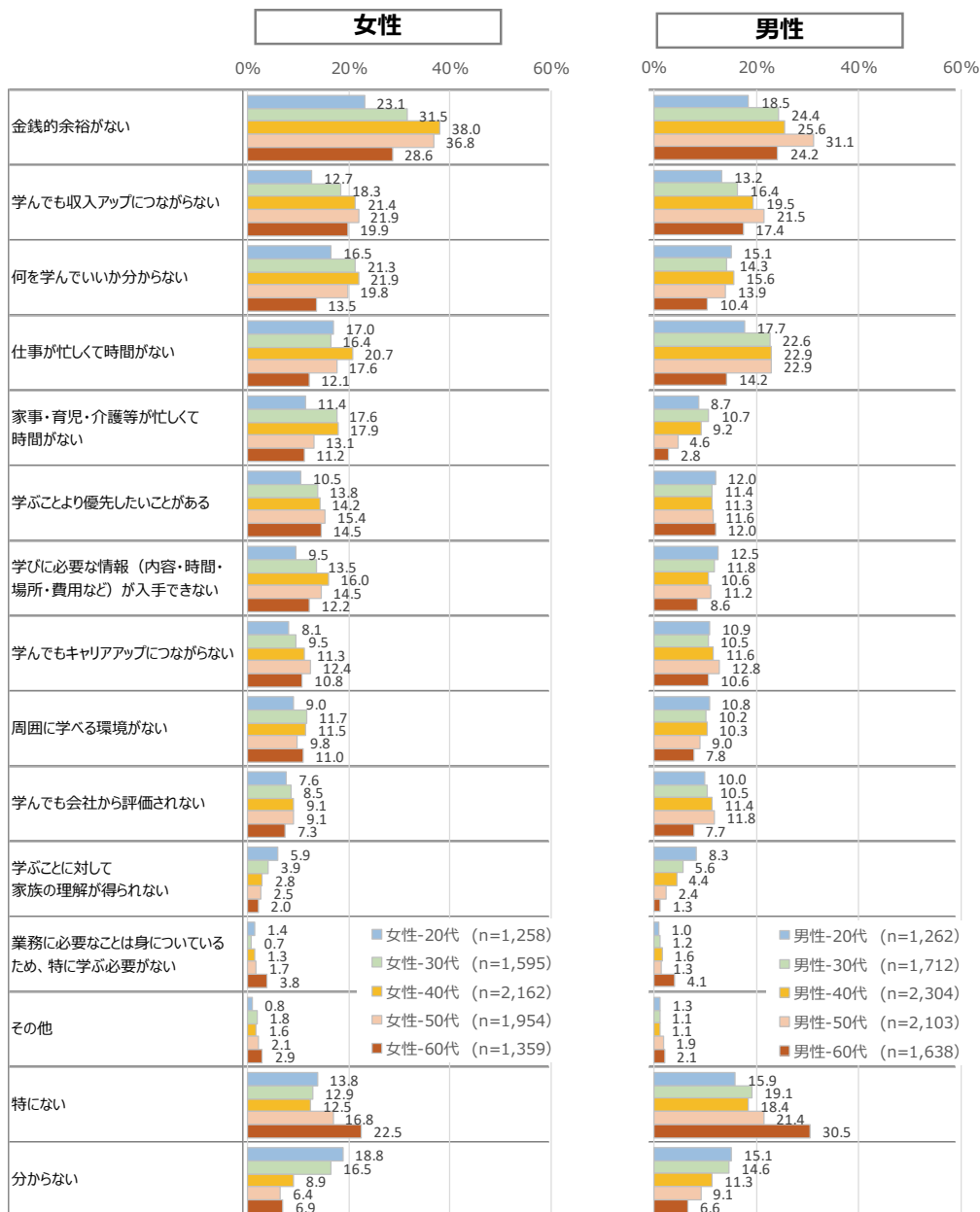
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(11) 仕事や職業キャリアに関する学びの障壁（複数回答・Q44）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q44.あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

- 性年代別にみると、女性は全年代で「金銭的余裕がない」が最も高く、20代は次いで「仕事が忙しくて時間がない」、30代及び40代は「何を学んでいいかわからない」、50代は「学んでも収入アップにつながらない」、60代は「特にない」が続く。
- 男性は20代から50代で「金銭的余裕がない」が最も高く、次いで「仕事が忙しくて時間がない」。60代では「特にない」が最も高く、次いで「金銭的余裕がない」。
- 男女差が最も大きい「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」を年代別に見ると、40代で最も差が大きく、女性の方が8.7%ポイント高い。



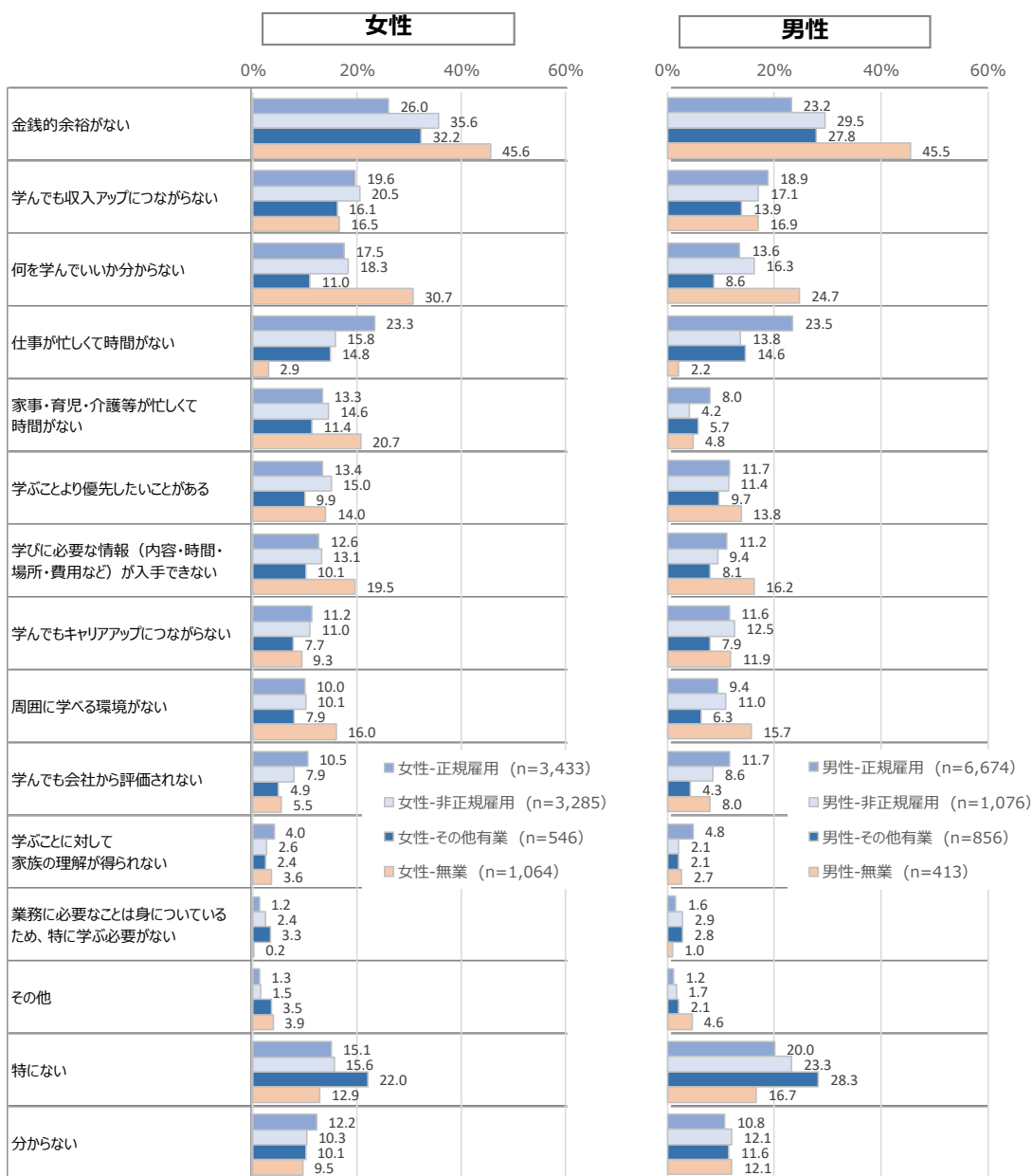
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(11) 仕事や職業キャリアに関する学びの障壁（複数回答・Q44）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q44.あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は全ての就業状態・雇用形態で「金銭的余裕がない」が最も高く、正規雇用では「仕事が忙しくて時間がない」、非正規雇用では「学んでも収入アップにつながらない」、その他有業では「特にない」、無業では「何を学んでいいかわからない」が続く。
- 男性は、正規雇用は「仕事が忙しくて時間がない」が最も高く、非正規雇用は「金銭的余裕がない」が最も高い。その他有業は「特にない」、無業は「金銭的余裕がない」が最も高い。
- 男女差が最も大きい「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」をみると、無業で最も差が大きく、女性の方が15.9%ポイント高い。



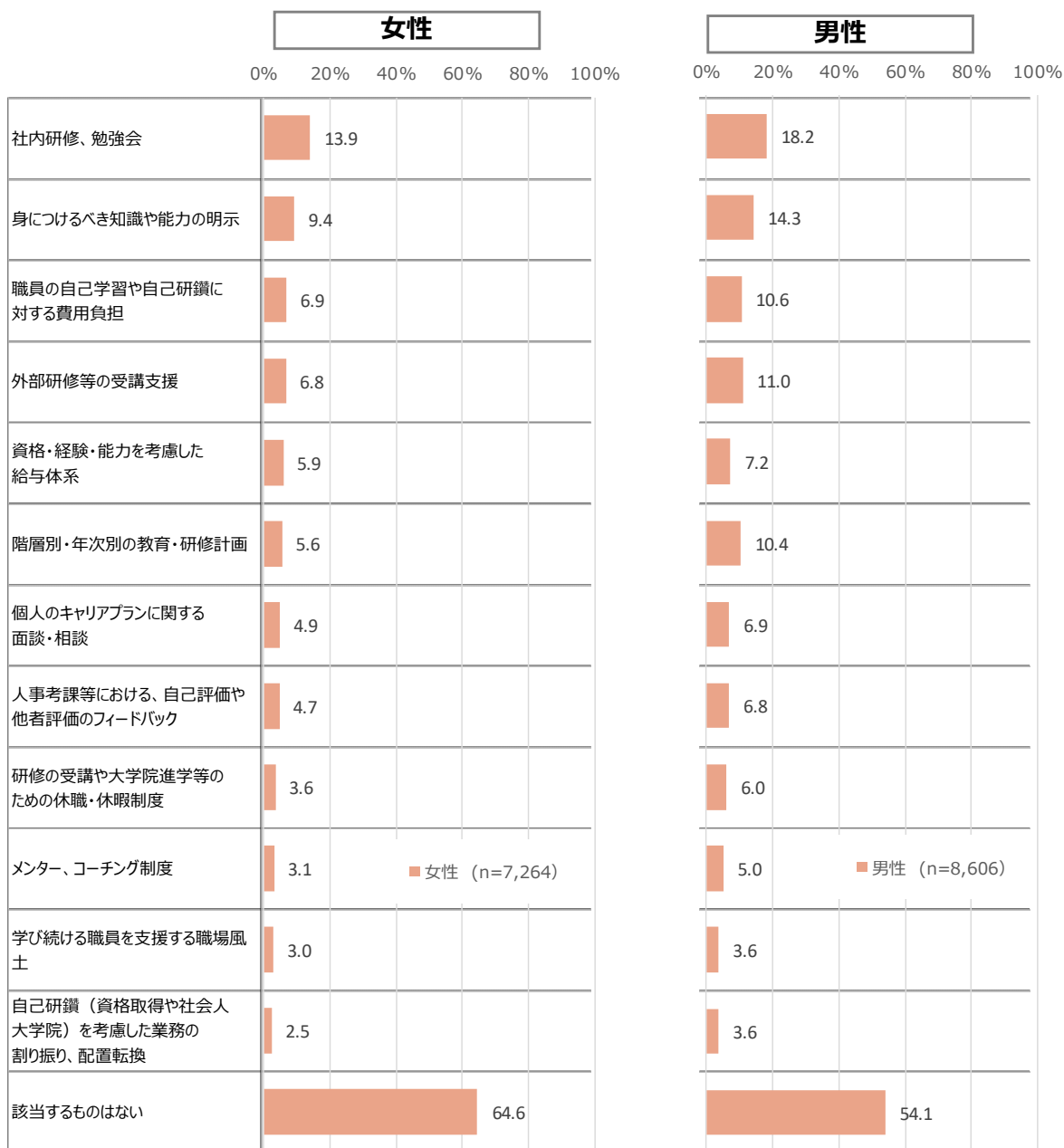
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(12) 就業先で行われている学びに関する取組や支援（複数回答・Q45）

【対象】有業者

Q45.あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。

- ・ 性別にみると、男女ともに「社内研修・勉強会」が最も高く、女性13.9%、男性18.2%。次いで、「身につけるべき知識や能力の明示」が女性9.4%、男性14.3%。
- ・ 男女差が最も大きい項目は「身につけるべき知識や能力の明示」で、男性の方が4.9%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(12) 就業先で行われている学びに関する取組や支援（複数回答・Q45）

【対象】有業者

Q45.あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。

- ・ 性年代別にみると、男女ともに全年代で「社内研修、勉強会」が最も高く、女性は次いで20代は「職員の自己学習や自己研鑽に対する費用負担」、30代から60代は「身につけるべき知識や能力の明示」が続く。男性は全年代で「身につけるべき知識や能力の明示」が続く。
- ・ 男女差が最も大きい「身につけるべき知識や能力の明示」をみると、30代で最も差が大きく、男性の方が6.3%ポイント高い。



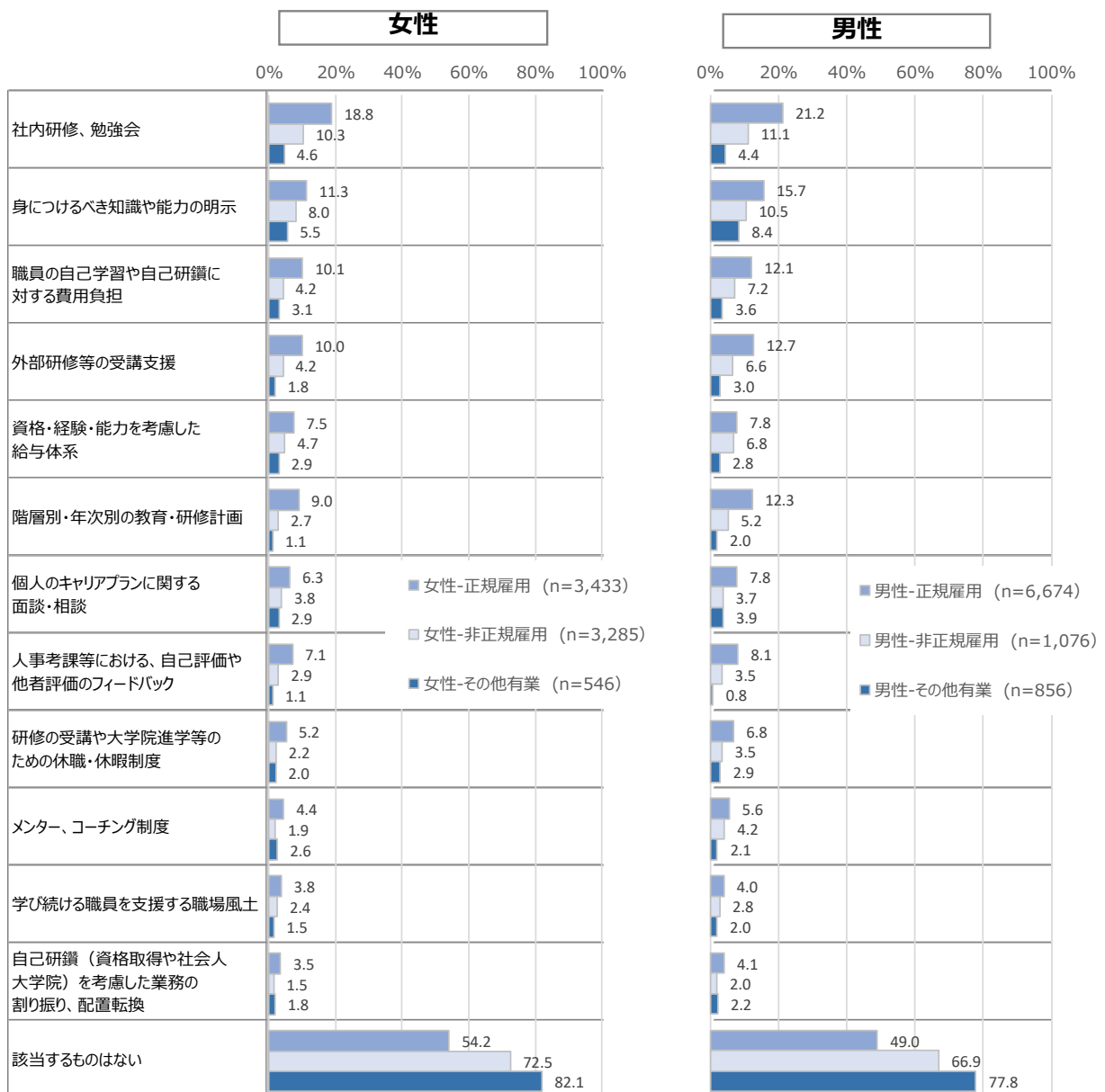
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(12) 就業先で行われている学びに関する取組や支援（複数回答・Q45）

【対象】有業者

Q45.あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、男女とも正規雇用、非正規雇用は「社内研修、勉強会」が最も高く、次いで「身につけるべき知識や能力の暗示」。その他有業は「身につけるべき知識や能力の暗示」が最も高く、次いで「社内研修、勉強会」。
- 男女差が最も大きい「身につけるべき知識や能力の暗示」をみると、正規雇用で最も差が大きく、男性の方が4.4%ポイント高い。



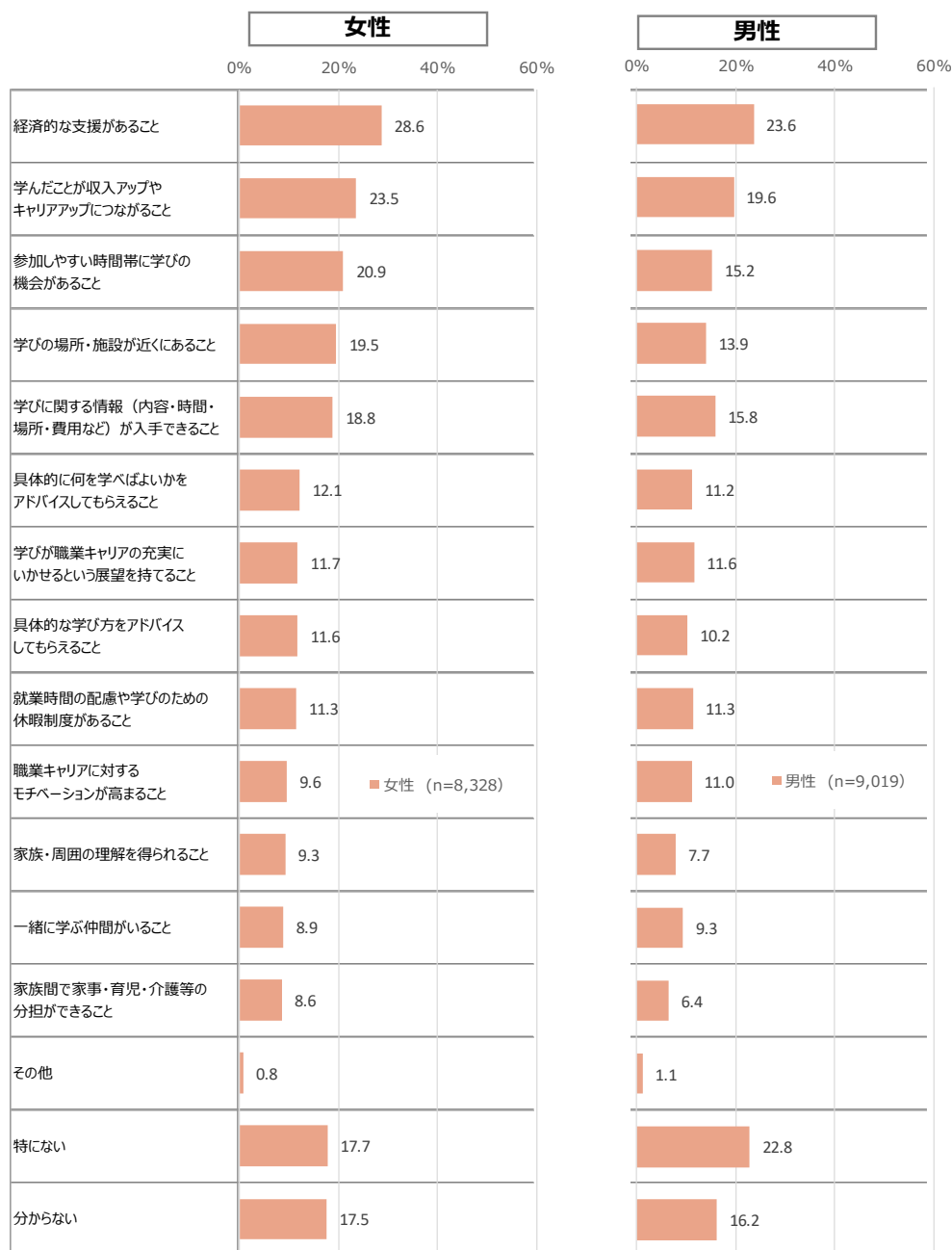
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(13) 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答・Q46）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q46.あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。

- 性別にみると、男女ともに「経済的な支援があること」が最も高く、女性28.6%、男性23.6%。次いで、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が女性23.5%、男性19.6%。
- 男女差が最も大きい項目は「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」で、女性が20.9%、男性15.2%と、女性の方が5.7%ポイント高い。



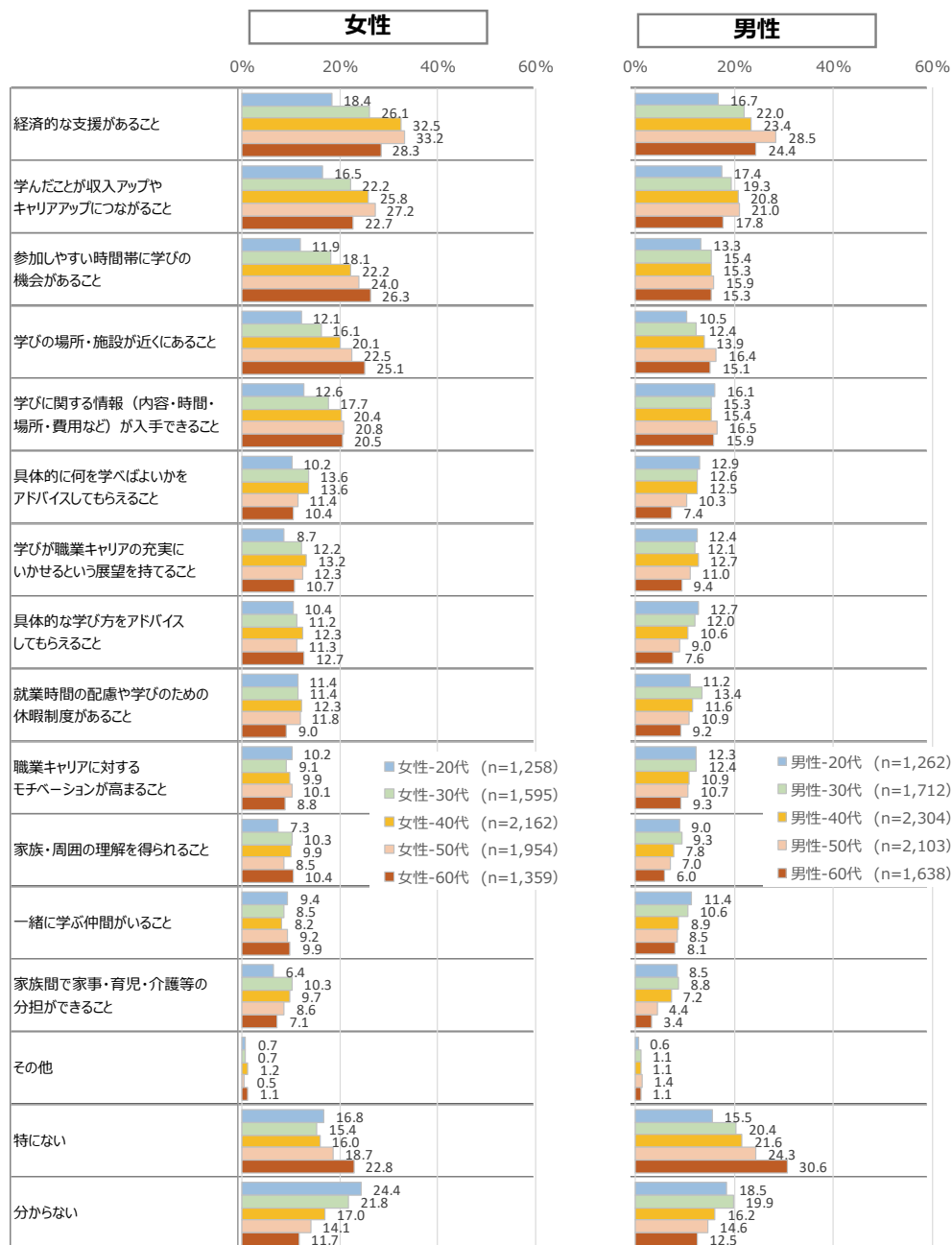
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(13) 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答・Q46）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q46.あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。

- 性年代別にみると、女性は全年代で「経済的な支援があること」が最も高く、20代から50代は「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」、60代は「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」が続く。男性は20代で「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が最も高く、次いで「経済的な支援があること」。30代から60代は「経済的な支援があること」が最も高く、次いで「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」。
- 男女差が最も大きい「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」をみると、60代で最も差が大きく、女性の方が11.0%ポイント高い。



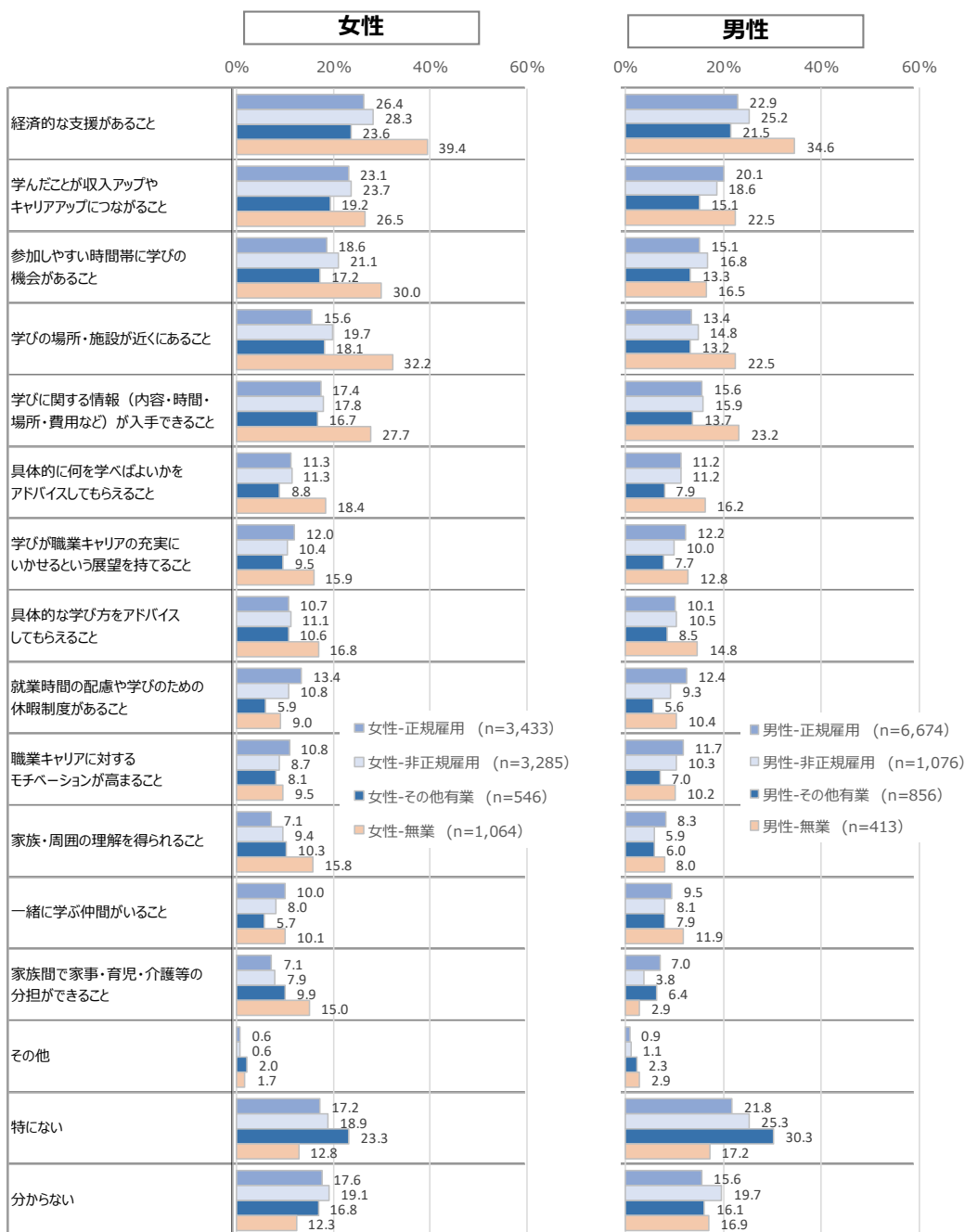
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(13) 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答・Q46）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q46.あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、男女ともに全ての就業状態・雇用形態で「経済的な支援があること」が最も高く、正規雇用、非正規雇用、その他有業は次いで「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」。無業では、女性は「学びの場所・施設が近くにあること」、男性は「学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できること」が続く。
- 男女差が最も大きい「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」をみると、無業で最も差が大きく、女性の方が13.5%ポイント高い。



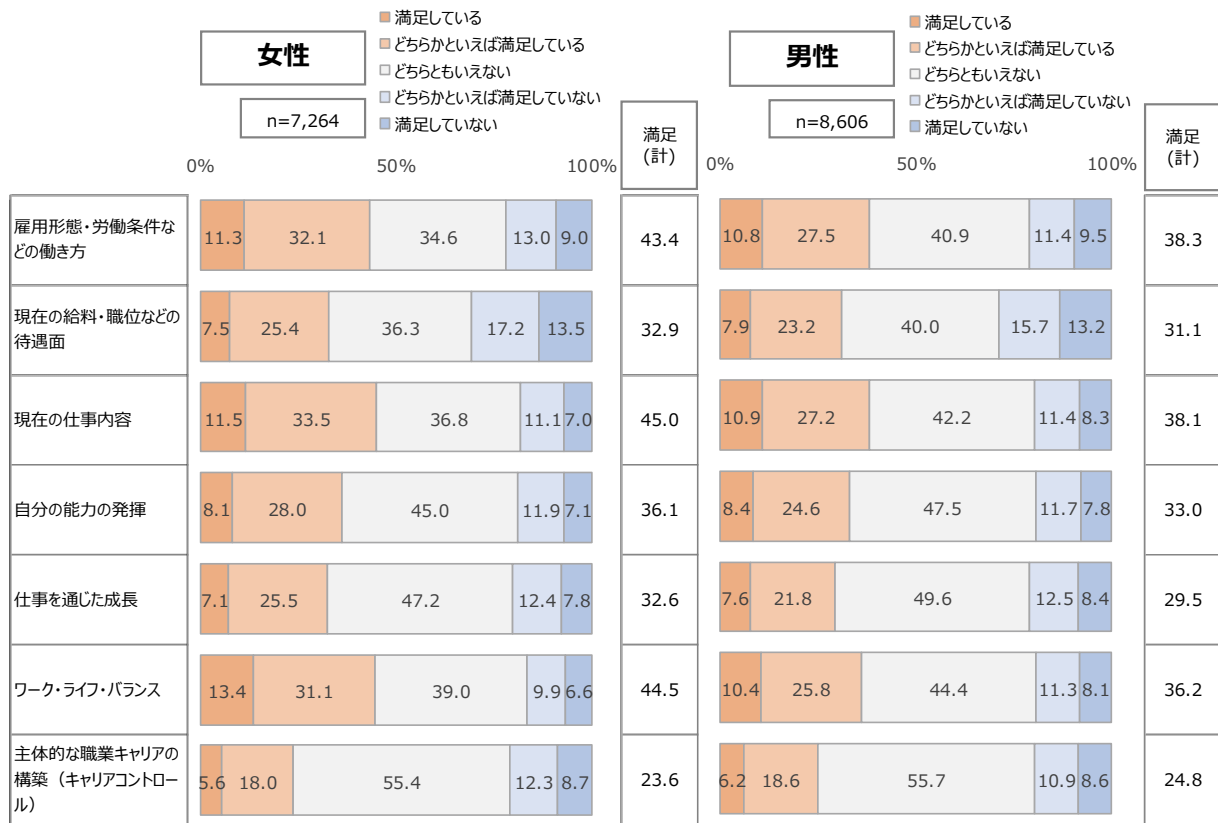
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(14) 仕事やキャリアへの満足度 (単数回答・Q47)

【対象】有業者

Q47.あなたは、現在の仕事や働き方、職業キャリアについて、満足していますか。

- 性別に「満足（計）」をみると、女性は「現在の仕事内容」が45.0%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランス」が44.5%。
- 男性は「雇用形態・労働条件などの働き方」が38.3%と最も高く、次いで「現在の仕事内容」が38.1%。
- 男女差が最も大きい項目は「ワーク・ライフ・バランス」で、女性44.5%、男性36.2%と、女性の方が8.3%ポイント高い。



※「満足（計）」＝「満足している」+「どちらかといえば満足している」で算出

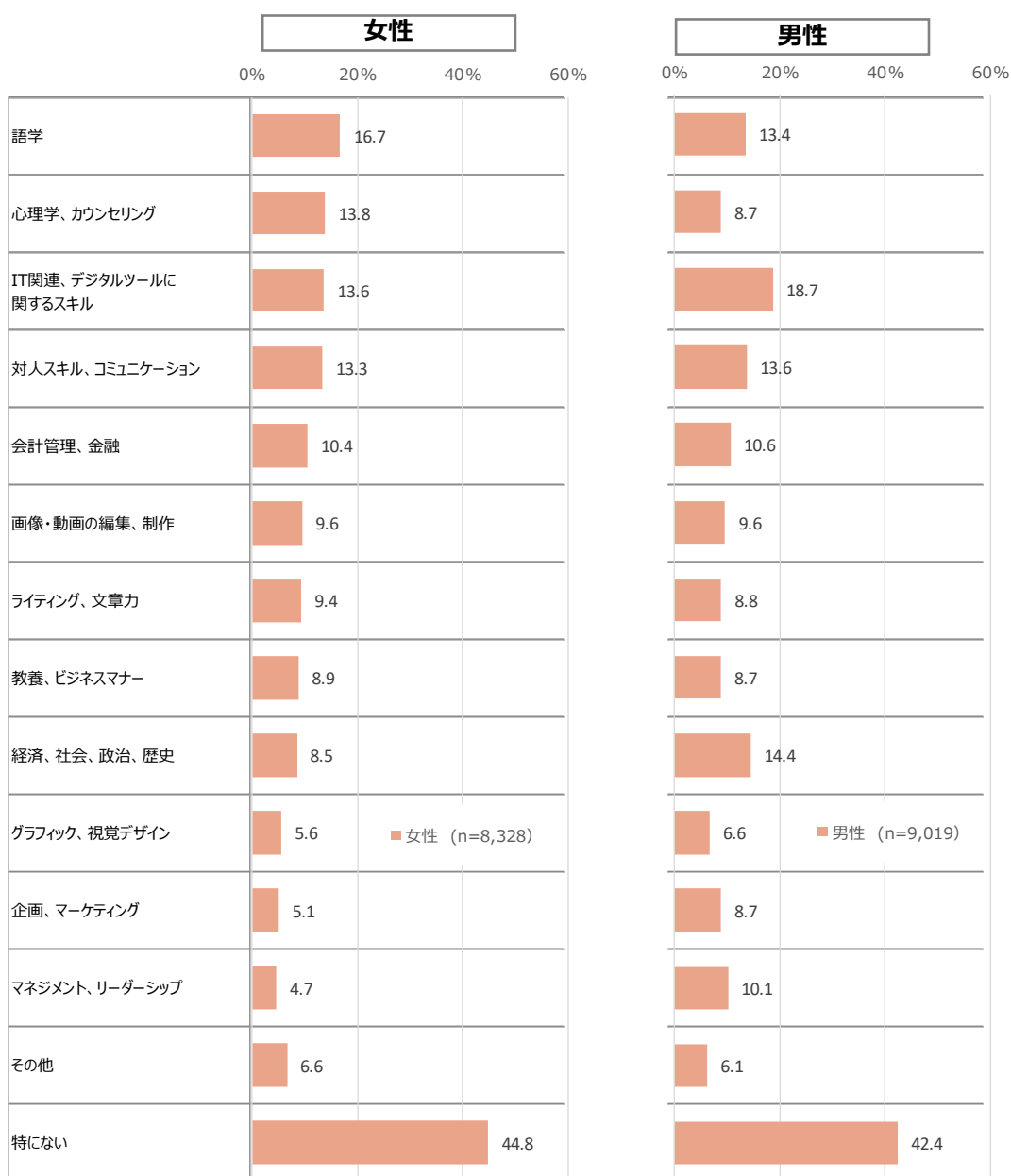
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(15) 仕事や職業キャリアに関して学びたい能力やスキル（複数回答・Q48）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q48.あなたが、仕事や職業キャリアに関して今後学びたい能力やスキルはどのようなことですか。

- 性別にみると、男女とも6割近くが何かしら学びたい能力やスキルがあることがうかがえる。
- 女性は「語学」が16.7%と最も高く、次いで、「心理学、カウンセリング」13.8%。男性は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」が18.7%と最も高く、次いで、「経済、社会、政治、歴史」14.4%。
- 男女差が最も大きい項目は「経済、社会、政治、歴史」で、女性8.5%、男性14.4%と、男性の方が5.9%ポイント高い。



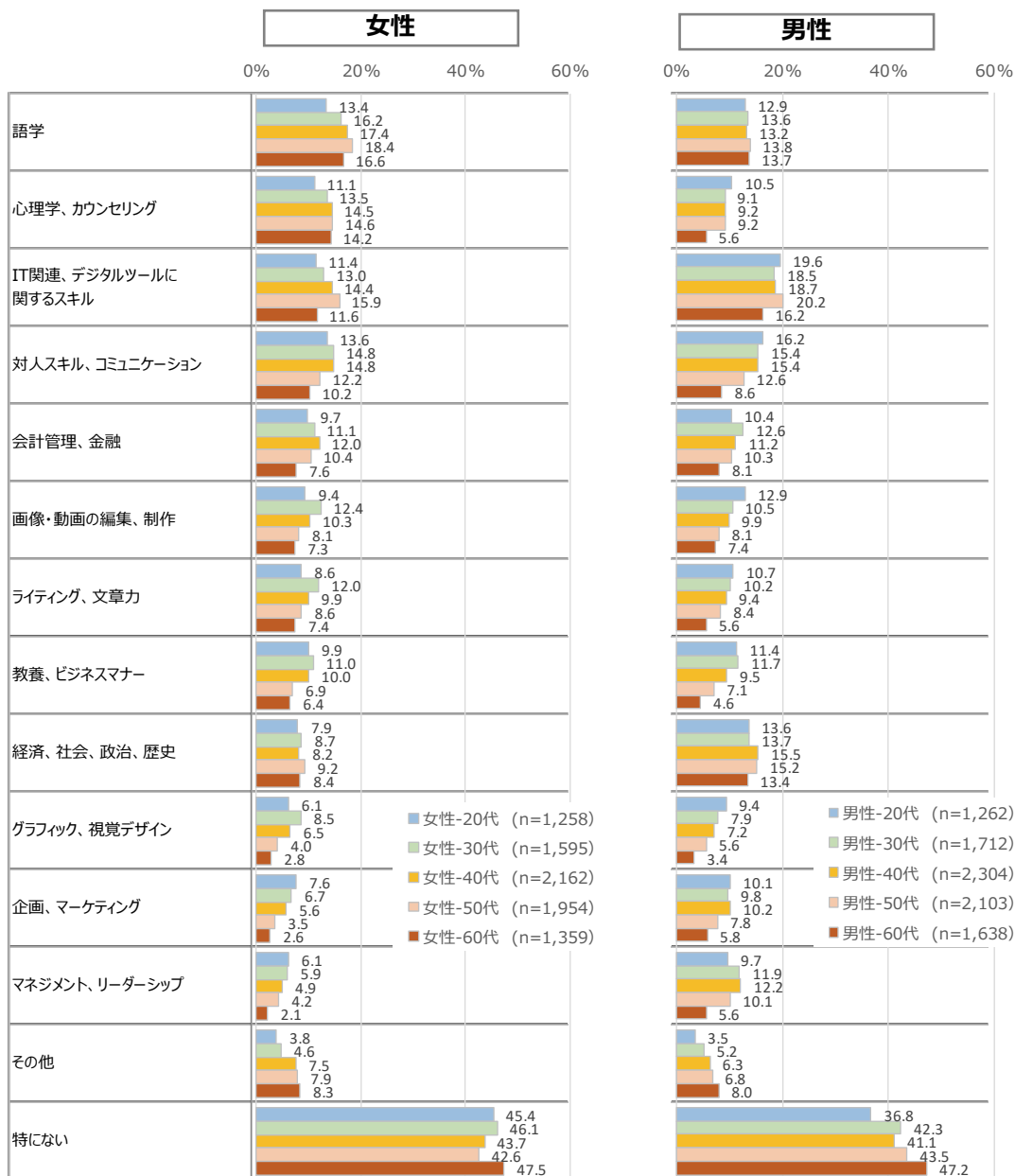
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(15) 仕事や職業キャリアに関して学びたい能力やスキル（複数回答・Q48）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q48.あなたが、仕事や職業キャリアに関して今後学びたい能力やスキルはどのようなことですか。

- 性年代別にみると、女性は20代は「対人スキル、コミュニケーション」、30代から60代は「語学」が最も高い。次いで、20代は「語学」、30代及び40代は「対人スキル、コミュニケーション」、50代は「IT関連、デジタルツールに関するスキル」、60代は「心理学、カウンセリング」。
- 男性は全年代で「IT関連、デジタルツールに関するスキル」が最も高く、次いで20代及び30代は「対人スキル、コミュニケーション」、40代及び50代では、「経済、社会、政治、歴史」、60代は「語学」。
- 男女差が最も大きい「経済、社会、政治、歴史」をみると、40代で最も差が大きく、男性の方が7.3%ポイント高い。



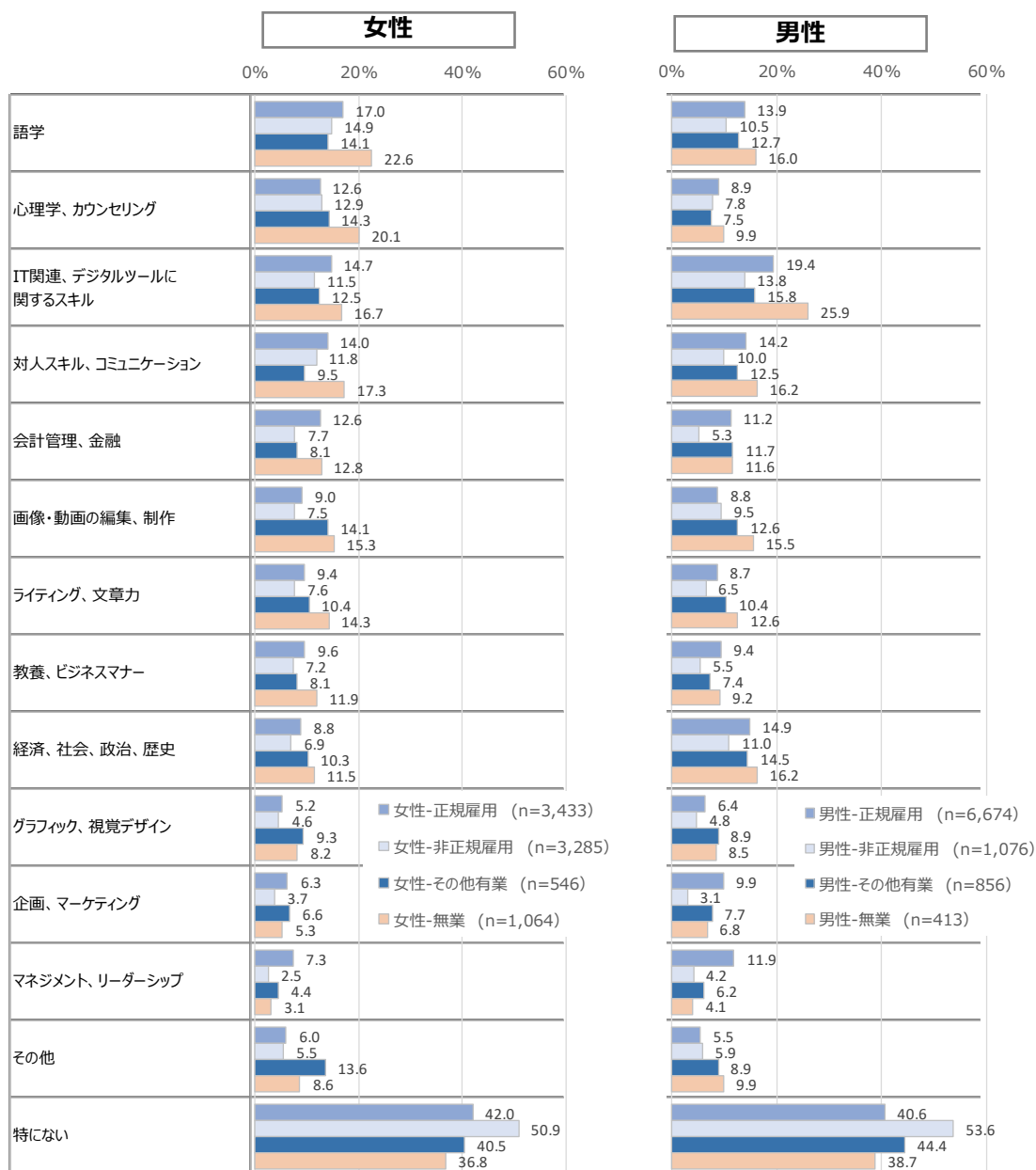
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(15) 仕事や職業キャリアに関して学びたい能力やスキル（複数回答・Q48）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q48.あなたが、仕事や職業キャリアに関して今後学びたい能力やスキルはどのようなことですか。

- 就業状態・雇用形態別にみると、女性は正規雇用、非正規雇用、無業で「語学」が最も高く、その他有業では「心理学、カウンセリング」が最も高い。男性は全ての就業状態・雇用形態で「IT関連、デジタルツールに関するスキル」が最も高く、無業では25.9%と特に高い。
- 男女差が最も大きい「経済、社会、政治、歴史」をみると、正規雇用で最も差が大きく、男性の方が6.1%ポイント高い。



4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識【追加分析】

(1) 仕事や職業キャリアに関する学びへの意欲（単数回答・Q22 i）

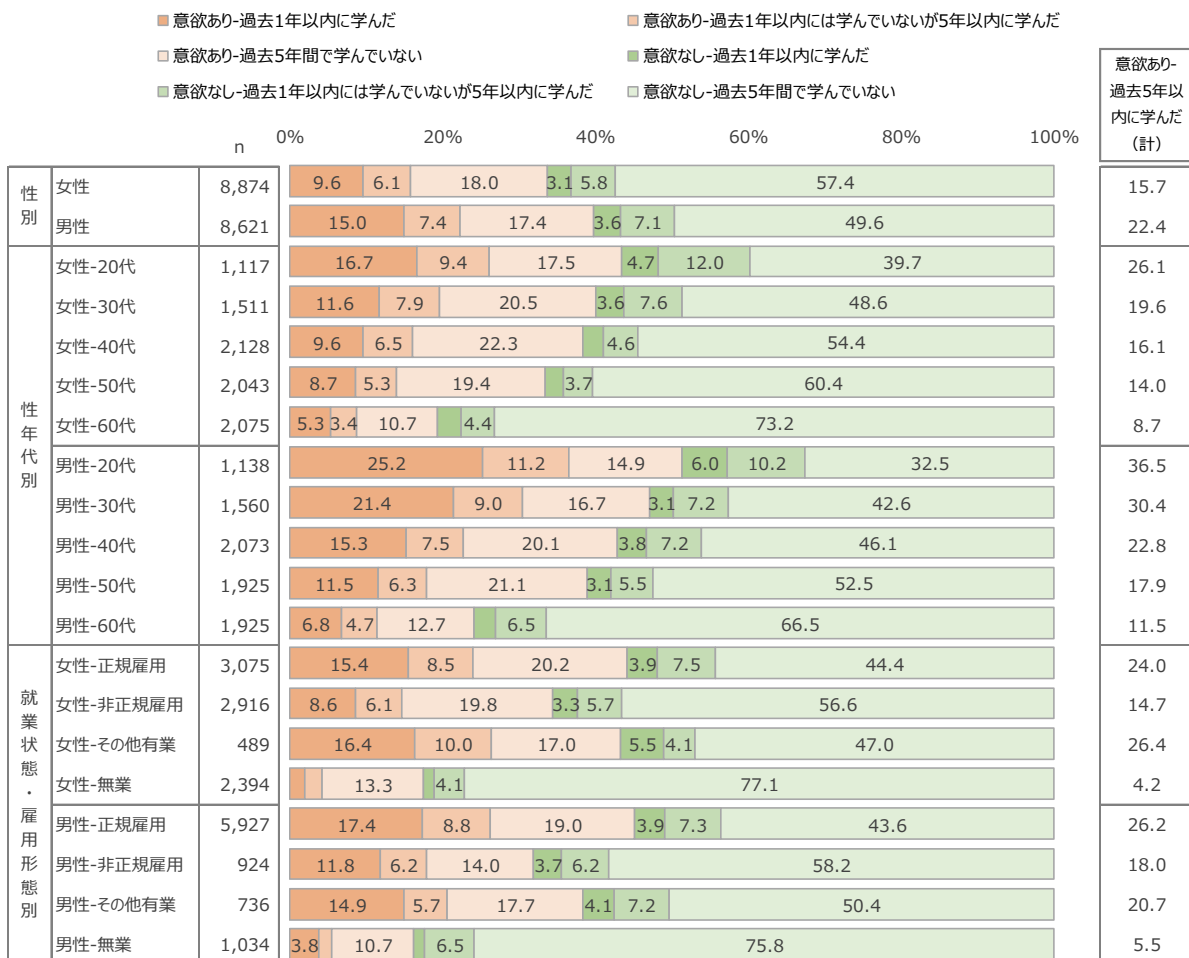
×仕事や職業キャリアに関する学びの経験（単数回答・Q23 i）

【対象】全員

Q22.あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 仕事や職業キャリアに関する学びについて、意欲があり過去5年以内に学んだ割合を性別にみると、女性は15.7%、男性は22.4%と、男性の方が6.7%ポイント高い。
- 「意欲なし-過去5年間で学んでいない」で男女差が最も大きく、女性の方が7.8%ポイント高い。
- 意欲があり過去5年以内に学んだ割合を性年代別にみると、男女とも若い年代ほど高く、20代では女性26.1%、男性36.5%。
- 就業状態・雇用形態別にみると、女性はその他有業が最も高く26.4%、男性は正規雇用が最も高く26.2%。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※「意欲あり-過去5年以内に学んだ (計)」=「意欲あり-過去1年以内に学んだ」+「意欲あり-過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」で算出

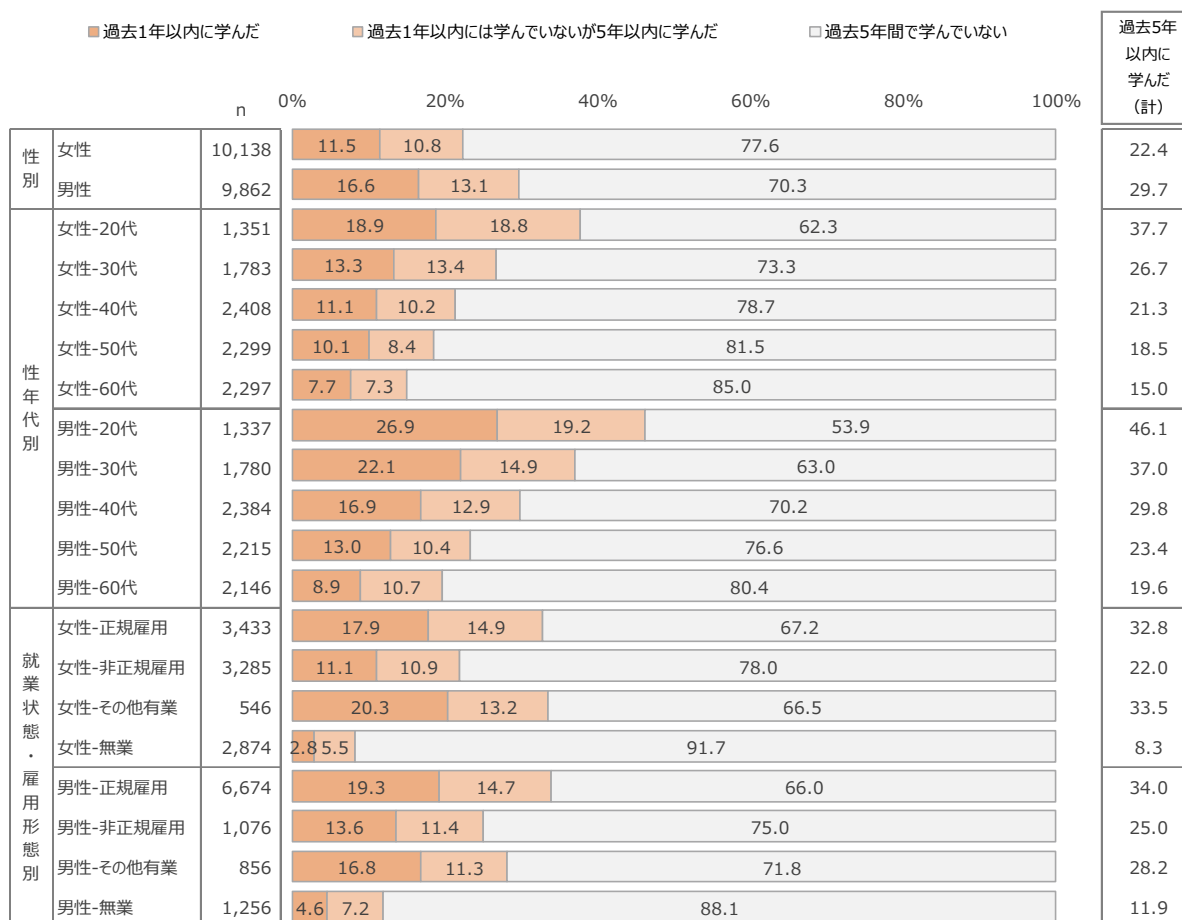
4. 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識【追加分析】

(2) 仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する学びの経験 (単数回答・Q23 i)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

- 仕事や職業キャリアに関する学びについて、性別に「過去5年以内に学んだ（計）」をみると、女性は22.4%、男性は29.7%と、男性の方が7.3%ポイント高い。
- 性年代別に「過去5年以内に学んだ（計）」をみると、男女とも若い年代ほど高く、20代では、女性37.7%、男性46.1%。
- いずれの年代でも女性よりも男性の方が高いが、男女差が最も大きい年代は30代で、男性の方が10.3%ポイント高い。
- 就業状態・雇用形態別に「過去5年以内に学んだ（計）」をみると、女性はその他有業が33.5%、正規雇用が32.8%と高い。男性は正規雇用が34.0%と高い。



※「過去5年以内に学んだ（計）」＝「過去1年以内に学んだ」＋「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」で算出

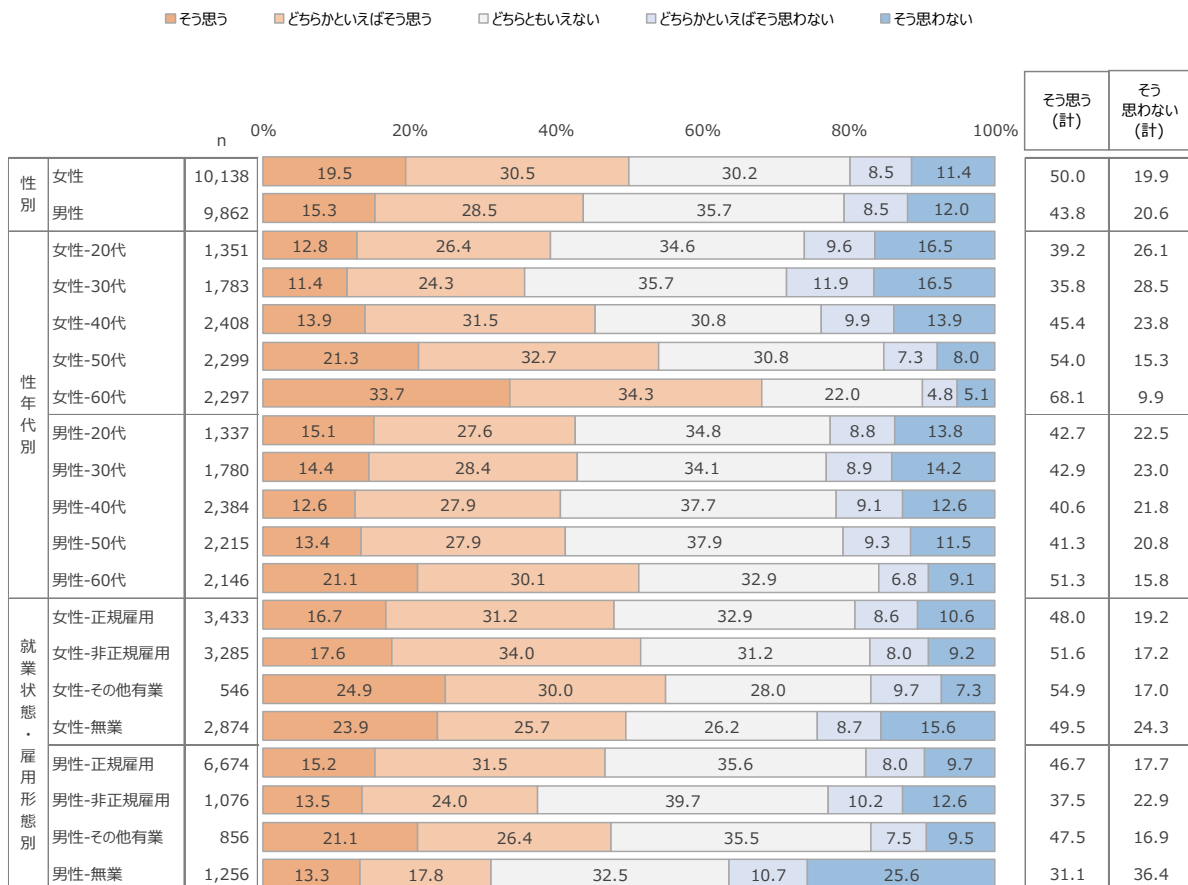
5. 役割や居場所に対する意識

(1) 現在の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q49）

【対象】全員

Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 性別に「そう思う（計）」をみると、女性50.0%、男性43.8%と、女性の方が6.2%ポイント高い。
- 性年代別にみると、「そう思う（計）」は、男女ともに60代が最も高く、女性では30代、男性では40代が最も低い。男女差をみると、60代で最も差が大きく、女性68.1%、男性51.3%と、女性の方が16.8%ポイント高い。次いで、50代も女性の方が12.7%ポイント高い。一方、「そう思わない（計）」は、30代女性が28.5%で最も高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、「そう思う（計）」は、男女ともにその他有業が最も高く、女性54.9%、男性47.5%と、女性の方が7.4%ポイント高い。また、「そう思わない（計）」は男性の無業で36.4%と最も高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識

(1) 学びの経験 (単数回答・Q23 i ~vi 計)

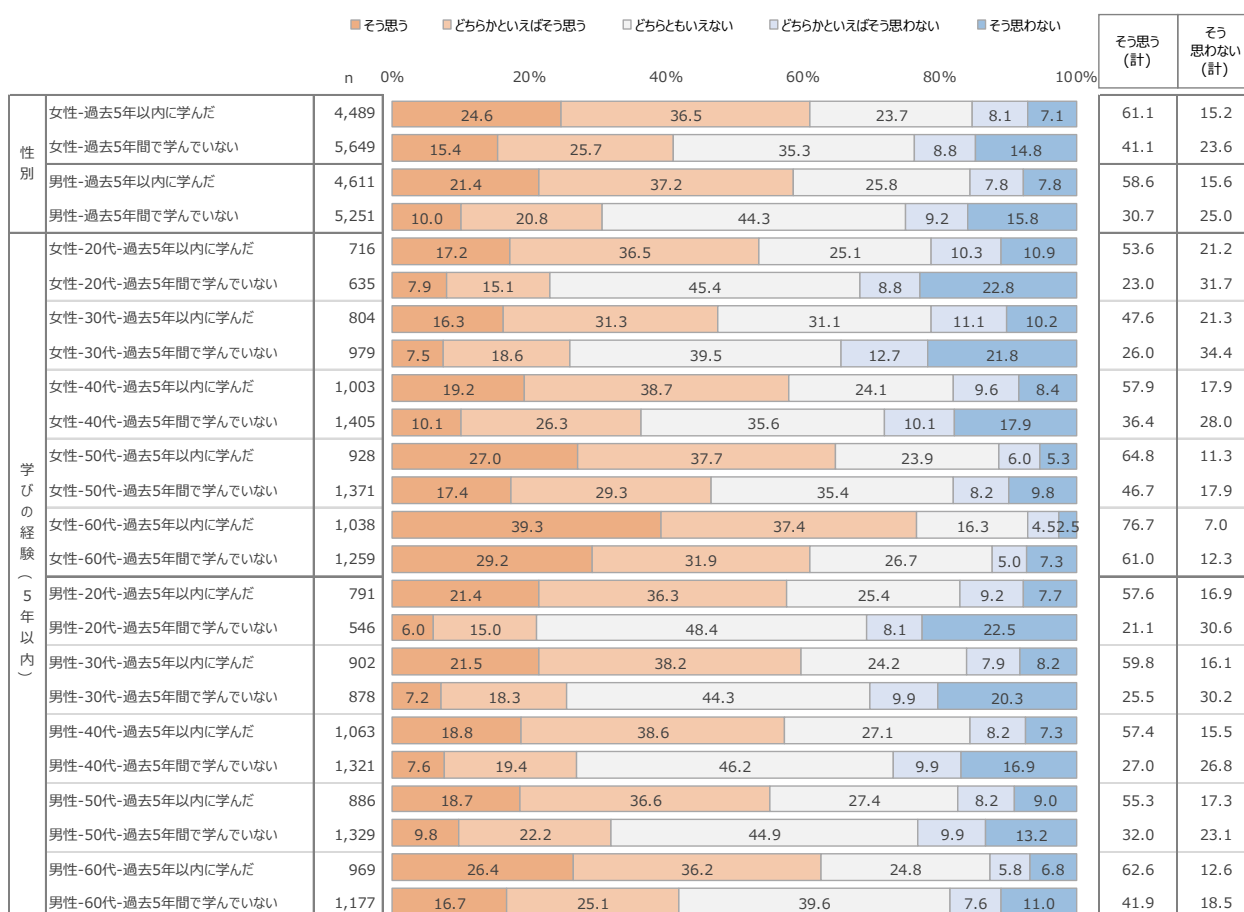
×現在の自分の役割や居場所に対する意識 (単数回答・Q49)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験別にみると、男女ともに、過去5年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に男性では、学んだ層は58.6%、学んでいない層は30.7%と、27.9%ポイント高い。
- 年代、学びの経験別にみると、全ての性年代で、過去5年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に20代から40代の男性と20代の女性では、学びの経験がない人の2倍以上。
- 過去5年以内に学びの経験のある人を性年代別にみると、「そう思う（計）」は男女ともに60代で最も高いが、女性76.7%、男性62.6%と、女性の方が14.1%ポイント高い。



※分析軸について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工
 過去5年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」又は「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択
 過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識

(1) 学びの経験 (マトリクス項目・単数回答・Q23 i ~ vi 計)

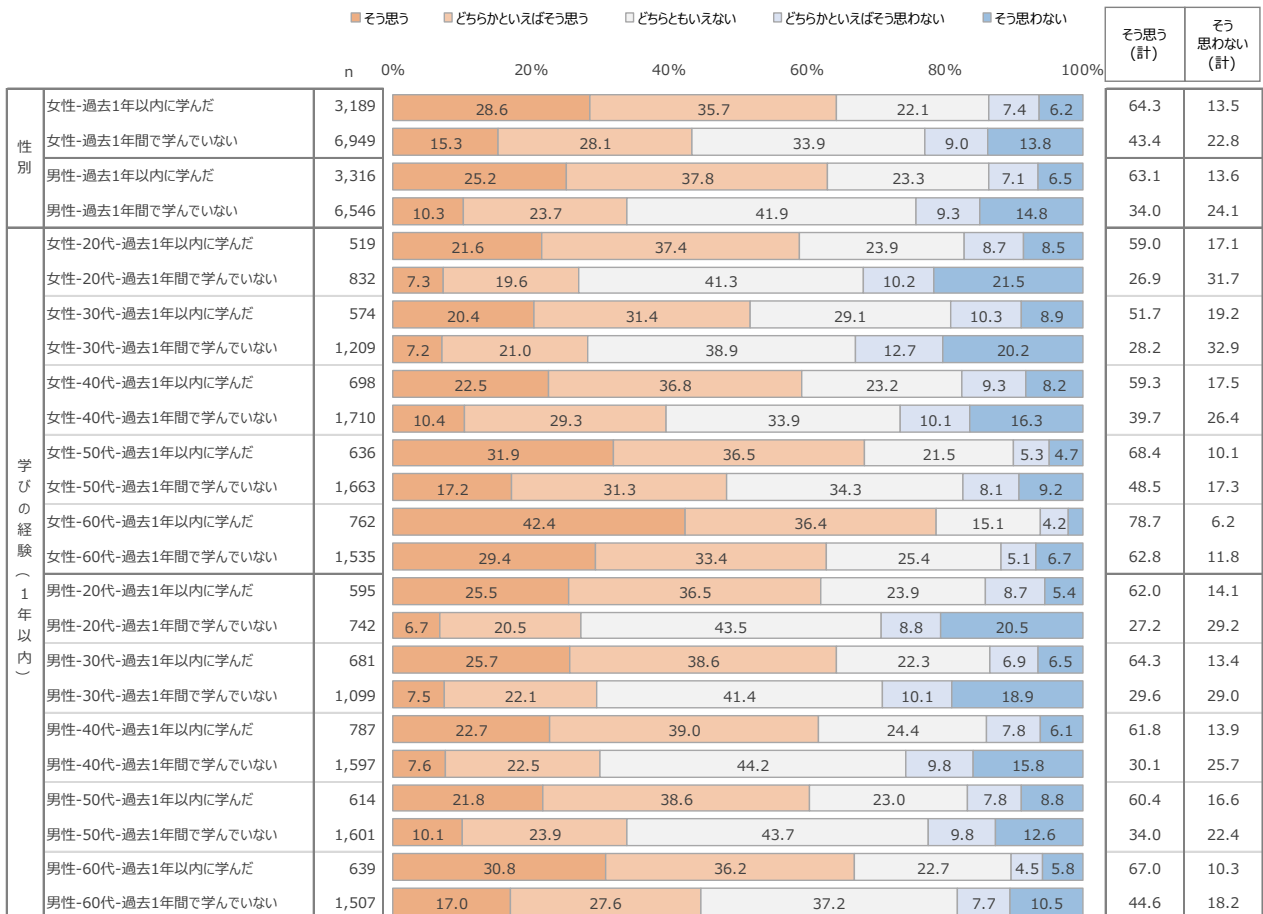
×現在の自分の役割や居場所に対する意識 (単数回答・Q49)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験別にみると、男女ともに、過去1年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高く、過去1年間で学んでいない方はその割合が低い。特に男性では、過去1年以内に学んだ層は63.1%、過去1年間で学んでいない層は34.0%と、29.1%ポイント高い。
- 年代、学びの経験別にみると、全ての性年代で、過去1年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に20代は男女ともに、学びの経験がない人との差が大きく、男性は34.8%ポイント高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※分析軸について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工

過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択

過去1年間で学んでいない : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」を選択していない

※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」で算出

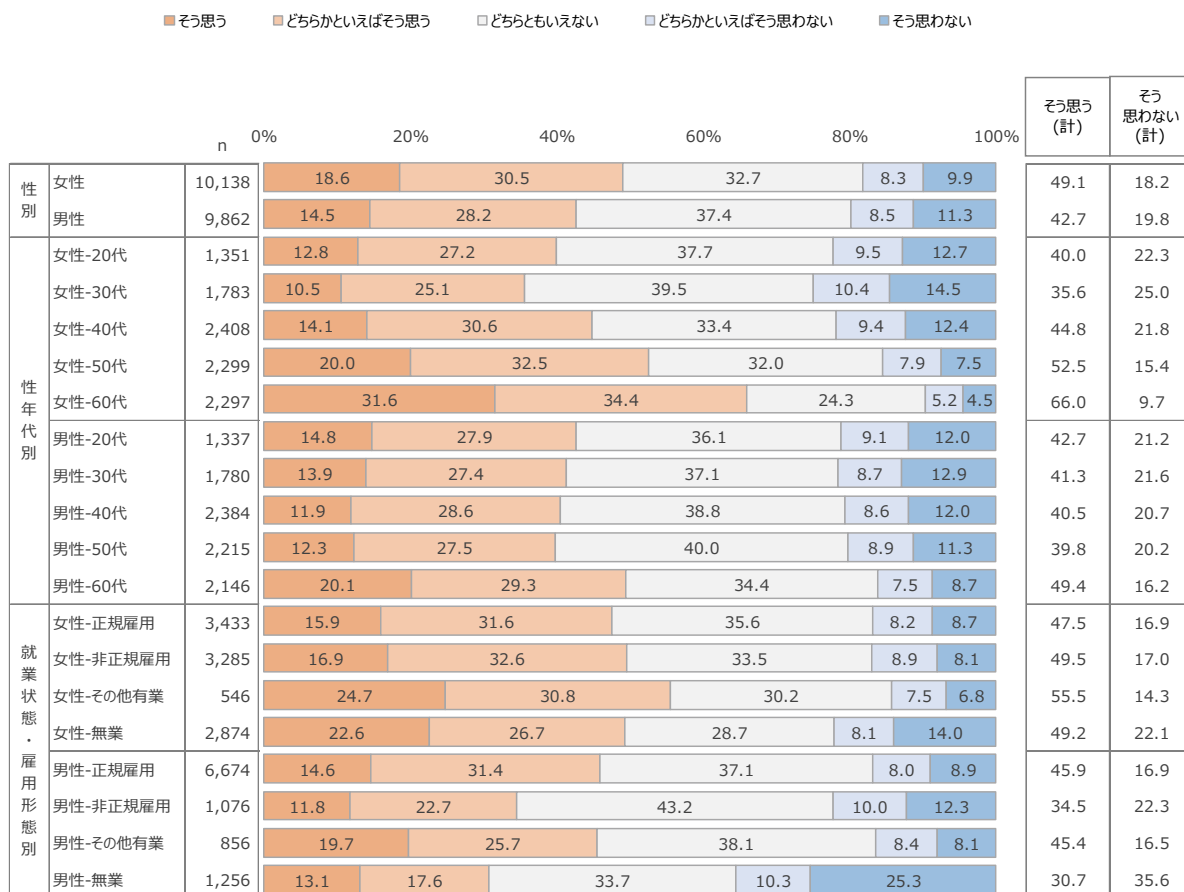
5. 役割や居場所に対する意識

(2) 将来の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q50）

【対象】全員

Q50.5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 性別にみると、「そう思う（計）」は、女性49.1%、男性42.7%と、女性の方が6.4%ポイント高い。
- 性年代別にみると、「そう思う（計）」は男女ともに60代が最も高く、女性66.0%、男性49.4%と、女性の方が16.6%ポイント高い。一方、「そう思わない（計）」は、30代女性が25.0%で最も高い。
- 就業状態・雇用形態別にみると、「そう思う（計）」は女性はその他有業が55.5%と最も高く、男性は正規雇用が45.9%と最も高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識

(2) 学びの経験 (マトリックス項目・単数回答・Q23 i ~vi 計)

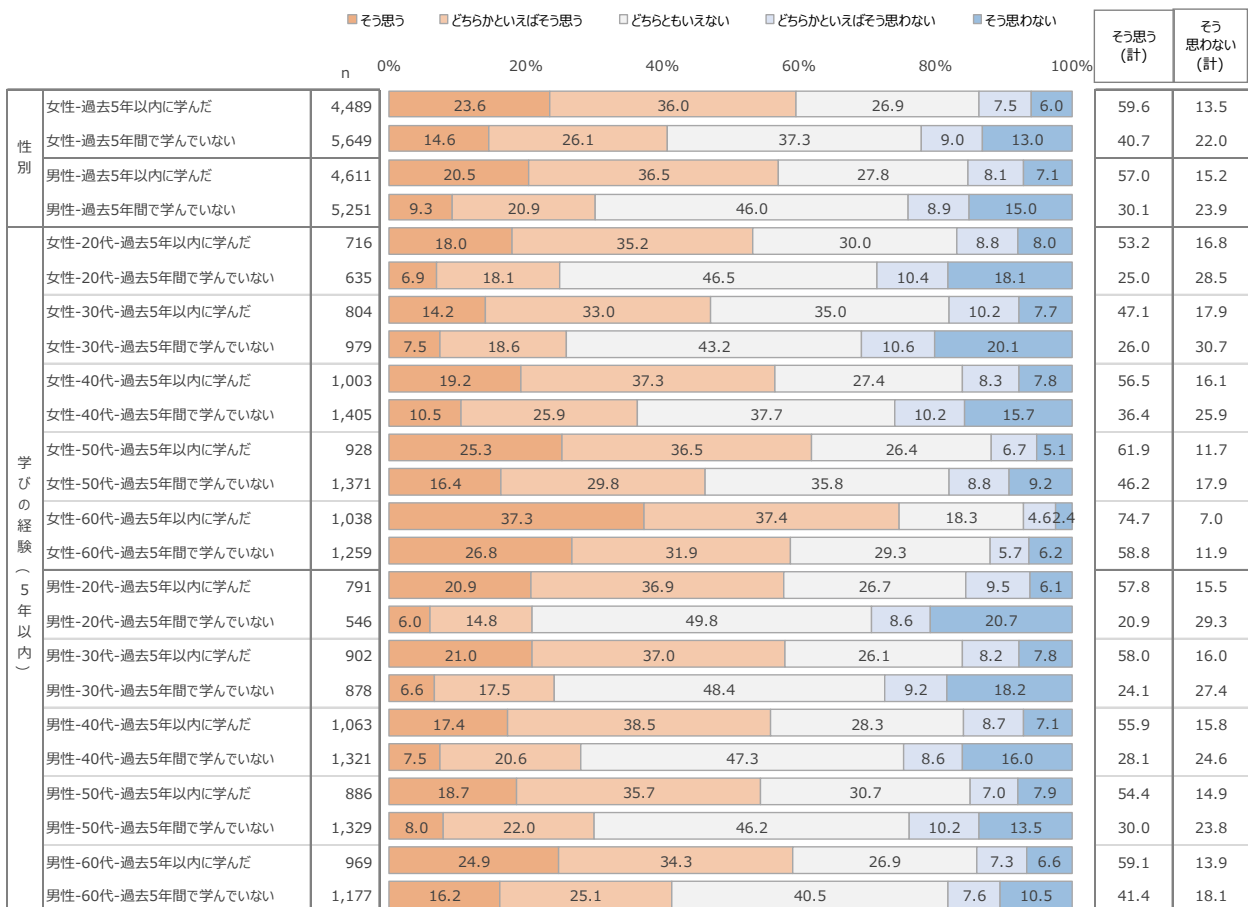
× 将来の自分の役割や居場所に対する意識 (単数回答・Q50)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q50.5年後、あなたは普通の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験別にみると、男女ともに、過去5年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に男性では、学んだ層は57.0%、学んでいない層は30.1%と、26.9%ポイント高い。
- 年代、学びの経験別にみると、全ての性年代で、過去5年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に20代及び30代の男性と、20代の女性では、学びの経験がない人の2倍以上。
- 過去5年以内に学びの経験のある人を性年代別にみると、「そう思う（計）」は男女ともに60代で最も高いが、女性74.7%、男性59.1%と、女性の方が15.6%ポイント高い。



※分析軸について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のように選択肢を加工
 過去5年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」又は「過去1年以内に学んでいないが5年以内に学んだ」を選択
 過去5年間で学んでいない : 全ての項目で「過去5年間で学んでいない」を選択

※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識

(2) 学びの経験 (マトリクス項目・単数回答・Q23 i ~vi 計)

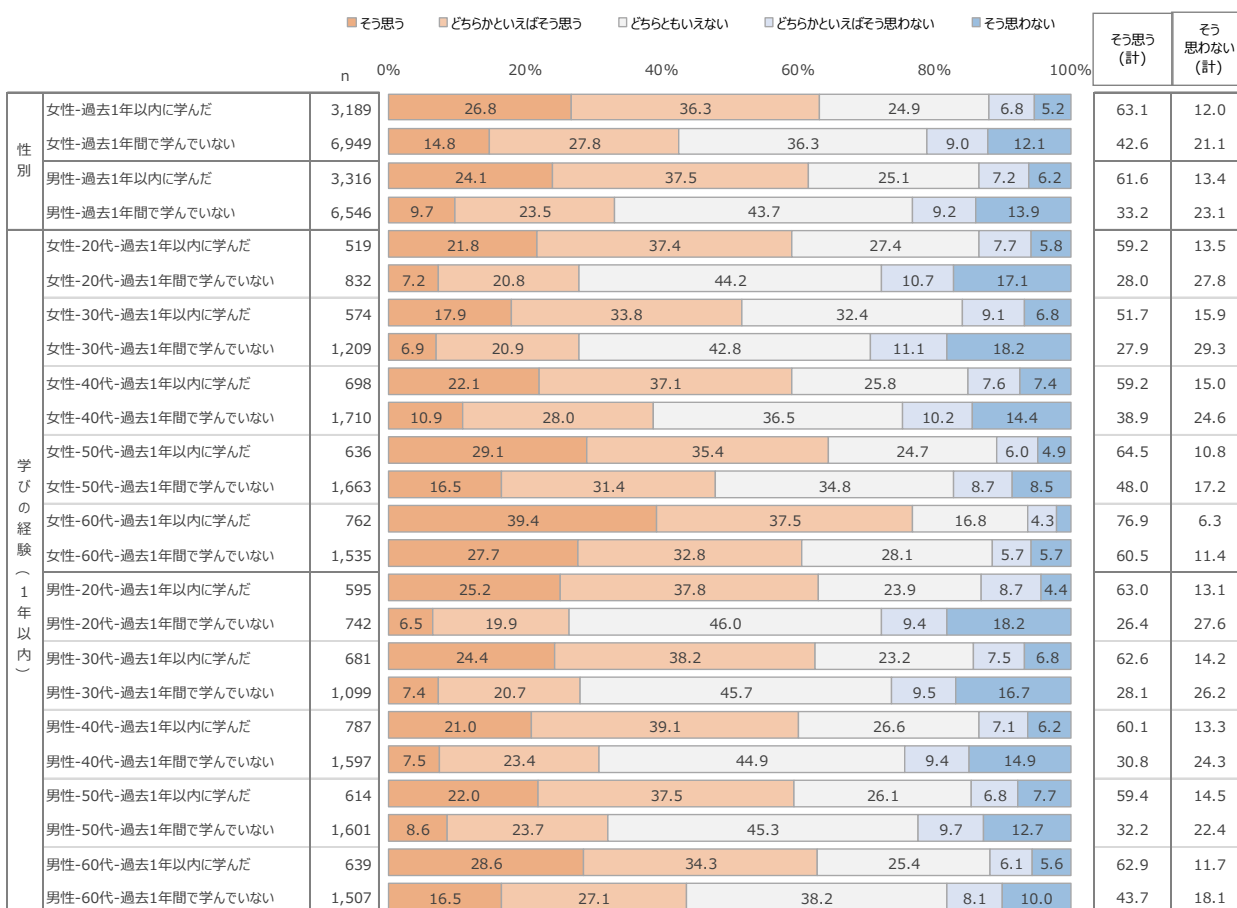
× 将来の自分の役割や居場所に対する意識 (単数回答・Q50)

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q50.5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験別にみると、男女ともに、過去1年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高く、過去1年間で学んでいない方はその割合が低い。特に男性では、1年以内に学んだ層は61.6%、過去1年間で学んでいない層は33.2%と、28.4%ポイント高い。
- 年代、学びの経験別にみると、全ての性年代で、過去1年以内に学びの経験がある方が「そう思う（計）」の割合が高い。特に20代は男女ともに、学びの経験がない人との差が大きく、女性は31.2%ポイント、男性は36.6%ポイント高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※分析軸について Q23の6項目（「仕事や職業キャリアに関すること」～「その他」）の回答により、以下のよう選択肢を加工
 過去1年以内に学んだ : 1つ以上の項目で「過去1年以内に学んだ」を選択
 過去1年間で学んでいない : 全ての項目で「過去1年以内に学んだ」を選択していない

※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識【追加分析】

(1) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

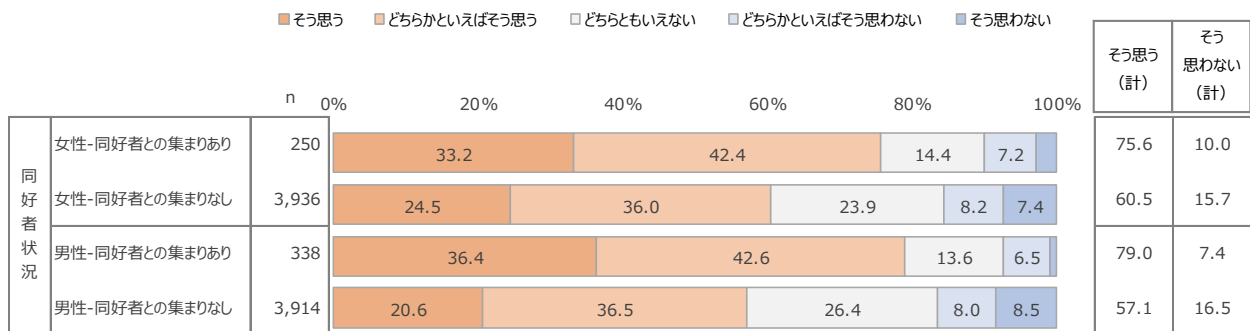
×現在の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q49）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態別に現在の自分の役割や居場所について、性別に「そう思う（計）」をみると、男女とも「同好者との集まりあり」の方が高く、「同好者との集まりなし」に比べて女性は15.1%ポイント、男性は21.9%ポイント高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※分析軸について

Q24「仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態」の回答により、以下のように分析軸を加工

同好者との集まりあり：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択した

同好者との集まりなし：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択していない

※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、
「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識【追加分析】

(2) 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態（複数回答・Q24）

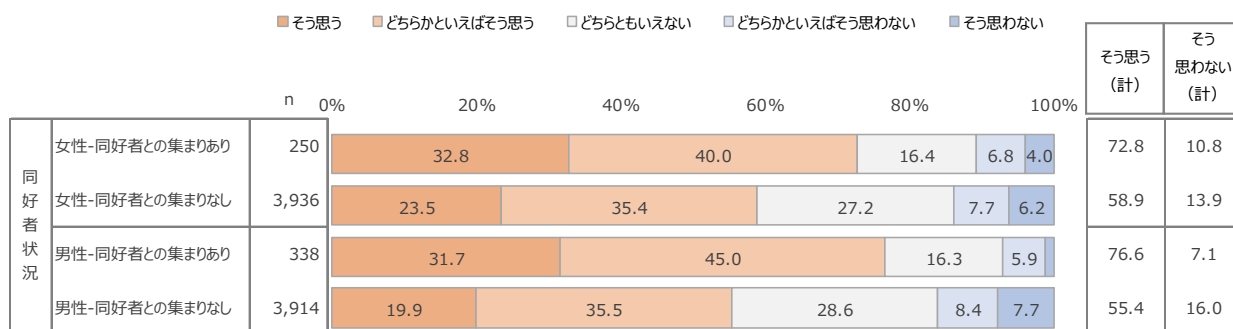
×将来の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q50）

【対象】Q23 ii～viのうち1項目以上を過去5年以内に学んだ人

Q24.どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

Q50.5年後、あなたは普通の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態別に将来の自分の役割や居場所について、性別に「そう思う（計）」をみると、男女とも「同好者との集まりあり」の方が高く、「同好者との集まりなし」に比べて女性は13.9%ポイント、男性は21.2%ポイント高い。



※ 3%未満は、数値表示を省略しています。

※分析軸について

Q24「仕事や職業キャリア以外の学びの場所・形態」の回答により、以下のように分析軸を加工

同好者との集まりあり：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択した

同好者との集まりなし：選択肢5「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」を選択していない

※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識【追加分析】

(3) 学びの経験（マトリクス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

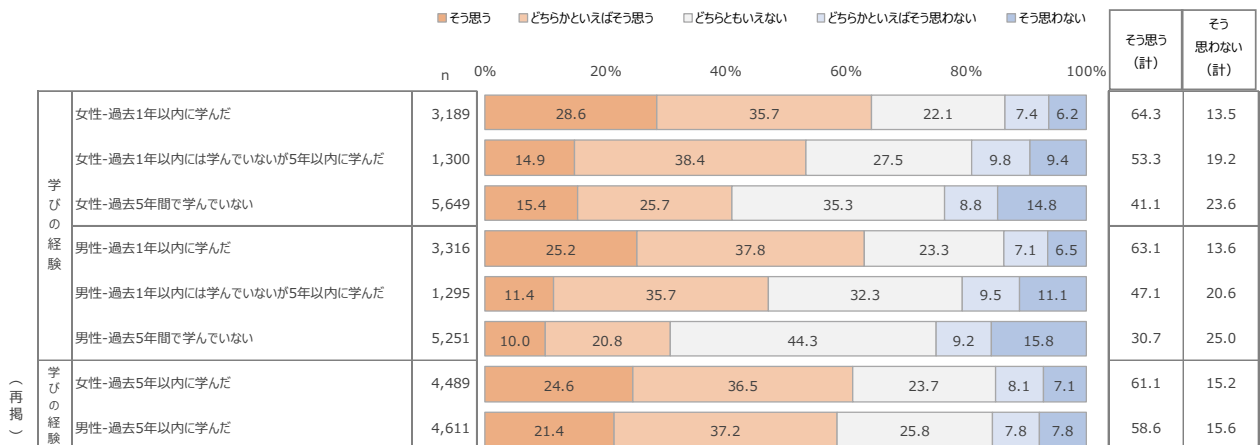
×現在の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q49）

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験の有無別に現在の自分の役割や居場所についてみると、「そう思う（計）」は、男女とも学んでいない人より学んだ人の方が高く、過去1年以内に学んだ女性は64.3%、男性は63.1%。特に男性は過去5年間で学んでいない人に比べ32.4%ポイント高く、過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ人と比べても16.0%ポイント高い。
- いずれも男性より女性の方が「そう思う（計）」が高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

5. 役割や居場所に対する意識【追加分析】

(4) 学びの経験（マトリクス項目・単数回答・Q23 i～vi計）

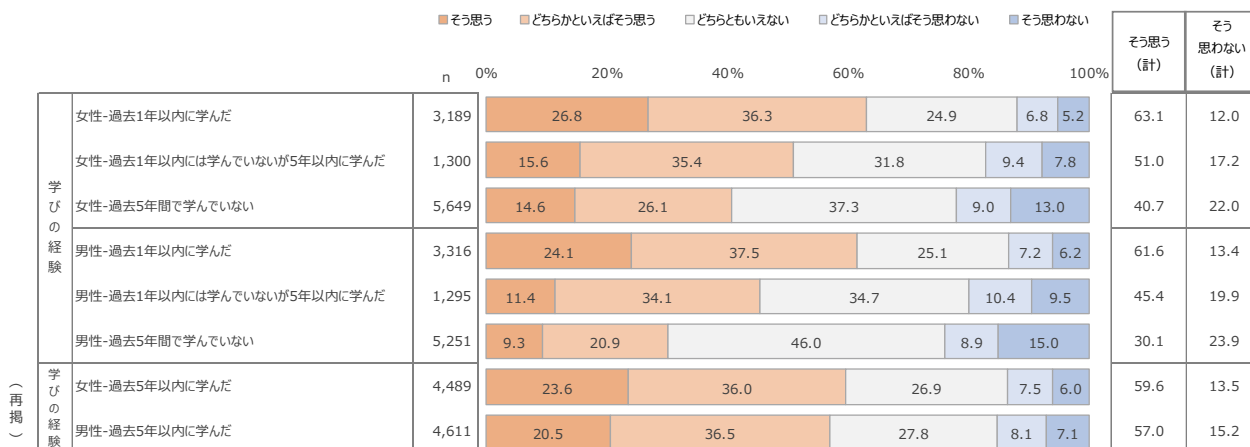
×将来の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q50）

【対象】全員

Q23.あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

Q50.5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

- 学びの経験の有無別に将来の自分の役割や居場所についてみると、「そう思う（計）」は、男女とも学んでいない人より学んだ人の方が高く、過去1年以内に学んだ女性は63.1%、男性は61.6%。特に男性は過去5年間で学んでいない人に比べ31.5%ポイント高く、過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ人と比べても16.2%ポイント高い。
- いずれも男性より女性の方が「そう思う（計）」が高い。



※「そう思う（計）」=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」=「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

第3章 学びに関する課題 とセグメント別特徴

1. 第2章の結果からみえた 学びに関する課題とポイント

1. 第2章の結果からみえた学びに関する課題とポイント

本調査の目的は、男女共同参画の視点から、人生を豊かにする学びに対する関心や意識の傾向を明らかにするとともに、学びを促進、継続するために求められる支援等を把握することであった。第2章の結果を踏まえると、学びに関して以下の課題が示唆された。

第2章の結果からみえた学びに関する課題

- **学びへの意欲はあるが、行動に至れない**：男女ともに、学びへの関心・意欲がある一方、過去1年以内の学習経験が限定的で「学んでいない」層が大きい（特に40代から60代女性）ため、行動につながる仕組みが課題。（P24、26）
- **学びの主たる阻害要因（費用・時間・学ぶ内容への迷い）への対応**：広義の学びについて、学んでいない理由の上位は、女性では「費用がかかる」「何を学んでいいかわからない」、男性では「仕事が忙しくて時間がない」「何を学んでいいかわからない」などである。また、仕事や職業キャリアに関する学びについて、主な障壁は、女性では「金銭的余裕がない」「学んでも収入アップにつながらない」、男性では「金銭的余裕がない」「仕事が忙しくて時間がない」などである。これらを踏まえ、費用負担の軽減、学びの時間の創出、費用をかけずに学べる内容や学習機会・場に関する情報提供、学習内容選択の迷いを解消するための選択支援の構築が課題として挙げられる。（P31、77）
- **学びに関する「情報」と「活用の場」が不足している**：男女ともに、今後の学びのために必要なこととして「情報（内容・時間・場所・費用など）」と「活用の場」が上位であった。これらの不足をどのように解消すべきかが課題。（P34）

また、課題として断定するものではないが、学びの促進・継続に資する示唆が得られたため、以下の4領域に整理した。

（1）広義の学びに対する意識からみえたポイント

- **学びの関心事は「健康」から**：男女ともに、関心が「健康」に集中している。健康を入口として他領域へ関心が広がるような“つなげ方”ができれば、学びの関心領域が拡張する可能性がある。（P23）
- **学び方の多様化**：学び方は男女ともに独学が中心で、独学は制約が少なく、気軽に取り組みやすい。一方、講座・教室等や、同好者が自主的に行っている集まり・サークル活動などの外部の学習機会の利用は、学習の効果につながる要因となっている。学び方の選択肢を増やすことで、学びの開始・継続を後押しできる可能性がある。（P27、42）
- **学びへの費用負担に対する抵抗感**：男女ともに、学びに費用をかけたくない意識が強い層には、低負担・低価格で始められる学習機会の情報提供を通じて、学びの開始を後押しできる可能性がある。（P37）
- **学びに関する配偶者の理解が得られにくい層への対応**：男女ともに、学びに対して配偶者が「積極的に支援してくれる」又は「理解がある」とする割合は半数未満。配偶者の理解を前提とせずに始められる学び（時間・費用・参加形態等のハードルが低い学習機会）があれば、学びの開始を後押しできる可能性がある。（P38）

1. 第2章の結果からみえた学びに関する課題とポイント

(2) デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識からみえたポイント

- 「習得意向なし」層の大きさ：「身につけたいと思わない」とする層が男女とも4割前後存在する。この層に対しては、まず習得意向を喚起するきっかけづくりを行うことで、デジタルツールへの関心を高められる可能性がある。(P52)
- 生活スキル中心から仕事スキルへの橋渡し：男女ともに、保有スキルは日常生活で活用する領域が上位を占める。こうした生活スキルを起点に、仕事・生産性領域へ展開できるスキルを提示できれば、仕事・キャリアにもいかせる可能性がある。(P53)
- 習得ニーズの男女差への対応：生活スキルに続いて身につけたいスキルは、女性ではPC関連スキル、男性では生成AI活用と傾向が異なる。ニーズの違いが起きる背景を検証し、ニーズに応じた学習内容を設計し、提供することが求められる。(P54)
- 非意向理由は「理由なし／必要性なし」が中心：男女ともに、時間・費用以前に、必要性が理解・納得されていない層が一定数存在する。このため、「何ができるようになるか」等、習得によって得られる効果や活用場面を具体的に示すことが求められる。(P55)

(3) 仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識からみえたポイント

- ワーク・ライフ・バランス重視下での学び時間確保：男女ともに、仕事観として仕事と生活の両立を重視する傾向が強い。このため、短時間で完結する学習や隙間時間で取り組める学習など、生活リズムに合わせた学びの時間設計が求められる。(P58、67)
- 学ぶ局面への支援：男女ともに、会社等の指示による学びが「ない」層が一定存在する。このため、本人が学習機会を探し、選べるよう、学びに関する情報提供が求められる。(P59、83)
- 学習内容ニーズの違いへの対応：学びの内容や今後学びたい領域には男女差がみられる。ニーズの違いが起きる背景を検証し、ニーズに応じた学習内容を設計し、提供することが求められる。(P64、87)
- 学習環境（コミュニティ）の不足：「該当するものはない」が最多で、女性の割合が相対的に高い。相談先や学び合いの機会（仲間・コミュニティ等）にアクセスできていない可能性があるため、コミュニティに関する情報提供が求められる。(P69)
- 学びの目的の違いへの対応：就業状態によって学びの目的が異なる。男女ともに、有業者は「現在の仕事に必要な知識・技能の習得」が中心である一方、無業者は「今後の仕事への準備」「再就職に向けた準備」を目的とする傾向がみられる。このため、目的に応じた学習機会に関する情報提供が求められる。(P74)
- 学びの障壁への対応：費用・時間・情報が学びの障壁として挙げられ、今後の学びに必要なこと（収入アップへの接続、支援、学びに関する情報）とも整合する。低負担で学べる機会を見つけやすくする情報提供が求められる。(P68、77、83)
- 仕事・キャリア満足度が低い層を踏まえたキャリア形成支援：男女ともに、仕事や働き方、職業キャリアの満足度が低い層が一定数みられる。また、学びの障壁や今後の学びに必要なことも明らかになっている。これらを踏まえ、学びを通じたキャリア形成を支える学習環境の整備が求められる。(P77、83、86)

1. 第2章の結果からみえた学びに関する課題とポイント

(4) 役割や居場所に対する意識からみえたポイント

- **学び未経験層の支援の必要性**：学びの経験がない層では、役割・居場所感が相対的に低い傾向がみられる。特に若年層ほどその傾向が強く、男性20代が顕著である。また、役割・居場所感の男女差が大きい年代は60代で、学びの経験がある層及び学びの経験がない層ともに、男性60代は女性に比べて低い。なお、同好者が自主的に行っている集まり・サークル活動などの外部の学習機会の利用は役割・居場所感につながる可能性がある。このため、学びの機会が必要な層に届くよう、学び未経験者が参加しやすい入口（参加ハードルの低減）の設計が求められる。（P93、94）

第2章の結果から、学びに対する意欲は相当程度確認される一方で、学習経験は限定的であり、意欲と行動の間にギャップがみられることが明らかになった。また、学習経験者では学びの効果を主観的に実感している割合が高く、役割意識や居場所感といった生きがいに関連する指標も相対的に高い傾向がみられた。これらを踏まえると、施策上の着眼点は「意欲をいかに行動に移すか」にある。

さらに、学びの経験がない層で役割意識や居場所感が低い傾向にあることから、学びの機会への参加を後押しすることが、役割意識や居場所感の向上に資する可能性が示唆される。

ここまで、学びの実践に向けた課題を全体傾向及び性年代別の視点から俯瞰してきた。これらの視点は、施策の大きな方向性を定める基礎情報として有用である一方、より具体的な支援策を検討するためには、学びの実践に至っていない層の内実を掘り下げる分析が不可欠である。

次頁以降では、「学びへの意欲があるが学べていない層」に焦点を当て、その属性や意識、課題認識を分析する。なお、分析にあたっては性別による差異にも着目する。

2. 学びへの意欲と学びの経験による セグメント別の属性の特徴

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

本分析の概要

(1) 本分析の目的

本章では、「学びへの意欲があるが学べていない層」に着目し、男女別の属性及び学びに対する関心・意識の傾向を把握する。あわせて、意欲を実践につなげている「学びへの意欲があり学べている層」と比較し、両者における属性及び学びに対する関心・意識の差異を整理する。

なお、「学びへの意欲があるが学べていない層」「学びへの意欲があり学べている層」については、以下のセグメント定義に基づき分類し、分析を行う。

(2) セグメントの定義

学びへの意欲 (Q22) と学びの経験 (Q23) を用い、2つの項目を掛け合わせることで、回答者を4区分に分類した。定義は以下のとおりである。

学びへの意欲 (Q22)

※選択肢：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」

学びへの意欲あり：Q22の6項目のいずれかで、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択

学びへの意欲なし：Q22の6項目のいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を選択
ただし、全ての項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は選択していない

学びの経験 (Q23)

※選択肢：「過去1年以内に学んだ」「過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ」「過去5年間で学んでいない」

学びの経験あり：Q23の6項目のいずれかで、「過去1年以内に学んだ」を選択

学びの経験なし：Q23の6項目のいずれにも、「過去1年以内に学んだ」を選択していない

セグメント4区分 ※学びへの意欲 (Q22) × 学びの経験 (Q23)

学びへの意欲あり×学びの経験あり：I 意欲があり学べている層

学びへの意欲あり×学びの経験なし：II 意欲があるが学べていない層

学びへの意欲なし×学びの経験あり：III 意欲はないが学べている層

学びへの意欲なし×学びの経験なし：IV 意欲がなく学んでいない層

全体のサンプル数には、Q22の6項目全てに「分からない」と回答したサンプル（女性：685S、男性：820S）を含む。なお、当該サンプルは学びへの意欲の有無が判別できないため、セグメント（I～IV）の分析対象外とした。各セグメントのサンプル数及び構成比は下表のとおりである。

		女性 (n=9,453)		男性 (n=9,042)	
		学びへの意欲		学びへの意欲	
		あり	なし	あり	なし
学びの経験	あり	I 意欲があり学べている層 2,952S、31.2%	III 意欲はないが学べている層 194S、2.1%	I 意欲があり学べている層 3,052S、33.8%	III 意欲はないが学べている層 229S、2.5%
	なし	II 意欲があるが学べていない層 4,058S、42.9%	IV 意欲がなく学んでいない層 2,249S、23.8%	II 意欲があるが学べていない層 3,382S、37.4%	IV 意欲がなく学んでいない層 2,379S、26.3%

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(3) 「Ⅱ意欲があるが学べていない層」となる回答条件 (Q22×Q23)

前項のセグメント定義を、設問 (Q22・Q23) の回答と対応づけて示す。どのような回答が「Ⅱ 意欲があるが学べていない層」に該当するかを、以下に整理する。

Q 22 <small>【全員】</small>						
MtrxSA	あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。 本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。	(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)				
		1	2	3	4	5
	→横に回答	1 そう思う	2 どちらかといえば そう思う	3 どちらかといえば そう思わない	4 そう思わない	5 分からない
i.	仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ii.	家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iii.	文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iv.	地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v.	健康に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
vi.	その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

①赤枠内に1つ以上回答があれば、「学びへの意欲あり」

②青枠内に1つ以上回答があり、赤枠内に回答がなければ、「学びへの意欲なし」

6項目全て灰色枠内に回答した場合は、意欲不明のため、分析対象外

Q 23 <small>【全員】</small>				
MtrxSA	あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。 本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。	(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)		
		1	2	3
	→横に回答	1 過去1年以内に学んだ	2 過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ	3 過去5年間で学んでいない
i.	仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ii.	家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iii.	文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iv.	地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v.	健康に関すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
vi.	その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

①赤枠内に1つ以上回答があれば、「学びの経験あり」

②6項目全て青枠内に回答があれば、「学びの経験なし」

Q22で①に該当し、かつQ23で②に該当する場合、「Ⅱ意欲があるが学べていない層」と判定する。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

本分析のまとめ

II 意欲があるが学べていない層の特徴（男女比較）

これまでの分析結果を踏まえ、「II 意欲があるが学べていない層」のグループとしての特性（傾向）を、男女別に整理した。あわせて、男女の共通点・相違点を示すとともに、当該層において、割合が高い属性・生活スタイル・意識の特徴を以下に示す。

1) 属性

当該層において、割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

	女性II	男性II
年代	40～60代の割合が高い。	40～60代の割合が高い。
最終学歴	非大卒の割合が8割。	非大卒の割合が6割。
配偶者の有無	有配偶率は6割弱。	有配偶率は6割弱。
同居の子供の有無	19歳以上の子供と同居が2割。 同居の子供はいないが6割。	19歳以上の子供と同居が2割。 同居の子供はいないが6割。
就業状態・雇用形態	正規雇用、非正規雇用、無業がそれぞれ3割。	正規雇用の割合が7割。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12）

共通点：自由時間、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は、男女で大きな差はみられない（自由時間：平均約6時間半、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間：平均約2時間）※Q8。
仕事以外で参加している取組・活動は少ない※Q12。

相違点：女性IIは男性IIに比べ、収入を伴う仕事時間が短く（平均5時間2分）、家事・育児・介護時間が長い（平均2時間59分）。
男性IIは女性IIに比べ、収入を伴う仕事時間が長く（平均7時間30分）、家事・育児・介護時間が短い（平均1時間）※Q8。
配偶者との家事分担割合は女性IIが高い（女性II平均81.2%、男性II 25.2%）※Q9。
女性IIは男性IIに比べ、仕事以外で参加している取組・活動が「特にない」が高い※Q12。

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q27、Q28、Q44、Q46）

共通点：学びに対して「なるべくお金をかけたくない」が上位（女性II 62.1%、男性II 51.1%）※Q28。
今後学ぶために必要なことでは、「学びに関する情報」「経済的支援」が上位※Q27。

相違点：学びの障壁で、女性IIは男性IIに比べ「家事等が忙しくて時間がない」「何を学んでいいかわからない」、男性IIは女性IIに比べ、「仕事が忙しくて時間がない」を挙げる割合が高い※Q44。
女性IIは男性IIに比べ、今後の学びに必要なことで、「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」を挙げる割合が高い※Q27、Q46。

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

共通点：現在・将来ともに「ある（そう思う計）」が約5割※Q49、Q50。

相違点：女性IIは男性IIに比べて、「ある（そう思う計）」が高い（現在：女性II 54.3%、男性II 47.5%、将来：女性II 52.8%、男性II 45.9%）※Q49、Q50。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

女性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

ここでは、女性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」と「Ⅰ意欲があり学べている層」を比較し、両者における属性及び学びに対する意識の違いを以下に示す。

1) 属性

女性Ⅰに比べ、女性Ⅱで割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

- ・年代（Q2）：40～60代の割合が高い（20代の割合は低い）。
- ・居住地（Q3）：三大都市圏の居住率が低い（女性Ⅱ 57.8%、女性Ⅰ 60.7%）。
- ・最終学歴（Q7）：非大卒の割合が高い（女性Ⅱ 79.4%、女性Ⅰ 67.4%）。
- ・配偶者の有無（Q5）：有配偶率が高い（女性Ⅱ 55.2%、女性Ⅰ 52.4%）。
- ・同居の子供（Q6）：19歳以上の子供の割合が高い（女性Ⅱ 22.3%、女性Ⅰ 17.7%）。
- ・就業状態（Q13）：正規雇用の割合が低く（女性Ⅱ 32.2%、女性Ⅰ 37.0%）、非正規雇用（女性Ⅱ 34.9%、女性Ⅰ 30.5%）及び無業（女性Ⅱ 28.5%、女性Ⅰ 25.6%）の割合が高い。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12、Q17）

女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間が短く、仕事以外の取組・活動への参加が少ない傾向。

- ・生活時間：収入を伴う仕事時間、家事・育児・介護時間、家事分担割合はあまり差がない。一方、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は女性Ⅱの方が短い（女性Ⅱ：平均1時間58分、女性Ⅰ：平均2時間20分）※Q8、Q9。
- ・仕事以外の活動：女性Ⅱは「特になし」の割合が約8割と高く、活動率は女性Ⅰより低い※Q12。
- ・働き方：多様な働き方の利用は女性Ⅰに比べて低い。内訳では時短勤務の割合が相対的に高い※Q17。

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q21、Q27、Q28、Q44）

女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、新しいことやスキル向上など積極的な「学び直し」に対する意欲は低い傾向。他方、今後の学びに必要なことで上位に挙がる項目は概ね共通。

- ・学び直しへの意欲：女性Ⅱは6～4点、3～0点の割合が高く、女性Ⅰと差がみられる※Q21。
- ・学ぶことへの意識：女性Ⅱでは「お金をかけたくない」が最も高い。一方、女性Ⅰでは「何歳になっても能力を伸ばし続けることができる」「社会の変化に対応するために学び続けることが必要」等が上位※Q28。
- ・障壁：女性Ⅰに比べ、女性Ⅱでは「何を学んでいいかわからない」「金銭的余裕がない」「周囲に学べる環境がない」が高い※Q44。
- ・今後の学びに必要なこと：女性Ⅱは「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」が上位だが、女性Ⅰに比べ「学びに関する情報」及び「学んだことをいかせる場所」の割合が低い※Q27。

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

女性Ⅱは女性Ⅰに比べ、「役割・居場所がある（そう思う計）」の割合が低い※Q49、Q50。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

男性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」の特徴（「Ⅰ意欲があり学べている層」との比較）

ここでは、男性の「Ⅱ意欲があるが学べていない層」と「Ⅰ意欲があり学べている層」を比較し、両者における属性及び学びに対する意識の違いを以下に示す。

1) 属性

男性Ⅰと比べ、男性Ⅱで割合が高い属性の特徴は、以下のとおり。

- ・年代（Q2）：50～60代の割合が高い。男性Ⅰは20～30代の割合が相対的に高い。
- ・最終学歴（Q7）：非大卒の割合が高い（男性Ⅱ60.9%、男性Ⅰ52.2%）。
- ・配偶者の有無（Q5）：有配偶率が高い（男性Ⅱ56.7%、男性Ⅰ53.1%）。
- ・同居の子供（Q6）：19歳以上の子供の割合が高い（男性Ⅱ20.2%、男性Ⅰ13.8%）。

2) 生活スタイル（Q8、Q9、Q12、Q17）

男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間が短く、仕事以外の取組・活動への参加が少ない傾向。

- ・生活時間：収入を伴う仕事時間はあまり差がない。一方、家事・育児・介護の時間は男性Ⅱの方が短い（男性Ⅱ：平均1時間0分、男性Ⅰ：平均1時間24分）※Q8。
- ・自分のために使う時間：趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間は男性Ⅱの方が短い（男性Ⅱ：平均2時間6分、男性Ⅰ：平均2時間27分）※Q8。
- ・仕事以外の活動：男性Ⅱは「特にない」の割合が高く、男性Ⅰより活動率が低い※Q12。
- ・働き方：多様な働き方の利用は男性Ⅰに比べて低い※Q17。

3) 学びに関する意識・障壁・今後の学びに必要なこと（Q21、Q27、Q28、Q44）

男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、新しいことやスキル向上など積極的な「学び直し」に対する意欲は低い傾向。また、学ぶことへの意識では費用面の項目が相対的に上位となる一方、学びの効果・目的に関する項目は男性Ⅰより低い。

- ・学び直しへの意欲：10～7点（高スコア）の割合は男性Ⅱで低く、男性Ⅰとの差がみられる※Q21。
- ・学ぶことへの意識：男性Ⅱでは「学ぶことになるとお金をかけたくない」が最も高い。一方、男性Ⅰでは「社会の変化に対応するために学び続けることが必要」「何歳になっても能力を伸ばし続けることができる」等が上位※Q28。
- ・障壁：男性Ⅱでは「金銭的余裕がない」が男性Ⅰより高い一方、「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」「学びに必要な情報が入手できない」は男性Ⅰより低い※Q44。
- ・今後の学びに必要なこと：男性Ⅱは「学びに関する情報」「学ぶための経済的な支援」が上位だが、男性Ⅰに比べ「学びに関する情報」及び「学んだことをいかせる場所」の割合が低い※Q27。

4) 役割・居場所に対する意識（Q49、Q50）

男性Ⅱは男性Ⅰに比べ、「役割・居場所がある（そう思う計）」の割合が低い※Q49、Q50。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

本分析の詳細

属性情報

(1) 年代 (単数回答・Q2)

【対象】全員

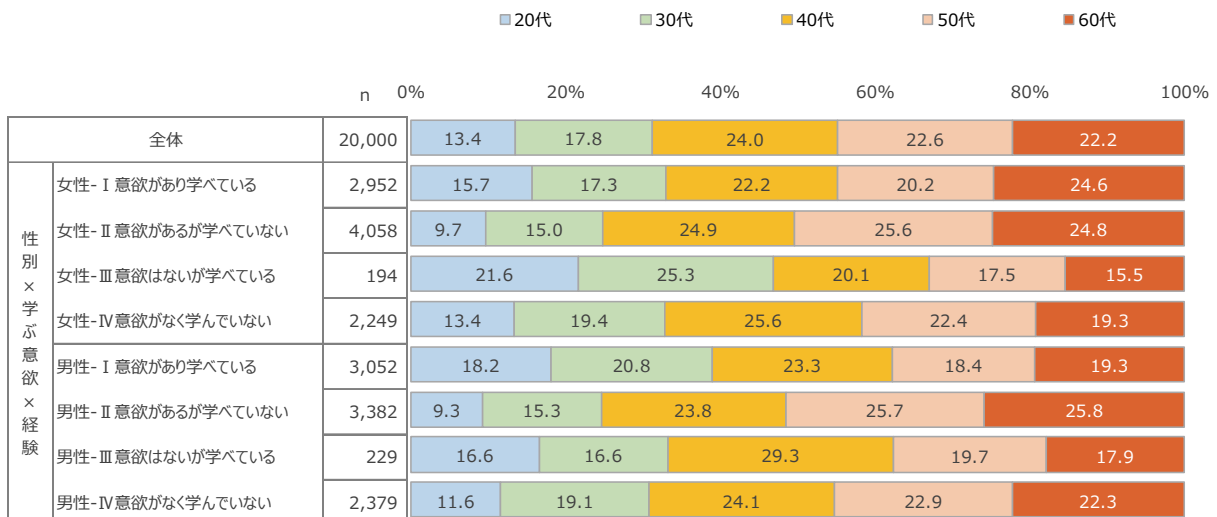
Q2.あなたの年齢を教えてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「60代」が24.6%、「40代」が22.2%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「50代」が25.6%、「40代」が24.9%。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「40代」が23.3%、「30代」が20.8%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「60代」が25.8%、「50代」が25.7%。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・男女間で大きな差はみられない。



2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(2) 居住地 (単数回答・Q3)

【対象】全員

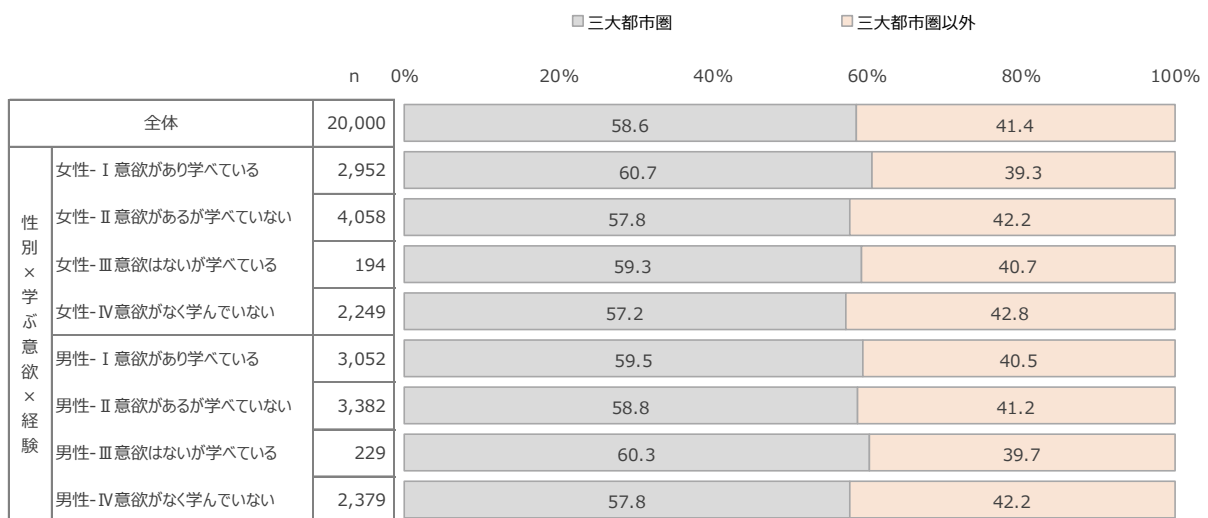
Q3. 現在のお住まいはどこですか。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学んでいる層：「三大都市圏」が60.7%、「三大都市圏以外」が39.3%。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「三大都市圏」が57.8%、「三大都市圏以外」が42.2%。
- 女性の層別比較：女性- II は女性- I に比べて、「三大都市圏」が2.9%ポイント低い。
- 男性- I 意欲があり学んでいる層：「三大都市圏」が59.5%、「三大都市圏以外」40.5%。
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「三大都市圏」58.8%、「三大都市圏以外」41.2%。
- 男性の層別比較：男性- II と男性- I で大きな差はみられない。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- 男女間で大きな差はみられない。



2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(3) 配偶者の有無（単数回答・Q5）

【対象】全員

Q5.配偶者の有無について教えてください。

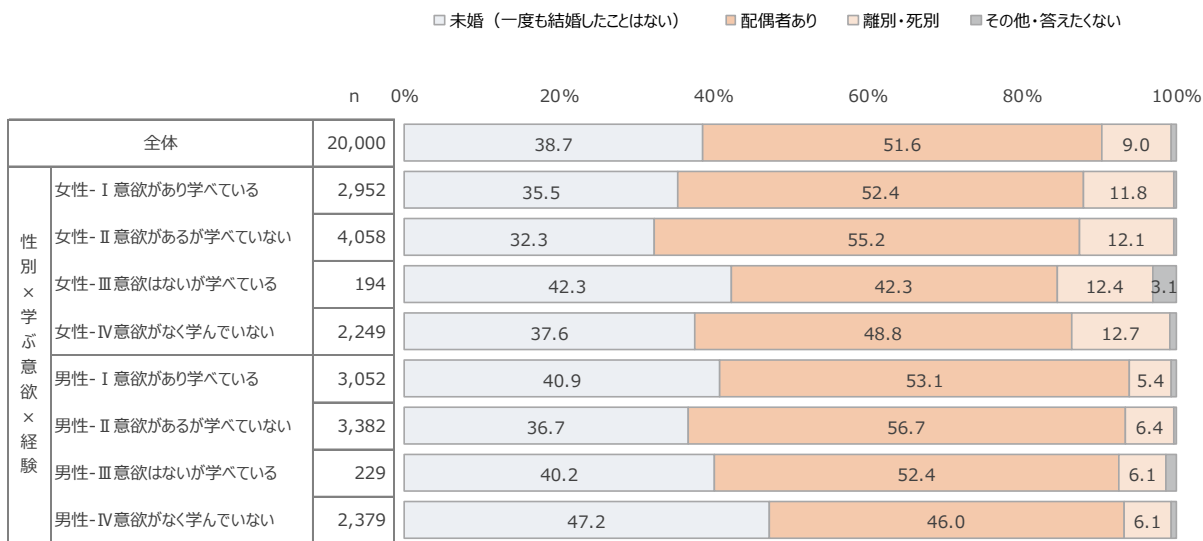
※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も、「配偶者あり」に含まれます。

I 意欲があり学べている層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学べている層：「配偶者あり」が52.4%、「未婚」が35.5%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「配偶者あり」が55.2%、「未婚」が32.3%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「配偶者あり」が2.8%ポイント高く、「未婚」が3.2%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学べている層：「配偶者あり」が53.1%、「未婚」が40.9%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「配偶者あり」が56.7%、「未婚」が36.7%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「配偶者あり」が3.6%ポイント高く、「未婚」が4.2%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「離別・死別」が5.7%ポイント高い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(4) 同居している子供の有無（複数回答・Q6）

【対象】全員

Q6.同居している子供はいますか。

※養子・里子等も含めてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「子供はいない」が62.9%、「19歳以上の子供がいる」が17.7%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「子供はいない」が60.3%、「19歳以上の子供がいる」が22.3%。
- ・女性の層別比較： II は I に比べて、「19歳以上の子供がいる」が4.6%ポイント高く、「子供はいない」が2.6%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「子供はいない」が59.8%、「19歳以上の子供がいる」が13.8%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「子供はいない」が59.8%、「19歳以上の子供がいる」が20.2%。
- ・男性の層別比較： II は I に比べて、「19歳以上の子供がいる」が6.4%ポイント高く、「3歳未満の子供がいる」が4.3%ポイント低い。

	全 体 n= 20,000	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,952	II 意欲が あるが 学べて いない n= 4,058	III 意欲は ないが 学べて いる n= 194	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,249	I 意欲が あり 学べて いる n= 3,052	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,382	III 意欲は ないが 学べて いる n= 229	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,379
									(%)
3歳未満の子供がいる	4.5	5.8	3.5	4.6	3.1	7.7	3.4	5.2	3.4
小学校入学前（3歳～6歳）の子供がいる	5.6	5.9	4.7	7.7	5.1	7.8	5.4	3.1	5.0
小学校低学年（1年生～3年生）の子供がいる	5.1	4.8	4.3	5.7	4.6	7.5	5.2	6.6	5.0
小学校高学年（4年生～6年生）の子供がいる	5.4	4.8	5.0	3.1	5.2	6.9	5.8	7.9	4.8
中学生～18歳の子供がいる	8.9	7.8	9.3	4.6	8.4	9.2	11.1	10.9	8.1
19歳以上の子供がいる	18.3	17.7	22.3	15.5	19.4	13.8	20.2	16.2	15.8
子供はいない	62.4	62.9	60.3	66.0	63.2	59.8	59.8	60.7	67.5

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(5) 最終学歴 (単数回答・Q7)

【対象】全員

Q7.あなたの最終学歴を教えてください。

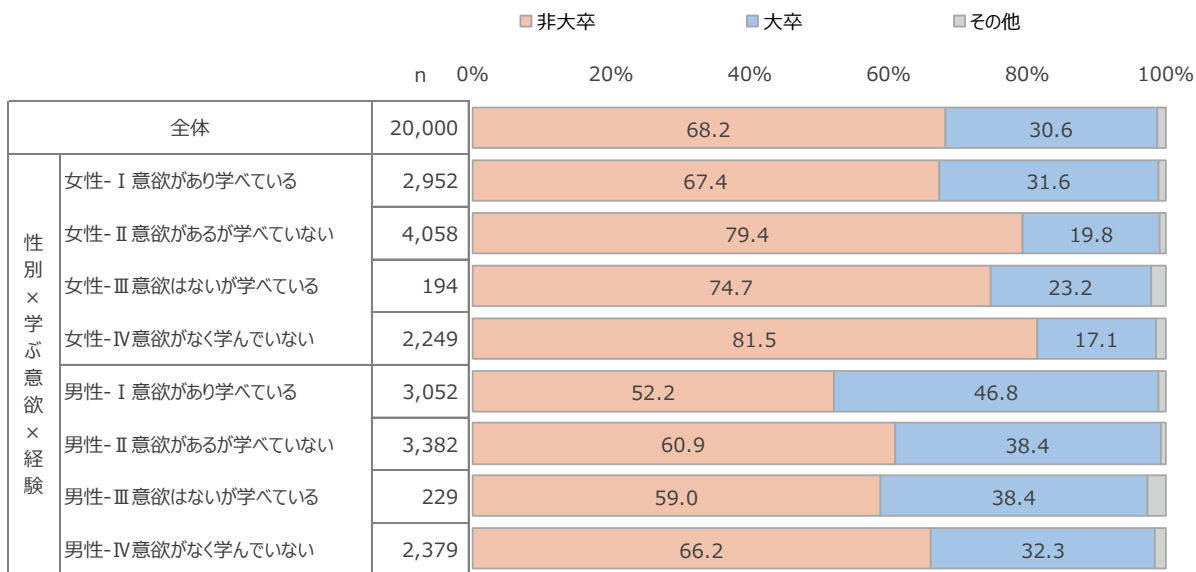
※学位が授与される大学校の場合は、取得した学位に該当する選択肢をお答えください（学士であれば「大学（学士）」）。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「非大卒」は67.4%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「非大卒」は79.4%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「非大卒」が12.0%ポイント高い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「非大卒」は52.2%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「非大卒」は60.9%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「非大卒」が8.7%ポイント高い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「非大卒」が18.5%ポイント高い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(6) 生活時間 収入を伴う仕事の時間 (数字入力・Q8① 1)

【対象】全員

Q8.① あなたの普段の1日の時間配分について、「収入を伴う仕事の時間」のおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

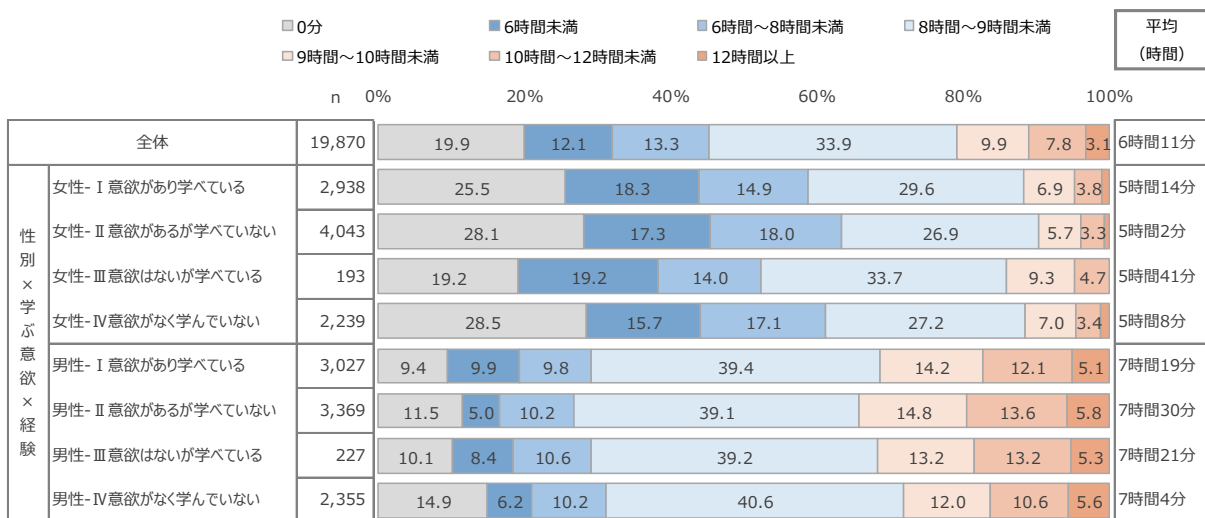
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学べている層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学べている層：平均は5時間14分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は5時間2分。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均12分短い。
- ・男性- I 意欲があり学べている層：平均は7時間19分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は7時間30分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均11分長い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均2時間28分短い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(7) 生活時間 通勤・通学時間 (数字入力・Q8① 2)

【対象】全員

Q8.① あなたの普段の1日の時間配分について、「通勤・通学時間」のおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

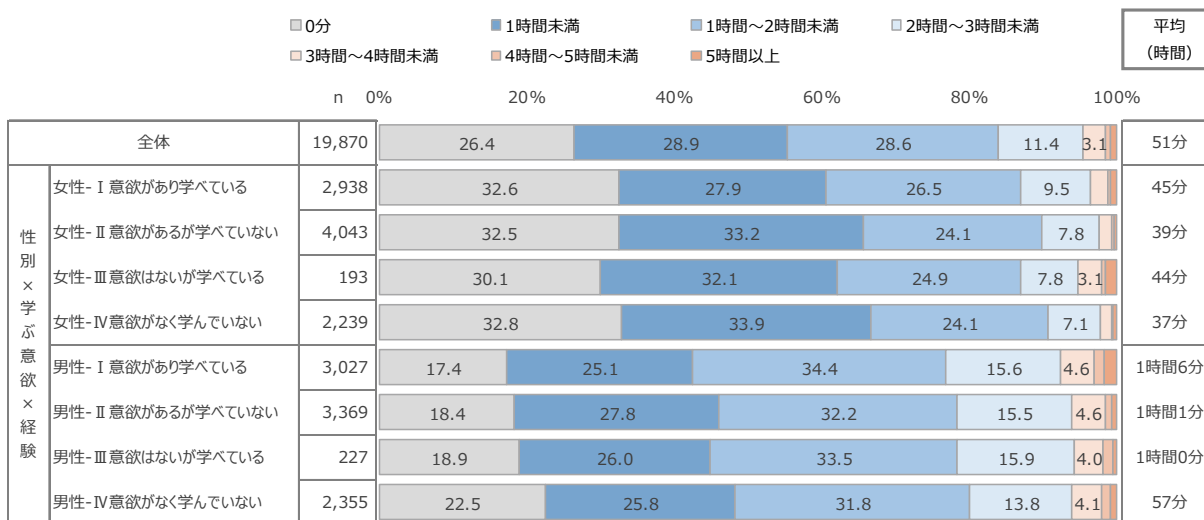
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は45分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は39分。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均6分短い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は1時間6分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は1時間1分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均5分短い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均22分短い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(8) 生活時間 家事・育児・介護の時間 (数字入力・Q8① 3)

【対象】全員

Q8.① あなたの普段の1日の時間配分について、「家事・育児・介護の時間」のおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

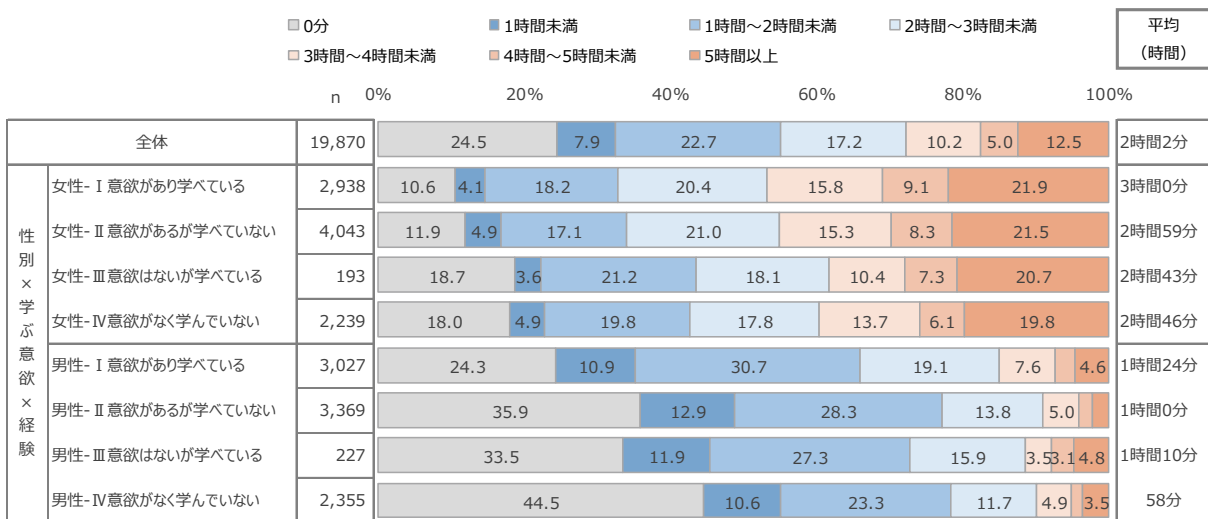
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は3時間0分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は2時間59分。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均1分短い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は1時間24分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は1時間0分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均24分長い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均1時間59分長い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(9) 生活時間 睡眠、食事、身の回りの用事の時間（数字入力・Q8① 4）

【対象】全員

Q8.① あなたの普段の1日の時間配分について、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」のおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

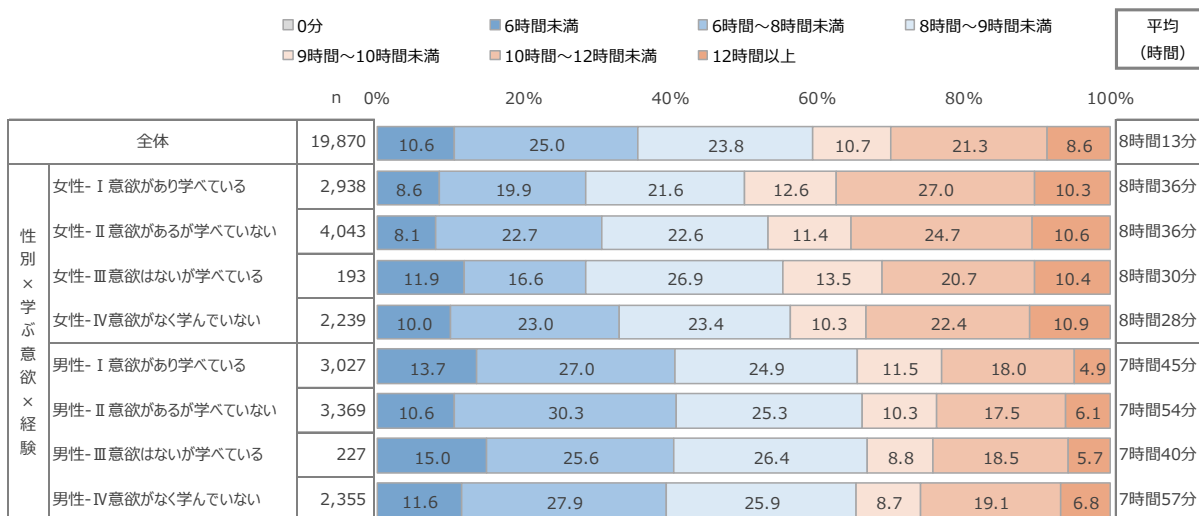
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は8時間36分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は8時間36分。
- ・女性の層別比較：IIとIの平均時間は同程度。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は7時間45分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は7時間54分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均9分長い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均42分長い。



※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(10) 生活時間 その他（自由時間など）（数字入力・Q8① 5）

【対象】全員

Q8.① あなたの普段の1日の時間配分について、「その他（自由時間など）」のおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

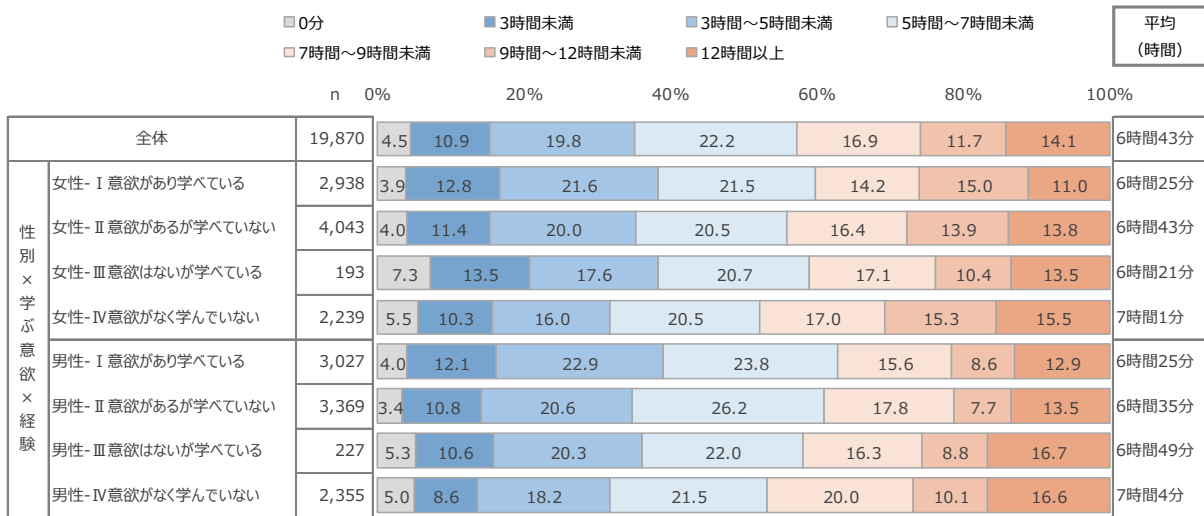
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は6時間25分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は6時間43分。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均18分長い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は6時間25分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は6時間35分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均10分長い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均8分長い。



※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(11) 趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間（数字入力・Q8②）

【対象】全員

Q8.② また、1日のうち趣味・自己啓発・勉強・自分のために使うおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

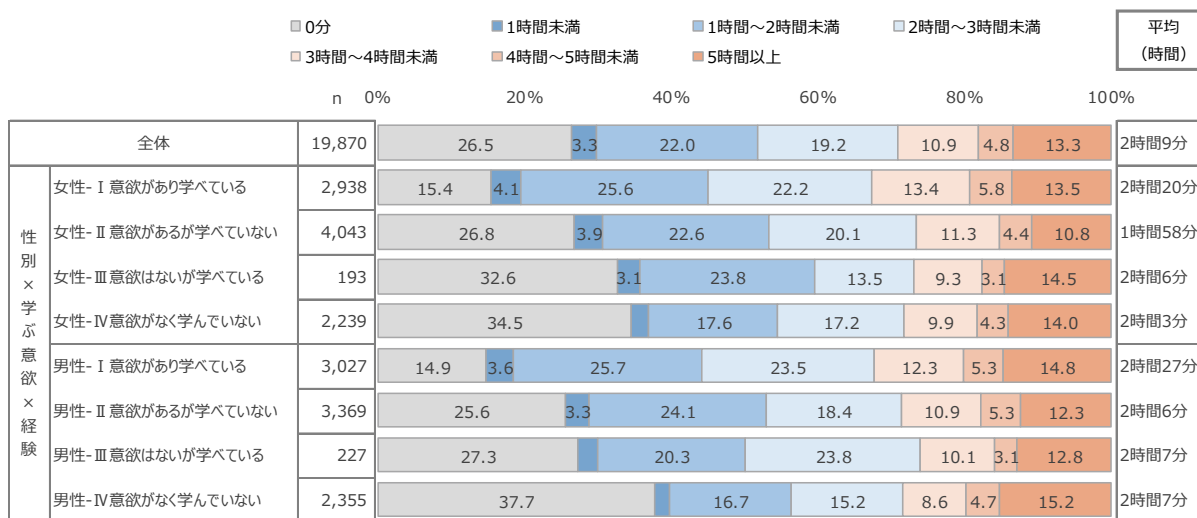
※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は2時間20分。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は1時間58分。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均22分短い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は2時間27分。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は2時間6分。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均21分短い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均8分短い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

※Q8①及びQ8②の集計に当たっては、「睡眠、食事、身の回りの用事の時間」を「0分」と回答したサンプル（130人）を、回答の妥当性を踏まえ、集計対象から除外しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(12) 家事関連時間の配偶者との分担割合（数字入力・Q9）

【対象】有配偶者

Q9.あなたは、日頃、配偶者と「家事・育児・介護」をどのくらい分担していますか。全体を100%（パーセント）としてお答えください。

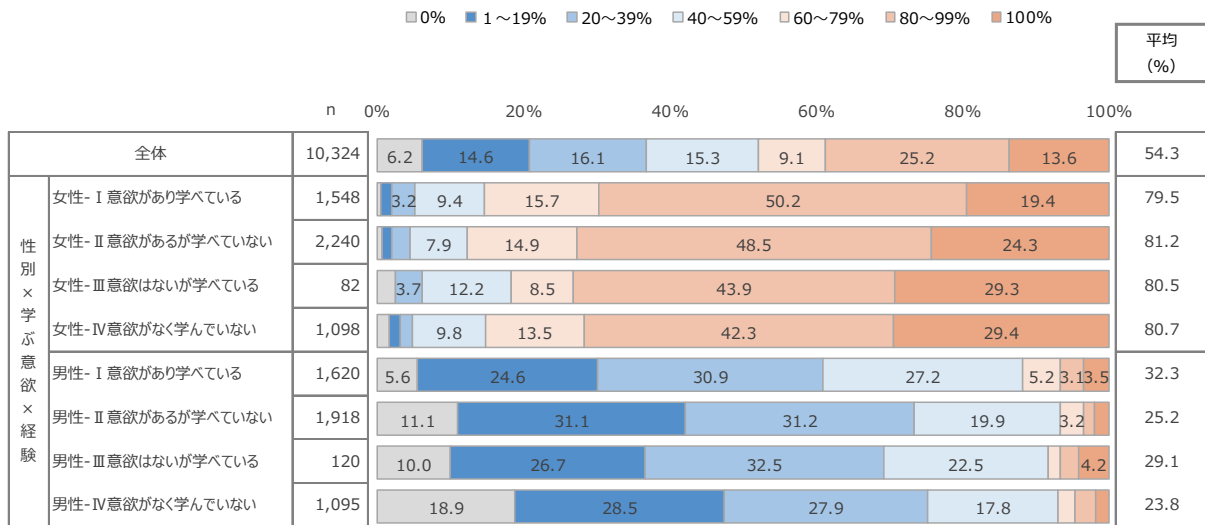
※配偶者には、婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含まれます。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：平均は79.5%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：平均は81.2%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、平均1.7%ポイント高い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：平均は32.3%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：平均は25.2%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、平均7.1%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、平均56.0%ポイント高い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(13) 仕事以外で参加している取組や活動（複数回答・Q12）

【対象】全員

Q12.あなたは、仕事以外に、定期的に参加している取組や活動はありますか。

※1か月に1回程度以上、参加しているものをお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学んでいる層：「スポーツ・運動」25.5%、「教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動」18.2%、「自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など地域での活動」10.7%が高い。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「特にない」78.4%が高い。
- 女性の層別比較：IIはIに比べて、「特にない」が23.7%ポイント高く、「教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動」が13.7%ポイント、「スポーツ・運動」は12.8%ポイント低い。
- 男性- I 意欲があり学んでいる層：「スポーツ・運動」42.3%、「教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動」23.0%、「自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など地域での活動」17.0%が高い。
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「特にない」65.0%、「スポーツ・運動」24.9%が高い。
- 男性の層別比較：IIはIに比べて、「特にない」が26.8%ポイント高く、「教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動」が17.8%ポイント、「スポーツ・運動」は17.4%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- 女性- IIは男性- IIに比べて「スポーツ・運動」が12.2%ポイント低く、「特にない」が13.4%ポイント高い。

	全 体 n= 20,000	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,952	II 意欲が あるが 学べて いない n= 4,058	III 意欲は ないが 学べて いる n= 194	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,249	I 意欲が あり 学べて いる n= 3,052	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,382	III 意欲は ないが 学べて いる n= 229	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,379
スポーツ・運動	20.1	25.5	12.7	11.3	6.0	42.3	24.9	20.5	12.7
教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動 (スポーツ・運動を除く)	8.7	18.2	4.5	7.2	2.1	23.0	5.2	7.0	1.9
自治会、町内会、婦人会、老人会、青年 団、子供会など地域での活動	7.1	10.7	4.1	6.2	1.9	17.0	7.3	10.5	3.1
上記以外のボランティア活動（プロボノ含 む）	2.6	5.3	1.3	4.6	0.8	6.5	1.8	3.5	0.5
その他	2.9	4.2	2.3	2.6	1.2	4.7	3.1	3.5	2.1
特にない	68.7	54.7	78.4	72.2	89.2	38.2	65.0	62.0	81.8

(%)

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(14) 就業状態・雇用形態 (単数回答・Q13)

【対象】全員

Q13.現在のあなたの就業状態・雇用形態を教えてください。

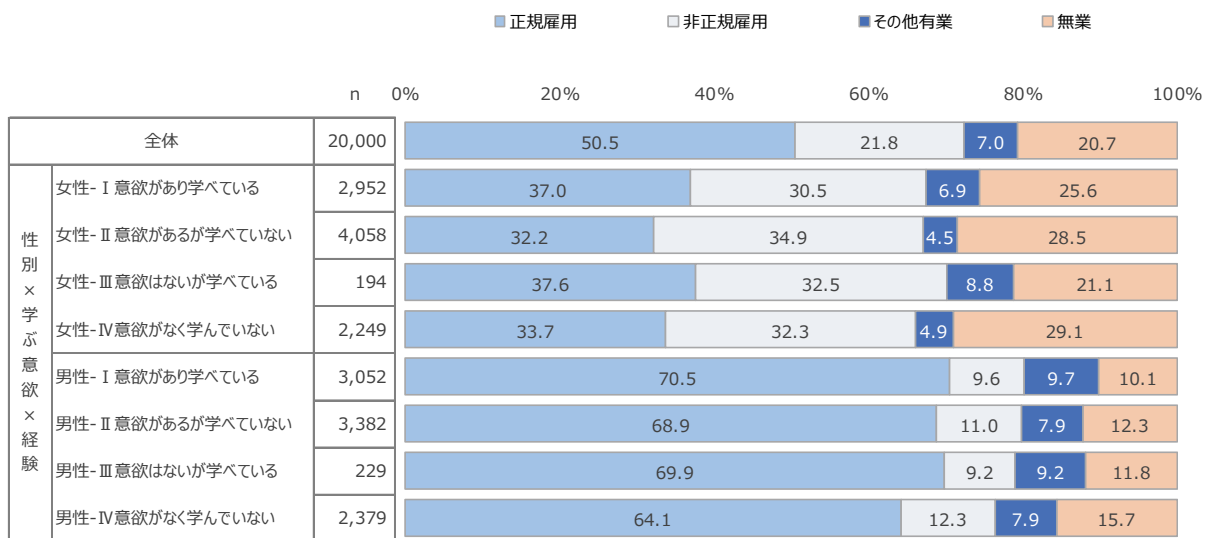
※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ（時間が長いところ）をお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「正規雇用」が37.0%、「非正規雇用」が30.5%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「非正規雇用」が34.9%、「正規雇用」が32.2%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「非正規雇用」が4.4%ポイント高く、「正規雇用」が4.8%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「正規雇用」が70.5%、「無業」が10.1%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「正規雇用」が68.9%、「無業」が12.3%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「無業」が2.2%ポイント高く、「その他有業」が1.8%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「正規雇用」が36.7%ポイント低い。



2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(15) 勤務先の企業規模 (単数回答・Q14)

【対象】有業者

Q14.現在のあなたの勤務先の企業規模を教えてください。

※本社、支店、工場なども含めた従業員総数をお答えください（グループ会社や子会社は含みません）。なお、パートなどを含みます。

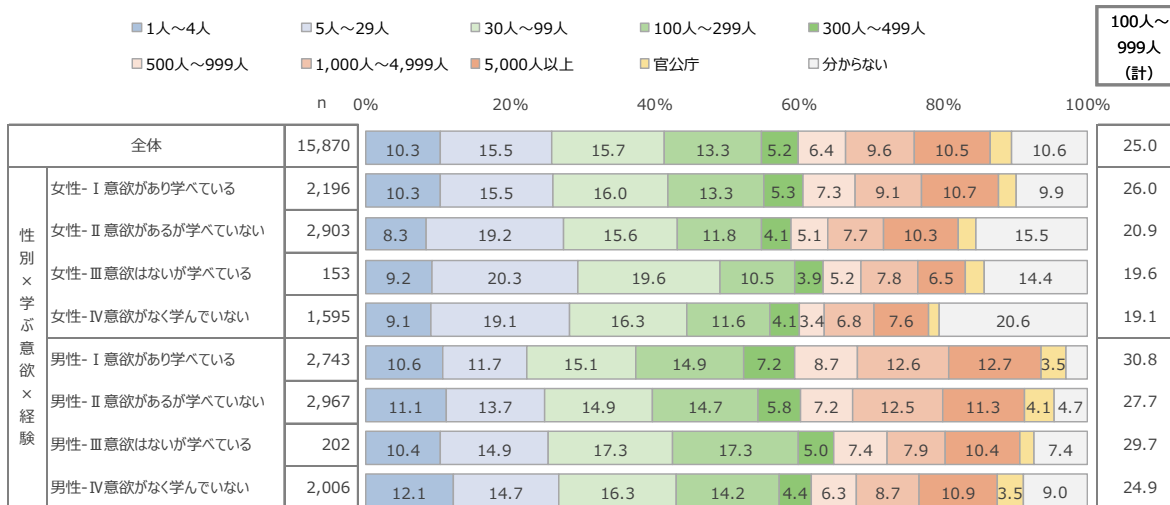
※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」とお答えください。

I 意欲があり学べている層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学べている層：「100人～999人（計）」が26.0%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「100人～999人（計）」が20.9%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて「100人～999人（計）」が5.1%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学べている層：「100人～999人（計）」が30.8%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「100人～999人（計）」が27.7%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて「100人～999人（計）」が3.1%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「100人～999人（計）」が6.8%ポイント低い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

※「100人～999人（計）」＝「100人～299人」＋「300人～499人」＋「500人～999人」で算出

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(16) 多様な働き方の利用状況（複数回答・Q17）

【対象】有業者

Q17.あなたが現在利用している働き方を教えてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「リモートワーク・テレワーク」が16.7%、「時短勤務」が13.3%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「時短勤務」が11.8%、「リモートワーク・テレワーク」が8.5%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「該当するものはない」が13.2%ポイント高く、「リモートワーク・テレワーク」が8.2%ポイント、「フレックスタイム制」が6.4%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「リモートワーク・テレワーク」が24.0%、「フレックスタイム制」が21.8%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「フレックスタイム制」が12.8%、「リモートワーク・テレワーク」が12.0%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「該当するものはない」が21.4%ポイント高く、「リモートワーク・テレワーク」が12.0%ポイント、「フレックスタイム制」が9.0%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「時短勤務」が9.3%ポイント高い。

	全 体 n= 15,870	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べ て い る n= 2,196	II 意欲が あるが 学べ て い ない n= 2,903	III 意欲は ないが 学べ て い る n= 153	IV 意欲が なく 学んで い ない n= 1,595	I 意欲が あり 学べ て い る n= 2,743	II 意欲が あるが 学べ て い ない n= 2,967	III 意欲は ないが 学べ て い る n= 202	IV 意欲が なく 学んで い ない n= 2,006
									(%)
リモートワーク・テレワーク	13.0	16.7	8.5	9.2	7.3	24.0	12.0	14.9	9.7
フレックスタイム制	11.6	12.7	6.3	9.2	5.8	21.8	12.8	11.9	9.7
裁量労働制	8.6	9.0	5.5	3.9	4.9	14.7	9.0	11.9	8.6
時短勤務	7.1	13.3	11.8	11.8	8.3	7.0	2.5	3.5	1.7
多様な正社員（週休3日制、職務内容・勤務地・勤務時間等を限定した働き方）	5.7	6.8	5.0	5.2	3.8	9.1	5.0	4.5	5.2
副業・兼業	5.1	8.9	4.1	5.9	3.1	10.0	3.4	6.9	1.3
その他の多様な働き方	0.1	0.0	0.0	-	-	0.2	0.1	0.5	0.1
該当するものはない	60.8	50.6	63.8	60.1	70.2	43.0	64.4	59.9	69.9

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

広義の学びに対する意識

(17) 学び直しへの意欲 (単数回答・Q21)

【対象】全員

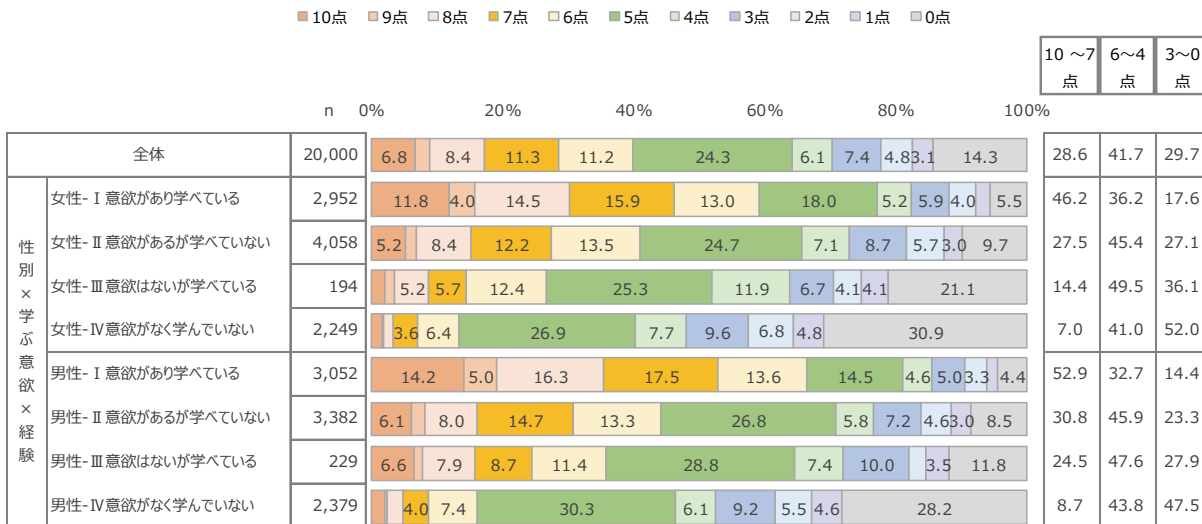
Q21.あなたは、人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」・「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちを持っていますか。0点～10点でお答えください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「10～7点（計）」が46.2%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「10～7点（計）」が27.5%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「10～7点（計）」が18.7%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「10～7点（計）」が52.9%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「10～7点（計）」が30.8%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「10～7点（計）」が22.1%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「10～7点（計）」が3.3%ポイント低い。



※3%未満は、数値表示を省略しています。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(18) 今後学ぶために必要なこと (複数回答・Q27)

【対象】全員

Q27. 今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「学びに関する情報」が37.2%、「学んだことをいかせる場所」が29.1%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「学びに関する情報」が30.1%、「学ぶための経済的な支援」が27.9%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「学びに関する情報」が7.1%ポイント、「家族・周囲の理解」が6.1%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「学びに関する情報」が36.3%、「学んだことをいかせる場所」が31.1%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「学びに関する情報」が24.0%、「学ぶための経済的な支援」が22.4%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「学びに関する情報」が12.3%ポイント、「学んだことをいかせる場所」が9.4%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「学びに関する情報」が6.1%ポイント、「学ぶための経済的な支援」が5.5%ポイント高い。

	全 体 n= 20,000	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べ て い る n= 2,952	II 意欲が あるが 学べ て い ない n= 4,058	III 意欲は ないが 学べ て い る n= 194	IV 意欲が なく 学んで い ない n= 2,249	I 意欲が あり 学べ て い る n= 3,052	II 意欲が あるが 学べ て い ない n= 3,382	III 意欲は ないが 学べ て い る n= 229	IV 意欲が なく 学んで い ない n= 2,379
学びに関する情報 (内容・時間・場所・費用など)	24.2	37.2	30.1	11.3	11.4	36.3	24.0	14.4	8.0
学んだことをいかせる場所	20.7	29.1	24.2	16.0	11.6	31.1	21.7	11.8	8.7
学ぶための経済的な支援	20.2	24.6	27.9	8.2	13.2	24.9	22.4	10.0	9.0
学びを行う場所・施設	17.9	24.9	23.8	9.8	8.3	24.8	19.4	10.9	6.3
就業時間の配慮や学びのための休暇制度	9.8	12.7	9.6	5.2	4.7	16.1	12.3	8.7	4.4
家族・周囲の理解	9.8	16.0	9.9	5.7	6.4	16.1	8.0	9.6	3.5
一緒に学ぶ仲間	8.7	12.2	8.8	8.2	4.2	15.6	9.4	7.4	3.1
家族間での家事・育児・介護等の分担	7.5	14.2	9.4	9.8	4.9	11.6	4.4	3.9	1.3
講座を修了することにより得られる証明書や国の認定	7.1	10.4	7.5	6.7	3.0	13.5	6.6	7.4	1.6
学びを支援する人 (キャリアコンサルタントなど)	5.7	8.7	4.7	2.1	1.5	13.4	5.3	3.1	1.4
その他	2.2	3.0	2.3	3.1	1.2	2.9	2.5	2.2	1.5
特になし	25.7	15.0	18.4	34.0	43.4	11.9	22.7	24.9	49.7
分からない	16.0	6.7	12.7	21.1	23.3	5.2	13.5	21.0	24.0

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(19) 学ぶことへの意識 (マトリックス項目・単数回答・Q28)

【対象】全員

Q28. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学んでいる層：「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」72.6%、「社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ」68.6%、「学ぶことになるべくお金をかけたくない」63.7%、「効率的に学びたい・学ぶ時間や労力を省力化したい」61.8%、「現場での経験や実践こそが最も重要な学びだ」61.3%が高い。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「学ぶことになるべくお金をかけたくない」62.1%が最も高い。
- 女性の層別比較：IIはIに比べて、「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」が20.7%ポイント、「社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ」が18.7%ポイント低い。
- 男性- I 意欲があり学んでいる層：「社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ」68.0%、「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」64.9%、「現場での経験や実践こそが最も重要な学びだ」「効率的に学びたい・学ぶ時間や労力を省力化したい」ともに59.8%と高い。
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「学ぶことになるべくお金をかけたくない」51.1%が最も高い。
- 男性の層別比較：IIはIに比べて、「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」が24.0%ポイント、「社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ」が23.7%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- 女性- IIは男性- IIに比べて、「学ぶことになるべくお金をかけたくない」と「何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる」がともに11.0%ポイント高い。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(19) 学ぶことへの意識 (マトリクス項目・単数回答・Q28)

【対象】全員

Q28. 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。

1～16項目それぞれ、「そう思う(計)」=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」で算出

	全 体 n= 20,000	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,952	II 意欲が あるが 学べて いない n= 4,058	III 意欲は ないが 学べて いる n= 194	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,249	I 意欲が あり 学べて いる n= 3,052	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,382	III 意欲は ないが 学べて いる n= 229	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,379
学ぶことになるべくお金をかけたくない	50.0	63.7	62.1	38.7	43.9	55.2	51.1	28.8	32.4
何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる	42.8	72.6	51.9	32.5	19.3	64.9	40.9	17.0	11.4
社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ	42.5	68.6	49.9	30.4	15.6	68.0	44.3	17.9	13.2
現場での経験や実践こそが最も重要な学びだ	41.9	61.3	49.0	33.5	23.9	59.8	45.2	20.1	18.4
効率的に学びたい・学ぶ時間や労力を省力化したい	40.3	61.8	50.2	34.5	16.5	59.8	44.1	17.0	12.0
今のままで十分に仕事ができている・生活を送ることができている	34.6	50.3	40.0	25.8	23.2	47.9	36.1	20.1	16.1
学ぶためには、しっかりとした教育カリキュラムが必要だ	34.3	47.3	42.2	22.7	19.0	48.5	38.8	19.2	13.7
気の合う仲間と学びたい	33.6	49.4	42.6	21.1	16.9	48.5	35.7	16.2	10.7
自分が学ぶことよりも、他に優先すべきことがある	33.1	43.1	42.1	29.4	26.2	39.9	35.7	15.7	16.4
中学生時代の学校の成績は優秀だった	28.9	45.8	31.0	22.7	15.9	45.4	28.5	16.2	11.5
学生時代に勉強を頑張った	27.7	46.8	32.0	23.2	14.7	42.2	26.0	14.0	8.6
学んだことを地域・社会のためにいかしたい	27.3	42.9	31.4	16.0	6.7	47.2	30.5	12.7	6.4
学んだことをいかす機会や場所がある	25.3	42.5	25.4	19.6	8.8	46.3	25.6	15.3	6.6
学ぶ必要のあることは、会社や他の人に示してほしい	24.6	37.0	28.2	22.2	10.4	39.9	26.5	15.3	7.9
目標にする人に近づきたい思いで自己研鑽している	20.2	34.8	19.0	17.0	5.0	39.3	20.9	10.5	4.1
学びとは、社会人ではなく、学生に必要なことだ	18.3	24.9	18.9	16.5	8.6	31.0	20.5	12.2	7.8

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(20) 仕事や職業キャリアに関する学びの障壁（複数回答・Q44）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q44.あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

I 意欲があり学べている層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学べている層：「金銭的余裕がない」が32.4%と最も高い。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「金銭的余裕がない」が38.3%、「何を学んでいいかわからない」が24.6%。
- 女性の層別比較：IIはIに比べて、「何を学んでいいかわからない」が7.7%ポイント、「金銭的余裕がない」が5.9%ポイント高い。
- 男性- I 意欲があり学べている層：「仕事が忙しくて時間がない」が27.7%、「金銭的余裕がない」が26.5%。
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「金銭的余裕がない」が31.4%、「仕事が忙しくて時間がない」が23.7%。
- 男性の層別比較：IIはIに比べて、「金銭的余裕がない」が4.9%ポイント高く、「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」が6.2%ポイント、「学びに必要な情報が入手できない」が6.1%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- 女性- IIは男性- IIに比べて、「家事・育児・介護等が忙しくて時間がない」が10.2%ポイント高い。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

仕事や職業キャリアに関する学びに対する意識

(20) 仕事や職業キャリアに関する学びの障壁（複数回答・Q44）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q44.あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

	全 体 n= 17,347	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,525	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,375	III 意欲は ないが 学べて いる n= 164	IV 意欲が なく 学んで いない n= 1,772	I 意欲が あり 学べて いる n= 2,871	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,129	III 意欲は ないが 学べて いる n= 209	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,097
									(%)
金銭的余裕がない	28.9	32.4	38.3	18.3	26.5	31.4	12.9	19.8	
仕事が多忙で時間がない	18.9	21.4	18.5	9.8	12.1	27.7	14.8	11.1	
学んでも収入アップにつながらない	18.7	24.2	20.6	17.1	13.5	23.8	17.2	12.4	
何を学んでいいかわからない	16.4	16.9	24.6	8.5	14.4	14.5	7.7	9.2	
学ぶことより優先したいことがある	12.7	16.9	14.9	12.2	10.7	15.2	11.0	7.9	
学びに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない	12.2	16.8	16.4	7.3	6.5	17.2	8.1	5.1	
学んでもキャリアアップにつながらない	11.0	14.2	11.2	6.1	6.9	15.8	12.4	7.5	
家事・育児・介護等が多忙で時間がない	10.8	18.8	16.7	12.2	7.6	12.7	3.3	3.1	
周囲に学べる環境がない	10.1	11.0	14.2	7.3	5.1	12.7	7.7	4.3	
学んでも会社から評価されない	9.5	11.6	8.3	7.3	6.1	14.3	9.6	6.5	
学ぶことに対して家族の理解が得られない	3.7	5.1	3.0	6.1	1.6	8.2	4.3	1.0	
その他	1.7	2.8	1.7	1.8	1.1	2.1	1.4	1.3	
業務に必要なことは身につけているため、特に学ぶ必要がない	1.8	1.2	1.7	1.8	2.5	1.5	1.0	2.6	
特になし	18.4	12.1	12.1	20.1	25.0	13.3	18.7	32.8	
分からない	11.0	4.3	7.7	13.4	18.6	2.8	16.3	18.8	

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(21) 就業先で行われている学びに関する取組や支援（複数回答・Q45）

【対象】有業者

Q45.あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学んでいる層：「社内研修、勉強会」が21.4%、「身につけるべき知識や能力の明示」が13.7%。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「社内研修、勉強会」が13.9%、「身につけるべき知識や能力の明示」が10.1%。
- 女性の層別比較：IIはIに比べて、「社内研修、勉強会」が7.5%ポイント低く、「該当するものはない」が18.1%ポイント高い。
- 男性- I 意欲があり学んでいる層：「社内研修、勉強会」が28.5%、「身につけるべき知識や能力の明示」が21.8%
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「社内研修、勉強会」が18.7%、「身につけるべき知識や能力の明示」が14.7%。
- 男性の層別比較：IIはIに比べて、「職員の自己学習や自己研鑽に対する費用負担」が11.8%ポイント低く、「該当するものはない」が22.4%ポイント高い。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(21) 就業先で行われている学びに関する取組や支援（複数回答・Q45）

【対象】有業者

Q45.あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。

	全 体 n= 15,870	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,196	II 意欲が あるが 学べて いない n= 2,903	III 意欲は ないが 学べて いる n= 153	IV 意欲が なく 学んで いない n= 1,595	I 意欲が あり 学べて いる n= 2,743	II 意欲が あるが 学べて いない n= 2,967	III 意欲は ないが 学べて いる n= 202	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,006
									(%)
社内研修、勉強会	16.3	21.4	13.9	13.1	6.4	28.5	18.7	15.8	8.3
身につけるべき知識や能力の明示	12.0	13.7	10.1	10.5	3.9	21.8	14.7	11.9	7.0
外部研修等の受講支援	9.1	11.5	5.9	9.8	3.3	19.8	9.4	13.9	4.1
職員の自己学習や自己研鑽に対する費用負担	8.9	12.2	6.2	6.5	2.3	20.3	8.5	11.4	3.7
階層別・年次別の教育・研修計画	8.2	9.0	5.9	5.9	1.6	17.4	10.0	9.9	4.0
資格・経験・能力を考慮した給与体系	6.6	8.6	6.3	6.5	2.6	10.5	8.1	3.0	3.4
個人のキャリアプランに関する面談・相談	6.0	8.2	4.4	3.9	2.4	12.9	5.9	3.5	2.5
人事考課等における、自己評価や他者評価のフィードバック	5.9	7.6	4.4	4.6	2.1	11.6	6.4	5.4	2.8
研修の受講や大学院進学等のための休職・休暇制度	4.9	6.6	3.0	4.6	1.0	11.4	4.9	9.9	1.7
メンター、コーチング制度	4.2	4.9	3.0	5.2	1.3	9.4	4.1	3.0	2.2
学び続ける職員を支援する職場風土	3.3	4.5	2.9	2.0	1.8	6.1	3.4	4.0	1.5
自己研鑽（資格取得や社会人大学院）を考慮した業務の割り振り、配置転換	3.1	4.6	2.0	2.0	0.9	7.0	2.9	2.0	1.0
該当するものはない	58.9	47.0	65.1	54.9	82.1	30.4	52.8	49.5	77.2

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(22) 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答・Q46）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q46. あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- 女性- I 意欲があり学んでいる層：「経済的な支援があること」が33.3%、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が32.2%。
- 女性- II 意欲があるが学べていない層：「経済的な支援があること」が33.8%、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が26.4%。
- 女性の層別比較：IIはIに比べて、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が5.8%ポイント、「学びが職業キャリアの充実にいかせるという展望を持てること」が5.6%ポイント低い。
- 男性- I 意欲があり学んでいる層：「経済的な支援があること」が31.6%、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が29.5%。
- 男性- II 意欲があるが学べていない層：「経済的な支援があること」が27.7%、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が20.8%。
- 男性の層別比較：IIはIに比べて、「学んだことが収入アップやキャリアアップにつながること」が8.7%ポイント、「学びに関する情報が入手できること」が7.9%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- 女性- IIは男性- IIに比べて、「参加しやすい時間帯に学びの機会があること」が7.8%ポイント高い。

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(22) 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答・Q46）

【対象】有業者又は就業意欲のある無業者

Q46.あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。

	全 体 n= 17,347	女 性				男 性			
		I 意欲が あり 学べて いる n= 2,525	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,375	III 意欲は ないが 学べて いる n= 164	IV 意欲が なく 学んで いない n= 1,772	I 意欲が あり 学べて いる n= 2,871	II 意欲が あるが 学べて いない n= 3,129	III 意欲は ないが 学べて いる n= 209	IV 意欲が なく 学んで いない n= 2,097
									(%)
経済的な支援があること	26.0	33.3	33.8	14.6	17.6	31.6	27.7	12.9	13.2
学んだことが収入アップやキャリアアップにつながる	21.5	32.2	26.4	13.4	11.3	29.5	20.8	14.8	9.6
参加しやすい時間帯に学びの機会があること	18.0	28.2	25.0	9.8	8.6	23.4	17.2	11.5	5.5
学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できること	17.3	26.6	22.0	7.3	6.5	25.2	17.3	9.1	5.9
学びの場所・施設が近くにあること	16.6	25.8	23.0	14.0	8.1	20.2	16.8	5.7	5.6
学びが職業キャリアの充実にいかせるといふ展望を持てること	11.6	18.0	12.4	5.5	4.5	18.9	12.2	5.7	4.5
具体的に何を学べばよいかをアドバイスしてもらえること	11.6	16.6	13.8	4.9	5.5	17.3	11.8	8.1	4.9
就業時間の配慮や学びのための休暇制度があること	11.3	15.9	12.4	5.5	5.6	17.6	12.0	10.0	4.7
具体的な学び方をアドバイスしてもらえること	10.9	16.6	13.2	8.5	4.5	16.6	10.9	5.3	3.9
職業キャリアに対するモチベーションが高まること	10.4	14.8	10.4	10.4	2.7	18.2	11.8	7.7	3.7
一緒に学ぶ仲間がいること	9.1	11.7	10.5	7.3	4.2	14.6	10.5	4.3	3.3
家族・周囲の理解を得られること	8.5	12.9	10.5	9.1	4.0	12.8	7.7	10.0	2.7
家族間で家事・育児・介護等の分担ができること	7.4	12.3	9.2	7.9	4.2	11.4	5.7	6.2	2.3
その他	1.0	1.1	0.8	1.8	0.5	1.9	0.7	1.0	0.8
特にない	20.4	9.1	15.0	22.0	33.2	10.2	20.1	18.7	39.5
分からない	16.8	7.4	13.2	23.8	29.6	4.8	12.6	19.1	26.7

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

役割や居場所に対する意識

(23) 現在の自分の役割や居場所に対する意識（単数回答・Q49）

【対象】全員

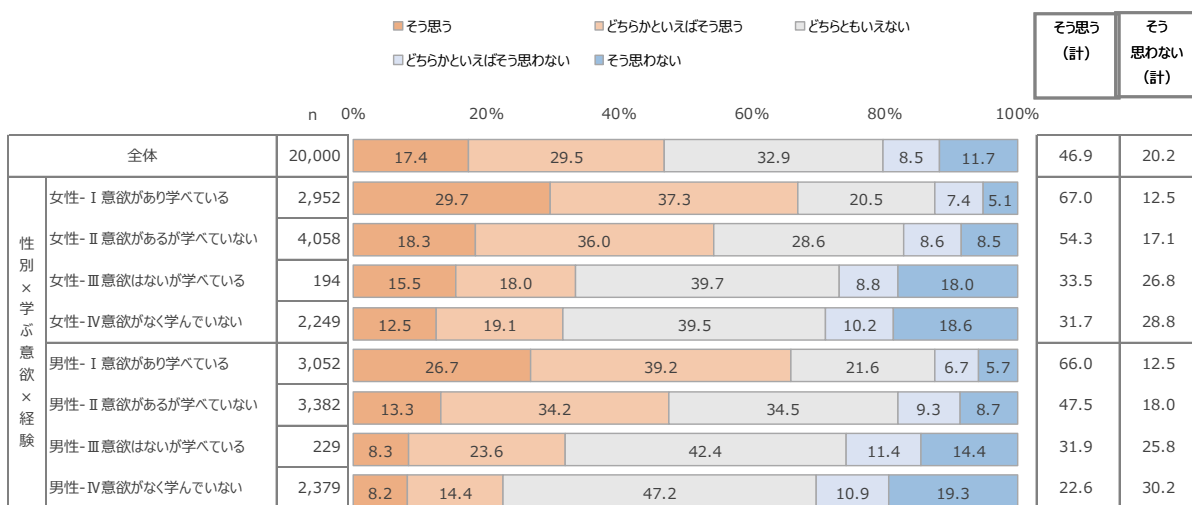
Q49.現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「そう思う（計）」は67.0%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「そう思う（計）」は54.3%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「そう思う（計）」が12.7%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「そう思う（計）」は66.0%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「そう思う（計）」は47.5%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「そう思う（計）」が18.5%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「そう思う（計）」が6.8%ポイント高い。



※「そう思う（計）」＝「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない（計）」＝「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

2. 学びへの意欲と学びの経験によるセグメント別の属性の特徴

(24) 将来の自分の役割や居場所に対する意識 (単数回答・Q50)

【対象】全員

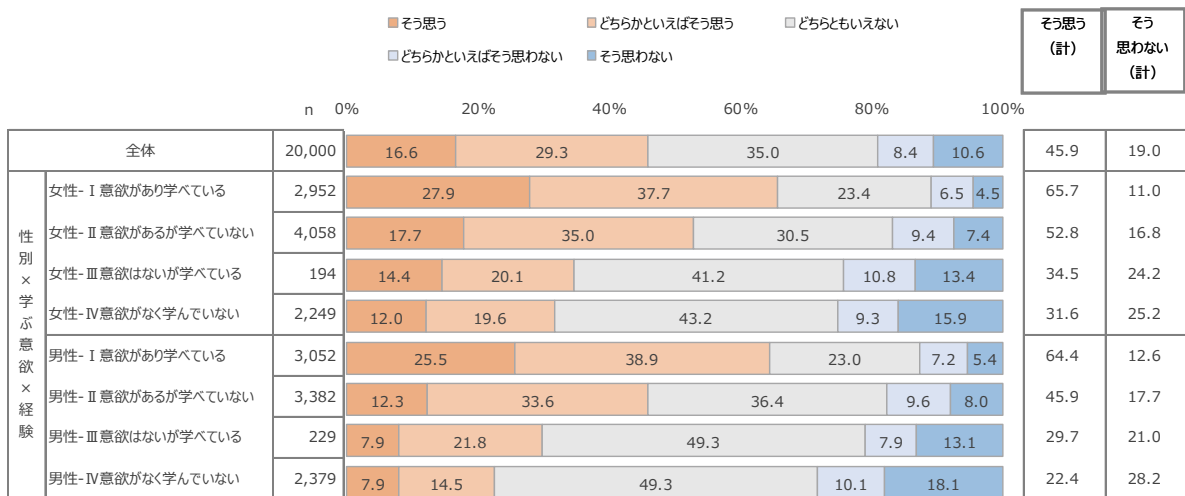
Q50. 5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

I 意欲があり学んでいる層と、II 意欲があるが学べていない層の比較

- ・女性- I 意欲があり学んでいる層：「そう思う (計)」は65.7%。
- ・女性- II 意欲があるが学べていない層：「そう思う (計)」は52.8%。
- ・女性の層別比較：IIはIに比べて、「そう思う (計)」が12.9%ポイント低い。
- ・男性- I 意欲があり学んでいる層：「そう思う (計)」は64.4%。
- ・男性- II 意欲があるが学べていない層：「そう思う (計)」は45.9%。
- ・男性の層別比較：IIはIに比べて、「そう思う (計)」が18.5%ポイント低い。

II 意欲があるが学べていない層の男女比較

- ・女性- IIは男性- IIに比べて、「そう思う (計)」が6.9%ポイント高い。



※「そう思う (計)」=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない (計)」=「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」で算出

分析結果総評

(委員による分析結果)

「意欲はあるが学べず」が多く、情報提供と柔軟な働き方がカギ

1. 本調査の意義

本調査検討委員会の主査として関わった立場から、最初に本調査の意義について述べておきたい。長寿化がもたらす「人生100年時代」においては、マルチ・ステージ¹のライフコースが求められるようになり、充実した人生を送るには、仕事・家族のケア・趣味・健康づくり・地域貢献など、人生・生活の様々な要素をライフステージごとに最適に組み合わせることが重要になる。リカレント発祥の地であり、学び・学び直しの先進国として知られるスウェーデン流に言えば、「ライフ・パズル」² という発想が重要になる。

そのためには、職業能力の不断のアップデートはいうまでもなく、心身の健康を得るために様々な分野の「学び」が重要になり、そうした多様で広がりのある「学び」は、それ自体が大きな喜びや人生の意味を与えてくれるものである。そうした「人生を豊かにするための学び」をすべての男女が享受できるようにするには何が必要か。そうした問題意識に応えるためのベースとなる基礎的なデータが、今回の調査では様々な角度から収集されている。

すなわち、サンプル数で2万人、調査項目が50問という、大規模調査であり、学び・学び直しに関して、様々な含意を与えてくれる貴重なデータが得られた。このデータを有効活用すれば多様な分析が可能になり、有意義な政策的インプリケーションが得られるものと期待されるが、本稿では、まずは単純集計及び簡単なクロス集計の結果から得られた発見事実のうち、注目されるポイントと、筆者の専門領域である労働市場調査の観点から男女共同参画に関わる点で、コメントを2つ記しておきたい。

1.リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット『ライフシフト 100年時代の人生戦略』池村千秋訳、東洋経済新報社、2016年。

2.2000年代、TCO(ホワイトカラー専門職労働組合連盟)が提唱したとされる(高橋美恵子「スウェーデンのワーク・ライフ・バランス—柔軟性と自律性のある働き方の実践—」RIETI Discussion Paper Series 11-J-040,2011年。

2. 調査結果の注目ポイント

調査による発見事実のポイントは報告書にまとめられているが、本稿ではそのうちでも特に注目される点について、私見を交えて記述したい。

まず、**総じて広い意味での学びへの意欲のある人自体は少なくないことが確認できた**。新しいことやスキル向上など積極的な「学び直し」—言い換えれば、職業能力向上につながる「狭義の学び」については、それなりに意欲があると考えられる人の割合（Q21で5点以上）は50%を超えており、その割合は若い世代ほど高い傾向がみられる。さらに、より広く人生を豊かにする「広義の学び」に関しては、世代・性別を問わず「意欲あり」が6～7割を占めている。この面での学びの意向は年配世代ほど高い傾向が認められ、特に60代の女性の意欲が高いのは興味深い。ただし、**男女ともに無業になると学ぶ意欲のある人の割合が低下し、働くことが基本的なところで学びへの意欲につながっていることがうかがわれる**。

以上のように**総じて学ぶ意欲がある人が少なくはないといえるが、実際に学んでいる経験（過去5年以内）になると、半数以下に低下する**。男女別には、**広義の学びへの意欲のある人の割合は女性の方がやや高いが、実際の学びの経験については女性の方がやや低くなる**。学びへの意欲と学びの経験の掛け合わせでグループ分けを行うと、「意欲はあるが経験がない」というグループの割合が最も多く、性別には女性でその割合が高い。では、何がネックになっているのか。**表面的には総じて経済的な理由が多く挙げられているが、「何を学んでいいかわからない」「特に理由はない」という項目が、経済的理由とほぼ同じ割合になっている点に注目する必要がある**。現状、図書館やテレビ・ラジオなどの教育・教養番組、さらには動画配信サイトなどのウェブ上のコンテンツと、無料の教材は豊富に存在する。漠然と学ぶ意欲はあっても、具体的に何をどう学べばいいかという、「**学びのリテラシー**」を高めることに課題感があるといえよう。

この点に関連して、「**今後学ぶために必要なこと**」との設問で、「意欲があり学べている」人の割合が「意欲があるが学べていない」人の割合を大きく上回っている項目をみると、「**学びに関する情報**」「**学んだことをいかせる場所**」「**家族・周囲の理解**」「**一緒に学ぶ仲間**」「**家族間での家事・育児・介護等の分担**」が挙げられる。そのほか、「**講座を修了することにより得られる証明書や国の認定**」「**学びを支援する人（キャリアコンサルタントなど）**」も該当する。これらから、実際の学びを促すには、まずは政府・企業・教育機関・メディアをはじめとした社会の各主体が、

学びに関する情報を積極的に提供・発信していくことが重要といえる。さらに、企業であれば、学びを活かせる機会や社内資格を整備すること、加えて学びを良しとする組織風土づくりが重要であり、政府としては、職業認定施策の整備やキャリアコンサルティングの普及などの施策が求められる。なお、「学ぶための経済的な支援」については、「意欲があり学んでいる」人の割合と「意欲があるが学べていない」人の割合にほぼ差はなく、ここにも**経済的な支援が学びの実績の有無を左右する決定的な要因になっているわけではない**ことが確認できる。

また、**学びへの意欲があっても学びの経験がない理由として、現役世代では男女ともに「仕事が忙しくて時間がないから」を挙げる割合も高く、雇用形態別には正規雇用者の場合にその傾向が強い。女性については「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」という回答が多いのも注目される。**これらの発見事実からは、**長時間労働を是正し、男女ともに生活を充実させるために使える時間を増やすことが重要**であることが示唆されよう。それが学びの時間の確保につながり、男性の家事・育児参加を促して、相対的に学びの時間確保が難しい女性の学びの余地を増やすことにもつながることが期待できる。

学びの時間の確保という点では、多様な働き方を増やしていくことも有益であることが、本調査から読み取れる。リモートワーク・テレワーク、フレックスタイム制を利用している場合、男女ともに、意欲があり学んでいる人の割合が、意欲があるが学べていない人の割合のほぼ倍に上っている。副業・兼業を行っている人についても、利用者割合自体は高くないものの、意欲があり学んでいる人の割合が高くなっている。いわゆる「越境学習」の効果であり、外の世界に触れることで学びへの意欲も機会も刺激される。

本調査では、デジタルツールの活用状況についても聞いている。中高年の方がデジタルツールを使っている傾向がみられるが、主観による回答である点で解釈に注意が必要である。若い世代ではデジタルツールの使用は当たり前の状況であるのに対し、中高年層は普及率が相対的に低い。今回はウェブを通じた調査のため、中高年の回答者は同世代のなかではデジタルツールを使っているグループに偏りがある可能性が高い。このため、デジタルツールに関する知識やスキルの習得に前向きな傾向が、年齢の高いほど強く出ているものと推察される。さらに、若い世代と同様の活用レベルであっても、中高年は同世代の平均に比して自らのデジタルリテラシーは高いと考えやすい傾向も想定される。

総論の最後に指摘しておくべき今回の調査で明らかになった重要な発見事実は、**自分の役割や居場所があるという意識と学びの経験が強く相関している**点である。普段の暮らしの中で自分の役割や居場所があると感じている人の割合は、過去1年以内に学んだ経験のある場合は、男女ともに6割以上に上っているが、過去5年間学んだ経験がない場合、女性で4割、男性で3割に低下する。同時に注目したいのは、仕事の有無と自分の役割や居場所があるという認識の関係が、男女で異なることである。**男性で無業の場合、居場所があると答えている割合は3割程度と正規雇用者の5割弱に比べて大幅に低い**のに対し、**女性の無業の場合は約5割と正規雇用者や非正規雇用者のケースとほぼ変わらない**。

この背景には、冒頭で述べた「ライフ・パズル」の発想を、男性より女性が多く持っているためと推察される。広義の学びの効果としては、「日々の暮らしに役に立った」という項目を挙げる女性が男性に比べて大幅に多いことが特徴である。また、クロス集計によれば、学びへの意欲があり、学びの経験のある人はスポーツ・教養・芸術文化を問わず趣味活動に積極的であるほか、自治会や町内会活動にも前向きであり、そうした中に居場所を見つけていることがわかる。「人生100年時代」の人生を豊かにする学びとは、**仕事や職業キャリアにかかわる学びに限定されるものではない**。それは、**老若男女を問わず人生・生活の多様な次元に関連した学びであり、これらの多様な学びが手軽にできる社会環境・社会風土の構築が望まれる**。

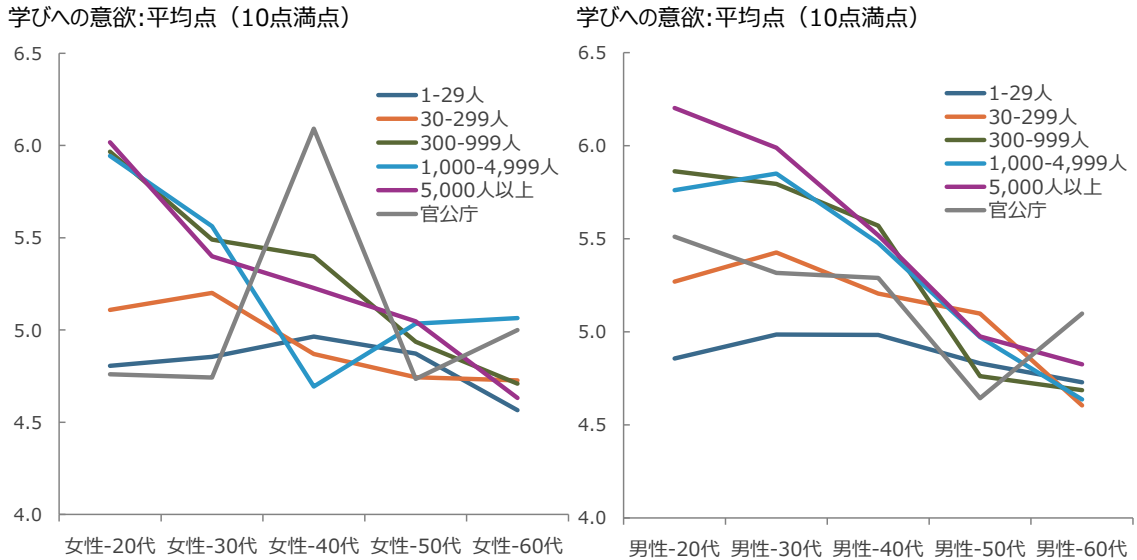
3. 労働市場調査の観点からのコメント

本節では、各論として、筆者の専門領域である労働市場調査の観点から男女共同参画に関わる点で、コメントを2つ記しておきたい。

1点目は、雇用者についての企業規模別にみた学びへの意欲の違いである。**総じて大企業勤務者ほど、学ぶ意欲が高い傾向がみられるが、興味深いのは年代で大きく異なる点である**。実は規模別格差が明確なのは男性の若い世代においてであり、男性の場合は中高年世代になるとその差はほとんどなくなる。女性の場合も同様の傾向がみられるものの、若手において総じて男性よりも意欲が相対的に低く、特に5,000人以上の大企業と官公庁で男女差が目立つ。

人口減少が継続することで労働力不足の深刻化が予想されるなか、中小・零細企業の若手社員、加えて、中高年社員の学びへの意欲を高めていくことが政策的に重要であることが示唆されている。性別には女性の学びへの意欲が相対的に低いことは、依然として女性活躍に課題が残ることを示唆しており、学びの機会提供の性別格差をなくしていくことの必要性の再認識を迫る内容となっている。

図表1 「学びへの意欲」の性別・年代別・企業規模別の違い

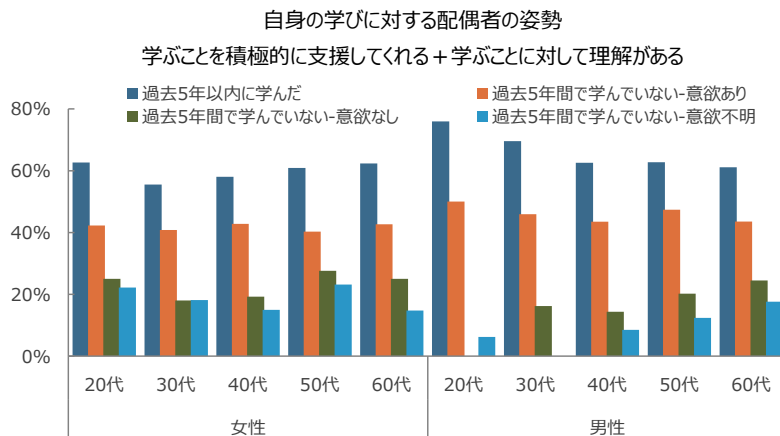


(注) 性別・年代別・企業規模別 (1-29人/30-299人/300-999人/1,000-4,999人/5,000人以上/官公庁の順) のn数は下記のとおり。
 <女性> 20代: 196/330/147/106/111/25, 30代: 283/402/145/103/130/31, 40代: 551/554/170/134/167/22, 50代: 485/481/171/146/172/49, 60代: 440/271/79/77/103/28
 <男性> 20代: 181/378/182/134/158/45, 30代: 269/539/249/188/187/79, 40代: 572/707/277/237/251/69, 50代: 552/562/261/244/250/73, 60代: 561/377/166/149/137/51

2点目は自身の学びに対する配偶者の姿勢がどう学びへの意欲に影響しているかである。想定される通り、配偶者の姿勢は学びの実績に大きく影響しており、過去5年以内に学んだ実績のある人の場合、過半が配偶者の前向きな姿勢（「学ぶことを積極的に支援してくれる」+「学ぶことに対して理解がある」）があり、逆に学びの実績のない人の場合、配偶者が前向きな姿勢である割合は少ない。

この点で注目すべきは男女間で様相が少し異なることである。自身の学びに対する配偶者の姿勢が前向きな割合は、過去5年以内に学んだ人の場合、男性20代で8割近くに上り、男性30代で7割弱の高水準である。一方、女性20代ではこの割合が6割余り、30代では6割弱にとどまる。40代でも男女の違いはやや薄れるものの、同様の傾向がみられる。一方、50代・60代では男女の差はほとんどなくなり、学びの経験がある場合、配偶者の姿勢が前向きな割合は6割強となっている。男女の違いがみられるのは子育て世代の年代にあたり、育児・家事的負担が依然として女性に偏っている可能性がうかがわれる。

図表2 配偶者が自身の学びにポジティブな場合と学びの実績との関係



(注) 性別・年代別・学びの経験と学びへの意欲別 (過去5年以内に学んだ/過去5年間で学んでいない-意欲あり/過去5年間で学んでいない-意欲なし/過去5年間で学んでいない-意欲不明の順) のn数は下記のとおり。
 <女性> 20代: 201/52/56/18, 30代: 373/218/150/66, 40代: 526/397/260/60, 50代: 530/496/257/56, 60代: 688/518/272/61
 <男性> 20代: 200/32/26/16, 30代: 447/146/142/26, 40代: 580/338/209/82, 50代: 537/403/262/97, 60代: 707/436/315/68

若者の学びの特徴と男女差 —キャリア形成の起点における「意欲」と「機会」の構造的課題—

1. はじめに

本調査は、全世代の「人生を豊かにするための学び」の実態を明らかにする大規模調査である。テクノロジーの進展や産業構造の変化が加速するなか、「学び直し」は個人のキャリア自律のみならず、日本経済の再生を担う重要課題となっている。しかし、日本の成人学習を取り巻く環境は、国際的にみて極めて特異な停滞の中にあり、その構造的要因の解明が急務となっている。

別冊の文献調査報告書によれば、日本の成人学習への参加率は諸外国と比べて著しく低い。特に顕著なのは性別による格差であり、女性の参加率は男性を10.9%ポイント下回っている¹。学習を阻む最大の要因は、「仕事や家族の都合による時間不足（59.8%）」²であり、長時間労働や家事育児の女性への偏りが、個人の自己研鑽を物理的に制約している実態が浮き彫りになっている。

こうした背景を踏まえ、本調査では全都道府県の成人2万人を対象に、職業キャリアに直結する「能力向上につながる学び」から「人生の豊かさにつながる学び」まで、多角的なアンケートを実施し、幾つもの興味深い結果が得られている。

本稿では、その膨大なデータの中から、生涯にわたる人的投資の収益率が最も高いとされる「若者」の学びに焦点を当てる。若年期の学びの質は、その後のキャリア形成の分岐点となる。ここで生じている男女差や雇用形態による格差の深層を考察することは、日本の人的資本経営のあり方を問い直す上で極めて重要な意義を持つ。

- 1.文献調査報告書P.38
- 2.文献調査報告書P.39

2. 若者の学びに対する意欲の規定要因

若年層は総じて、現在の仕事や将来の職業キャリアに直結する学びに対して強い意欲を持つ。しかし、その意欲を属性別に分析すると、構造的な格差が存在することがわかる。

第一に性別による差である。女性の学習意欲は、男性より4%ポイント低い³。第二に過去の学習状況の影響が極めて大きく、高卒者を基準とした場合、大卒者で10%ポイント、大学院卒者では13%ポイントも意欲が高まるという強い相関が見られる。

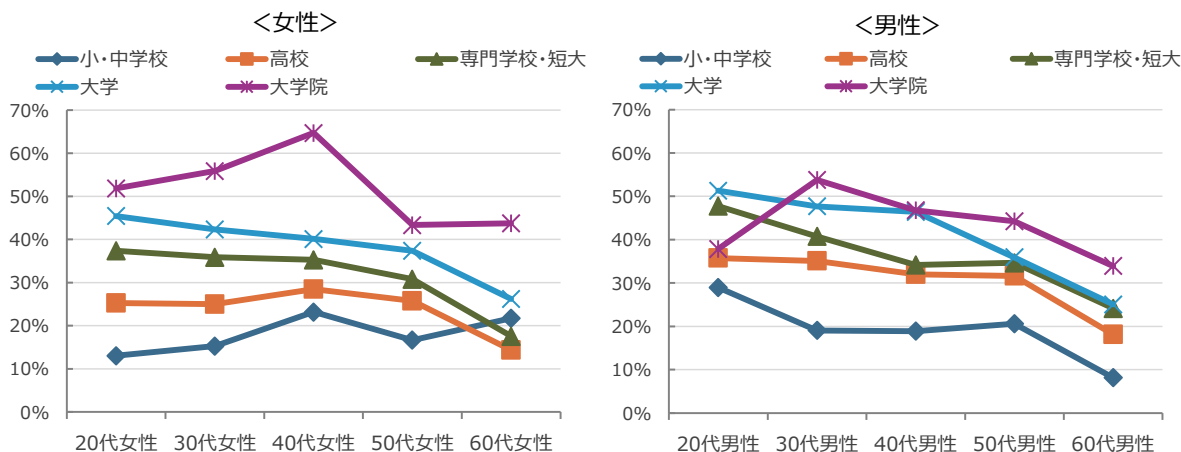
特筆すべきは、若年女性において学歴による意欲の差が男性よりも大きい点である。20～30代の最終学歴が「小学校・中学校」、「高等学校」の女性においては、仕事やキャリアに関する学びの意欲が男性と比べ著しく弱い傾向にある（図表1）。この顕著な差は、社会や家庭に根強く残る「性別役割分業意識」の内面化により、長期的なキャリア展望を描きにくい環境が影響していると考えられる。出発点における学びの停滞は、将来の人的投資機会を奪うだけでなく、社会全体としての人材活用における多大な損失である。

一方で、大学院卒者などの女性に限れば、学びへの意欲は極めて高い。彼女たちは、自身の性別役割分業意識が非常に弱く、性別にとらわれず専門性を高めようとする意欲が強いと推測される。

女性全体では、ライフステージが一段落する40代で意欲が最も高くなるという現象もみられるが、若年期における学びに対する意欲の違いは、その後のキャリア格差の固定化につながるものであり、見過ごせない。性別役割分業意識の多寡が、過去の学習状況を通じた「意欲の二極化」を助長している可能性が高い。

3.性別・最終学歴・配偶者の有無・子どもの有無・居住地域・出身地域といった属性により、仕事や職業キャリアに対する学びの意欲がどの程度異なるかをプロビットモデルにより分析した結果。「仕事や職業キャリアに関することについて学びたいと思いますか」との質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」の5つの選択肢のうち、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する人を学習意欲が高いと定義。

図表1 仕事や職業キャリアに関する学びの意欲が高い人の割合（最終学歴別）



(注) Q22.「仕事や職業キャリアに関することについて学びたいと思いますか」との質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」の5つの選択肢のうち、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合。
 (注) 性別・年代別・最終学歴別（小・中学校/高校/専門学校・短大/大学/大学院の順）のn数は下記のとおり。
 <女性> 20代：23/435/305/526/27、30代：72/532/552/562/34、40代：82/832/958/481/34、50代：36/877/1,029/313/30、60代：23/938/1,035/271/16
 <男性> 20代：38/428/220/540/74、30代：42/587/356/646/119、40代：90/859/524/752/139、50代：68/860/482/685/104、60代：49/921/394/703/59

3. 正規雇用者の学びにおける機会の不平等

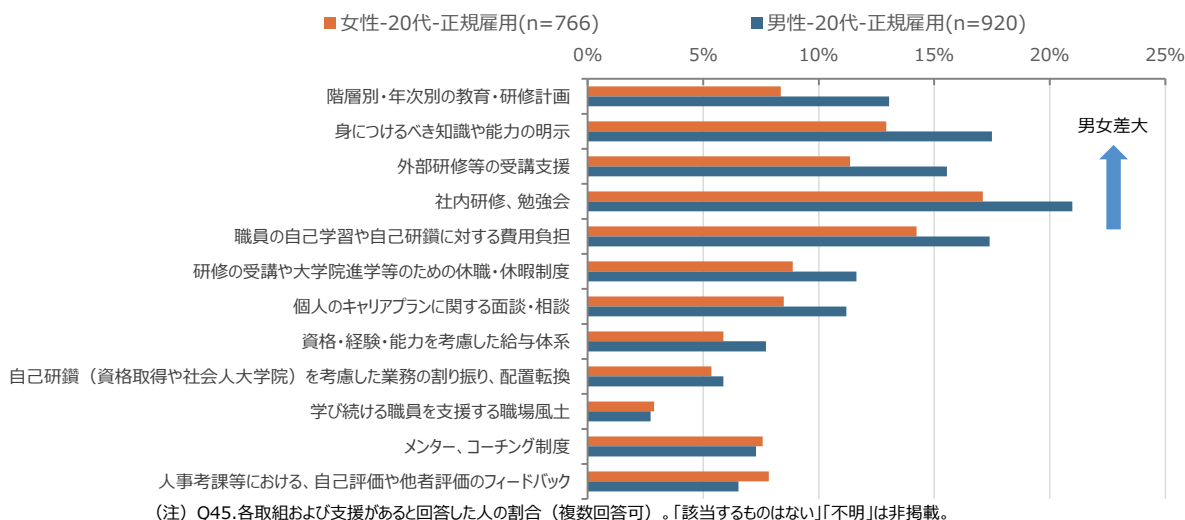
仕事や職業キャリアに関する学びは、大きく「職場における学習」と「自発的な学習」の二つに分けられるが、まずはキャリア形成の基盤となる「職場における学習」に注目したい。

職場における学習機会の提供状況を見ると、雇用形態による明確な格差が存在する。正規雇用者は非正規雇用者に比べて、教育訓練や実務を通じた学習機会において圧倒的に有利な立場にある。本調査の結果でも、若年層は他世代と比較して「就業先での支援がある」と回答する割合が高いが、その恩恵を享受できているのは主に正規雇用層である。

しかし、その正規雇用の内部においても、決して平等な機会が担保されているわけではない。ここで深刻なのが、正規雇用内における男女差である。データによれば、同じ正規雇用という立場であっても、女性は男性に比べて職場の学習支援を実感できていないという実態がある（図表2）。

この背景には二つの要因が考えられる。一つは、教育訓練が活発な大企業や専門職に男性が偏在しているという「職域分離（セグリゲーション）」の問題である。もう一つは、同一企業・同一職種内であっても、将来の幹部候補と目される男性に対して、優先的に学習機会が配分されているという運用上のバイアスの存在である。性別役割分業の是正が進まないなか、組織側が女性のキャリア継続性を低く見積もっている可能性は否定できない。

図表2 就業先で行われている学びに関する取組や支援



4. 非正規雇用の若者が求める支援の諸相

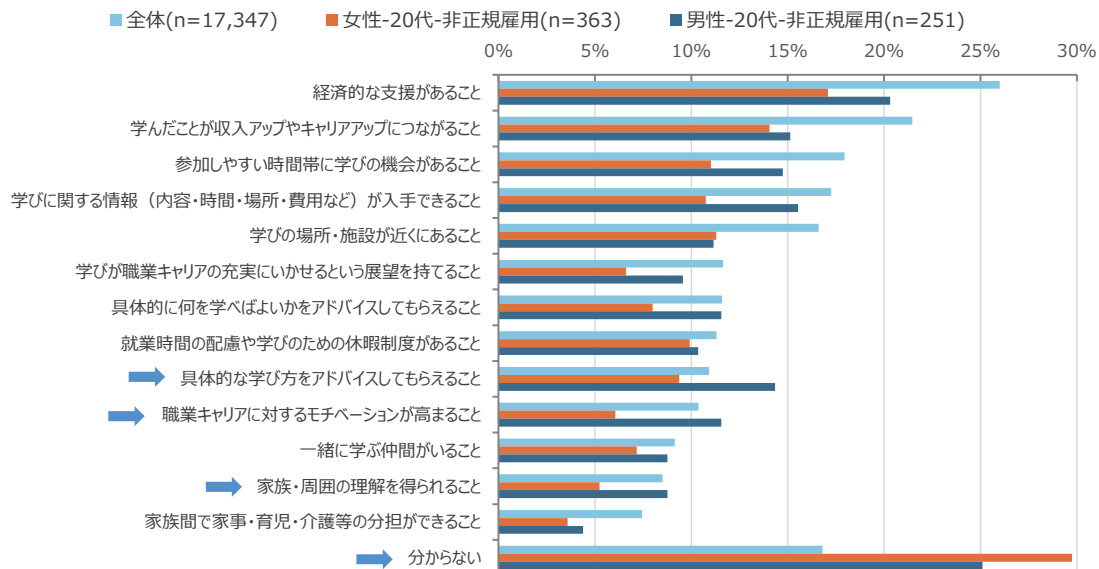
次に、職場外の「自発的な学習」に焦点を当てる。職場における教育訓練機会が限定的な非正規雇用者にとって、スキルアップやキャリア形成のための学びは、自発的な努力に依存せざるを得ない。特に20代の非正規雇用者が直面する課題は、単なる機会の欠如にとどまらず、より深刻な様相を呈している。

彼らが学びを充実させるために必要な要素として、約2割が「経済的支援」を挙げている。コスト面も障壁ではあるが、それ以上に注目すべきは心理的・環境的支援への希求である。特に20代非正規男性では、「具体的な学び方のアドバイス」「モチベーションの向上」「周囲の理解」を求める割合が全体平均を上回る（図表3）。

さらに看過できないのは、学びを充実させるために何が必要なのか「わからない」と回答する割合の高さである。20代の非正規雇用者では男性で約25%、女性では約30%に達し、他世代や正規雇用者を大きく上回る。彼らは学びの必要性を感じつつも、自らのキャリアをどのように展望し、どのようなステップを踏むべきかという「情報の欠如」や「ロールモデルの不在」に苦しんでいる現状が浮き彫りになっている。

職業人としての経歴が浅い若年非正規層にとって、金銭的補助は求められる支援のごく一部に過ぎない。進むべき方向を指し示す「羅針盤」としての助言や、孤立を防ぐ「周囲の承認」こそが、学習を継続しキャリアを切り拓くための不可欠なエンジンである。

図表3 仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと



（注）Q46.仕事や職業キャリアに関する学びの充実のために必要なこと（複数回答可）。「その他」「特になし」「不明」は非掲載。職場で提供される研修等の機会を除く。

5. おわりに

本調査を通じて、日本の若者の学びには、過去の学習状況・雇用形態・性別という多様な構造的障壁が存在することが明らかとなった。初期キャリアにおける女性や非正規雇用者の学びの停滞は、日本全体の労働生産性と格差是正における大きな課題である。

今後は、企業による機会提供の平等性を担保するとともに、職場外での学びを支える伴走型の助言支援や、性別役割分業を前提としない社会システムの構築が急務である。若者を孤立させず、社会全体でその成長を支える環境整備こそが、持続可能な人的資本経営のために欠かせない。

学びにどうやって踏み出すか - 「小さな学び」の役割の検討 -

学ぶ意欲があっても、最初の一步を踏み出せない

人生100年時代といわれる中で、成人期における学びの重要性はこれまで以上に高まっている。学びは、職業上の地位の向上やキャリア形成に資するのみならず、新たな視点や人間関係をもたらす、個人の生活の質を高める基盤となる。しかしながら、本報告書で指摘されたように、調査からは学びの意義が広く認識される一方で、実際には学びに踏み出せていない人が多い、という実態が示された。学びの必要性和実践との間には、依然として大きなギャップが存在している。

そこで本稿では、本調査のデータをもとに、「どのようにすれば学びの最初の一步を踏み出せるのか」という点に着目し、その手がかりを検討する。とりわけ、仕事の状況に関わらず幅広い人に開かれており、日常の中で無理なく取り組むことができる「仕事や職業キャリアに関すること」以外の学びに着目する。なかでも費用をかけず一人で小さく始められる『小さな学び』に焦点を当て、その価値や効果を検討する。

学びへの一步を阻む要因

本調査では、「仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」に加え、「家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」「文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」「地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」「健康に関すること」など、多様な領域に関する学びを捉え、過去からこれまでの実施状況を尋ねている（Q23）。以下では、上記のうち「仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」以外の学びを「広義の学び」と呼び、その学びの方法に着目していく。

まず、学ぶ意欲があっても学んでいない理由を確認する。図表1は、広義の学びについて学ぶ意欲を持ちながら、過去1年間に学習を行っていない人を対象に、その理由を複数回答で尋ねた結果を整理したものである（Q26）。図表中のデータは性別・年齢階級別の該当割合を示し、割合が高いほどセルの色を濃く、20%を超える場合には白抜き文字としている。

図表1 学んでいない理由（複数回答、該当割合%）

		仕事が忙しくて時間がな いから	家事・育 児・介護 等が忙し くて時間 がないか ら	健康上 の理由の ため	学ぶこと より優先 したいこ とがあるか ら	学びに必 要な情 報（内 容・時 間・場 所・費用 など）が 入手でき ないから	身近なと ころに学 ぶ機会・ 場がない から	学ぶため の費用が かかるか ら	学んでも 職場など から評価 されない から	学ぶこと に対して 家族の 理解が 得られな いから	何を学ん でいいか 分からな いから	その他	特に理 由はない
女性	n												
全体	5,815	18.7	16.0	6.9	16.3	11.2	19.1	24.1	4.3	2.6	21.8	1.6	23.1
20代	717	20.9	13.2	5.7	14.2	12.1	15.9	20.1	7.4	8.1	23.4	0.6	21.5
30代	914	20.0	22.1	6.3	15.5	12.7	17.4	25.2	5.8	4.4	25.9	2.1	19.7
40代	1,366	22.4	19.3	7.5	15.8	11.7	17.9	28.8	4.2	1.7	24.4	1.3	18.4
50代	1,380	21.6	15.1	5.9	18.0	11.8	18.5	27.7	3.6	1.2	21.6	1.4	22.2
60代	1,438	10.4	11.1	8.0	16.4	8.6	23.6	17.7	2.4	1.0	16.3	2.2	31.4
男性	n												
全体	5,176	23.1	9.1	8.0	15.5	10.5	16.8	19.0	7.8	4.9	20.0	1.6	26.6
20代	696	20.5	14.1	11.9	14.9	13.9	16.7	17.4	13.2	12.5	21.6	0.9	19.8
30代	900	27.8	14.6	9.9	16.0	11.6	17.2	20.2	9.3	7.2	19.7	0.9	21.7
40代	1,210	26.6	10.7	6.4	14.3	9.9	14.5	20.7	8.4	5.0	24.7	1.4	23.6
50代	1,188	26.4	6.3	6.6	16.3	9.8	17.1	20.8	6.6	2.4	19.7	2.3	26.3
60代	1,182	14.1	3.1	7.2	15.8	9.0	18.7	15.3	3.8	0.9	14.8	2.1	37.8

（注）「家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」「文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」「地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」「健康に関すること」について学びたいと思うと同時に、過去1年間に該当する領域について学んでいない人を対象に、その理由を12項目（複数回答）で尋ねた結果に基づき作成。

大嶋寧子（リクルートワークス研究所 研究センター研究1グループ長 主任研究員）

このうち男性では、「特に理由はない」を除くと、「仕事が忙しくて時間がないから」（年齢計23.1%）が最も高く、年齢階級別には30～50代で高い傾向がある。また、「何を学んでいいかわからないから」（同20.0%）、「学ぶための費用がかかるから」（同19.0%）も、20～50代を中心に高い傾向にある。

女性では、「学ぶための費用がかかるから」（年齢計24.1%）が最も高く、年齢階級別には30～50代で高い傾向がある。その他、「特に理由はない」を除くと、「何を学んでいいかわからないから」（同21.8%）、「身近なところに学ぶ機会・場がないから」（同19.1%）、「仕事が忙しくて時間がないから」（同18.7%）も相対的に高い。このほか、「家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから」を挙げる割合が、子育ての負担を抱える人が多くなる30～40代で高い傾向があることも特徴である。

このように、学ばない理由には性別・年齢階級による違いがみられるが、全体を俯瞰すると共通する課題も浮かび上がる。男女ともに「何を学んでいいかわからない」を挙げる人の割合が高いこと、また、時間や費用の負担を感じる人が多いことである。この背景には、「学びとは明確な目的を持ち、まとまった時間や費用をかけて行うものだ」という固定的なイメージがあり、それ以外の学びの価値を感じにくくなったり、着手のハードルを高めたりしている可能性がある。

小さく学ぶ機会は増えている

しかし、学びは本来そのように限定されたものではない。本報告書別冊（文献調査報告書）で整理されているように、UNESCOは生涯学習を、「あらゆる年齢・出自の人々が、家庭・学校・地域・職場といったあらゆる生活の場面において、フォーマルなもの、ノンフォーマルなもの、インフォーマルなものなど多様な形式で行う学習活動」と定義している。この定義が示すように、学びは制度化された教育の場にとどまらず、日々の経験や他者との関わり、仕事や生活の中で自然に得られる気づきや知識など、日常生活の中に広く埋め込まれているといえる。

さらに近年、教育機関や専門家による無料の動画コンテンツや、比較的安価に利用できるオンライン講座などが広く提供されており、低コストで隙間時間に学ぶ手段も増えている。今日、多くの人が仕事や家族のケア、その他の役割を抱える中で、新たな学びに関心を向ける心理的余裕が乏しくなっている可能性は否めない¹。しかし、インターネットで検索したり、専門知識を持つ人の発信に触れたりすることも含めれば、小さく学ぶ機会は過去と比べて大幅に増えているといっていよう。

1.リクルートワークス研究所「全国就業実態パネル調査2025年追加調査」では、30～59歳の男女に対し、「もし、週にあと3～5時間、自由な時間が増えたら何に使いますか」と尋ねる、「睡眠・休息」「労働」「家事・育児」「学び」「趣味」など10項目から1つだけ選ぶ設問を設けている。その回答によると、最も多かった回答は「睡眠・休息」で40.3%を占め、少なからぬ人が仕事や家庭役割により睡眠や休息を十分取れていないと感じていることが示された。

学び方に基づく3つのグループ

ではそのような『小さな学び』にはどのような価値があるのだろうか。本調査は単一時点のデータであるため、因果関係を直接示すことが難しいが、学び方の違いと個人の生活の質との関連を把握することは可能である。そこで以下では、広義の学びにおける独学など小さく始めやすい学び方に着目し、その価値について検討する。

本調査では、広義の学びを過去5年以内に行った人に対し、学び方を11項目で把握している（Q24）。そこで、過去5年以内に行った広義の学びの方法のうち、「独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）」「独学（動画配信サイトなど）」「詳しい人に話を聞く」といった、比較的lowコストで日常生活の中で始めやすい学びを、本稿では便宜的に『小さな学び』と呼び、その他の学び（「通信教育、オンライン学習ツール」「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室」「自治体や公民館など公的な機関における講座や教室」「学校（高等学校、大学、大学院、専門学校、オンラインスクールなど）の講座や教室」「大学・大学院等の教育課程」「職場での教育、研修」「その他」）と区別する。

大嶋寧子（リクルートワークス研究所 研究センター研究1グループ長 主任研究員）

その上で過去5年以内に広義の学びを行った人を、①『小さな学び』のみ、②その他の学びのみ、③両方を実施、の3群に分けた。3群の構成比²は、①が56.4%、②が21.7%、③が21.9%であった³。すなわち、広義の学びを行う人の半数以上は、『小さな学び』のみを行っている。

2. 学び方の構成比は過去5年間に学んでおり、学び方について欠損値がない人を分母として求めている。

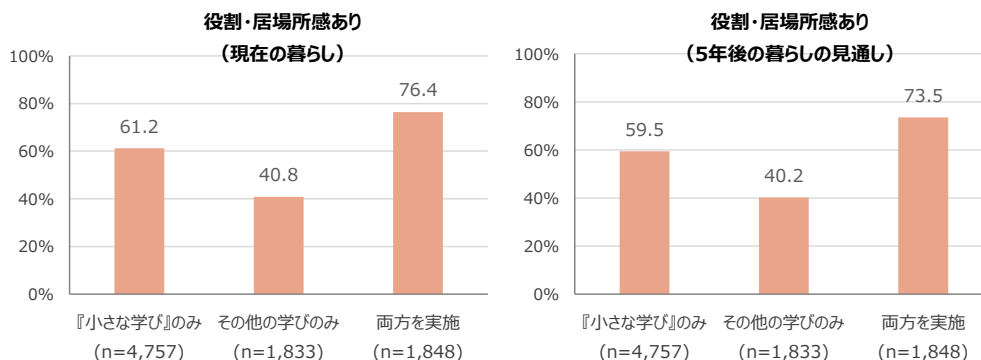
3. ここでの学び方は「仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」以外の学びについて聴取したものであり、「仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」の学びとは別であることに留意が必要である。

学び方によって異なる役割・居場所感

上記①～③に示した学び方と、現在の役割・居場所感（現在の暮らしの中で自分の役割や居場所があると感じているか）、及び将来の役割・居場所感（5年後にそのような役割や居場所を持っていると思うか）との関係を検討した。役割や居場所感は、「自分は何者で、どこに属しているのか」を支え、心理的な安定と意欲、そして社会とのつながりを成立させる基盤である。何かを学ぶことは、単に知識を獲得するだけでなく、周囲の人々あるいは社会との新たな関わり方を見出すことや、自分が担いうる新たな役割を見出すことにつながる可能性がある。また、学びによって得られる新たな視点は、自分の状況や今後果たしたい役割を見直す契機にもなりうる。

分析の結果、①～③の学び方によって、現在及び5年後の暮らしにおいて役割・居場所感を持てていると考える人の割合には差が見られた。図表2の左側に示すとおり、現在の暮らしにおける役割・居場所感を持つ人の割合は、①『小さな学び』のみの人で61.2%、②その他の学びのみの人で40.8%、③両方を実施した人で76.4%であった。図表2の右側に示すように、5年後の暮らしについても同様の傾向が見られた。

図表2 学び方と役割・居場所感の関係



(注) 現在の暮らしの中で自分の役割や居場所があると感じているか、5年後にそのような役割や居場所を持っていると思うかという質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合 (%)。

もっとも、これらは単純な集計の結果であり、家庭や仕事、それ以外の活動で役割・居場所がある人が学びに取り組んでいる可能性もある。そこで補助的に、現在の暮らしにおける役割・居場所感の有無を被説明変数とし、3つの学び方を説明変数、年齢、性別、就業形態、仕事以外に定期的に参加している活動の有無を統制した分析を行った。その結果、学びがない場合と比べて、『小さな学び』を行う場合、『小さな学び』とその他の学びの両方を行う場合に役割・居場所感を持つ人が相対的に多く、特に後者でその傾向がより強いことが示された⁴。この結果は、家族構成や年齢、仕事の状況、家庭や仕事以外での役割の有無を考慮した上でも、『小さな学び』と役割・居場所感との間に関連が存在する可能性を示唆する。

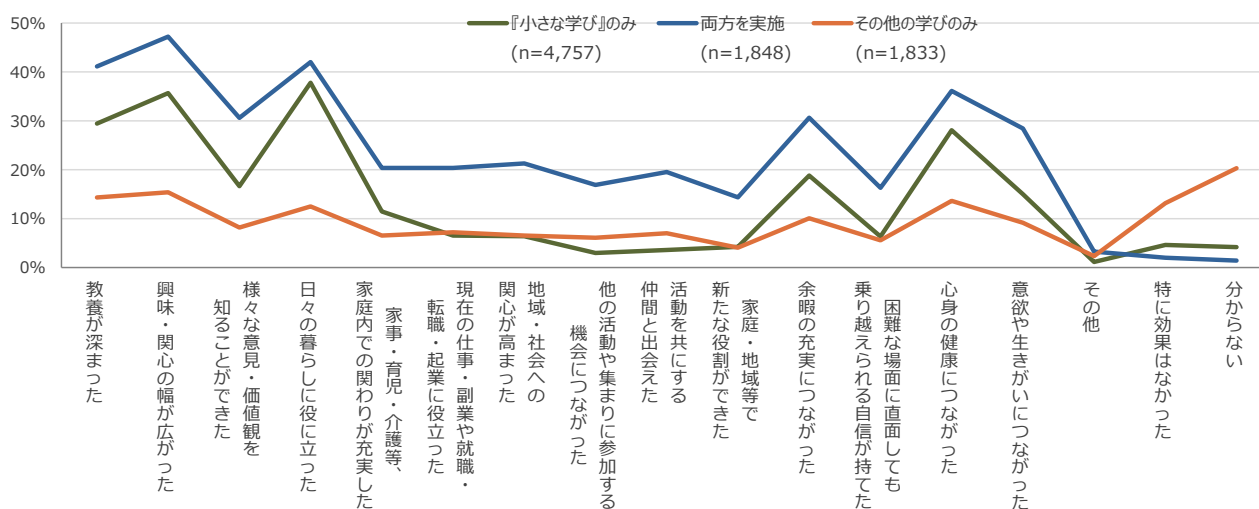
4. 現在の暮らしにおける役割・居場所感の有無 (0/1) を被説明変数、学び方 (学びなし (ベース) / 『小さな学び』のみ/その他の学びのみ/両方の学び実施) を主たる説明変数とし、年齢 (20-29/30-39/40-49/50-59/60-69)、性別、配偶者有無 (0/1)、18歳以下の子どもの有無 (0/1)、就業状態 (無業 (ベース) /正規雇用/非正規雇用/その他有業)、及び仕事以外の定期的な活動参加の有無 (0/1) を統制したロジット分析を行った。その結果、学びがない場合と比較して役割・居場所感を持つオッズ比は、『小さな学び』のみで2.4 (1%有意水準)、両方を実施した場合で約4.1 (1%有意水準) であった。その他の学びのみは、役割・居場所感を持つことと有意な関わりを確認できなかった。

学び方のグループで異なる効果の認識

最後に、過去5年以内に広義の学びを行った人が実感する学びの効果が、学び方によってどのように異なるかを確認し、その結果を図表3に示した。これによると、学び方によって学びの効果の認識にも違いが見られた。

まず、①『小さな学び』のみを行った人と、②その他の学びのみを行った人の結果を比較すると、①の人では「教養が深まった」「興味・関心の幅が広がった」「様々な意見・価値観を知ることができた」「日々の暮らしに役に立った」「家事・育児・介護等、家庭内での関わりが充実した」「家庭・地域等で新たな役割ができた」「余暇の充実につながった」「心身の健康につながった」「意欲や生きがいにつながった」など、視野や役割の拡大、充実感や生きがいに関わる項目に該当する割合が、より高い傾向がみられた。すなわち、『小さな学び』のみであっても、さまざまな効果が認識されている傾向が確認された。

図表3 学び方別に見た、学んだことの効果として認識する内容



(注) 過去5年間に学んだ内容（広義の学び）を表示した上で、「あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください」との教示文の下で17項目の効果から該当するものを全て選択する設問の結果。

他方、②の人で①よりも該当割合が高かった項目は、「現在の仕事・副業や就職・転職・起業に役立った」「他の活動や集まりに参加する機会につながった」「活動を共にする仲間と出会えた」「地域・社会への関心が高まった」など、職業上のメリットや他者との関係性に関わるものが中心であった。その他の学びには、学校等における人と共に学ぶ形式のものが多く含まれ、社会的な関係の形成をより直接的に促しやすいと考えられる。

最後に、③の両方の学びを行う人の状況を見ると、全般に効果を感じる人が多い傾向があるが、「現在の仕事・副業や就職・転職・起業に役立った」「地域・社会への関心が高まった」「他の活動や集まりに参加する機会につながった」「活動を共にする仲間と出会えた」などで①との差が大きくなっていった。

以上からは、『小さな学び』のみからも、個人は視野の広がりや暮らしの充実、新たな役割や生きがいの形成につながる効果を実感していること、同時に、『小さな学び』とその他の学びを組み合わせることで、人や社会との関わりを広げやすくなる可能性が示唆される。

小さな学びから始めることの意味

以上の結果から、学びは必ずしも大きな負担を伴うものである必要はなく、むしろ日常の中で無理なく始められる『小さな学び』にも重要な意義がある可能性が示唆される。とりわけ、『小さな学び』を行う人は、視野の広がりや生活の充実、役割の実感といった面で多様な効果を実感しており、こうした効果は次の一步を踏み出す原動力になりうる。また分析からは、『小さな学び』を起点としながら、より本格的な学びの機会へ踏み出すことで、より多面的な効果が生まれる可能性も確認された。学びに対して「時間や費用をかけなければならない」「明確な目的が必要である」といったイメージを捨てて、まずは身近な関心から小さく始めてみるのが、結果として個人の充実や社会とのつながりを広げるきっかけとなりうると考えられる。

参考資料 WEBアンケート調査票



このアンケートは、人生を豊かにする学びに対する関心や意識及び学びを促進・継続するために必要なことなどを把握するために、内閣府が行うものです。アンケート内には、結婚、収入などに関する質問が含まれ、答えづらい質問もあるかと思いますが、趣旨をご理解の上、ご参加いただける場合は、次ページにお進みください。

-----<改ページ>-----

[必須]

Q1 あなたの性別を教えてください。
(1つ選択)

1. 男性

2. 女性

-----<改ページ>-----

[必須]

Q2 あなたの年齢を教えてください。
(1つ選択)

1. 19歳以下

2. 20～24歳

3. 25～29歳

4. 30～34歳

5. 35～39歳

6. 40～44歳

7. 45～49歳

8. 50～54歳

9. 55～59歳

10. 60～64歳

11. 65～69歳

12. 70歳以上

-----<改ページ>-----

[必須]

Q3 現在のお住まいはどこですか。
(1つ選択)

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q4 あなたが、中学校を卒業するまでに、最も長く住んでいたのはどこですか。
(1つ選択)

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q5 配偶者の有無について教えてください。
※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も、「配偶者あり」に含みます。
(1つ選択)

- 1. 未婚（一度も結婚したことはない）
- 2. 配偶者あり
- 3. 離別・死別
- 4. その他・答えたくない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q6 同居している子供はいますか。
※養子・里子等も含めてください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 3歳未満の子供がいる
- 2. 小学校入学前（3歳～6歳）の子供がいる
- 3. 小学校低学年（1年生～3年生）の子供がいる
- 4. 小学校高学年（4年生～6年生）の子供がいる
- 5. 中学生～18歳の子供がいる
- 6. 19歳以上の子供がいる
- 7. 子供はいない

-----<改ページ>-----

【必須】

Q7 あなたの最終学歴を教えてください。

※学位が授与される大学校の場合は、取得した学位に該当する選択肢をお答えください（学士であれば「大学（学士）」）。

（1つ選択）

- 1. 小学校・中学校
- 2. 高等学校
- 3. 専門学校（中学校卒業後）
- 4. 専門学校（高校卒業後）
- 5. 高等専門学校（5年制）
- 6. 短期大学
- 7. 大学（学士）
- 8. 大学院（修士）
- 9. 大学院（博士）
- 10. その他

-----<改ページ>-----

【必須】

Q8 ① あなたの普段の1日の時間配分について、1～4のおおよその時間を教えてください。

※1～5の合計が24時間になるように入力してください。（5は自動計算）

② また、1日のうち趣味・自己啓発・勉強・自分のために使うおおよその時間を教えてください。

※現在働いている人は、「仕事がある日の1日」をお答えください。

※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の1日」をお答えください。

※該当する時間がない人は、時間・分ともに「0」と入力してください。

（それぞれ整数を入力）

① 普段の1日の時間配分

1. 収入を伴う仕事の時間 時間 分

2. 通勤・通学時間 時間 分

3. 家事・育児・介護の時間 時間 分

4. 睡眠、食事、身の回りの用事の時間 時間 分

5. その他（自由時間など） 時間 分

② 趣味・自己啓発・勉強・自分のために使う時間 時間 分

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q5で『2.配偶者あり』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q9 あなたは、日頃、配偶者と「家事・育児・介護」をどのくらい分担していますか。全体を100%（パーセント）としてお答えください。

※配偶者には、婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含まれます。
(整数を入力)

あなたが全体のうち、約 %を行っている

-----<改ページ>-----

【必須】

Q10 今年（2025年）の①個人年収（あなたご自身）と、②世帯全体の年収を教えてください。

※年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。

※世帯全体の年収は、あなたの年収を含む世帯年収でお答えください。

(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)

	① 個人年収	② 世帯年収
	↓	↓
1. 1円～50万円未満	●	●
2. 50万円～99万円台	●	●
3. 100万円～149万円台	●	●
4. 150万円～199万円台	●	●
5. 200万円台	●	●
6. 300万円台	●	●
7. 400万円台	●	●
8. 500万円台	●	●
9. 600万円台	●	●
10. 700万円台	●	●
11. 800万円台	●	●
12. 900万円台	●	●
13. 1,000万円～1,499万円台	●	●
14. 1,500万円以上	●	●
15. 0円（収入はない）	●	●
16. 分からない・答えたくない	●	●

-----<改ページ>-----

[必須]

Q11 あなたには、過去5年間で次のような出来事等がありましたか。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 結婚
- 2. 子供の誕生（出産）・育児
- 3. 産前産後休業、育児休業の取得
- 4. 親や親族等の介護
- 5. 育児や介護の一段落
- 6. 離婚・配偶者との死別
- 7. 社会人になって以降の留学・大学等への入学（学生時代を除く）
- 8. 勤務先での部署又は職場の異動（海外転勤・出向を含む）
- 9. 転職
- 10. 再就職（一定期間、仕事を離れた期間を経て就職）
- 11. 事業継承・起業・フリーランスへの転向
- 12. 退職（その後、現在まで働いていない）
- 13. 該当するものはない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q12 あなたは、仕事以外に、定期的に参加している取組や活動はありますか。
※1か月に1回程度以上、参加しているものをお答えください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. スポーツ・運動
- 2. 教養や芸術文化など趣味・娯楽の活動（スポーツ・運動を除く）
- 3. 自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など地域での活動
- 4. 上記以外のボランティア活動（プロボノ含む）
- 5. その他
- 6. 特にない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q13 現在のあなたの就業状態・雇用形態を教えてください。

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ（時間が長いところ）をお答えください。

(1つ選択)

- 1. 会社経営者・役員
- 2. 正規の会社員・職員・従業員
- 3. 非正規の会社員・職員・従業員（パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等）
- 4. 自営業・自由業
- 5. 自家営業の手伝い（家族従業者）、家庭内の賃仕事（内職）
- 6. その他（働いている）
- 7. 学生（社会人経験なし）
- 8. 学生（社会人経験あり）
- 9. 主婦・主夫（働いていない）
- 10. その他（働いていない）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.会社経営者・役員』～『6.その他（働いている）』いずれかを選択した方のみ

[必須]

Q14 現在のあなたの勤務先の企業規模を教えてください。

※本社、支店、工場なども含めた従業員総数をお答えください（グループ会社や子会社は含みません）。なお、パートなどを含みます。

※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」とお答えください。

(1つ選択)

- 1. 1人～4人
- 2. 5人～29人
- 3. 30人～99人
- 4. 100人～299人
- 5. 300人～499人
- 6. 500人～999人
- 7. 1,000人～4,999人
- 8. 5,000人以上
- 9. 官公庁
- 10. 分からない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.会社経営者・役員』～『6.その他（働いている）』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q15 現在のあなたの勤務先での職種を教えてください。

(1つ選択)

- 1. 事務職
- 2. 販売職
- 3. サービス職
- 4. 保安職
- 5. 製造・加工
- 6. 輸送・機械運転
- 7. 建設・採掘
- 8. 運搬・清掃・包装等
- 9. 専門的・技術的職業（IT・システム関連など）
- 10. 専門的・技術的職業（研究者、技術者、医師・看護師・栄養士、教員など）
- 11. 農林漁業
- 12. 管理的職業（会社役員、議員など）
- 13. 管理的職業（部店長・所長など部署の責任者）
- 14. 管理的職業（その他）
- 15. その他

-----<改ページ>-----

[必須]

Q16 ① あなたのこれまでの就業年数を教えてください。※休業期間を除く。

また、現在仕事をしている場合は、② 現在勤めている会社等での勤務年数を教えてください。※休業期間を除く。

(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)

	① これまでの就 業年数	② 現在の会社等 での勤務年数
	↓	↓
1. 1年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 1年以上3年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 3年以上5年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 5年以上10年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 10年以上20年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 20年以上30年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 30年以上40年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 40年以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.会社経営者・役員』～『6.その他（働いている）』いずれかを選択した方のみ

[必須]

Q17 あなたが現在利用している働き方を教えてください。

(当てはまるものを全て選択)

- 1. リモートワーク・テレワーク
- 2. 裁量労働制
- 3. フレックスタイム制
- 4. 副業・兼業
- 5. 時短勤務
- 6. 多様な正社員（週休3日制、職務内容・勤務地・勤務時間等を限定した働き方）
- 7. その他の多様な働き方（ ）
- 8. 該当するものはない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16で「1.①これまでの就業年数」で『1.1年未満』～『8.40年以上』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q18 あなたは、転職したことはありますか。
(1つ選択)

- 1. 転職経験がある
- 2. 転職経験はない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q18で『1.転職経験がある』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q19 転職する際、どのようなことを重視しましたか。転職経験が複数ある場合は、直近の転職活動で重視したことを教えてください。

(当てはまるものを全て選択)

- 1. 仕事内容
- 2. 自分の能力やスキルをいかせること
- 3. 新しいことに挑戦できること
- 4. 自分が成長できること
- 5. 給与や待遇面
- 6. 家族の事情（パートナーの転勤、子供の教育、介護など）
- 7. 能力開発など人材育成制度の充実度
- 8. キャリア開発支援制度の充実度
- 9. 会社の将来性
- 10. 職場の雰囲気・人間関係
- 11. 福利厚生
- 12. その他
- 13. 特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q5で『2.配偶者あり』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q20 配偶者の現在の就業状態・雇用形態を教えてください。

※配偶者には、婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含まれます。

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ（時間が長いところ）をお答えください。
(1つ選択)

- 1. 会社経営者・役員
- 2. 正規の会社員・職員・従業員
- 3. 非正規の会社員・職員・従業員（パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託等）
- 4. 自営業・自由業
- 5. 自家営業の手伝い（家族従業者）、家庭内の賃仕事（内職）
- 6. その他（働いている）
- 7. 学生（社会人経験なし）
- 8. 学生（社会人経験あり）
- 9. 主婦・主夫（働いていない）
- 10. その他（働いていない）
- 11. 把握していない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q21 あなたは、人生をより良くするために「新しいことを身につけたい」・「いまの自分の能力やスキルを更に磨きたい」という気持ちを持っていますか。
0点～10点でお答えください。
(1つ選択)

0点 ※気持ちなし

1点

2点

3点

4点

5点

6点

7点

8点

9点

10点 ※気持ちあり

-----<改ページ>-----

[必須]

Q22 あなたは、次のようなことを学びたいと思いますか。
本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。
(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)

		1. そう思う	2. どちらか といえば そう思う	3. どちらか といえば そう思わ ない	4. そう思わ ない	5. 分からな い
i. 仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ii. 家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iii. 文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
iv. 地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v. 健康に関すること	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
vi. その他	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

-----<改ページ>-----

[必須]

Q23 あなたは、次のようなことを過去5年間で学びましたか。期間内に1日（1回）以上学んだ場合は、「学んだ」とお答えください。

本を読む、自分で勉強する、インターネットで検索する、詳しい人に話を聞く、講座を受講するなど、学ぶ方法は問いません。

（それぞれ、当てはまるものを1つ選択）

		1. 過去1年 以内に学 んだ	2. 過去1年 以内には 学んでい ないが5 年以内に 学んだ	3. 過去5年 間で学ん でいない
i. 仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関する事	→	●	●	●
ii. 家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関する事	→	●	●	●
iii. 文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関する事	→	●	●	●
iv. 地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関する事	→	●	●	●
v. 健康に関する事	→	●	●	●
vi. その他	→	●	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「2.ii.家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「3.iii.文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「4.iv.地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「5.v.健康に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「6.vi.その他」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

[必須]

Q24 過去5年以内に学んだ

- ・家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること
- ・文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること
- ・地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること
- ・健康に関すること
- ・その他

について伺います。

どのように学びましたか。有料・無料を問わず、お答えください。

（当てはまるものを全て選択）

- 1. 独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）
- 2. 独学（動画配信サイトなど）
- 3. 詳しい人に話を聞く
- 4. 通信教育、オンライン学習ツール
- 5. 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
- 6. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室
- 7. 自治体や公民館など公的な機関における講座や教室
- 8. 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校、オンラインスクールなど）の講座や教室
- 9. 大学・大学院等の教育課程
- 10. 職場での教育、研修（ライフプランなど業務に直接関係しないこと）
- 11. その他

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「2.ii.家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「3.iii.文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「4.iv.地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「5.v.健康に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した

または

Q23で「6.vi.その他」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q25 過去5年以内に学んだ

- ・家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること
- ・文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること
- ・地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること
- ・健康に関すること
- ・その他

について伺います。

あなたご自身がこれらのことを学んだことで、どのような効果を感じましたか。現在も学び続けている場合は、いま感じている効果を教えてください。

（当てはまるものを全て選択）

- 1. 様々な意見・価値観を知ることができた
- 2. 他の活動や集まりに参加する機会につながった
- 3. 現在の仕事・副業や就職・転職・起業に役立った
- 4. 日々の暮らしに役に立った
- 5. 興味・関心の幅が広がった
- 6. 地域・社会への関心が高まった
- 7. 心身の健康につながった
- 8. 余暇の充実につながった
- 9. 困難な場面に直面しても乗り越えられる自信が持てた
- 10. 意欲や生きがいにつながった
- 11. 家事・育児・介護等、家庭内での関わりが充実した
- 12. 教養が深まった
- 13. 活動を共にする仲間と出会えた
- 14. 家庭・地域等で新たな役割ができた
- 15. その他
- 16. 特に効果はなかった
- 17. 分からない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

(Q22で「2.ii.家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」で『1.そう思う』～『2.どちらかといえばそう思う』 いずれかを選択した
かつ

Q23で「2.ii.家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること」で『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』～『3.過去5年間で学んでいない』 いずれかを選択した)

または

(Q22で「3.iii.文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」で『1.そう思う』～『2.どちらかといえばそう思う』 いずれかを選択した
かつ

Q23で「3.iii.文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること」で『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』～『3.過去5年間で学んでいない』 いずれかを選択した)

または

(Q22で「4.iv.地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」で『1.そう思う』～『2.どちらかといえばそう思う』 いずれかを選択した
かつ

Q23で「4.iv.地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること」で『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』～『3.過去5年間で学んでいない』 いずれかを選択した)

または

(Q22で「5.v.健康に関すること」で『1.そう思う』～『2.どちらかといえばそう思う』 いずれかを選択した
かつ

Q23で「5.v.健康に関すること」で『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』～『3.過去5年間で学んでいない』 いずれかを選択した)

または

(Q22で「6.vi.その他」で『1.そう思う』～『2.どちらかといえばそう思う』 いずれかを選択した
かつ

Q23で「6.vi.その他」で『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』～『3.過去5年間で学んでいない』 いずれかを選択した)方のみ

[必須]

Q26 過去1年以内に学んでいない

- ・家庭や日常生活（家事・育児・介護等）に関すること
- ・文化・教養（語学・芸術・歴史等）に関すること
- ・地域活動や社会貢献活動（地域の清掃活動、自治会活動、ボランティア等）に関すること
- ・健康に関すること
- ・その他

について伺います。

あなたが、過去1年以内に学んでいない理由を教えてください。

(当てはまるものを全て選択)

- 1. 身近なところに学ぶ機会・場がないから
- 2. 仕事が忙しくて時間がないから
- 3. 学ぶことより優先したいことがあるから
- 4. 学びに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できないから
- 5. 学ぶことに対して家族の理解が得られないから
- 6. 健康上の理由のため
- 7. 学ぶための費用がかかるから
- 8. 何を学んでいいかわからないから
- 9. 家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから
- 10. 学んでも職場などから評価されないから
- 11. その他
- 12. 特に理由はない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q27 今後、あなたが学ぶためには、どのようなことが必要ですか。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 学ぶに関する情報 (内容・時間・場所・費用など)
- 2. 就業時間の配慮や学びのための休暇制度
- 3. 家族間での家事・育児・介護等の分担
- 4. 学ぶための経済的な支援
- 5. 家族・周囲の理解
- 6. 学んだことをいかせる場所
- 7. 一緒に学ぶ仲間
- 8. 学びを行う場所・施設
- 9. 学びを支援する人 (キャリアコンサルタントなど)
- 10. 講座を修了することにより得られる証明書や国の認定
- 11. その他
- 12. 特にない
- 13. 分からない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q28 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。
(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)

		1. そう思う	2. どちらか といえば そう思う	3. どちらと もいえな い	4. どちらか といえば そう思わ ない	5. そう思わ ない
1) 学んだことをいかす機会や場所がある	→	●	●	●	●	●
2) 何歳になっても、能力を伸ばし続けることができる	→	●	●	●	●	●
3) 中学生時代の学校の成績は優秀だった	→	●	●	●	●	●
4) 学生時代に勉強を頑張った	→	●	●	●	●	●
5) 学びとは、社会人ではなく、学生に必要なことだ	→	●	●	●	●	●
6) 学ぶためには、しっかりとした教育カリキュラムが必要だ	→	●	●	●	●	●
7) 現場での経験や実践こそが最も重要な学びだ	→	●	●	●	●	●
8) 学ぶ必要のあることは、会社や他の人に示してほしい	→	●	●	●	●	●

		1. そう思う	2. どちらか といえば そう思う	3. どちらと もいえな い	4. どちらか といえば そう思わ ない	5. そう思わ ない
9) 社会の変化に対応するために、学び続けることが必要だ	→	●	●	●	●	●
10) 目標にする人に近づきたい思いで自己研鑽している	→	●	●	●	●	●
11) 学ぶことになるべくお金をかけたくない	→	●	●	●	●	●
12) 効率的に学びたい・学ぶ時間や労力を省力化したい	→	●	●	●	●	●
13) 気の合う仲間と学びたい	→	●	●	●	●	●
14) 学んだことを地域・社会のためにいかしたい	→	●	●	●	●	●
15) 今のままで十分に仕事ができている・生活を送ることができている	→	●	●	●	●	●
16) 自分が学ぶことよりも、他に優先すべきことがある	→	●	●	●	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q5で『2.配偶者あり』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q29 あなたご自身が学ぶことに対して、あなたの配偶者はどのような姿勢ですか。あなたが感じている配偶者の姿勢に近いものを教えてください。

(1つ選択)

- 1. 学ぶことを積極的に支援してくれる
- 2. 学ぶことに対して理解がある
- 3. 学ぶことに対して無関心である
- 4. 学ぶことに否定的な姿勢である
- 5. 分からない

-----<改ページ>-----

デジタルツールに関する知識やスキルに対する意識

【必須】

Q30 あなたは、デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思いますか。身につけたい理由として最も近いものを教えてください。

※実際に仕事や私生活で活用・発揮する機会があるかどうかにかかわらず、知識として身につけたいものをお答えください。

※既に身につけているデジタルツールに関するスキルでも、今後もそのスキルを維持・更新したい場合は身につけたいスキルとしてお答えください。

(1つ選択)

- 1. 快適で便利な生活を送るため
- 2. 就職、再就職、転職のため
- 3. 現在の仕事・業務を続けるため
- 4. 新規事業の開発や自社の課題解決の企画・推進のため
- 5. キャリアアップや副業・兼業、セカンドキャリアのため
- 6. 起業・フリーランスとして働くため
- 7. その他
- 8. 特に身につけたいとは思わない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q31 あなたは、次のようなデジタルツールについて、基礎あるいはそれ以上の知識やスキルを持っていますか。
※実際に活用・発揮したことがないデジタルツールに関するスキルでも、知識がある場合は持っているとしてお答えください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 携帯電話やスマートフォンでの電子決済、オンラインショッピングの利用
- 2. 動画オンデマンド配信サービスや動画投稿共有サイトの利用
- 3. SNSの閲覧
- 4. ITやデジタル技術の一般的な知識（特徴や基本的動向など）
- 5. オフィス系ソフトウェアの知識、実践的なパソコンスキル
- 6. 業務用システムやソフトウェア（オフィス系ソフトウェア以外）の知識
- 7. プログラミングの知識
- 8. IT・デジタルの基礎資格（ITパスポートやG検定など）の知識
- 9. 生成AIを活用した業務の効率化のためのスキル
- 10. 画像の加工やデザイン、ウェブページのデザイン、動画編集などのスキル
- 11. Webサイトの構築、Web上のシステムの設計や開発などに関わるスキル
- 12. デジタルコンテンツを活用したマーケティングスキル
- 13. 上記以外のIT・デジタルの専門知識を活用する仕事のスキル
- 14. その他
- 15. 特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q30で『1.快適で便利な生活を送るため』～『7.その他』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q32 あなたが、今後身につけたい（維持や更新を含む）デジタルツールに関するスキルや知識はどのようなことですか。

※実際に仕事や私生活で活用・発揮する機会があるかどうかにかかわらず、知識として身につけたいものをお答えください。

※既に身につけているデジタルツールに関するスキルでも、今後もそのスキルを維持・更新したい場合は身につけたいスキルとしてお答えください。

（当てはまるものを全て選択）

- 1. 携帯電話やスマートフォンでの電子決済、オンラインショッピングの利用
- 2. 動画オンデマンド配信サービスや動画投稿共有サイトの利用
- 3. SNSの閲覧
- 4. ITやデジタル技術の一般的な知識（特徴や基本的動向など）
- 5. オフィス系ソフトウェアの知識、実践的なパソコンスキル
- 6. 業務用システムやソフトウェア（オフィス系ソフトウェア以外）の知識
- 7. プログラミングの知識
- 8. IT・デジタルの基礎資格（ITパスポートやG検定など）の知識
- 9. 生成AIを活用した業務の効率化のためのスキル
- 10. 画像の加工やデザイン、ウェブページのデザイン、動画編集などのスキル
- 11. Webサイトの構築、Web上のシステムの設計や開発などに関わるスキル
- 12. デジタルコンテンツを活用したマーケティングスキル
- 13. 上記以外のIT・デジタルの専門知識を活用する仕事のスキル
- 14. その他

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q30で『8.特に身につけたいとは思わない』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q33 デジタルツールに関する知識やスキルを身につけたいと思わない理由をお答えください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. デジタル技術に苦手意識があるから
- 2. 仕事が忙しくて時間がないから
- 3. 家事・育児・介護等が忙しくて時間がないから
- 4. 健康上の理由のため
- 5. 他に優先して身につけたいことがあるから
- 6. 身につけるために必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できないから
- 7. 身につける機会・場がないから
- 8. 身につけるための費用がかかるから
- 9. 身につけても職場などから評価されないから
- 10. 身につけることに対して家族の理解が得られないから
- 11. 何を身につけていいかわからないから
- 12. 身につけ方がわからないから
- 13. 必要性を感じないから
- 14. その他
- 15. 特に理由はない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『8.学生（社会人経験あり）』～『10.その他（働いていない）』 いずれかを選択した方のみ

職業キャリアの学びに対する意識

【必須】

Q34 あなたは今後、働きたいと思いますか。
(1つ選択)

- 1. 正社員として働きたい
- 2. パート・アルバイト等で働きたい
- 3. 自分で事業を始めたい
- 4. その他の形で働きたい
- 5. 働きたいとは思わない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

有業or就業意向で『1.Q13=1-6on（有業者）又はQ34=1-4on（就業意向あり）に該当』 いずれかを選択した方のみ

[必須]

Q35 下記の項目について、あなたのお考え・思いに近いものを教えてください。
（それぞれ、当てはまるものを1つ選択）

		1. そう思う	2. どちらか といえば そう思う	3. どちらと もいえな い	4. どちらか といえば そう思わ ない	5. そう思わ ない
1) 昇進・昇格したい	→	●	●	●	●	●
2) 同じ会社で長く働きたい	→	●	●	●	●	●
3) 条件のより良い会社があれば転職したい	→	●	●	●	●	●
4) 起業・独立したい	→	●	●	●	●	●
5) ワーク・ライフ・バランスを重視した働き方をしたい	→	●	●	●	●	●
6) 特定分野の専門性を深めたい	→	●	●	●	●	●
7) 新しい仕事に挑戦したい	→	●	●	●	●	●
8) 資格の取得、学位の取得、留学などのために仕事を離れて学び直したい	→	●	●	●	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q36 過去5年以内に学んだ【仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること】について伺います。

あなたは、仕事や職業キャリア（転職、セカンドキャリア等を含む）に関する学びについて、過去5年間でどのように学びましたか。

- ① 会社等の指示を受けての学びと、② 自発的な学びのそれぞれについて教えてください。
（それぞれ、当てはまるものを全て選択）

	① 会社等の指示を受けての学び	② 自発的な学び
	↓	↓
1. 独学（書籍、テレビ、ラジオ、インターネット検索など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 独学（動画配信サイトなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 通信教育、オンライン学習ツール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 会社内での教育（研修・eラーニング）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 職場内での訓練（OJT）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 会社内での自主的な勉強会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 民間の講座や教室	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 自治体や公民館など公的な機関における講座や教室	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校、オンラインスクールなど）の講座や教室	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 大学・大学院等の教育課程	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 公共の職業訓練	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 該当するものはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q37 あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる能力やスキルはどのようなことですか。
(当てはまるものを全て選択)

1. IT関連、デジタルツールに関するスキル

2. 企画、マーケティング

3. マネジメント、リーダーシップ

4. 対人スキル、コミュニケーション

5. 心理学、カウンセリング

6. 教養、ビジネスマナー

7. グラフィック、視覚デザイン

8. ライティング、文章力

9. 画像・動画の編集、制作

10. 経済、社会、政治、歴史

11. 会計管理、金融

12. 語学

13. その他

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q38 仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの時間をかけて学びましたか。
学んだ月の1か月あたりの平均時間をお答えください。
(1つ選択)

- 1. 4時間未満
- 2. 4時間以上8時間未満
- 3. 8時間以上12時間未満
- 4. 12時間以上16時間未満
- 5. 16時間以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q39 仕事や職業キャリアに関する学びについて、過去1年間であなたはどのくらいの費用をかけましたか。
学んだ月の1か月あたりの平均金額をお答えください。
(1つ選択)

- 1. 0円（費用をかけていない）
- 2. 1,000円未満
- 3. 1,000円以上5,000円未満
- 4. 5,000円以上1万円未満
- 5. 1万円以上3万円未満
- 6. 3万円以上5万円未満
- 7. 5万円以上10万円未満
- 8. 10万円以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q40 仕事や職業キャリアに関する学びについて、あなたのコミュニティ・学びの環境で当てはまるものを教えてください。

（当てはまるものを全て選択）

- 1. 学び合う仲間・友人等がいる
- 2. 自主的な勉強会を行っている・参加している
- 3. 積極的に社外の人と付き合うようにしている
- 4. 学会等に参加している
- 5. 職場に学びを重視する風土がある
- 6. 上司が学びに積極的である
- 7. 資格やスキルを学ぶ際に、相談できる場や支援の機会がある
- 8. 職場以外に、仕事の助言をもらえる場や機会がある
- 9. その他
- 10. 該当するものはない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q41 あなたが、仕事や職業キャリアのために学んだ／学んでいる主な理由を教えてください。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 現在の仕事に必要な知識・技能を得るため
- 2. 現在の仕事に必要な資格取得のため
- 3. 今後の仕事に必要な知識・技能を得るため
- 4. 今後の仕事に必要な資格取得のため
- 5. 昇進・昇格に備えるため
- 6. 異動・出向・海外転勤のため
- 7. 転職のため
- 8. 独立のため
- 9. 再就職のため
- 10. その他

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q42 あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、現在の仕事やキャリア、転職、再就職などにいかせていると思いますか。

※現在仕事についていない方は、就職活動にいかせているかでお答えください。
(1つ選択)

- 1. いかせている
- 2. どちらかといえばいかせている
- 3. どちらかといえばいかせていない
- 4. いかせていない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で「1.i.仕事や職業キャリア（転職・セカンドキャリア等を含む）に関すること」で『1.過去1年以内に学んだ』～『2.過去1年以内には学んでいないが5年以内に学んだ』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q43 あなたの仕事や職業キャリアに関する過去5年間の学びは、将来的に、仕事や昇給・昇進・昇格、転職、独立等のキャリアアップにつながると感じますか。

※現在仕事についていない方は、就職につながるかどうかでお答えください。

(1つ選択)

- 1. つながると思う
- 2. どちらかといえばつながると思う
- 3. どちらかといえばつながらないと思う
- 4. つながらないと思う

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

有業or就業意向で『1.Q13=1-6on（有業者）又はQ34=1-4on（就業意向あり）に該当』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q44 あなたが、仕事や職業キャリアに関して学ぼうとする上で、どのような課題や困りごとがありますか。

(当てはまるものを全て選択)

- 1. 仕事が忙しくて時間がない
- 2. 家事・育児・介護等が忙しくて時間がない
- 3. 金銭的余裕がない
- 4. 学びに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない
- 5. 周囲に学べる環境がない
- 6. 学んでも収入アップにつながらない
- 7. 学んでもキャリアアップにつながらない
- 8. 学んでも会社から評価されない
- 9. 何を学んでいいかわからない
- 10. 学ぶことより優先したいことがある
- 11. 学ぶことに対して家族の理解が得られない
- 12. その他
- 13. 業務に必要なことは身につけているため、特に学ぶ必要がない
- 14. 特にない
- 15. 分からない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.会社経営者・役員』～『6.その他（働いている）』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q45 あなたの現在の就業先では、次のような取組や支援がありますか。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. 身につけるべき知識や能力の明示
- 2. 階層別・年次別の教育・研修計画
- 3. 社内研修、勉強会
- 4. 外部研修等の受講支援
- 5. 職員の自己学習や自己研鑽に対する費用負担
- 6. 研修の受講や大学院進学等のための休職・休暇制度
- 7. 個人のキャリアプランに関する面談・相談
- 8. メンター、コーチング制度
- 9. 人事考課等における、自己評価や他者評価のフィードバック
- 10. 自己研鑽（資格取得や社会人大学院）を考慮した業務の割り振り、配置転換
- 11. 資格・経験・能力を考慮した給与体系
- 12. 学び続ける職員を支援する職場風土
- 13. 該当するものはない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

有業or就業意向で『1.Q13=1-6on（有業者）又はQ34=1-4on（就業意向あり）に該当』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q46 あなたは、仕事や職業キャリアのための学び（職場で提供される研修等の機会を除く）を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。
（当てはまるものを全て選択）

- 1. 就業時間の配慮や学びのための休暇制度があること
- 2. 家族間で家事・育児・介護等の分担ができること
- 3. 経済的な支援があること
- 4. 学びに関する情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できること
- 5. 学びの場所・施設が近くにあること
- 6. 参加しやすい時間帯に学びの機会があること
- 7. 具体的に何を学ばよいかをアドバイスしてもらえること
- 8. 具体的な学び方をアドバイスしてもらえること
- 9. 職業キャリアに対するモチベーションが高まること
- 10. 学んだことが収入アップやキャリアアップにつながる
- 11. 学びが職業キャリアの充実にいかせるという展望を持てること
- 12. 家族・周囲の理解を得られること
- 13. 一緒に学ぶ仲間がいること
- 14. その他
- 15. 特にない
- 16. 分からない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.会社経営者・役員』～『6.その他（働いている）』いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q47 あなたは、現在の仕事や働き方、職業キャリアについて、満足していますか。
(それぞれ、当てはまるものを1つ選択)

		1. 満足して いる	2. どちらか といえば 満足して いる	3. どちらと もいえな い	4. どちらか といえば 満足して いない	5. 満足して いない
1) 雇用形態・労働条件などの働き方	→	●	●	●	●	●
2) 現在の給料・職位などの待遇面	→	●	●	●	●	●
3) 現在の仕事内容	→	●	●	●	●	●
4) 自分の能力の発揮	→	●	●	●	●	●
5) 仕事を通じた成長	→	●	●	●	●	●
6) ワーク・ライフ・バランス	→	●	●	●	●	●
7) 主体的な職業キャリアの構築（キャリアコントロール）	→	●	●	●	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

有業or就業意向で『1.Q13=1-6on（有業者）又はQ34=1-4on（就業意向あり）に該当』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q48 あなたが、仕事や職業キャリアに関して今後学びたい能力やスキルはどのようなことですか。
(当てはまるものを全て選択)

- 1. IT関連、デジタルツールに関するスキル
- 2. 企画、マーケティング
- 3. マネジメント、リーダーシップ
- 4. 対人スキル、コミュニケーション
- 5. 心理学、カウンセリング
- 6. 教養、ビジネスマナー
- 7. グラフィック、視覚デザイン
- 8. ライティング、文章力
- 9. 画像・動画の編集、制作
- 10. 経済、社会、政治、歴史
- 11. 会計管理、金融
- 12. 語学
- 13. その他
- 14. 特にない

-----<改ページ>-----

役割や居場所に対する意識
最後に、ご自身の役割や居場所についてお伺いします。

[必須]

Q49 現在、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所があると感じていますか。あなたの気持ちを教えてください。

(1つ選択)

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q50 5年後、あなたは普段の暮らしの中で、自分の役割や居場所を持っていると思いますか。あなたの気持ちを教えてください。

(1つ選択)

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

-----<改ページ>-----

ご協力ありがとうございました。
これでアンケートは終了です。このページを閉じてください。
ご回答ありがとうございました。